

第23回 白神山地世界遺産地域科学委員会

日 時：令和5年11月30日（木）14：00～17：00
場 所：東北森林管理局 大会議室

< 議 事 次 第 >

1 開 会

2 挨 拶

3 出席者紹介

4 議 題

（1）保全管理について

（2）モニタリング計画に基づく調査の実施状況について

（3）ニホンジカへの対応について

（4）入山利用への対応について

（5）その他

5 閉 会

白神山地世界遺産地域科学委員会 委員名簿

令和5年11月30日現在

分野	氏名	所属	役職等	専門分野
植物	中静 透	国立研究開発法人 森林研究・整備機構	理事長	植物生態学
	蒔田 明史	公立大学法人 秋田県立大学	副学長	生態学、環境教育学
動物	由井 正敏	公立大学法人 岩手県立大学	名誉教授	森林鳥類生態学、野生動物管理学
	田口 洋美	学校法人 東北芸術工科大学	名誉教授	狩猟文化(マタギ)、哺乳類(クマ)
	高橋 裕史	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 東北支所 生物多様性研究グループ	グループ長	動物生態学、ニホンジカ
形地理・地	小岩 直人	国立大学法人 弘前大学教育学部	教授	自然地理学、地形学
気象	松井 哲哉	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 生物多様性・気候変動研究拠点	拠点長	温暖化影響評価と森林生態
用社会・地域・域利	熊谷 嘉隆	公立大学法人 国際教養大学	副学長	自然保護地域学(自然保護地域政策論、環境政策論)

白神山地世界遺産地域科学委員会 出席者名簿

1. 委員

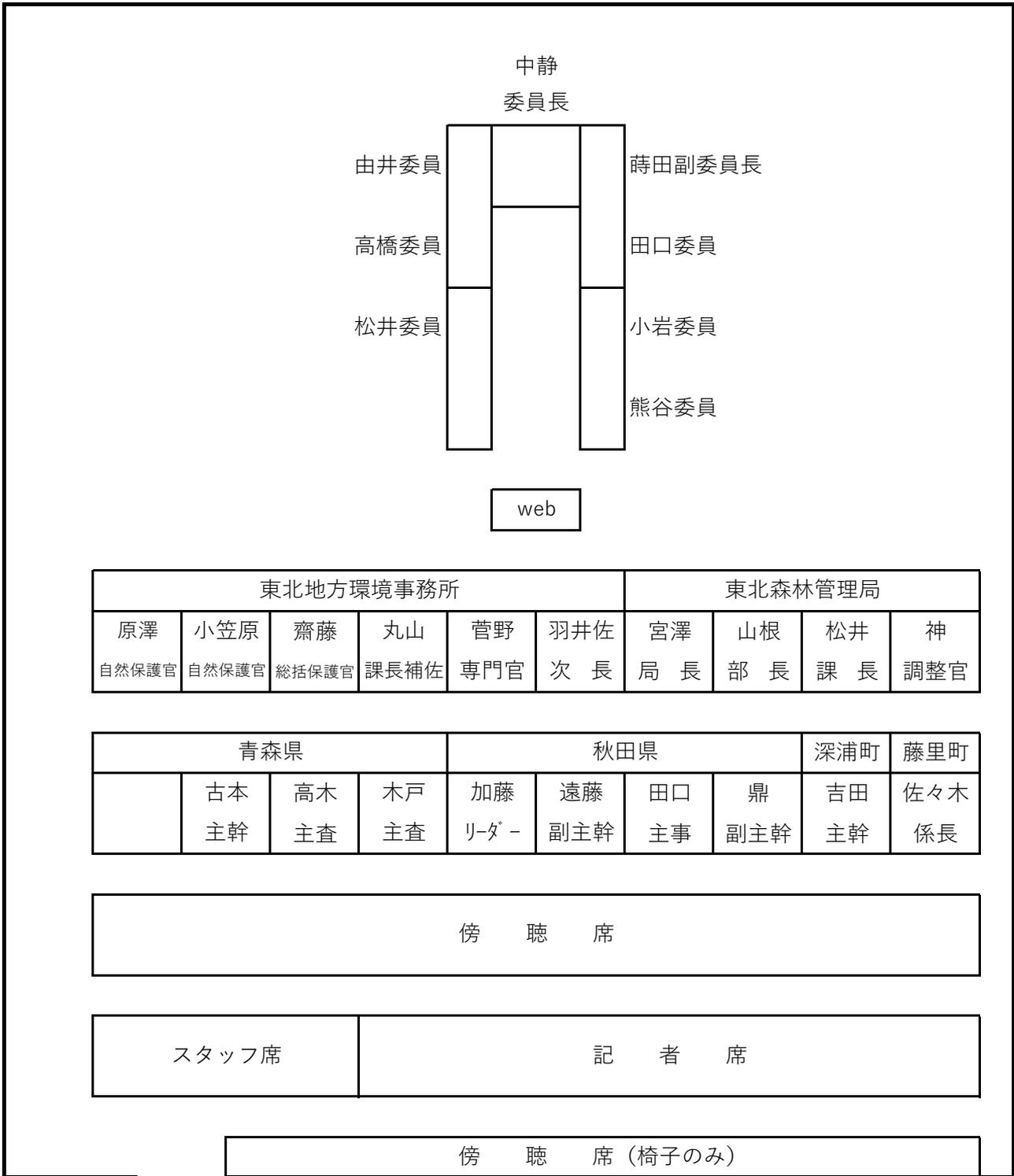
	委員名	所属・役職	出欠
委員長	中静 透	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 理事長	○
副委員長	蒔田 明史	公立大学法人 秋田県立大学 副学長	○
委員	由井 正敏	公立大学法人 岩手県立大学 名誉教授	○
委員	田口 洋美	学校法人 東北芸術工科大学 名誉教授	○
委員	高橋 裕史	国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 東北支所 生物多様性研究グループ グループ長	○
委員	小岩 直人	国立大学法人 弘前大学 教育学部 教授	○
委員	松井 哲哉	国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 生物多様性・気候変動研究拠点 拠点長	○
委員	熊谷 嘉隆	公立大学法人 国際教養大学 副学長	○

2. 事務局

機関名	役職	氏名
東北地方環境事務所	統括自然保護企画官(次長)	羽井佐 幸宏
	世界自然遺産専門官	菅野 康祐
	国立公園課 課長補佐	丸山 永
	西目屋総括自然保護官	齋藤 純一
	藤里自然保護官	小笠原 孝記
	藤里自然保護官	原澤 翔太
東北森林管理局	局長	宮澤 俊輔
	計画保全部長	山根 則彦
	計画課長	松井 章二
	自然遺産保全調整官	神 孝幸
青森県環境生活部自然保護課	主幹	古本 陽子
	主査	高木 佑太
青森県農林水産部林政課	主査	木戸 美紗子
青森県教育庁文化財保護課	(欠席)	
秋田県生活環境部自然保護課	調整・自然環境コーディネーター	加藤 広基
	副主幹	遠藤 一樹
	主事	田口 瑞樹
秋田県農林水産部森林環境保全課	副主幹	鼎 康行
秋田県教育庁生涯学習課	(欠席)	
西目屋村産業課	(欠席)	
鱒ヶ沢町政策推進課	(欠席)	
深浦町観光課	主幹	吉田 一仁
藤里町	商工観光係長	佐々木 吉昭
八峰町	(欠席)	
能代市	(欠席)	

注) 環境省自然環境局自然環境計画課と林野庁経営企画課、森林利用課の担当者がwebにより傍聴参加

第23回白神山地世界遺産地域科学委員会 配席図



受付 出入口

第23回 白神山地世界遺産地域科学委員会 配付資料一覧

- ・ 議事次第
- ・ 白神山地世界遺産地域科学委員会 委員名簿
- ・ 出席者名簿
- ・ 配席図

配付資料一覧

議事1 保全管理について

- 資料1-1 令和4年度白神山地世界遺産地域及び周辺部における事業実績及び令和5年度同事業計画・実績（暫定） ----- 6
- 資料1-2 令和5年度白神山地世界遺産地域及び周辺部に係るイベント一覧 ----- 51
- 資料1-3 世界自然遺産登録30周年に係る取組（再掲） ----- 54

議事2 モニタリング計画に基づく調査の実施状況について

- 資料2-1 白神山地世界遺産地域モニタリング実施結果（カルテ） ----- 64
- 資料2-2 令和5年度白神山地世界遺産地域モニタリング実施計画・実績（暫定） ----- 115

議事3 ニホンジカへの対応について

- 資料3-1 令和4年度におけるニホンジカの生息状況 ----- 122
- 資料3-2 令和4年度ニホンジカ対策事業結果及び令和5年度同事業計画・実績（暫定） ----- 127

議事4 入山利用への対応について

- 資料4-1 令和4年度白神山地世界遺産地域及び周辺地域入山者数調査について ----- 142
- 資料4-2 白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る令和4年度実施結果及び令和5年度実施計画・実績（暫定） ----- 148

議事5 その他

- 資料5 松くい虫・ナラ枯れ被害について ----- 170
- 資料6 白神山地周辺地域における近年のクマ出没情報について ----- 177

参考資料 白神山地世界遺産地域科学委員会設置要綱

令和4年度白神山地世界遺産地域及び周辺部における事業実績

機関名：東北地方環境事務所

※ 朱書きは第22回科学委員会時での暫定実績からの変更点。

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体（窓口）	備考
1	巡視業務 （自然環境保全地域 及び鳥獣保護区）	<p><目的> 自然環境や鳥獣の生息状況の把握、マナー指導、違法行為等の確認、施設の現状確認や簡易な補修。</p> <p><実施内容> 自然環境保全地域：2者との請負契約による巡視。（111人日予定） 国指定鳥獣保護区：鳥獣保護区管理員による巡視。（青森県側1名30人日、秋田県側1名22人日）</p> <p><実績> 各地の林道閉鎖の影響を受け、巡視範囲が限定された。また、到達困難な巡視ルートについては実施できなかった。</p>	東北地方環境事務所	
2	入山者数調査	<p><目的> 世界遺産地域及びその周辺地域の利用者数の把握。</p> <p><実施内容> 入山者数カウンターを主要登山道12箇所に設置。5月から11月まで計測。</p> <p><実績> 道路閉鎖の影響を受け、計測期間は例年より短縮した。崩山登山口のカウンターは8月の豪雨の際に流失したため、7月までの計測となった。入山者数の合計は16,210人となり、令和3年度比較して10,446人減少した。</p>	東北地方環境事務所	
3	気象観測調査	<p><目的> 世界遺産地域の自然環境の基礎情報である気象データの継続的把握。</p> <p><実施内容> 西目屋館、二ツ森、櫛石山の観測施設により通年の気象データ（温度、雨量、日射、積雪、風向風速、湿度、地温）を測定。</p> <p><実績> 7月、9月～11月に施設のメンテナンスを実施した。櫛石山観測塔の太陽光パネルが損壊し、8～9月以降、各種データが欠損した。</p>	東北地方環境事務所	

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体（窓口）	備考
4	ブナ林モニタリング調査	<p><目的> 世界遺産地域のブナ林生態系の森林動態の把握。</p> <p><実施内容> 研究者及びボランティアとの協働。楡石山周辺の3サイトにて、リター調査、毎木調査、低木調査、実生・ササ調査を実施。</p> <p><実績> 林道閉鎖の影響を受け、8月～10月の間、リター回収を実施できなかった。また、9月に予定していた毎木・低木・ササ・実生調査は実施できなかった。回収時にはリタートラップの倒伏や、微気象計測機の紛失がみられた。</p>	東北地方環境事務所・白神山地ブナ林モニタリング調査会協働	
5	中・大型哺乳類調査	<p><目的> 世界遺産地域及び周辺地域における中・大型哺乳類の生息状況の把握。ニホンジカやイノシシ、アライグマ等の侵入状況の把握。</p> <p><実施内容> 自動撮影カメラを世界遺産地域及び周辺地域に18台設置。4月から11月まで実施。</p> <p><実績> ニホンジカ・イノシシの撮影はなかった。外来種はハクビシンが核心地域で1地点1頭、緩衝地域周辺地域5地点で11頭確認された。</p>	東北地方環境事務所	

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体（窓口）	備考
6	ニホンジカ対策	<p><目的> 世界遺産地域及び周辺地域におけるニホンジカの生息・定着状況の把握、植生への影響の把握。</p> <p><実施内容> ①鳴き声を録音する録音機を設置し、生息・定着状況を調査。（17箇所） ②ニホンジカの影響を受けやすい植生や希少植生等について、モニタリングを行う。 ③一般からの目撃情報を収集する他、関係機関の確認情報等を集約・共有する。 ④白神山地周辺樹林地におけるシカの食痕の分布状況を調査。 ⑤シカ類の食痕が確認された特定植物群落で自動撮影カメラを用い調査。</p> <p><実績> ①9月～11月に録音機を設置した17地点のうち、12地点において合計108回のシカの咆哮が確認された。録音機に併設したセンサーカメラで4箇所13件ニホンジカが撮影された。 ②10区間においてルートセンサスを実施した。また特定植物群落11群落について、植生調査を行い、シカ類の食痕の有無を確認した。多くの区間では食害頻度が1%未満、食害強度1であったが、一部区間では食害頻度が1～10%、食害強度が2となっていた。 ③白神山地周辺において計226件230頭（うち核心地域でオス1頭）の目撃があった。 ④白神山地周辺地域の289地点でシカ類の食痕調査を実施し、IDW法により食害レベルの空間推定を行った。総じて食害レベルは低い傾向であったが、深浦町や弘前市等で食害レベルの高い箇所が見られた。 ⑤白神岳山頂付近および天狗峠付近にてセンサーカメラを設置し撮影を行ったが、ニホンジカは確認されなかった。</p>	東北地方環境事務所	
7	天狗岳巡視管理歩道の管理	<p><目的> 巡視管理歩道として必要最小限の整備を行う。</p> <p><実施内容> 刈り払い等の実施。</p> <p><実績（暫定）> 白神ライン通行止めのため、刈り払い等実施できず。</p>	東北地方環境事務所	

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体（窓口）	備考
8	白神山地世界遺産センターの管理運営	<p><西目屋館> 白神山地における研究や環境教育活動の支援として、施設の提供や備品の貸出を行う。</p> <p><藤里館> 施設展示や白神山地自然アドバイザーを通じて白神山地の自然情報を発信する。 白神山地世界遺産センター（藤里館）活動協議会主催によるみどりの日自然観察会の実施。 R4年度に改修工事を実施。</p> <p><実績> 西目屋館では環境教育活動への備品の貸出しを実施。 藤里館では5/4にみどりの日自然観察会を実施（参加者18名）。</p>	<p>西目屋館：東北地方環境事務所 藤里館：白神山地世界遺産センター（藤里館）活動協議会</p>	

令和5年度白神山地世界遺産地域及び周辺部における事業計画・実績（暫定）

機関名：東北地方環境事務所

※ 令和5年10月15日現在での暫定実績

番号	事業名	概要（実施内容等）	実施主体(窓口)	備考
1	奥地巡視・周辺地域巡視業務	自然環境や鳥獣の生息状況の把握、マナー指導、違法行為等の確認、施設の現状確認や簡易な補修のため、自然環境保全地域及び国指定鳥獣保護区内の巡視を実施。	東北地方環境事務所	
2	入山者数調査	世界遺産地域及びその周辺地域の利用者数の把握のため、入山者数カウンターを主要登山道8箇所（9台）設置し、5月から11月まで計測。	東北地方環境事務所	
3	気象観測調査	<p><目的> 世界遺産地域の自然環境の基礎情報である気象データの継続的把握。</p> <p><実施内容> 西目屋館、二ツ森、櫛石山の観測施設により通年の気象データ(温度、雨量、日射、積雪、風向風速、湿度、地温)を測定。</p>	東北地方環境事務所	
4	ブナ林モニタリング調査	<p><目的> 世界遺産地域のブナ林生態系の森林動態の把握。</p> <p><実施内容> 研究者及びボランティアとの協働。櫛石山周辺の3サイトにて、リター調査、毎木調査、低木調査、実生・ササ調査を実施。</p>	東北地方環境事務所・白神山地ブナ林モニタリング調査会協働	白神ライン等通行止めのため実施出来ず

番号	事業名	概要（実施内容等）	実施主体（窓口）	備考
5	天狗岳巡視管理歩道の管理	<p><目的> 巡視管理歩道として必要最小限の整備を行う。</p> <p><実施内容> 刈り払い等の実施。</p>	東北地方環境事務所	白神ライン等通行止めのため実施出来ず
6	白神山地世界遺産センターの管理運営	<p><西目屋館> 白神山地における研究や環境教育活動の支援として、施設の提供や備品の貸出を行う。</p> <p><藤里館> 施設展示や白神山地自然アドバイザーを通じて白神山地の自然情報を発信する。 白神山地世界遺産センター（藤里館）活動協議会主催による自然観察会を実施。</p>	西目屋館：東北地方環境事務所 藤里館：白神山地世界遺産センター（藤里館）活動協議会	
7	白神山地世界自然遺産登録30周年記念事業	<p><目的> 遺産地域の保全管理、周辺エリアの更なる利活用を進めるための、次の10年にむけた可能性を考える。</p> <p><実施内容> 秋田県八峰町の八峰町文化交流センター「ファガス」において「環白神フォーラム」を開催。</p>	東北地方環境事務所・環白神エコツーリズム推進協議会共催	11月10日開催

令和4年度白神山地世界遺産地域及び周辺部における事業実績

機関名：東北森林管理局

※ 朱書きは第22回科学委員会時での暫定実績からの変更点。

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体（窓口）	備考
1	巡視活動	<p><目的> 遺産地域における違法行為の防止と入山者のマナーを促進するため、職員による巡視、白神山地世界遺産地域巡視員等による巡視活動を実施した。</p> <p><実施内容> ①職員による巡視（津軽森林管理署、米代西部森林管理署、津軽白神森林生態系保全センター、藤里森林生態系保全センター）。 ②グリーンサポートスタッフによる巡視（津軽署2名、米代西部署3名を非常勤職員として雇用し、津軽署は6月21日～9月30日、米代西部署は6月29日～10月17日に遺産地域等の巡視を実施）を実施した。 ③白神山地世界遺産地域巡視員（青森県側19名・秋田県側26名、東北森林管理局長が委嘱するボランティアの巡視員）による巡視を実施した。</p>	東北森林管理局 津軽森林管理署 米代西部森林管理署 津軽白神森林生態系保全センター 藤里森林生態系保全センター 遺産地域巡視員 グリーンサポートスタッフ	
2	巡視員会議開催	<p><目的> 巡視活動を効果的に実施するため、巡視活動の指導及び関係機関と巡視員間の情報・意見交換を行い、巡視体制の連携・強化を推進。</p> <p><実施内容> 白神山地世界遺産地域巡視員のほか、白神山地世界遺産地域連絡会議関係機関等が参集。</p>	東北森林管理局 津軽白神森林生態系保全センター 藤里森林生態系保全センター 連絡会議関係機関 遺産地域巡視員	第1回：6月2日八峰町 6月7日西目屋村 第2回：12月1日西目屋村 12月2日八峰町

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体（窓口）	備考
3	合同パトロール	<p><目的> 入山者に対する啓発指導の強化。</p> <p><実施内容：秋田県側> 遺産地域周辺において、白神山地世界遺産地域巡視員、関係機関等により実施。第1回目は、藤里駒ヶ岳及びニツ森をパトロール、第2回目は林道等の被害により登山道を利用したパトロールが出来ないため、粕毛林道沿線に発生しているオオハンゴンソウの駆除を実施した。</p>	東北森林管理局 津軽森林管理署 米代西部森林管理署 津軽白神森林生態系保全センター 藤里森林生態系保全センター 連絡会議関係機関 遺産地域巡視員 グリーンサポートスタッフ	青森県側は県道等アクセス道の通行止により中止。 秋田県側は7月9日と9月3日に実施。
4	普及啓発活動（入山マナーパンフの配布等）	<p><目的> 入山者に対する啓発指導の強化。</p> <p><実施内容> ①合同パトロール実施日等に併せて、職員・GSSによる巡視活動の一環として実施した。 ②ガイド等へのマナー普及の協力要請。</p>	東北森林管理局 津軽森林管理署 米代西部森林管理署 津軽白神森林生態系保全センター 藤里森林生態系保全センター 連絡会議関係機関 遺産地域巡視員 グリーンサポートスタッフ	青森県側は県道等アクセス道の通行止により中止。 秋田県側は7月9日にニツ森登山口で実施。
5	違法行為等の防止対策	<p><目的> 違法行為、マナー違反の未然防止。</p> <p><実施内容> ①入山ルートへの入口等への「巡視パトロール実施中」の「幟（のぼり）」設置した。 ②パトロール実施中の車用マグネットプレート表示した。</p>	東北森林管理局 津軽森林管理署 米代西部森林管理署 津軽白神森林生態系保全センター 藤里森林生態系保全センター 遺産地域巡視員 グリーンサポートスタッフ	

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体（窓口）	備考
6	白神山地世界遺産地域における原生的ブナ林の長期変動調査	<p><目的> 原生的ブナ林の変動特性の解明。</p> <p><実施内容> 青森及び秋田両県の核心地域内の固定調査区等において、倒壊林冠発生木調査、積雪深調査、林内気温調査及び入り込み利用調査を実施。</p>	東北森林管理局	青森県側は県道等アクセス道の通行止により一部中止。
7	白神山地世界遺産地域実態把握調査	<p><目的> 指定ルートの利用に伴うヒューマンインパクトによる自然環境への影響の把握。</p> <p><実施内容> 指定ルート16～27及びその関連ルートにおいて、硬度測定や荒廃状況、里山植生の侵入状況、野営跡地周辺の地形と植生変化等の調査を実施するとともに、過去の調査結果との比較を行う。</p>	東北森林管理局	入札不調により中止。
8	中・大型哺乳類調査	<p><目的> 世界遺産地域及び周辺地域における中・大型哺乳類の生息状況の把握。</p> <p><実施内容> 自動撮影カメラを世界遺産地域及び周辺地域に青森県側35台、秋田県側に26台設置。4月から12月まで実施した。</p>	東北森林管理局 津軽白神森林生態系保全センター 藤里森林生態系保全センター	秋田県側林道通行止により当初は23台を設置、通行止解除後に3台設置

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体（窓口）	備考
9	松くい虫及びナラ枯れ被害対策	<p><目的> 松くい虫及びナラ枯れ被害木の早期発見、駆除処理を実施。</p> <p><実施内容> 白神山地世界遺産地域の周辺部における被害木の早期発見に向け、職員による地上からの巡視に加え、ドローンを活用した調査を実施するとともに、白神山地世界遺産地域巡視員にも情報提供を依頼し、青森・秋田両県及び関係市町村と情報共有を図りながら、連携して被害対策に取り組む。</p>	津軽森林管理署、 米代西部森林管理署	
10	自然再生事業 森林環境教育 森林ふれあい推進事業	<p><目的> 白神山地世界遺産地域周辺部の保全管理を図るため、NPO等と連携した自然再生事業を実施するとともに、森林環境教育、森林ふれあい推進事業を実施。</p> <p><実施内容> ①一般の方を対象とした自然再生計画に基づく自然再生事業を実施した。 ②地元小学生等を対象とした育樹体験等を通じた森林環境教育を実施した。 ③一般の方を対象にした森林教室の実施した。</p>	津軽森林管理署、 津軽白神森林生態系保全センター	
11	森林ふれあい推進事業 森林環境教育	<p><目的> 白神山地の森林生態系についての興味・関心の向上や森林・林業の普及啓発を目的に、森林環境教育支援を実施した。</p> <p><実施内容> 幼稚園児や高校生を対象とした森林教室支援の実施した。</p>	藤里森林生態系保全センター	

令和5年度白神山地世界遺産地域及び周辺部における事業計画・実績（暫定）

機関名：東北森林管理局

※ 令和5年10月15日現在での暫定実績

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体（窓口）	備考
1	巡視活動	<p><目的> 遺産地域における違法行為の防止と入山者のマナーを促進するため、職員による巡視、白神山地世界遺産地域巡視員等による巡視活動を実施。</p> <p><実施内容> ①職員による巡視（津軽森林管理署、米代西部森林管理署、津軽白神森林生態系保全センター、藤里森林生態系保全センター）。 ②グリーンサポートスタッフによる巡視（津軽署3名、米代西部署3名を非常勤職員として雇用し、津軽署は6月～9月、米代西部署は6月～10月に遺産地域等の巡視を予定）。 ③白神山地世界遺産地域巡視員（青森県側18名・秋田県側27名、東北森林管理局長が委嘱するボランティアの巡視員）による巡視。</p>	東北森林管理局 津軽森林管理署 米代西部森林管理署 津軽白神森林生態系保全センター 藤里森林生態系保全センター 遺産地域巡視員 グリーンサポートスタッフ	
2	巡視員会議開催	<p><目的> 巡視活動を効果的に実施するため、巡視活動の指導及び関係機関と巡視員間の情報・意見交換を行い、巡視体制の連携・強化を推進。</p> <p><実施内容> 白神山地世界遺産地域巡視員のほか、白神山地世界遺産地域連絡会議関係機関等が参加。</p>	東北森林管理局 津軽白神森林生態系保全センター 藤里森林生態系保全センター 連絡会議関係機関 遺産地域巡視員	第1回 西目屋村：6月5日 八峰町：6月2日 第2回（予定） 西目屋村：12月7日 八峰町：12月4日
3	合同パトロール	<p><目的> 入山者に対する啓発指導の強化。</p> <p><実施内容> 遺産地域を中心に、白神山地世界遺産地域巡視員、関係機関等により実施。</p>	東北森林管理局 津軽森林管理署 米代西部森林管理署 津軽白神森林生態系保全センター 藤里森林生態系保全センター 連絡会議関係機関 遺産地域巡視員 グリーンサポートスタッフ	第1回 青森側：7月26日 秋田側：7月8日 第2回 青森側：9月2日 秋田側：9月16日

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体（窓口）	備考
4	白神山地世界自然遺産登録30周年記念事業	<p>白神山地観光情報館（観光情報サイト）の新設</p> <p><目的> 世界遺産地域内にとどまらない白神山地全体の魅力の情報発信</p> <p><実施内容> 遺産地域周辺の魅力も伝えるよう市町村等へのサイト等も含めてリンクするサイトを新設した。</p>	東北森林管理局	9月1日
5	白神山地世界自然遺産登録30周年記念事業	<p>白神山地世界遺産登録30周年の横断幕及びのぼり旗の設置</p> <p><目的> 自然遺産登録30周年の盛り上げ</p> <p><実施内容> 横断幕を東北森林管理局に設置。 のぼりを東北森林管理局、津軽森林管理署、米代西部森林管理署、津軽白神森林生態系保全センター、藤里森林生態系保全センターに2基ずつ設置。</p>	東北森林管理局 津軽森林管理署 米代西部森林管理署 藤里森林生態系保全センター 津軽白神森林生態系保全センター	9月11日
6	普及啓発活動（入山マナーパンフの配布等）	<p><目的> 観光客、入山者等への入山マナー遵守の呼びかけ・周知。</p> <p><実施内容> ①合同パトロール実施日等に併せて、関係機関等と合同で入山マナーパンフを配布し、入山マナーの周知活動を実施。 ②ガイド等へのマナー普及の協力要請。</p>	東北森林管理局 津軽森林管理署 米代西部森林管理署 津軽白神森林生態系保全センター 藤里森林生態系保全センター 連絡会議関係機関 遺産地域巡視員 グリーンサポートスタッフ	
7	違法行為等の防止対策	<p><目的> 違法行為、マナー違反の未然防止。</p> <p><実施内容> ①入山ルートへの入口等への「巡視パトロール実施中」の「幟（のぼり）」設置。 ②パトロール実施中の車用マグネットプレート表示。</p>	東北森林管理局 津軽森林管理署 米代西部森林管理署 津軽白神森林生態系保全センター 藤里森林生態系保全センター 遺産地域巡視員 グリーンサポートスタッフ	

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体（窓口）	備考
8	遺産地域に精通した人材の育成	白神山地世界遺産地域巡視員等による遺産地域内の巡視。	東北森林管理局 津軽森林管理署 米代西部森林管理署 津軽白神森林生態系保全センター 藤里森林生態系保全センター 遺産地域巡視員 グリーンサポ-トスタッフ	
9	白神山地世界遺産地域における原生的ブナ林の長期変動調査	<p><目的> 原生的ブナ林の変動特性の解明。</p> <p><実施内容> 青森及び秋田両県の核心地域内の固定調査区等において、倒壊林冠発生木調査、積雪深調査、林内気温調査及び入り込み利用調査を実施。</p>	東北森林管理局 津軽白神森林生態系保全センター 藤里森林生態系保全センター	青森県側は昨年度の大雨の影響により現地まで到達することが困難な状況であることから、秋田県側の調査のみとし、かつ7月豪雨によりアクセス困難となった核心地域は除き、周辺地域のみ調査を実施。
10	白神山地周辺地域における中・大型哺乳類調査	<p><目的> 世界遺産地域及び周辺地域における中・大型哺乳類の生息状況の把握。</p> <p><実施内容> 自動撮影カメラを世界遺産地域及び周辺地域に青森県側35台、秋田県側に28台設置予定。4月から11月まで実施。</p>	東北森林管理局 津軽白神森林生態系保全センター 藤里森林生態系保全センター	
11	白神山地世界遺産地域実態把握調査	<p><目的> 指定ルートの利用に伴うヒューマンインパクトによる自然環境への影響の把握。</p> <p><実施内容> 指定ルート及びその関連ルートにおいて、硬度測定や荒廃状況、里山植生の侵入状況、野営跡地周辺の地形と植生変化等の調査を実施するとともに、過去の調査結果との比較を行う。</p>	東北森林管理局	青森県側は昨年度の大雨の影響により現地まで到達することが困難な状況であることから、取り止めとした。
12	白神山地世界遺産地域等における垂直分布の植生モニタリング調査	<p><目的> 白神山地世界遺産地域内及び周辺部の植生の垂直分布の状態を定期的(5年ごと)に調査・分析し、世界遺産地域の順応的管理に資する。</p> <p><実施内容> 調査プロットにおいて植生調査を行い、調査結果を取りまとめ、植物分布や植生動態等について簡単な分析を行うとともに平成25年度調査時よりの植生変化を評価する。</p>	東北森林管理局	調査地の半分以上占める白神岳への到達が困難な状況であったため、取り止めとした。

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体（窓口）	備考
13	松くい虫及びナラ枯れ被害対策	<p><目的> 松くい虫及びナラ枯れ被害木の早期発見、駆除処理を実施。</p> <p><実施内容> 白神山地世界遺産地域の周辺部における被害木の早期発見に向け、職員による地上からの巡視に加え、ドローンを活用した調査を実施するとともに、白神山地世界遺産地域巡視員にも情報提供を依頼し、青森・秋田両県及び関係市町村と情報共有を図りながら、連携して被害対策に取り組む。</p>	津軽森林管理署 米代西部森林管理署	
14	森林環境教育支援	<p><目的> 白神山地の森林生態系や森林のはたらき、林業の大切さなどを、自然とふれあいながら学習する。</p> <p><実施内容> 6月7日（水）、6月8日（木）：藤里町立藤里幼稚園の園児を対象に、藤里森林生態系保全センター研修棟及び岳岱自然観察教育林で実施された森林教室に講師を派遣した。 ※そのほか、学校等からの要請に応じて森林環境教育支援を実施した。</p>	藤里森林生態系保全センター	<p>①藤里幼稚園 6月7日 年長園児5名 6月8日 年長園児8名</p> <p>②獨協大学 8月31日 2年生21名 9月11日 3年生16名</p> <p>③能代高校二ツ井キャンパス校 9月8日 1年生21名 3年生19名</p> <p>④藤里学園 9月20日 7年生15名</p>
15	自然再生事業	<p><目的> 白神山地周辺地域自然再生計画書に基づく自然再生・森林生態系の保全</p> <p><実施内容> 7月15日（土）、9月23日（土）の2回、西目屋村鬼川辺国林内にて一般公募により実施。 また、白神山地ビジターセンターと連携して、ブナ等の植樹活動を実施。</p>	津軽白神森林生態系保全センター	<p><一般公募> 7月15日：15名 9月23日：15名</p> <p><ビジターと連携> 7月25日：ユネスコ協会19名 8月5日：社会福祉法人とつがる野自然学校22名</p>
16	森林環境教育	<p><目的> 白神山地周辺の森林生態系の学習・育樹体験等</p> <p><実施内容> 6月から10月にかけて、育樹体験・森林散策・木工教室等を実施。</p>	津軽森林管理署 白神山地ビジターセンター 津軽白神森林生態系保全センター	<p>・鱒ヶ沢町内施設 西海小学校 13名 舞戸小学校 35名</p> <p>・深浦町内施設 深浦小学校 14名 修道小学校 9名</p> <p>・白神山地ビジターセンター施設内 一般公募 60名</p>

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体 （窓口）	備考
17	森林ふれあい推進事業	<p><目的> 白神山地の森林生態系に関する学習</p> <p><実施内容> 5月27日（土）、10月21日（土）の2回、津軽十二湖自然教養林及び白神山地森林生態系保護地域（保全利用地区）において、森林散策を伴う森林教室を実施。</p>	深浦町 西目屋村 津軽白神森林生態系保全センター	一般公募 5月27日：15名 10月21日：15名

令和4年度白神山地世界遺産地域及び周辺部における事業実績

機関名：青森県自然保護課

※ 朱書きは第22回科学委員会時での暫定実績からの変更点。

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体（窓口）	備考
1	世界自然遺産地域管理事業	<p><目的> 入山マナーの向上や自然保護意識の普及啓発を図る。</p> <p><実施内容> 白神山地世界遺産地域巡視員を6名配置し、入山者への指導や歩道の巡視等を行う。</p> <p><実施状況> 白神山地世界遺産地域巡視員を6名配置し、入山者への指導や歩道の巡視等を行った。</p>	青森県自然保護課	巡視日数：219日
2	自然観察歩道等維持管理事業	<p><目的> 青森県が管理する白神山地周辺の自然観察歩道の安全性及び利便性を確保する。</p> <p><実施内容> 緊急性の高い箇所において対策工（笹の刈払いなど）を行う。</p> <p><実施状況> 緊急性の高い箇所において対策工（高倉森の危険木処理）を行った。なお、白神岳十二湖コースの刈払いについては、日野林道崩落による全コース通行止めの影響から令和5年度に繰越となった。</p>	青森県自然保護課	
3	白神山地ビジターセンターの指定管理者による管理運営	<p><目的> 白神山地の魅力と自然情報等の発信を行うとともに自然ふれあい活動を推進する。</p> <p><実施内容> 青森県森林組合連合会（H30～R4）を指定管理者とし、白神山地ビジターセンターの管理運営を行い、SNSによる情報発信や自然観察会等を実施する。</p> <p><実施状況> 青森県森林組合連合会（H30～R4）を指定管理者とし、白神山地ビジターセンターの管理運営を行い、SNSによる情報発信や自然観察会等を実施した。</p>	青森県自然保護課	

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体（窓口）	備考
4	白神山地「学びの森」推進事業	<p><目的> 自然保護思想の啓発、白神山地地域の持続的発展を図るため、白神山地を「学びの森」と位置づけ、次世代への環境教育及び企業の環境保全等の活動を推進する。また、令和5年度に白神山地の世界自然遺産登録30周年を迎えることから、県民を「白神山地の価値や魅力の学びなおし」に誘導するイベントを行い機運の醸成を図る。</p> <p><実施内容> (1)白神山地を校外学習の場として利用してもらうため、小学校教員を対象に、地元ガイドを講師として白神山地の自然や文化を体験する校外学習体験研修を実施する。 (2)白神山地を環境保全研修の場として利用してもらうため、企業向けの環境保全研修プログラムを開発し、企業を対象に体験研修を実施する。 (3)白神山地と縄文遺跡群の連携によるイベント(白神山地VR体験×写真展(縄文遺跡群施設等)、スタンプラリー(白神山地+縄文遺跡群))を実施する。</p> <p><実施状況> (1)白神山地を校外学習の場として利用してもらうため、小学校向けの校外学習プログラムを開発し、小学校教員を対象に、白神山地ビジターセンター職員を講師として白神山地の自然や文化を体験する校外学習モニターツアーを西目屋村において実施した。 (2)白神山地を環境保全研修の場として利用してもらうため、企業向けの環境保全研修プログラムを開発し、企業を対象に環境保全研修モニターツアーを深浦町において実施した。 (3)白神山地と縄文遺跡群の連携によるイベント「白神山地VR体験×写真展」を三内丸山遺跡、大平山元遺跡、ニツ森貝塚、是川遺跡、小牧野遺跡において開催したほか、「白神山地で体験スタンプラリー」を実施した。</p>	青森県自然保護課	
5	自然と生活を守る大型獣管理対策事業	<p><目的> 大型獣(ニホンジカ・イノシシ・ツキノワグマ)の適正な保護管理を継続的に実施する。</p> <p><実施内容> 目撃情報収集・提供体制の構築及び大型獣捕獲担い手育成を強化し、効率的なニホンジカの捕獲等を実施する。</p> <p><実施状況> 目撃情報収集・提供体制の構築及び大型獣捕獲担い手育成を強化し、効率的なニホンジカの捕獲等を実施した。</p>	青森県自然保護課	

令和5年度白神山地世界遺産地域及び周辺部における事業計画・実績（暫定）

機関名：青森県自然保護課

※ 令和5年10月15日現在での暫定実績

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体（窓口）	備考
1	世界自然遺産地域管理事業	<p><目的> 入山マナーの向上や自然保護意識の普及啓発を図る。</p> <p><実施内容> 白神山地世界遺産地域巡視員を6名配置し、入山者への指導や歩道の巡視等を行う。</p> <p><実施状況> 白神山地世界遺産地域巡視員を6名配置し、入山者への指導や歩道の巡視等を行った。</p>	青森県自然保護課	巡視日数：179日（9月30日現在）
2	自然観察歩道等維持管理事業	<p><目的> 青森県が管理する白神山地周辺の自然観察歩道の安全性及び利便性を確保する。</p> <p><実施内容> 緊急性の高い箇所において対策工（笹の刈払いなど）を行う。</p> <p><実施状況> 緊急性の高い箇所において対策工（白神岳十二湖コースの刈払い）を行った。</p>	青森県自然保護課	
3	白神山地ビジターセンターの指定管理者による管理運営	<p><目的> 白神山地の魅力と自然情報等の発信を行うとともに自然ふれあい活動を推進する。</p> <p><実施内容> 青森県森林組合連合会（R5～R9）が、SNSによる情報発信や自然観察会の実施などを通じて、白神山地ビジターセンターの管理運営を行う。</p> <p><実施状況> 青森県森林組合連合会（R5～R9）が、SNSによる情報発信や自然観察会の実施などを通じて、白神山地ビジターセンターの管理運営を行った。</p>	青森県自然保護課	

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体（窓口）	備考
4	白神山地世界自然遺産登録30周年記念事業	<p><目的> 白神山地周辺地域の持続的発展を目指し、30周年という節目に県内外の多くの方に白神山地の価値や魅力を再発信する記念事業を実施するとともに、白神山地を「学びの森」として活用するための環境を整備する。</p> <p><実施内容> 1 30周年記念事業の実施 (1)7月 オープニングセレモニー(弘前市) 夏～秋 縄文キャンプin白神山地(西目屋村、深浦町) 年度内 記念シンポジウム(弘前市) (2)官民連携 ①連絡会議(周辺市町村・関係機関で構成)を設置し、それぞれが実施する30周年記念イベント等を一体的にPRする(HPの制作・運営、WEB・TV広告等)。 ②協賛イベントを実施する飲食店やホテル等を「白神山地応援隊」として位置付け、スタンプラリー等を実施する。</p> <p>2「学びの森白神山地」受入環境の整備 小学校の校外学習及び企業の環境保全研修の誘致対策として、旅行代理店、ガイド団体と連携し、小学校の校外学習プログラムと企業の環境保全研修プログラムを開発し、モニターツアーを実施する。</p> <p><実施状況> 1 30周年記念事業の実施 〔オープニングセレモニー〕 白神山地世界自然遺産登録30周年のキックオフイベントとして、県や地元市町村、記念事業を行う関係者が一堂に会し、記念の年を祝った。 ① 日 程:7月17日(月) ② 場 所:アートホテル弘前シティ ③ 参加者:約70名 ④ 内 容:アトラクション、感謝状贈呈、白神山地応援隊結成式等</p>	青森県自然保護課	

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体（窓口）	備考
4	白神山地世界自然遺産登録30周年記念事業	<p>〔縄文キャンプ in 白神山地〕 「白神山地」と「北海道・北東北の縄文遺跡群」という2つの世界遺産の普遍的価値を一体的にPRするため、家族で縄文生活を体験する「縄文キャンプ in 白神山地」を開催した。 ①令和5年7月29日（土）～30日（日） 場所：アオーネ白神十二湖（深浦町） 参加人数：10組32名 ②令和5年9月16日（土）～17日（日） 場所：アクアグリーンビレッジANMON（西目屋村） 参加人数：20組59名</p> <p>〔記念シンポジウム〕 年度内に弘前市において開催予定。</p> <p>〔連絡会議〕 連絡会議（周辺市町村・関係機関で構成）を設置し、それぞれが実施する30周年記念イベント等を特設ホームページにおいて一体的にPRしている。</p> <p>〔白神山地応援隊〕 登録30周年を盛り上げるため、代金割引などのサービスやイベント等を実施する周辺市町村を中心とした県内の飲食店や宿泊施設、観光・商工団体、ガイド団体等を募集し、応募があった59の店舗等により「白神山地応援隊」を結成。この応援隊の各店舗等を利用することで発行されるスマートフォンアプリ用のデジタルスタンプを収集すると、その数に応じて、白神山地の特産品などが当たるスタンプラリーを実施中。</p> <p>2「学びの森白神山地」受入環境の整備 白神山地を校外学習の場として利用してもらうため、小学校向けの校外学習プログラムを開発し、小学校教員を対象に、白神山地の自然や文化を体験する校外学習モニターツアーを鱒ヶ沢町において実施予定。 また、白神山地を環境保全研修の場として利用してもらうため、企業向けの環境保全研修プログラムを開発し、企業を対象に環境保全研修モニターツアーを西目屋村において実施予定。</p>	青森県自然保護課	

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体（窓口）	備考
5	自然と生活を守る大型獣管理対策事業	<p><目的> 大型獣(ニホンジカ・イノシシ・ツキノワグマ)の適正な保護管理を継続的に実施する。</p> <p><実施内容> 目撃情報収集・提供体制の構築及び大型獣捕獲の担い手育成を強化し、効率的なニホンジカの捕獲等を実施する。</p> <p><実施状況> 目撃情報収集・提供体制の構築及び大型獣捕獲の担い手育成を強化し、効率的なニホンジカの捕獲等を実施した。</p>	青森県自然保護課	
6	森林を活かした中南部地域山村振興事業	<p><目的> 森林と他産業を結び付け、森林空間を多様に活用する「森林サービス産業」を創出するため、西目屋村をモデルに支援する。</p> <p><実施内容> 森林空間を活用した各種アクティビティプログラムの開発</p> <p><実施状況> 開発したアクティビティプログラムについて、イベント形式でモニタリングを行った。</p> <p>[SHIRAKAMI Forest タイム]</p> <p>① 日程:9月23日(土)</p> <p>② 場所:アクアグリーンビレッジANMONオートキャンプ場</p> <p>③ 参加者:約70名</p> <p>④ 内容:森林空間を活用したアクティビティプログラム体験 (ヨガ、シアター、アロマ、サウナ、焚き火、キャンプ)</p>	青森県中南部地域県民局 (青森県林政課)	

令和4年度白神山地世界遺産地域及び周辺部における事業実績

機関名：秋田県自然保護課

※ 朱書きは第22回科学委員会時での暫定実績からの変更点。

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体（窓口）	備考
1	白神山地周辺の巡視活動	<p><目的> 白神山地周辺の自然環境保全地域及び県立自然公園におけるマナー向上を図る</p> <p><方法> 自然環境保全推進員（1名：羽黒山（八峰町））及び自然公園管理員（2名：秋田白神（藤里側）、（八峰側））を配置する</p> <p><実施内容等> 推進員等により、巡視やマナー向上の指導を実施する</p>	秋田県自然保護課	(全県) 自然環境保全推進員:2 2名 自然公園管理員:19名
2	白神山地エコツアーリズム推進事業	<p><実績></p> <ul style="list-style-type: none"> ・白神山地エコツアーコース体験：7月16日～18日 → 登山関係の著名人複数名と白神ガイドでエコツアーコース体験を実施 ・トークイベント：7月18日 → エコツアーコース体験を踏まえて、複数の著名人と白神ガイドと自然アドバイザーによるトークセッション https://www.youtube.com/watch?v=a8dxN0-Vi7k ・雑誌・ウェブサイトによる情報発信 → トークイベントの告知、エコツアーコース体験の内容等を雑誌・ウェブサイトと連動した情報発信を実施 	秋田県自然保護課	受託者：企画運営競技により決定

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体（窓口）	備考
3	白神山地環境教育推進事業	<p><実績></p> <ul style="list-style-type: none"> ・白神体験塾2022（夏季プログラム） <ul style="list-style-type: none"> → 7月24日：ネイチャークラフト、藤琴川で自然観察など、参加者20名 7月31日：真瀬溪谷沢歩き、ブラックサントビーチ見学、参加者20名 8月7日：ネイチャークラフト、シーヤック、参加者21名 ・白神体験塾2022（秋季プログラム） <ul style="list-style-type: none"> → 10月1日～2日：岳岱散策、パンの実クッキー作り、ワークショップ体験等 <p>参加者子ども16名、親19名</p>	秋田県自然保護課	受託者：企画運営競技により決定
4	白神山地総合ガイド育成事業	<p><実績></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講習・面接 <ul style="list-style-type: none"> → 5月29日：ニツ森 8名受講 9月25日：水沢川 4名受講 10月30日：岳岱自然観察教育林 7名受講 	秋田県自然保護課	
5	世界遺産周辺地域活用対策	<p><目的></p> <p>白神山地世界遺産地域及び周辺地域の適切な保全と活用を図る</p> <p><方法></p> <p>白神山地世界遺産センター（藤里館）活動協議会の運営等の一部を負担する（負担金：200万円）</p> <p><実施内容等></p> <p>上記協議会が、藤里館の展示及び自然観察アドバイザーによる白神山地等の情報提供をはじめ、環境学習、自然観察会の企画・実施する</p>	秋田県自然保護課	

令和5年度白神山地世界遺産地域及び周辺部における事業計画・実績（暫定）

機関名：秋田県自然保護課

※ 令和5年10月15日現在での暫定実績

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体（窓口）	備考
1	白神山地環境教育推進事業	<p>白神体験塾</p> <p><目的> 白神山地の価値や素晴らしさを伝えるとともに、自然環境を保全して将来に受け継ぐ活動への契機とする</p> <p><実施内容> ・日帰り4回（秋田市発3回、横手市発1回）</p> <p><実施状況> ・白神体験塾2023 → 7月23日：御所の台散策、ブラックノブビーチ見学 参加者20名 7月30日：岳岱散策、藤琴川で自然観察 参加者20名 8月6日：白瀑川沢歩き、ブラックノブビーチ見学 参加者21名 8月11日：岳岱散策 参加者19名</p>	秋田県自然保護課	業者に業務委託（プロポーザル実施）
2	白神山地総合ガイド育成事業	<p><目的> 白神山地の保全推進を担う人材の育成・確保</p> <p><実施内容> ・白神山地のガイド・沢歩き技術、歴史文化、安全管理等を含む野外での更新講習の実施（3回） ・ガイド活動に対する意欲や安全管理能力の向上を目的とした面接指導の実施</p> <p><実施状況> ・講習・面接 → 7月29日：藤里駒ヶ岳黒石沢コース 5名受講 9月30日：粕毛川 7名受講 11月26日：八峰白神ジオパーク（予定）</p>	秋田県自然保護課	業者に業務委託

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体（窓口）	備考
3	白神山地エコツアーリズム推進事業	<p><目的> 白神山地の価値や魅力を周知することにより、来訪者を増加させるとともに、自然環境保全の意識を啓発</p> <p><実施内容> ・登山情報誌及びウェブサイトと連携した情報発信、登山系YouTuberと白神ガイドらによるトークイベントの実施</p> <p><実施状況> ・白神山地エコツアーコース体験：6月6日～8日 → 登山系YouTuberと白神ガイドでエコツアーコース体験を実施</p> <p>・トークイベント：6月8日 → エコツアーコース体験を踏まえて、登山系YouTuberと白神ガイドと自然アドバイザー、行政関係者によるトークセッション https://www.youtube.com/watch?v=6PLyrBRJAcg</p> <p>・雑誌・ウェブサイトによる情報発信 → トークイベントの告知、エコツアーコース体験、30周年記念イベントの内容等を雑誌・ウェブサイトと連動した情報発信を実施</p>	秋田県自然保護課	業者に業務委託（プロポーザル実施）
4	白神山地世界遺産登録30周年記念事業	<p><目的> 白神山地が世界遺産登録30周年を迎えることから、白神山地の価値や魅力を改めて伝えるとともに、将来のあり方を考え、保全を前提とした地域振興について考える契機とする</p> <p><実施状況> あきた白神まつり ～30th anniversary～</p> <p>・9/23 シンポジウム「そして、次世代へ。」 基調講演、パネルディスカッション、ゲスト講演 参加者200名 ステージイベント、物品販売等 来場者1,000名</p> <p>・9/24 現地散策ツアー 参加者37名</p>	秋田県自然保護課	業者に業務委託（プロポーザル実施）

令和4年度白神山地世界遺産地域及び周辺部における事業実績

機関名：西目屋村

※ 朱書きは第22回科学委員会時での暫定実績からの変更点。

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体（窓口）	備考
1	森林環境整備事業	<p>【目的】施設整備、維持補修等安全対策を実施する。</p> <p>【方法】安全管理対策のため巡視等を行う。</p> <p>【実施場所】暗門溪谷ルート、世界遺産の径 ブナ林散策道、ぶな巨木ふれあいの径、高倉森自然観察道、菅江真澄の道等</p> <p>【実施状況】歩道入口で自主的な協力を得て森林環境整備推進協力を仰ぎ、散策道の維持補修、利用者の安全管理、情報提供等を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力金実施期間：7/15～11/6 ・協力金：2,769,673円（入込者数：12,128人） ・巡視日数：50日 	「白神山地・暗門の滝」森林環境整備推進協議会（事務局：西目屋村及び津軽森林管理署）	
2	情報提供・普及啓発	<p>【目的】白神山地を訪れる観光客に対し、窓口案内・施設利用等の情報提供及びマナー向上等を図る。</p> <p>【方法】スタッフ及びガイド団体による呼びかけを行う。</p> <p>【実施場所】アクアグリーンビレッジANMON施設周辺ほか</p> <p>【実施状況】施設の利用案内及び駐車場におけるアイドリングストップをドライバーや関係者へ呼びかけを行い、取り組みに対する理解を促した。</p>	（一財）ブナの里白神公社及び各ガイド団体	
3	世界遺産入口周辺整備事業	<p>【目的】世界遺産登録30周年を迎えるにあたり、トイレの改修を実施し、観光客の受入環境整備を図る。</p> <p>【実施場所】世界遺産入口周辺（暗門大橋周辺）</p> <p>【実施状況】トイレの外装改修 10/6整備完了</p>	西目屋村	

令和5年度白神山地世界遺産地域及び周辺部における事業計画・実績（暫定）

機関名：西目屋村

※ 令和5年10月15日現在での暫定実績

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体（窓口）	備考
1	森林環境整備事業	<p>【目的】施設整備、維持補修等安全対策を実施する。</p> <p>【方法】安全管理対策のため巡視等を行う。</p> <p>【実施場所】暗門溪谷ルート、世界遺産の径 ブナ林散策道、ぶな巨木ふれあいの径、高倉森自然観察道、菅江真澄の道等</p> <p>【実施内容】歩道入口で自主的な協力を得て森林環境整備推進協力を仰ぎ、散策道の維持補修、利用者の安全管理、情報提供等を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力金実施期間：7/1～11/5 ・協力金：4,544,382円（入込者数：19,370人） ※9月末現在 ・巡視日数：71日 ※9月末現在 	「白神山地・暗門の滝」森林環境整備推進協議会（事務局：西目屋村及び津軽森林管理署）	
2	情報提供・普及啓発	<p>【目的】白神山地を訪れる観光客に対し、窓口案内・施設利用等の情報提供及びマナー向上等を図る。</p> <p>【方法】スタッフ及びガイド団体による呼びかけを行う。</p> <p>【実施場所】アクアグリーンビレッジANMON施設周辺ほか</p> <p>【実施状況】施設の利用案内及び駐車場におけるアイドリングストップをドライバーや関係者へ呼びかけを行い、取り組みに対する理解を促している。</p>	（一財）ブナの里白神公社及び各ガイド団体	
3	暗門溪谷ルート災害復旧事業	<p>【目的】令和4年8月に豪雨災害にあった暗門溪谷ルートの復旧作業を行う</p> <p>【実施場所】暗門溪谷ルート</p> <p>【実施内容】5/16から復旧作業に着手、7/1に暗門溪谷ルートを開通した。</p>	西目屋村	
4	にしめやランド2023	<p>【目的】地域住民の機運醸成を図る</p> <p>【方法】西目屋村全体をフィールドとした大型イベント。 今年度は世界遺産登録30周年記念として、内容を拡充し実施。</p> <p>【実施場所】道の駅「津軽白神」ほか</p> <p>【実施状況】7/22、23の両日で9,460人来場</p>	目屋観光協会	

令和4年度白神山地世界遺産地域及び周辺部における事業実績

機関名：鱒ヶ沢町

※ 朱書きは第22回科学委員会時での暫定実績からの変更点。

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体（窓口）	備考
1	町白神山地交流促進施設等の管理運営	<p>白神山地の魅力や歴史を伝えるとともに、白神の自然を広く体験できるよう関連施設の管理運営を行う。</p> <p>①白神の森遊山道 ②自然観察館ハロー白神 ③白神キャンプ場 ※施設老朽化のため休止中 ④白神大然河川公園 ⑤くろくまの滝トイレ ※赤石溪流線通行止めのため閉鎖中 ⑥奥赤石やすらぎの駐車帯トイレ ※赤石溪流線通行止めのため閉鎖中</p> <p>【上記① 白神の森遊山道について】 令和元年9月に熊の目撃情報があったため利用者の安全面を考慮し、施設を休止としていたが、有識者からの意見やアドバイスを取り入れ、施設内整備等の安全対策を講じたうえで、制限付きによる一部供用で再開。 令和4年度はコース内の自由散策を禁止とし、ガイド付きの場合のみ入山可能としたため「ガイドツアー」という名目で実施。 ガイド料は町負担で、入山料のみで本格的なガイドツアーを体験できるものとなっている。</p> <p>・実施期間 10月1日～11月13日のうち、土日祝日のみの16日間 ・入山者数 104名</p>	鱒ヶ沢町 (政策推進課)	<p>令和4年8月豪雨により、影響及び被害が確認されたのは左記②④⑤</p> <p>②⇒給水設備のあるポンプ室が浸水し断水している状況</p> <p>⑤⑥⇒町道赤石溪流線、白神ラインが通行止めのため、例年より早い閉鎖となった</p>

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体（窓口）	備考
2	赤石溪流線環境美化事業	<p>当町から白神山地へ向かうルートである町道赤石溪流線（15.5km）の景観保持と事故防止を目的とした道路脇の刈払いと公衆トイレの清掃を行う。</p> <p>委託先:種里共用林野組合</p> <p>【実績】 令和4年8月豪雨により、8月以降は整備できない状況となった。</p> <p>※町道赤石溪流線及び県道岩崎西目屋弘前線(白神ライン)の復旧時期は未定</p> <p>※町道赤石溪流線は令和8年度以降開通予定</p>	<p>鯉ヶ沢町 (政策推進課)</p>	

令和5年度白神山地世界遺産地域及び周辺部における事業計画・実績（暫定）

機関名：鱒ヶ沢町

※ 令和5年10月15日現在での暫定実績

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体（窓口）	備考
1	町白神山地交流促進施設等の管理運営	<p>白神山地の魅力や歴史を伝えるとともに、白神の自然を広く体験できるよう関連施設の管理運営を行う。</p> <p>①白神の森遊山道(R5入山者数:635名) ②自然観察館ハロー白神(R5入館者数:389名) ③白神キャンプ場 ※施設老朽化のため休止中 ④白神大然河川公園 ⑤くろくまの滝トイレ ※赤石溪流線通行止めのため閉鎖中 ⑥奥赤石やすらぎの駐車帯トイレ ※赤石溪流線通行止めのため閉鎖中</p>	鱒ヶ沢町 (政策推進課)	
2	赤石溪流線環境美化事業	<p>当町から白神山地へ向かうルートである町道赤石溪流線(15.5km)の景観保持と事故防止を目的とした道路脇の刈払いと公衆トイレの清掃を行う。</p> <p>委託先:種里共用林野組合 ※赤石溪流線通行止めのため実施なし</p>	鱒ヶ沢町 (政策推進課)	赤石溪流線は令和8年度以降開通予定

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体（窓口）	備考
3	【白神の森遊山道トレッキング特別企画】	<p>①白神の森遊山道トレッキングと白神の食を楽しむ 遊山道をトレッキング後、白神の食を楽しむ。 本企画は旅行会社に商品造成してもらい、30周年特別企画として一部経費を町が負担する。</p> <p>【開催時期】 1回目：5月20日 2回目：5月27日 3回目：6月4日</p> <p>②白神の森遊山道トレッキングとヨガ体験 遊山道をトレッキング後、ヨガで心身のリフレッシュを体感する。 体験後は白神の水で淹れたコーヒーを提供。 ターゲットは20～40代女性。 本企画は旅行会社に商品造成してもらい、30周年特別企画として一部経費を町が負担する。</p> <p>【開催時期】 1回目：5月20日 2回目：10月28日</p>	鱒ヶ沢町 （政策推進課）	
4	白神の森遊山道 タクシーキャン ペーン	<p>タクシー利用料の補助と、経済効果増を目的とした買い物クーポンの贈呈。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タクシー利用料の補助 通常：タクシープラン：1人 5,000円 ⇒30周年記念特別キャンペーン：1人 3,500円 ※入山料・ガイド料込 ・お買い物クーポン券の補助 500円/1人 <p>【注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3日前までの申込 ・2名以上でのお申込み ・先着200人限定 <p>【開催時期】 4月～10月</p>	鱒ヶ沢町 （政策推進課）	

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体（窓口）	備考
5	30周年関連PR	新聞広告による世界自然遺産登録30周年と30周年特別企画のトレッキングツアーなどを広く周知し誘客促進を図る。また、当町に訪れた方が「世界遺産の町」「30周年」を視覚的に認知し、特別感と白神山地への関心を高めてもらうことを目的に町内各所にのぼり旗やポスター（R4作成）で歓迎する。また、名誉町民で町特別大使の舞の海秀平氏を招聘し、30周年記念番組（30分）を制作する。	鱒ヶ沢町 （政策推進課）	
6	白神の森遊山道 開山式	世界自然遺産登録30周年に合わせて当施設の通年営業を再開。 より多くの潜在的な利用者層に対し、当施設の営業再開を広く認知してもらうことを目的とし、誘客促進を図る。 併せて町内小学生のトレッキング学習を開催し、自然の大切さや登録30周年を迎える白神山地を知ってもらう。また、当施設が校外学習の場としても利用できることを対外的にアピールする。 【開催時期】 4月20日	鱒ヶ沢町 （政策推進課）	
7	自然観察館ハロー 白神の特別展示	白神山地に関する各種展示物、書籍などがある自然学習施設。 世界自然遺産白神山地の学習の場として、白神山地をより深く知ることを目的とした特別展示を行い、利用者数の向上を図る。	鱒ヶ沢町 （政策推進課）	
8	バイオブリッツ	白神の森遊山道で研究者と一般参加者で行う生物多様性の調査ツアー。 【開催時期】 6月24日～6月25日	主催：弘前大学 白神自然環境研究センター 協力：鱒ヶ沢町	

令和4年度白神山地世界遺産地域及び周辺部における事業実績

機関名：深浦町

※ 朱書きは第22回科学委員会時での暫定実績からの変更点。

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体（窓口）	備考
1	白神岳登山道刈り払い	白神岳登山道(マテ山コース)約5kmについて、景観保持と事故防止のため、刈り払いを実施する。7月2日(土)～7月3日(日)に実施済み。 実施者:白神倶楽部	深浦町	
2	白神十二湖エコ・ミュージアムの指定管理者による管理運営	白神十二湖エコ・ミュージアムの管理を行う。 指定管理者:十二湖森の会	深浦町	
3	施設管理	白神岳頂上の避難小屋、登山口休憩所の清掃等維持管理を行う。	深浦町	

令和5年度白神山地世界遺産地域及び周辺部における事業計画・実績（暫定）

機関名：深浦町

※ 令和5年10月15日現在での暫定実績

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体（窓口）	備考
1	白神岳登山道 刈払い	白神岳登山道(マテ山コース)約5kmについて、景観保持と事故防止のため、刈払いを実施。	深浦町	
2	施設管理	令和4年8月の豪雨災害により土砂崩れが発生し、通行禁止としていた白神岳登山口へのアクセス道において、土砂の撤去を行い、通行可能とした。 それに伴い、白神岳頂上の避難小屋、登山口休憩所の清掃等維持管理も行う。	深浦町	
3	施設の指定管理者 による管理運営	白神十二湖エコ・ミュージアム及び十二湖ビジターセンターの管理を行う。 指定管理者：十二湖森の会	深浦町	
4	世界自然遺産登録 30周年記念事業	①「深浦町海上花火大会」(8月12日(土)、深浦町夕陽公園にて開催) ②「アオーネ白神十二湖クラフト展」(9月2日(土)～3日(日)、アオーネ白神十二湖にて開催) ③「深浦ってどこ？ 観光写真グランプリ」(応募期間：令和5年10月10日(火)～令和6年1月31日(水)、特設サイトにて受付中)	深浦町	

令和4年度白神山地世界遺産地域及び周辺部における事業実績

機関名：藤里町

※ 朱書きは第22回科学委員会時での暫定実績からの変更点。

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施状況・成果等）	事業主体（窓口）	備考
1	白神山地環境美化事業	白神山地を訪れる観光客の安全確保を図るため、雨水等で洗われた登山道の補修や、笹やぶ等の刈払い、また観光道路周辺の刈払いを行い環境美化を図る。 スタッフ数：3名 期間：5月～10月 【成果】延べ64日実施し、上記関連施設の環境美化に努めた。粕毛林道通行止め一部解除により、駒ヶ岳樺岱登山道の刈り払いも実施。	・藤里町	
2	エコツアーリズムツアー	エコツアーリズムを通じて、白神山地の価値をわかりやすく深く伝え、白神山地への再訪者をつくる。 企画：13ツアー 【成果】実施8ツアー、中止5ツアー	・秋田白神ガイド協会	
3	バイオトイレ事業	県道西目屋二ツ井線 釣瓶落とし峠付近に設置（5月～10月） 【成果】5月下旬～11月上旬まで稼働	・藤里町	

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施状況・成果等）	事業主体（窓口）	備考
4	白神山地世界遺産センター（藤里館）プログラム	自然アドバイザーによる白神山地のインタープリテーションを意識したプログラムを提供 プログラム数：3本 【成果】実施3本	・白神山地世界遺産センター（藤里館）活動協議会	藤里町・秋田県・環境省で組織
5	白神エコツアーリズム推進事業	研修型ワークショップ”白神ミーティング オンラインを” 2回開催。 【成果】・7/30 藤里町にてリアル開催 31名参加 ・11/10～11/11 鱒ヶ沢町にてリアル開催予定 36名参加	環白神エコツアーリズム推進協議会	白神山地周辺7自治体で組織。R1年より藤里町が幹事。
6	白神エコツアーリズム推進事業	エコパーク、OECM等の推進について検証検討予定。 【成果】引き続き検証中 ※周辺の利活用推進について要望相談を実施	環白神エコツアーリズム推進協議会	白神山地周辺7自治体で組織。R1年より藤里町が幹事。
7	白神エコツアーリズム推進事業	白神検定の推進として、検定本の制作に向けた調整。 【成果】大学機関との協力で管内調整中	環白神エコツアーリズム推進協議会	白神山地周辺7自治体で組織。R1年より藤里町が幹事。

令和5年度白神山地世界遺産地域及び周辺部における事業計画・実績（暫定）

機関名：藤里町

※ 令和5年10月15日現在での暫定実績

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施状況・成果等）	事業主体（窓口）	備考
1	白神山地環境美化事業	白神山地を訪れる観光客の安全確保を図るため、雨水等で洗われた登山道の補修や、笹やぶ等の刈払い、また観光道路周辺の刈払いを行い環境美化を図る。 スタッフ数：4名 期間：5月～10月 【成果】延べ 日実施し、上記関連施設の環境美化に努めた。	・藤里町	
2	エコツアーリズムツアー	エコツアーリズムを通じて、白神山地の価値をわかりやすく深く伝え、白神山地への再訪者をつくる。 企画：12ツアー 【成果】実施9ツアー、予定3ツアー	・秋田白神ガイド協会	
3	バイオトイレ事業	県道西目屋二ツ井線 釣瓶落峠付近に設置（5月～10月） ※令和5年度は釣瓶落峠へのアクセス道が通行止めのため、設置せず	・藤里町	

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施状況・成果等）	事業主体（窓口）	備考
4	白神山地世界遺産センター（藤里館）プログラム	自然アドバイザーによる白神山地のインタープリテーションを意識したプログラムを提供 プログラム数：7本 【成果】実施4本、予定3本	・白神山地世界遺産センター（藤里館）活動協議会	藤里町・秋田県・環境省で組織
5	白神エコツーリズム推進事業	研修型ワークショップ”白神ミーティング”を1回開催。（深浦町） 白神山地を自転車で一周しながら、白神山地の景観、文化、食、遊びなどを楽しむモデルツアーを実施。（通称「シライチ」） 白神山地30周年記念フォーラムを11/10開催。（八峰町） 【成果】白神ミーティング8/29～8/30深浦町で開催 37名参加 「シライチチャレンジ」9/26～9/29開催	環白神エコツーリズム推進協議会	白神山地周辺7自治体で組織。R1年より藤里町が幹事。
6	白神エコツーリズム推進事業	管理計画への周辺地域ゾーニング、エコパーク、OECM等の推進について検討予定。 【成果】引き続き検討中	環白神エコツーリズム推進協議会	白神山地周辺7自治体で組織。R1年より藤里町が幹事。
7	白神エコツーリズム推進事業	白神検定の推進として、検定本の制作に向けた資料収集中。 R5、R6 2ヶ年事業 【成果】関係機関（大学等）との協力で管内調整中	環白神エコツーリズム推進協議会	白神山地周辺7自治体で組織。R1年より藤里町が幹事。

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施状況・成果等）	事業主体（窓口）	備考
8	春の白神ウィーク	<p>白神山地の世界自然遺産登録30周年を記念した1週間(6/10～6/18)</p> <p>6/10 Shirakami FESTA ～新しい森のトビラ～(森に行きたくなるトークセッション、シンポジウムを開催。※株式会社アルピオンと共催)</p> <p>6/13 岳岱大ブナ幹回り等公式記念測定(ミス日本みどりの大使・東北森林管理局長・藤里町長による幹回りの測定。森の声ライブも開催。)</p> <p>6/18 白神山地ブナの森マラソン(定員21kmコース200名、8.8kmコース50名。コースは標高差250m、二つの山を越えます。)</p>	藤里町	
9	秋の白神ウィーク	<p>白神山地の世界自然遺産登録30周年を記念した1週間(10/21～10/29)</p> <p>10/29 藤里町民祭2023遺産登録30周年スペシャル(グルメや特産品販売、ステージショーを実施)</p>	藤里町	

令和4年度白神山地世界遺産地域及び周辺部における事業実績

機関名：八峰町

※ 朱書きは第22回科学委員会時での暫定実績からの変更点。

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体（窓口）	備考
1	白神山地「ニツ森」登山ルート山開き、自然観察会ミネザクラをみよう	5月27日（金）八森ぶなっこだを会場に、白神山地「ニツ森登山コース」山開き安全祈願祭を開催。例年であれば、その後、ニツ森自然観察会「ミネザクラを見よう」を実施していたが今年にはコロナウイルスの影響で中止。5月27日（金）安全祈願祭・5月28日（土）ニツ森開通。	安全祈願祭 →八峰町観光協会 観察会 →役場産業振興課	
2	八峰町白神ガイド研鑽事業	4/17（日）御所の台研鑽会 9名 5/6（月）留山・十二湖研鑽会 7名 5/8（日）留山・十二湖研鑽会 15名 5/29（日）ニツ森・三十釜研鑽会 11名 3/12（日）安全管理規講習 10名	八峰町白神ガイドの会	
3	ニツ森秋の自然観察会	登山道の閉鎖前に、世界自然遺産白神山地「ニツ森」の秋の自然観察会、「来よう！紅葉ニツ森へ」を実施予定だったが、令和4年8月の大雨で町道ニツ森線が通行止めになった為、代替イベントとして「来よう！紅葉留山へ」に変更。 募集定員15名。 ※コロナウイルスの影響により昨年は中止。	NPO法人白神ネイチャー協会	新型コロナウイルスの影響で変更の可能性あり。

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体 （窓口）	備考
4	植樹ボランティア	10月2日にボランティア100名（募集）がブナの苗木約450本を植樹した。 （世界遺産地域の保全を図ることを目的に平成12年から実施） 植栽場所は、八峰町八森字大嶽平地内	NPO法人白神ネイ チャー協会	

令和5年度白神山地世界遺産地域及び周辺部における事業計画・実績（暫定）

機関名：八峰町

※ 令和5年10月15日現在での暫定実績

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体（窓口）	備考
1	白神山地登山ルート山開き安全祈願祭・留山自然観察会	5月27日（土）八森ぶなっこランドを会場に、白神山地山開き安全祈願祭・式典を開催。その後、留山自然観察会を実施。例年であれば、ニツ森で自然観察会を行っていたが、R4.8月の大雨で町道ニツ森線が通行止めのため、留山へ変更して実施。 ※自然観察会は、世界自然遺産登録30周年の冠をつけて実施。 ※自然観察会は、4年ぶりに開催。	安全祈願祭 →八峰町観光協会 式典・観察会 →役場産業振興課	
2	八峰町白神ガイド研鑽事業	八峰町白神ガイドの会において、研鑽会を開催してガイドの資質向上を図る。 ※年3回を予定（ニツ森が通行止めにより研鑽会減） ①R5.4.16御所の台 ②R5.5.7十二湖 ③R6.2場所未定 ※R4は4回	八峰町白神ガイドの会	
3	秋の自然観察会	秋の自然観察会、「来よう！紅葉留山へ」を実施予定。例年であれば、ニツ森で行っているが、R4.8月の大雨で町道ニツ森線が通行止めのため、留山へ変更。 ※募集定員20名。 ※R5.11頃予定。	NPO法人白神ネイチャー協会	

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体（窓口）	備考
4	植樹ボランティア	<p>10月上旬に植樹ボランティア150名(募集)がブナの苗木約450本を植樹する。 ※R5.10.1実施 ※R2.3.4は、新型コロナウイルスの影響もあり、規模を縮小して会員で作業。 ※植栽場所は、八峰町八森字大嶽平地内(オオタケヒラ)</p>	NPO法人白神ネイチャー協会	
5	白神山地30周年記念ボトル制作事業	<p>白神山地30周年記念ボトルを制作。記念ボトルは、30周年イベント参加者や町内の小中学生に配布。</p>	役場産業振興課	
6	白神山地30周年記念イベント 「留山 森の音物語」	<p>白神山地30周年記念イベントを開催するために実行委員会を立ち上げた。(構成員:NPO法人白神ネイチャー協会、八峰町白神ガイドの会、八峰白神ジオパークガイドの会、NPO法人八峰町観光協会、白神八峰商工会、八峰町) イベント内容は、留山を舞台に、トレッキングとコンサートを合わせて実施。7月～11月に計5回予定。</p>	白神30周年イベント実行委員会	

令和4年度白神山地世界遺産地域及び周辺部における事業実績

機関名：能代市

※ 朱書きは第22回科学委員会時での暫定実績からの変更点。

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体（窓口）	備考
1	環境大学講座	【目的】 豊かな自然を体感し、環境保全について考える機会とすべく、自然観察会を一般市民向けに実施。 【実施内容】 白神山地付近での自然観察会の実績なし。	能代市環境衛生課	

令和5年度白神山地世界遺産地域及び周辺部における事業計画・実績（暫定）

機関名：能代市

※ 令和5年10月15日現在での暫定実績

番号	事業名	事業概要（目的・方法・実施内容等）	事業主体（窓口）	備考
1	環境大学講座	【目的】 豊かな自然を体感し、環境保全について考える機会とすべく、自然観察会を一般市民向けに実施。	能代市環境衛生課	
2	白神山地世界自然遺産登録30周年記念事業×子ども探偵団 「能代は白神山地の玄関口」～白神山麓で過ごす24時間	1. 目的 世界自然遺産「白神山地」周辺において、自然観察や山ゴハンを通じて環境について理解を深めるとともに、環境保全に対し主体的行動を促し、白神山地を身近に感じ、白神の自然について考えることを目的とする。 2. 事業の内容 世界自然遺産に登録されて今年で30周年を迎え、自然観察や山ゴハンの体験をし、白神山地を身近に感じてもらう。	能代市観光振興課	市内の小学4年生から6年生を対象とし、令和5年11月3日～4日に実施予定。

令和5年度 白神山地世界遺産地域及び周辺部に係るイベント一覧

【資料1-2】

白神山地世界遺産地域連絡会議の構成機関等において、令和5年度に行うイベントは次のとおりとなっています。
 イベントの詳細な内容等については、それぞれの機関にお問い合わせください。

機 関 名		イベント名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備 考	
国	東北地方環境事務所	白神山地世界遺産登録30周年記念「環白神フォーラム」								11/10					遺産地域の保全管理、周辺エリアの更なる利活用を進めるための、次の10年にむけた可能性を考える「環白神フォーラム」の開催。環白神エコツーリズム推進協議会との共催。	
	東北森林管理局 津軽白神森林生態系保全センター (TEL:0173-72-2931)	自然再生事業				7/15			9/23							白神山地ビジターセンターと連携して、ブナ等の植樹活動を実施。
		森林ふれあい推進事業		5/27						10/21						深浦町及び西目屋村と連携して、津軽十二湖自然教養林及び白神山地森林生態系保護地域(保全利用地区)において、森林散策を伴う森林教室を実施。
		森林環境教育			6月から10月											白神山地ビジターセンターと連携して、育樹体験・森林散策・木工教室等を実施。
	東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター (TEL:0185-79-1003)	森林環境教育支援			6/7,8											藤里幼稚園を対象
		森林環境教育支援					8/31	9/11								獨協大学2年生と3年生を対象
		森林環境教育支援							9/8							能代高校ニツ井キャンパス校1年生と3年生を対象
		森林環境教育支援							9/20							藤里学園7年生を対象
	青森県	自然保護課 (TEL:017-734-9257)	世界自然遺産登録30周年 オープニングセレモニー				7/17									白神山地世界自然遺産登録30周年記念事業を行う関係者が一堂に会し、記念の年を祝うオープニングセレモニーを開催。(約70名)
			世界自然遺産登録30周年記念事業 縄文キャンプ in 白神山地				7/29, 30		9/16,17							「白神山地」、「北海道・北東北の縄文遺跡群」2つの世界遺産を一体的にPRするため、家族で縄文生活を体験するキャンプを開催。(計30組91名の参加)
世界自然遺産登録30周年記念事業 白神山地スタンプラリー						7/17から12/11								代金割引等を実施する県内の飲食店等で「白神山地応援隊」を結成。この店舗等の利用で発行されるデジタルスタンプで、特産品等が当たるスタンプラリーを実施。		
世界自然遺産登録30周年 記念シンポジウム											年度内開催予定				白神山地が有する生態系の価値や山・川・海の恵み、暮らしや文化などの多彩な魅力を県内外に発信するための記念シンポジウムを開催。	
青森県中津地域県民局		世界自然遺産登録30周年記念 SHIRAKAMI Forest Time							9/23						森林サービス産業のモニタリングイベントとして開催、森林空間を活用したアクティビティプログラム体験。	
秋田県	自然保護課 (TEL:018-860-1614)	白神体験塾2023				7/23									八峰町にて御所の台散策、ブラックサントピーチ見学 参加者20名	
		白神体験塾2023				7/30									藤里町にて岳岱散策、藤琴川で自然観察 参加者20名	
		白神体験塾2023					8/6								八峰町にて白瀑川沢歩き、ブラックサントピーチ見学 参加者21名	
		白神体験塾2023					8/11								藤里町にて岳岱散策 参加者19名	
		オンライントークイベント「あきた白神のここがすごい！」			6/8											登山系YouTubeと白神ガイド、自然アドバイザー、行政関係者によりホテル藤里ゆとりあで開催。
		あきた白神まつり ～30th anniversary～								9/23,24						9/23:シンポジウム、ステージイベント、物品販売等 参加者1,200名 9/24:現地散策ツアー 参加者37名

機 関 名		イベント名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備 考	
市 町 村	鯉ヶ沢町政策推進課 (TEL:0173-72-2111)	白神山地トレッキングガイド			6月～11月中旬										あじがさわ白神山地ガイドによる予約制トレッキングガイド。初級コースから上級コースまで9コース。要予約。	
		【白神の森遊山道トレッキング特別企画】 白神の森遊山道トレッキングと白神の食を楽しむ		5/20,27	6/4										遊山道をトレッキング後、白神の食を楽しむ。本企画は旅行会社に商品造成してもらい、30周年特別企画として一部経費を町が負担する。	
		【白神の森遊山道トレッキング特別企画】 白神の森遊山道トレッキングとヨガ体験		5/20						10/28					遊山道をトレッキング後、ヨガで心身のリフレッシュを体感する。ターゲットは20～40代女性。本企画は旅行会社に商品造成してもらい、30周年特別企画として一部経費を町が負担。	
	鯉ヶ沢町政策推進課 (TEL:0173-72-2111)	白神の森遊山道タクシーキャンペーン	4月～10月												タクシー利用料の補助と、経済効果増を目的とした買い物クーポンの贈呈。1人5,000円のタクシープランが30周年記念特別キャンペーンで3,500円、クーポン券の補助500円	
		30周年関連PR	通年												新聞広告で30周年特別企画のトレッキングツアー等の誘客促進。町内各所で[世界遺産の町][30周年]ののぼり旗やポスターを設置。舞の海秀平氏を招聘し30周年記念番組を制作。	
		白神の森遊山道 開山式	4/20												遺産登録30周年に合わせて当施設の通年営業を再開。併せて町内小学生のトレッキング学習を開催。当施設が校外学習の場としても利用できることを対外的にアピール。	
		自然観察館ハロー白神の特別展示	4月～7月												白神山地に関する各種展示物、書籍などがある自然学習施設。白神山地をより深く知ることを目的とした特別展示を行い、利用者数の向上を図る。	
	深浦町観光課	白神山地世界自然遺産登録30周年記念 「深浦町海上花火大会」						8/12								
		白神山地世界自然遺産登録30周年記念 「深浦ってどこ？ 観光写真グランプリ」								応募期間 10/10～1/31						
	深浦町総合戦略課	白神山地世界自然遺産登録30周年記念 「アオーネ白神十二湖クラフト展」							9/2 ～3							
	藤里町商工観光課 (TEL:0185-79-2115)	春の白神ウィーク			6/10 ～18											白神山地の世界自然遺産登録30周年を記念した1週間。
		Shirakami FESTA 新しい森のトビラ			6/10											森に行きたくなるトークセッション、シンポジウムを開催。 ※株式会社アルビオンと共催
		岳岱大ブナ幹回等公式記念測定			6/13											ミス日本みどりの大使・東北森林管理局長・藤里町長による幹回りの測定。森の声ライブも開催。
		白神山地ブナの森マラソン			6/18											定員21kmコース200名、8.8kmコース50名。コースは標高差250m、二つの山を越える。
		白神はしえるライダー							9/23							子ども向けキックバイクレース。素波里園地で開催。自然の中で家族みんなが楽しめるイベント。
秋の白神ウィーク									10/21 ～29						白神山地の世界自然遺産登録30周年を記念した1週間。	
藤里町民祭2023遺産登録30周年スペシャル									10/29						グルメや特産品販売、ステージショーを実施。	
白神山地ケツジョリ世界選手権													2/3		小学生以上の参加。肥料袋をお尻に敷いて滑り下り、ジャンプの距離と飛型を競う。タイムレースもあり、子どもから大人まで楽しめる。	
八峰町産業振興課 (TEL:0185-76-4605)	白神山地登山ルート山開き安全祈願祭		5/27												八森ぶなっランドを会場に、白神山地登山ルート山開き安全祈願祭を開催。	
	白神山地世界遺産登録30周年留山自然観察会		5/27												例年であれば、ニツ森自然観察会「ミネザクラを見よう」を実施していたが、R4.8の大雨で町道ニツ森線が通行止めのため、留山へ変更して実施。	
能代市環境衛生課 (TEL:0185-89-2173)	・環境大学講座														白神山地付近での自然観察会の開催実績なし。	
能代市観光振興課 (TEL:0185-89-2179)	白神山地世界自然遺産登録30周年記念事業×子ども探偵団 「能代は白神山地の玄関口」～白神山麓で過ごす24時間								11/3,4						市内の小学4年生から6年生を対象。	

機 関 名		イ ベ ント 名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備 考	
大学	主催:弘前大学 協力:鱒ヶ沢町	バイオブリッツ			6/24, 25										白神の森遊山道で研究者と一般参加者で行う生物多様性の調査ツアー。	
団体	白神山地ビジターセンター (TEL:0172-85-2810)	自然観察会	4月～11月										2月		白神山地の自然観察・野外活動等による自然体験を10回実施します。	
		ネイチャークラフト				7/23				10/8		12/10,24			親子を対象に、自然への親しみや理解を深めていただくため、自然の恵みを素材とした工作体験を実施します。	
		ネイチャースクール				7/22				10/7					白神山地や青森県の自然について、各分野の専門家による講義を実施します。	
		特別展	4月～1月												白神山地の景観やそこに生息する動植物の生態を紹介する写真展等を9回開催します。	
団体	目屋観光協会 (TEL:0172-85-2800)	にしめやランド2023				7/22,23									西目屋村全体をフィールドとした大型イベント。 今年度は世界遺産登録30周年記念として、内容を拡充し実施。	
	白神十二湖エコ・ミュージアム (TEL:0173-77-3113)	新緑の十二湖1日めぐり		5/13											十二湖地内に点在する湖をめぐるトレッキング。 参加者 17名	
		秋の十二湖1日めぐり								10/28					十二湖地内に点在する湖をめぐるトレッキング。 参加者 11名	
	赤石地区町内会連合会 (TEL:赤石公民館 0173-72-2858)	あかいし溪流まつり									10/21				白神山地を源流とする赤石溪流の美しい紅葉と鮎、カジカなどの食や地元伝統芸能などを楽しめるイベント。	
	赤石川清流会 (TEL:事務局 世永 090-6222-7661)	赤石川金鮎友釣り大会				7月									世界自然遺産・白神山地の清流で育った全国的にも珍しい金色に輝く「金鮎」の友釣り大会。トータル尾数で優勝を競う。	
	秋田白神ガイド協会 (TEL:0185-79-2518)	白神山地エコツアー	4/23	5/21	6/4	7/28	8/11,27	9/16,17	10/15,29		12/10	1/21	2/18		楽しんで学べるエコツアー。参加申し込みは各開催日の1週間前。	
	藤里町商工会観光振興課 (TEL:0185-79-2518)	素波里紅葉祭														さまざまなイベントがあり、紅葉を見ながら家族でゆっくり過ごせる。
		滝ライトアップ												2/6 ～13		幻想的なライトアップを楽しめる。
	白神山地世界遺産センター(藤里館)活動協議会 (TEL:0185-79-3005)	自然観察会等のイベント(7回)及び企画展(4回)	4～12月												藤里館内及びその周辺で開催。 10月末現在、イベント(5回)参加者計89人。	
	NPO法人白神ネイチャー協会 (TEL:0185-70-4211)	秋の自然観察会										11月頃予定				秋の自然観察会、「来よう!紅葉留山へ」を実施予定。例年であれば、二ツ森で行っているが、R4.8月の大雨で町道二ツ森線が通行止めのため、留山へ変更。 ※募集定員20名。
植樹ボランティア										10/1					植樹ボランティア150名(募集)がブナの苗木約450本を植樹。 ※植栽場所は、八峰町八森字大嶽平地内(オオタケヒラ)	
白神30周年イベント実行委員会 (NPO法人白神ネイチャー協会等)	白神山地30周年記念イベント 「留山 森の音物語」					8/19	9/16	10/21	11/11						留山を舞台に、トレッキングとコンサートを合わせて実施。7月～11月に計5回予定。	

世界自然遺産登録30周年に係る取組(再掲)

【東北地方環境事務所】

番号	事業名	事業概要(目的・方法・実施内容等)	事業主体 (窓口)	備考
7	白神山地世界自然遺産登録30周年記念事業	<p><目的> 遺産地域の保安全管理、周辺エリアの更なる利活用を進めるための、次の10年にむけた可能性を考える。</p> <p><実施内容> 秋田県八峰町の八峰町文化交流センター「ファガス」において「環白神フォーラム」を開催。</p>	東北地方環境事務所・環白神エコツーリズム推進協議会共催	11月10日開催

【東北森林管理局】

番号	事業名	事業概要(目的・方法・実施内容等)	事業主体 (窓口)	備考
4	白神山地世界自然遺産登録30周年記念事業	<p>白神山地観光情報館(観光情報サイト)の新設</p> <p><目的> 世界遺産地域内にとどまらない白神山地全体の魅力の情報発信</p> <p><実施内容> 遺産地域周辺の魅力も伝えるよう市町村等へのサイト等も含めてリンクするサイトを新設した。</p>	東北森林管理局	9月1日
5	白神山地世界自然遺産登録30周年記念事業	<p>白神山地世界遺産登録30周年の横断幕及びのぼり旗の設置</p> <p><目的> 自然遺産登録30周年の盛り上げ</p> <p><実施内容> 横断幕を東北森林管理局に設置。 のぼりを東北森林管理局、津軽森林管理署、米代西部森林管理署、津軽白神森林生態系保全センター、藤里森林生態系保全センターに2基ずつ設置。</p>	東北森林管理局 津軽森林管理署 米代西部森林管理署 藤里森林生態系保全センター 津軽白神森林生態系保全センター	9月11日

番号	事業名	事業概要(目的・方法・実施内容等)	事業主体 (窓口)	備考
4	白神山地世界自然遺産登録30周年記念事業	<p><目的> 白神山地周辺地域の持続的発展を目指し、30周年という節目に県内外の多くの方に白神山地の価値や魅力を再発信する記念事業を実施するとともに、白神山地を「学びの森」として活用するための環境を整備する。</p> <p><実施内容> 1 30周年記念事業の実施 (1)7月 オープニングセレモニー(弘前市) 夏～秋 縄文キャンプin白神山地(西目屋村、深浦町) 年度内 記念シンポジウム(弘前市) (2)官民連携 ①連絡会議(周辺市町村・関係機関で構成)を設置し、それぞれが実施する30周年記念イベント等を一体的にPRする(HPの制作・運営、WEB・TV広告等)。 ②協賛イベントを実施する飲食店やホテル等を「白神山地応援隊」として位置付け、スタンプラリー等を実施する。</p> <p>2「学びの森白神山地」受入環境の整備 小学校の校外学習及び企業の環境保全研修の誘致対策として、旅行代理店、ガイド団体と連携し、小学校の校外学習プログラムと企業の環境保全研修プログラムを開発し、モニターツアーを実施する。</p> <p><実施状況> 1 30周年記念事業の実施 〔オープニングセレモニー〕 白神山地世界自然遺産登録30周年のキックオフイベントとして、県や地元市町村、記念事業を行う関係者が一堂に会し、記念の年を祝った。 ① 日 程:7月17日(月) ② 場 所:アートホテル弘前シティ ③ 参加者:約70名 ④ 内 容:アトラクション、感謝状贈呈、白神山地応援隊結成式等</p>	青森県自然保護課	

番号	事業名	事業概要(目的・方法・実施内容等)	事業主体 (窓口)	備考
4	白神山地世界自然遺産登録30周年記念事業	<p>[縄文キャンプ in 白神山地] 「白神山地」と「北海道・北東北の縄文遺跡群」という2つの世界遺産の普遍的価値を一体的にPRするため、家族で縄文生活を体験する「縄文キャンプ in 白神山地」を開催した。</p> <p>①令和5年7月29日(土)～30日(日) 場所:アオーネ白神十二湖(深浦町) 参加人数:10組32名</p> <p>②令和5年9月16日(土)～17日(日) 場所:アクアグリーンビレッジANMON(西目屋村) 参加人数:20組59名</p> <p>[記念シンポジウム] 年度内に弘前市において開催予定。</p> <p>[連絡会議] 連絡会議(周辺市町村・関係機関で構成)を設置し、それぞれが実施する30周年記念イベント等を特設ホームページにおいて一体的にPRしている。</p> <p>[白神山地応援隊] 登録30周年を盛り上げるため、代金割引などのサービスやイベント等を実施する周辺市町村を中心とした県内の飲食店や宿泊施設、観光・商工団体、ガイド団体等を募集し、応募があった59の店舗等により「白神山地応援隊」を結成。この応援隊の各店舗等を利用することで発行されるスマートフォンアプリ用のデジタルスタンプを収集すると、その数に応じて、白神山地の特産品などが当たるスタンプラリーを実施中。</p> <p>2「学びの森白神山地」受入環境の整備 白神山地を校外学習の場として利用してもらうため、小学校向けの校外学習プログラムを開発し、小学校教員を対象に、白神山地の自然や文化を体験する校外学習モニターツアーを鱒ヶ沢町において実施予定。 また、白神山地を環境保全研修の場として利用してもらうため、企業向けの環境保全研修プログラムを開発し、企業を対象に環境保全研修モニターツアーを西目屋村において実施予定。</p>	青森県自然保護課	

【青森県 自然保護課】

番号	事業名	事業概要(目的・方法・実施内容等)	事業主体 (窓口)	備考
6	森林を活かした中 南地域山村振興事業	<p><目的> 森林と他産業を結び付け、森林空間を多様に活用する「森林サービス産業」を創出するため、西目屋村をモデルに支援する。</p> <p><実施内容> 森林空間を活用した各種アクティビティプログラムの開発</p> <p><実施状況> 開発したアクティビティプログラムについて、イベント形式でモニタリングを行った。</p> <p>[SHIRAKAMI Forest タイム]</p> <p>① 日 程:9月23日(土) ② 場 所:アクアグリーンビレッジANMONオートキャンプ場 ③ 参加者:約70名 ④ 内 容:森林空間を活用したアクティビティプログラム体験 (ヨガ、シアター、アロマ、サウナ、焚き火、キャンプ)</p>	青森県中南部地域県民局 (青森県林政課)	

【秋田県 自然保護課】

番号	事業名	事業概要(目的・方法・実施内容等)	事業主体 (窓口)	備考
4	白神山地世界遺産 登録30周年記念事 業	<p><目的> 白神山地が世界遺産登録30周年を迎えることから、白神山地の価値や魅力を改めて伝えるとともに、将来のあり方を考え、保全を前提とした地域振興について考える契機とする</p> <p><実施状況> あきた白神まつり ~30th anniversary~</p> <p>・9/23 シンポジウム「そして、次世代へ。」 基調講演、パネルディスカッション、ゲスト講演 参加者200名 ステージイベント、物品販売等 来場者1,000名</p> <p>・9/24 現地散策ツアー 参加者37名</p>	秋田県自然保護課	業者に業務委託(プロ ポーザル実施)

【西目屋村】

番号	事業名	事業概要(目的・方法・実施内容等)	事業主体 (窓口)	備考
4	にしめやランド 2023	<p>【目的】 地域住民の機運醸成を図る</p> <p>【方法】 西目屋村全体をフィールドとした大型イベント。 今年度は世界遺産登録30周年記念として、内容を拡充し実施。</p> <p>【実施場所】 道の駅「津軽白神」ほか</p> <p>【実施状況】 7/22、23の両日で9,460人来場</p>	目屋観光協会	

【鱒ヶ沢町】

番号	事業名	事業概要(目的・方法・実施内容等)	事業主体 (窓口)	備考
3	【白神の森遊山道トレッキング特別企画】	<p>①白神の森遊山道トレッキングと白神の食を楽しむ 遊山道をトレッキング後、白神の食を楽しむ。 本企画は旅行会社に商品造成してもらい、30周年特別企画として一部経費を町が負担する。</p> <p>【開催時期】 1回目:5月20日 2回目:5月27日 3回目:6月4日</p> <p>②白神の森遊山道トレッキングとヨガ体験 遊山道をトレッキング後、ヨガで心身のリフレッシュを体感する。 体験後は白神の水で淹れたコーヒーを提供。 ターゲットは20～40代女性。 本企画は旅行会社に商品造成してもらい、30周年特別企画として一部経費を町が負担する。</p> <p>【開催時期】 1回目:5月20日 2回目:10月28日</p>	鱒ヶ沢町 (政策推進課)	

番号	事業名	事業概要(目的・方法・実施内容等)	事業主体 (窓口)	備考
4	白神の森遊山道 タクシーキャン ペーン	<p>タクシー利用料の補助と、経済効果増を目的とした買い物クーポンの贈呈。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タクシー利用料の補助 通常のタクシープラン:1人 5,000円 ⇒30周年記念特別キャンペーン:1人 3,500円 ※入山料・ガイド料込 ・お買い物クーポン券の補助 500円/1人 <p>【注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3日前までの申込 ・2名以上でのお申込み ・先着200人限定 <p>【開催時期】 4月～10月</p>	鱒ヶ沢町 (政策推進課)	
5	30周年関連PR	<p>新聞広告による世界自然遺産登録30周年と30周年特別企画のトレッキングツアーなどを広く周知し誘客促進を図る。また、当町に訪れた方が「世界遺産の町」「30周年」を視覚的に認知し、特別感と白神山地への関心を高めてもらうことを目的に町内各所にのぼり旗やポスター(R4作成)で歓迎する。また、名誉町民で町特別大使の舞の海秀平氏を招聘し、30周年記念番組(30分)を制作する。</p>	鱒ヶ沢町 (政策推進課)	
6	白神の森遊山道 開山式	<p>世界自然遺産登録30周年に合わせて当施設の通年営業を再開。 より多くの潜在的な利用者層に対し、当施設の営業再開を広く認知してもらうことを目的とし、誘客促進を図る。 併せて町内小学生のトレッキング学習を開催し、自然の大切さや登録30周年を迎える白神山地を知ってもらう。また、当施設が校外学習の場としても利用できることを対外的にアピールする。</p> <p>【開催時期】 4月20日</p>	鱒ヶ沢町 (政策推進課)	

【鱒ヶ沢町】

番号	事業名	事業概要(目的・方法・実施内容等)	事業主体 (窓口)	備考
7	自然観察館ハロー 白神の特別展示	白神山地に関する各種展示物、書籍などがある自然学習施設。 世界自然遺産白神山地の学習の場として、白神山地をより深く知ることを目的とした特別展示を行い、利用者数の向上を図る。	鱒ヶ沢町 (政策推進課)	
8	バイオブリッツ	白神の森遊山道で研究者と一般参加者で行う生物多様性の調査ツアー。 【開催時期】 6月24日～6月25日	主催:弘前大学 白神自 然環境研究センター 協力:鱒ヶ沢町	

【深浦町】

番号	事業名	事業概要(目的・方法・実施内容等)	事業主体 (窓口)	備考
4	世界自然遺産登録 30周年記念事業	①「深浦町海上花火大会」(8月12日(土)、深浦町夕陽公園にて開催) ②「アオーネ白神十二湖クラフト展」(9月2日(土)～3日(日)、アオーネ白神十二湖にて開催) ③「深浦ってどこ? 観光写真グランプリ」(応募期間:令和5年10月10日(火)～令和6年1月31日(水)、特設サイトにて受付中)	深浦町	

番号	事業名	事業概要(目的・方法・実施内容等)	事業主体 (窓口)	備考
5	白神エコツーリズム推進事業	研修型ワークショップ”白神ミーティング”を1回開催。(深浦町) 白神山地を自転車で一周しながら、白神山地の景観、文化、食、遊びなどを楽しむモデルツアーを実施。(通称「シライチ」) 白神山地30周年記念フォーラムを11/10開催。(八峰町) 【成果】白神ミーティング8/29～8/30深浦町で開催 37名参加 「シライチチャレンジ」9/26～9/29開催	環白神エコツーリズム推進協議会	白神山地周辺7自治体で組織。R1年より藤里町が幹事。
8	春の白神ウィーク	白神山地の世界自然遺産登録30周年を記念した1週間(6/10～6/18) 6/10 Shirakami FESTA ～新しい森のトビラ～(森に行きたくなるトークセッション、シンポジウムを開催。※株式会社アルビオンと共催) 6/13 岳岱大ブナ幹回り等公式記念測定(ミス日本みどりの大使・東北森林管理局長・藤里町長による幹回りの測定。森の声ライブも開催。) 6/18 白神山地ブナの森マラソン(定員21kmコース200名、8.8kmコース50名。コースは標高差250m、二つの山を越えます。)	藤里町	
9	秋の白神ウィーク	白神山地の世界自然遺産登録30周年を記念した1週間(10/21～10/29) 10/29 藤里町民祭2023遺産登録30周年スペシャル(グルメや特産品販売、ステージショーを実施)	藤里町	

番号	事業名	事業概要(目的・方法・実施内容等)	事業主体 (窓口)	備考
1	白神山地登山ルート 山開き安全祈願祭・ 留山自然観察会	5月27日(土)八森ぶなっこランドを会場に、白神山地山開き安全祈願祭・式典を開催。その後、留山自然観察会を実施。例年であれば、ニツ森で自然観察会を行っていたが、R4.8月の大雨で町道ニツ森線が通行止めのため、留山へ変更して実施。 ※自然観察会は、世界自然遺産登録30周年の冠をつけて実施。 ※自然観察会は、4年ぶりに開催。	安全祈願祭 →八峰町観光協会 式典・観察会 →役場産業振興課	
5	白神山地30周年記念 ボトル制作事業	白神山地30周年記念ボトルを制作。記念ボトルは、30周年イベント参加者や町内の小中学生に配布。	役場産業振興課	
6	白神山地30周年記念 イベント 「留山 森の音物語」	白神山地30周年記念イベントを開催するために実行委員会を立ち上げた。(構成員:NPO法人白神ネイチャー協会、八峰町白神ガイドの会、八峰白神ジオパークガイドの会、NPO法人八峰町観光協会、白神八峰商工会、八峰町) イベント内容は、留山を舞台に、トレッキングとコンサートを合わせて実施。7月～11月に計5回予定。	白神30周年イベント実行委員会	

番号	事業名	事業概要(目的・方法・実施内容等)	事業主体 (窓口)	備考
2	白神山地世界自然遺産登録30周年記念事業×子ども探偵団 「能代は白神山地の玄関口」～白神山麓で過ごす24時間	<p>1. 目的 世界自然遺産「白神山地」周辺において、自然観察や山ゴハンを通じて環境について理解を深めるとともに、環境保全に対し主体的行動を促し、白神山地を身近に感じ、白神の自然について考えることを目的とする。</p> <p>2. 事業の内容 世界自然遺産に登録されて今年で30周年を迎え、自然観察や山ゴハンの体験をし、白神山地を身近に感じてもらう。</p>	能代市観光振興課	市内の小学4年生から6年生を対象とし、令和5年11月3日～4日に実施予定。

世界自然遺産登録30周年に係る取組に伴う遺産地域でのオーバーユースは見られず保全管理への特段の影響は見られなかった。

ID ^{注1)}	公開レベル ^{注1)}	C	保管形式 ^{注1)}	電子	保管場所 ^{注1)}	前回ID	221101	
報告書名称 /調査名称	白神山地世界遺産地域およびその周辺地域における気象観測調査 2008～2022					発行年月/報告年月		
						2022年	11月	
調査機関	東北地方環境事務所		委託機関					
調査開始年	1998年	3月	調査期間	2022年	1月	～	2022年	12月 ^(※1)
調査頻度 ^{注2)}	毎年	—	調査時期 ^{注2)}	通年	—	—		
エリアの計画	2022年7月	改定	区分 ^{注2)}	I	大区分 ^{注2)}	1	小区分 ^{注2)}	(1)
調査箇所・範囲 ^{注3)}				調査手法				
<input checked="" type="checkbox"/> 核心地域 <input checked="" type="checkbox"/> 緩衝地域 <input checked="" type="checkbox"/> 周辺地域 <input type="checkbox"/> GPS等の位置データあり				<榊石山気象観測施設> 計測開始：2003年10月 測定項目および間隔： 外気温度・地中温度(2003年10月～ 1時間に1度) 日射量(2003年10月～ 1時間に1度) 湿度(2003年10月～ 1時間に1度) 積雪深(2003年10月～ 1時間に1度) 風向・風速(2003年10月～ 1時間に1度) 雨量(2003年10月～ 1時間に1度) <二ツ森気象観測施設> 計測開始：2000年11月 測定項目および間隔： 外気温度(2000年11月～ 1時間に1度) 日射量(2000年11月～ 1時間に1度) 積雪深(2000年11月～ 1時間に1度) 風向・風速(2000年11月～ 1時間に1度) 雨量(2003年6月～ 1時間に1度) <西目屋気象観測施設> 計測開始：1997年3月 測定項目および間隔： 外気温度(1997年3月～ 1時間に1度) 日射量(1997年3月～ 1時間に1度) 積雪深(1997年3月～ 1時間に1度) 風向・風速(1997年3月～ 1時間に1度) 雨量(1997年3月～ 1時間に1度)				
 <p>※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。</p>				(※1) 積雪深は2022寒候年(2021年8月～2022年7月)を調査期間とする。				
結果概要 (スペースに収まるように入力してください)								
【西目屋気象観測施設】 日降水量が100mmを超える豪雨が3回発生した(6/28:124mm、8/3:110mm、8/9:227mm)このうち8月の2回は白神山地周辺に大きな被害をもたらし、各地の道路が寸断された。								
【榊石山気象観測施設】 <データの欠損> 8月豪雨の際に倒木により観測塔の太陽光パネルが損壊し、充電能力が低下し、9/23以降は欠測となった。 <外気温度> 2022年における月平均外気温度は過年(2008年～2021年)と概ね同様の季節変化を示し、1月に最も低い-5.5℃、7月に最も高い20.2℃となった。また、1/1には年間最低気温の-12.5℃が、7/30には年間最高気温の27.9℃が記録された。 <降水量> 豪雨の影響で8月降水量は1252mmとこれまでで最も高い値を示した。								
【二ツ森気象観測施設】 <外気温度> 2022年における月平均外気温度は過年と概ね同様の季節変化を示した。また、1/19には年間最低気温の-14.5℃、8/6に年間最高気温の29.6℃が記録された。 <降水量> 豪雨の影響で8月降水量は1341mmとこれまでで最も高い値を示した。 <積雪> 日最大積雪深はシーズンを通じて高い値を示し、最大積雪深は2022年3月7日の4332mmとなった。								
東北地方環境事務所 西目屋自然保護官事務所								
〒036-1411 青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田61-1								
TEL:0172-85-2622 FAX:0172-85-2635								
<<原本(データ)の帰属について>>								

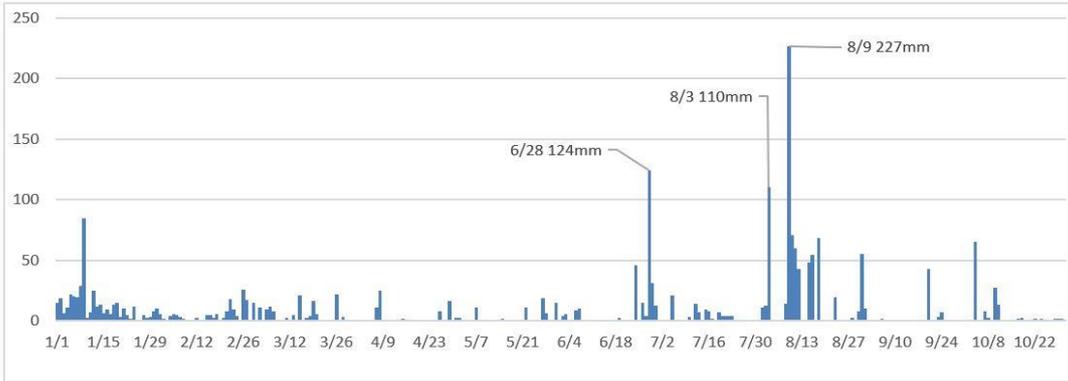
注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。

注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。

注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

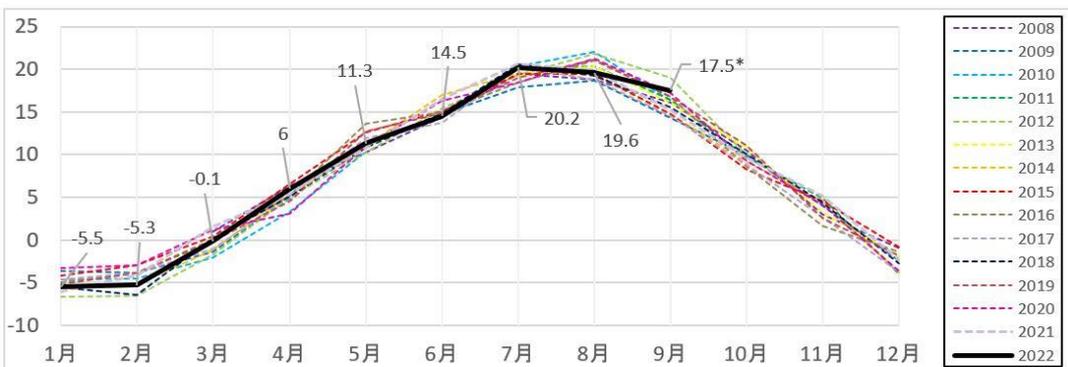
備考

【西目屋気象観測施設】

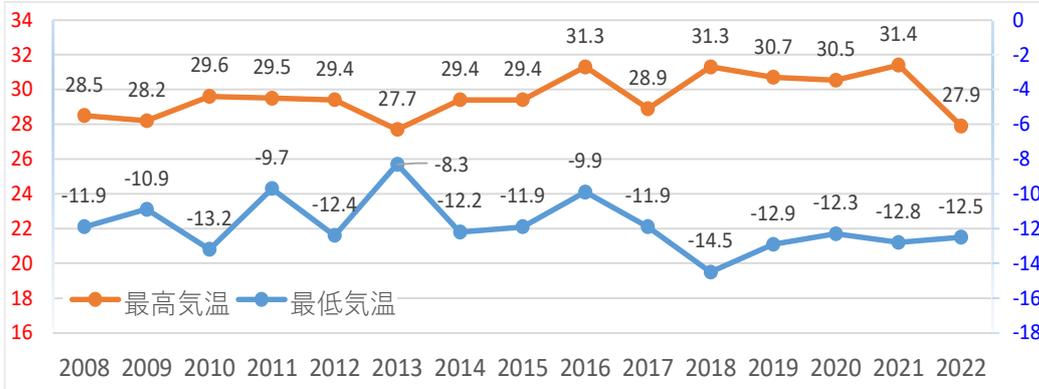


■ 日降水量の季節変化（2022）

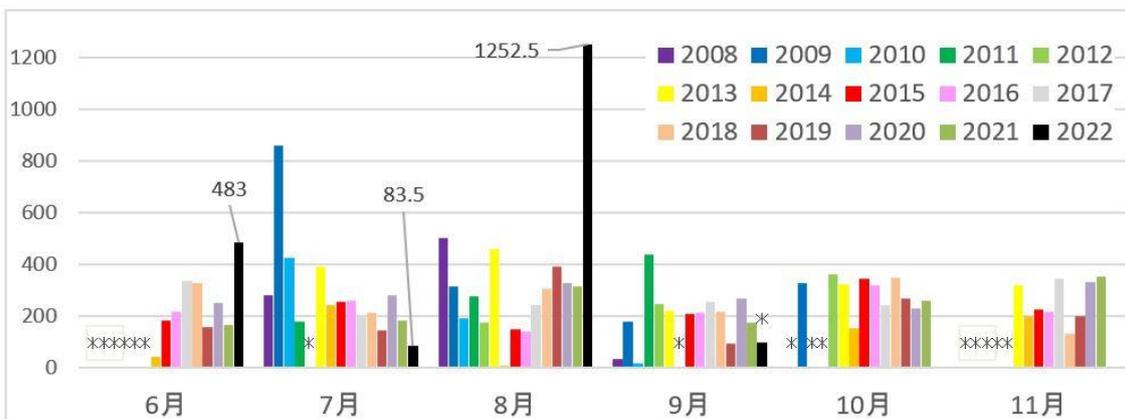
【櫛石山気象観測施設】 ※2022年9月23日以降は、太陽光パネルが損壊し充電能力低下のため欠測



■ 月平均外気温度（℃）の季節変化（2008年～）



■ 年ごとの最高気温（℃）および最低気温（℃）の経年変化（2008年～）

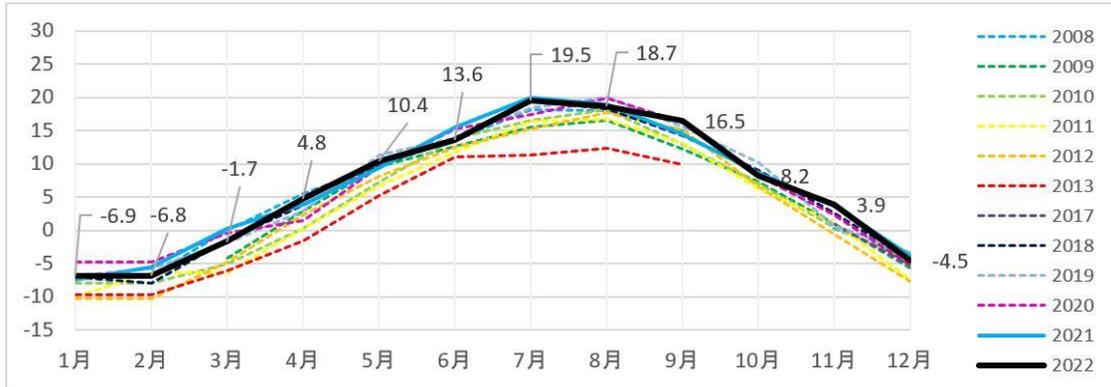


■ 月降水量（mm）の経年変化（2008年～）

2022年9月23日以降は、太陽光パネルが損壊し充電能力低下のため欠測
*：欠測値および信頼性が低い統計値

備考

【二ツ森気象観測施設】



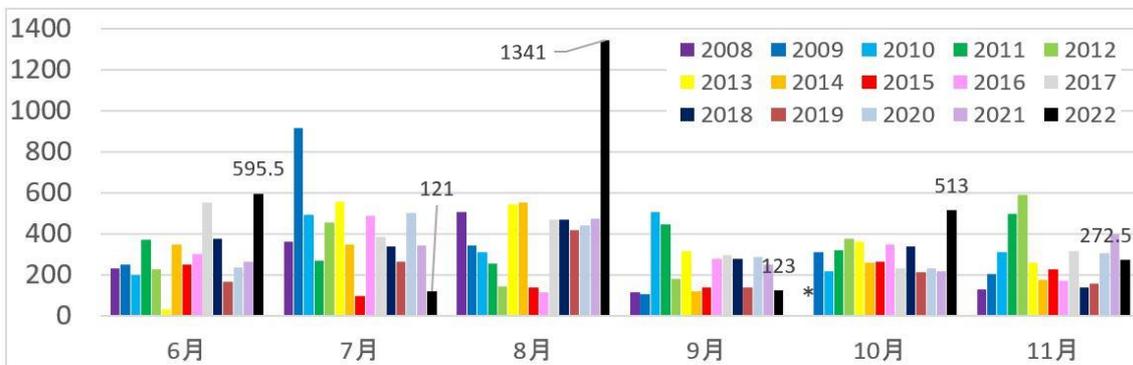
■ 月平均外気温(°C)の季節変化(2008年~)

(※)2013年10月~2017年10月の期間については機器の故障によりデータの信頼性に疑問があるため欠測とした。

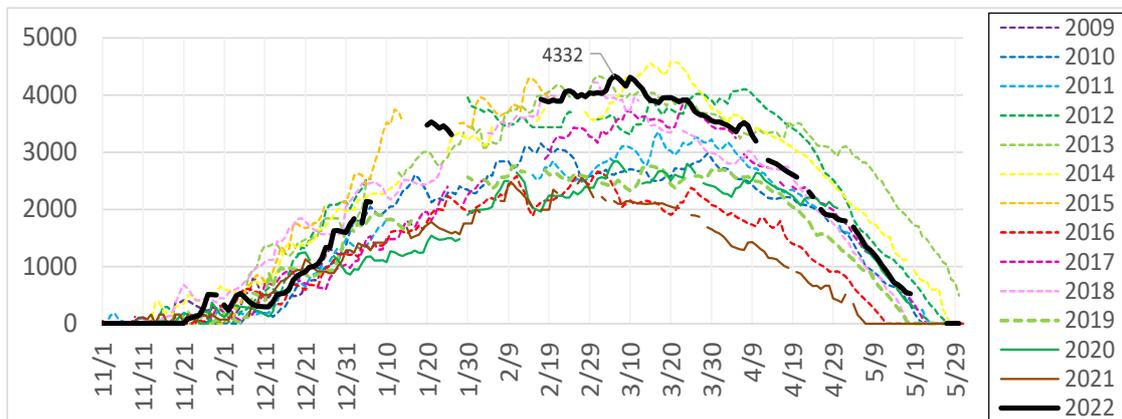


■ 年ごとの最高気温(°C)および最低気温(°C)の経年変化(2008年~)

(※)2014年~2017年については機器の故障によりデータの信頼性に疑問があるため欠測とした。



■ 月降水量(mm)の経年変化(2008年~)



■ 日最大積雪深(mm)の季節変化(2008年~)

ID ^{注1)}	公開レベル ^{注1)}	C	保管形式 ^{注1)}	紙・電子	保管場所 ^{注1)}	前回ID	221102
-------------------	----------------------	---	---------------------	------	---------------------	------	--------

報告書名称 /調査名称	白神山世界遺産地域におけるフナ林のフェノロジー調査 2022		発行年月/報告年月	
			2023年	11月
			資料形式 ^{注2)}	その他

調査機関	東北地方環境事務所	委託機関	
------	-----------	------	--

調査開始年	2009年	11月	調査期間	2022年	1月	～	2022年	12月
-------	-------	-----	------	-------	----	---	-------	-----

調査頻度 ^{注2)}	毎年	—	調査時期 ^{注2)}	通年	—
---------------------	----	---	---------------------	----	---

モニタリング計画	2022年7月	改定	区分 ^{注2)}	IB	大区分 ^{注2)}	1	小区分 ^{注2)}	(3)
----------	---------	----	-------------------	----	--------------------	---	--------------------	-----

調査箇所・範囲 ^{注3)}	調査手法
------------------------	------

核心地域 緩衝地域 周辺地域

GPS等の位置データあり



【調査目的】
フナおよび周辺に自生するホオノキやナナカマドなどのフェノロジーを定点撮影によって確認することと共に、櫛石山尾根部における冬季の積雪状況の確認を行うこととする。

【調査方法】
設置箇所：櫛石山気象観測施設
方法：
<撮影>
1日に2方向を撮影。12:00(定点①)と13:00(定点②)。各30秒間動画を記録。
<処理>
ビューアソフトにより動画(PNC形式)から静止画像(JPEG形式)に書き出し活用。
<解析>
以下の解析方針に則って該当する日付を確定する。

項目	日付の確定方法
最大積雪深	木の埋もれ具合と積雪計の集計データを見て総合的に判断する。
フナ芽吹き	鮮やかな緑が出現した日。
有雪期終了・無雪期開始	画像に映っている残雪と積雪計の集計データを見て総合的に判断する。
ホオノキ開花	アラート2にホオノキの白い花が出現した日。
フナ紅葉最盛期	紅葉の鮮やかさで判断する。徐々に鮮やかさを増し、最盛期を迎えた後は短期間でくすんでいく。
フナ落葉	落葉しきった日。多少の葉が落葉せずに残ることがあるが、そういった葉は無視する。
無雪期終了・有雪期開始	根雪が始まる日。「初雪」ではないことに留意する。画像と積雪計の集計データを見て総合的に判断する。

結果概要 (スペースに収まるように入力してください)

櫛石山定点撮影画像によるフナ林のフェノロジー解析結果。
2010年～2022年における動態について下記の通りに推察される。
※2022年ホオノキ開花については、樹木に遮られ開花時期が確認できなかった。また、倒木により太陽光パネルの一部が破損しており、電力不足のためか8/13～10/21まで画像なし。

確認事項	推定日												
	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
最大積雪深	2/17	2/10 3/18	2/28	欠測	2/6	2/15	3/2	2/25	2/25	2/17	2/11	2/27	3/7
フナ芽吹き	5/12	5/15	5/3	5/14	5/12	4/29	4/22	5/6	5/3	5/6	5/9	5/4	4/27
有雪期終了・無雪期開始	5/17	5/20	5/22	5/30	5/27	5/19	5/9	5/21	5/17	5/15	5/12	5/4	5/19
ホオノキ開花	5/18	6/4	5/29	5/29	5/30	5/26	5/18	5/24	5/13	5/15	5/13	5/5	—
フナ紅葉最盛期	10/23	10/18	10/27	10/29	10/17	欠測	10/22	10/21	10/22	10/26	10/27	10/31	—
フナ落葉	11/5	10/24	11/6	11/8	10/29	10/31	11/12	11/7	11/3	11/18	11/5	11/13	11/13
無雪期終了・有雪期開始	12/9	11/15	11/22	11/11	12/2	11/25	11/23	11/16	12/6	12/5	11/28	11/25	12/2

環境省東北地方環境事務所 西目屋自然保護官事務所
〒036-1411 青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田61-1
TEL:0172-85-2622 FAX:0172-85-2635

《原本(データ)の帰属について》

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。
注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。
注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

備考

2022	定点①	定点②
<p>最大積雪深 2022/3/7</p>		
<p>ブナ芽吹き 2022/4/27頃</p>		
<p>有雪期終了・無雪期開始 2022/5/19頃</p>		
<p>ホオノキ開花 確認できず ※手前の枝が邪魔して見えなくなった模様</p>		
<p>ブナ紅葉最盛期 ※倒木により太陽光パネルが破損したため 8/13~10/21まで画像なし。 画像は2022/10/22撮影</p>		
<p>ブナ落葉 2022/11/13頃</p>		
<p>無雪期終了・有雪期開始 2022/12/2頃</p>		

ID ^{注1)}	公開レベル ^{注1)}	C	保管形式 ^{注1)}	電子	保管場所 ^{注1)}	前回ID		
報告書名称 /調査名称	令和4年度 世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査					発行年月/報告年月		
						2023年	10月	
						資料形式 ^{注2)}	—	
調査機関	世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会・環境省東北地方環境事務所		委託機関					
調査開始年	1999年	6月	調査期間	2021年	6月	～ 2022年	11月	
調査頻度 ^{注2)}	毎年	—	調査時期 ^{注2)}	春	夏	秋		
モニタリング計画	2022年7月	策定	区分 ^{注2)}	IIA	大区分 ^{注2)}	1	小区分 ^{注2)}	(1)
調査箇所・範囲 ^{注3)}				調査手法				
<input checked="" type="checkbox"/> 核心地域 <input type="checkbox"/> 緩衝地域 <input type="checkbox"/> 周辺地域 <input checked="" type="checkbox"/> GPS等の位置データあり				<input type="checkbox"/> 調査項目 ブナ林動態調査 <input type="checkbox"/> 調査箇所数 遺産地域内3箇所（ヤナダキサイト、クマガラサイト、尾根サイト） <input type="checkbox"/> 調査面積 サイト毎に100m×100m <input type="checkbox"/> 調査手法 種子・リター調査以外は年1回実施、種子・リター調査は6月にリタートラップを設置し7～11月リター回収、11月リタートラップ撤収。 ※平成27年度に関しては道路状況・天候不順の影響でリタートラップの設置を9月に行い、10月～11月にリターの回収を実施した。それ以外の調査項目に関しては例年通りに実施 <成木>・・・胸高直径 5cm 以上の樹木を対象 胸高直径、位置 <低木>・・・樹高 50cm 以上、2m×5m 枠×10 個/サイト 樹高、地際直径 <ササ>・・・2m×5m 枠×10 個/サイト 稈長、地際直径（新規のみ）生死、群落高 <実生>・・・高さ 50cm 未満、1m×1m 枠×40 個/サイト 樹種、生死、高さ <種子・リター>・・・0.5 m ² のリタートラップ×20 個/サイト 1 か月ごとに回収、仕分け 種子数（状態：未熟、虫食い、しいな、健全）、リター量 <光条件>・・・全天写真 実生枠（1m×2m）につき一地点、地表、ササの上（2m）				
 <p>※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。</p>								
結果概要（スペースに収まるように入力してください）								
<ブナ林> 3サイトとも典型的な日本海側のブナ林の特徴を示していた。クマガラサイトの半分は地すべり跡地にあり、胸高直径最大約60cmでサイズのそろったブナが多く、一斉に成立したことを示唆する。尾根サイトでは、最大120cmにもおよぶ大径のブナがある一方、過去の倒木によって林冠ギャップとなった部分も多いため、小径の樹木密度が非常に高い分布となっている。ヤナダキサイトのブナ林は典型的なブナ原生林の構造といえる。2018年は台風21号の影響でマザーツリーが折れるなど、被害は他年に比べると大きかったと思われるが、プロット内では明確な影響は見られなかった。 <低木ササ> いずれの調査区でも、オオバクロモジ、オオカメノキ、タムシバといった低木性樹種が大部分を占めている。低木ではどのサイトでも、2006年から増加傾向を示している。ササについては尾根サイトで2006年から増加傾向を示している。これは、2004年および2005年にこの地方を通過した台風により、林冠木が倒れ、林冠ギャップが形成されたことと対応している。（図なし） <ブナ種子> ブナの種子生産は2000年と2018年が多く、特に2000年の櫛石尾根では1m ² あたり500個を超える種子が落下した。2020年は豊作、2021年は、不作となったが、2022年は、健全な種子が尾根サイト152個/m ² 、クマガラサイト158個/m ² 、ヤナダキサイト141個/m ² であり豊作となった。2022年はサイトへのアクセス道が通行止めになり、9月10月のリター回収が行えなかったため、データ解析は11月のリター回収の結果を用いた。 <実生> 各サイトともブナの豊作年の翌2001年に密度が最大となったが、大量に加入したブナ実生も、1～2年でほとんどが消失し実生密度の増加はごく一時的なものにとどまった。2014年は2013年に健全な種子が落下したため、当年生のブナ実生が3サイト平均0.87個/m ² に増加した。2022年は、サイトへのアクセス道が通行止めになったため実生の調査は中止した。								
世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会 事務局長 石橋史朗 office@monitoring.sakura.ne.jp				<<原本（データ）の帰属について>>				

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。
 注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。
 注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

備考

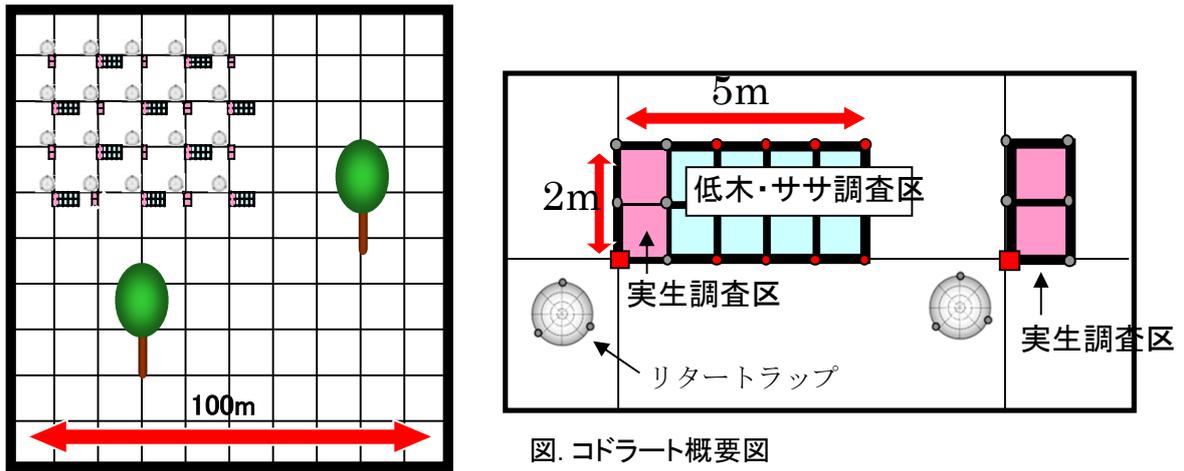
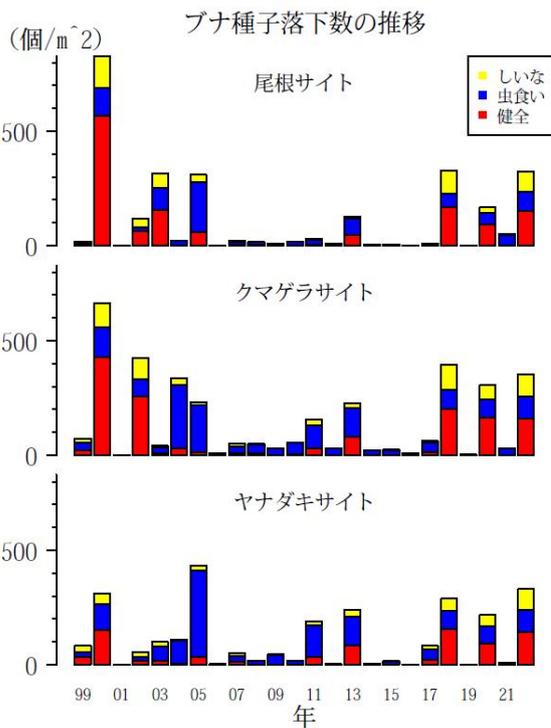
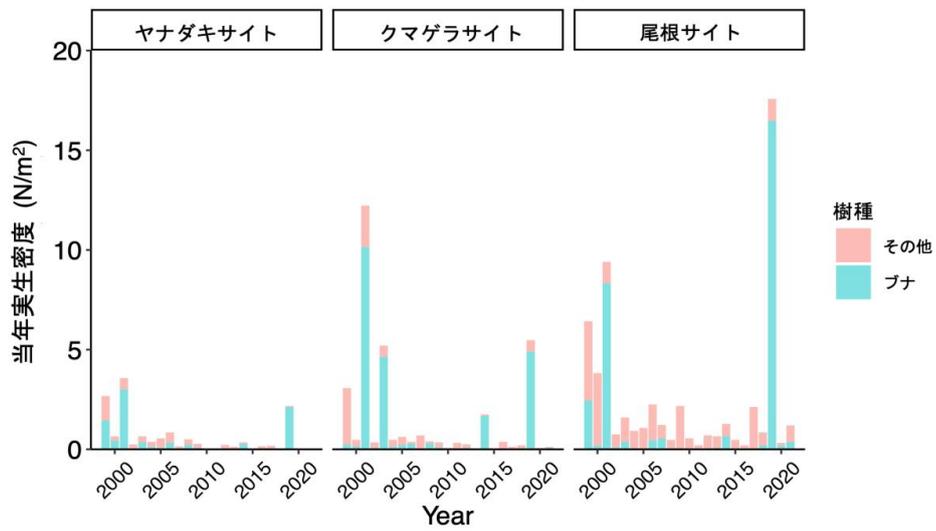


図. コドラート概要図

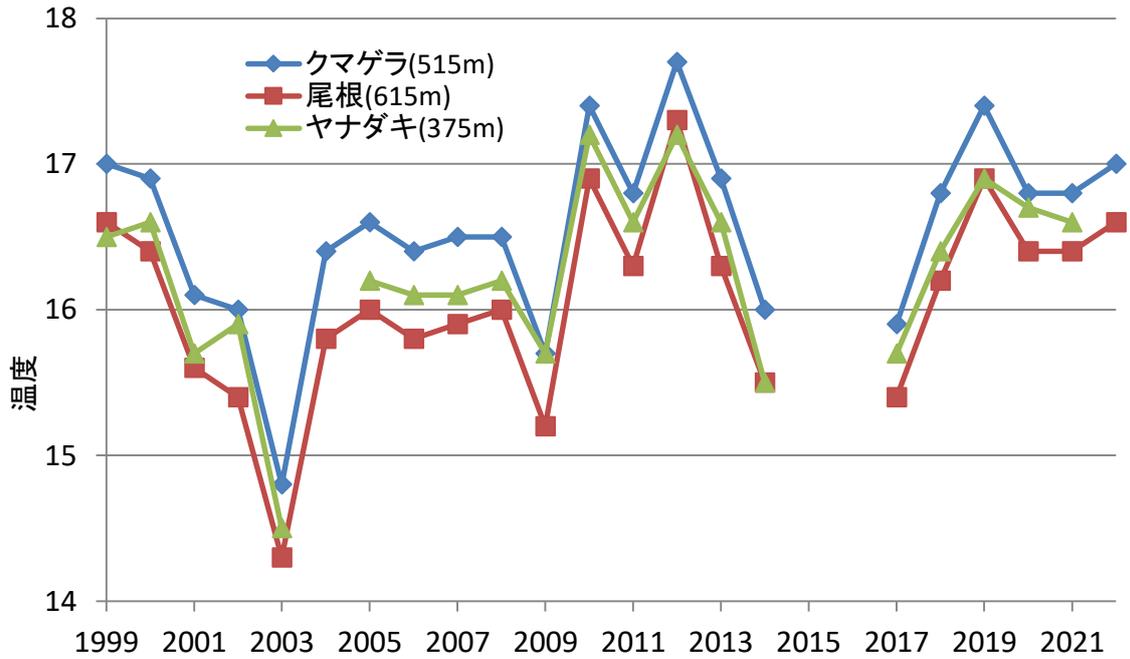
当年生実生数の推



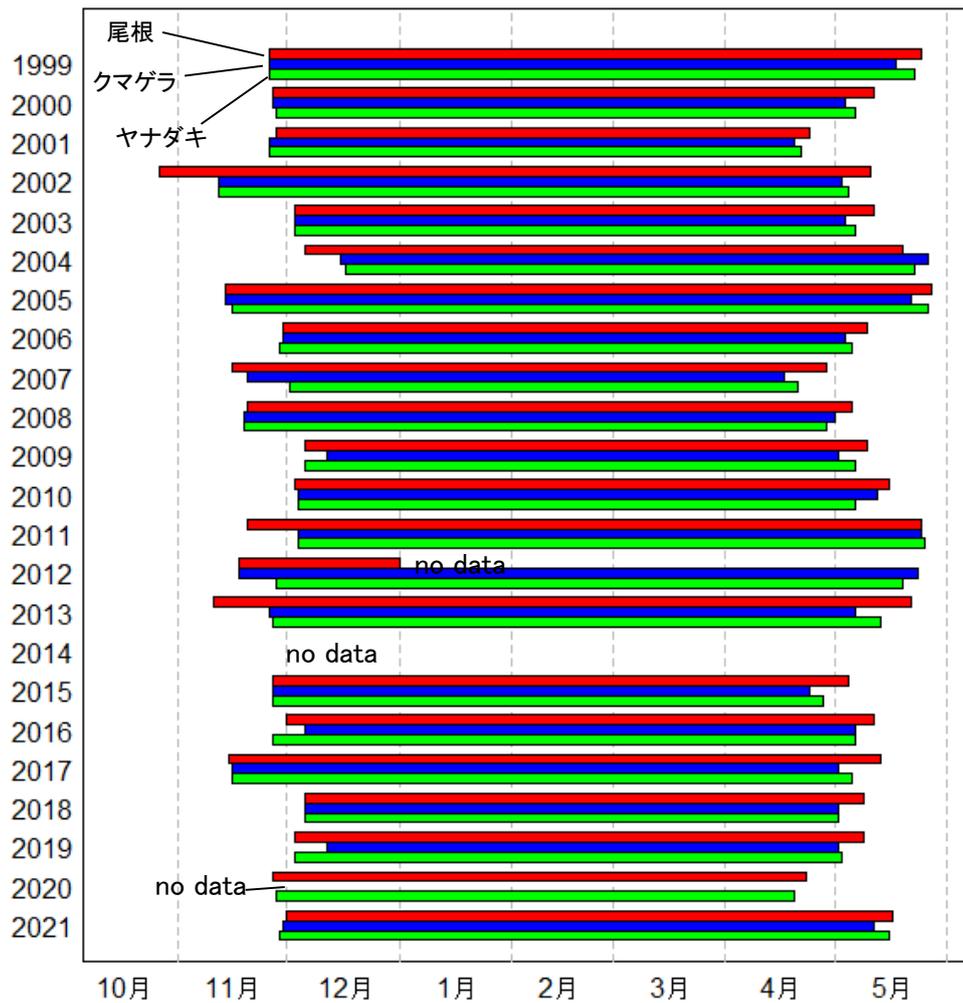
ID ^{注1)}	公開レベル ^{注1)}	C	保管形式 ^{注1)}	電子	保管場所 ^{注1)}	前回ID	181102	
報告書名称 /調査名称	世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査					発行年月/報告年月		
						2023年	10月	
						資料形式 ^{注2)}	—	
調査機関	世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会・環境省東北地方環境事務所			委託機関				
調査開始年	1999年	6月	調査期間	1999年	6月	～	2023年	11月
調査頻度 ^{注2)}	毎年	—	調査時期 ^{注2)}	通年				
モニタリング計画	2022年7月	策定	区分 ^{注2)}	I	大区分 ^{注2)}	1	小区分 ^{注2)}	(2)
調査箇所・範囲 ^{注3)}				調査手法				
<input checked="" type="checkbox"/> 核心地域 <input type="checkbox"/> 緩衝地域 <input type="checkbox"/> 周辺地域 <input checked="" type="checkbox"/> GPS等の位置データあり				<input type="checkbox"/> 調査項目 森林微気象 <input type="checkbox"/> 調査箇所数 遺産地域内3箇所（ヤナダキサイト、クマゲラサイト、尾根サイト） <input type="checkbox"/> 調査手法 各サイトの地上1.5mにおける気温と湿度および地温（リター層直下の地表面温度）を測定した。気温と湿度の観測には、支柱に取り付けたソーララジエーションシールド内に収納したデータロガー（Hobo Pro rh/temp、Onset社）、地温の観測には小型温度計測用ロガー（Tidbit、Onset社）を3サイトで2012年までそれぞれ2台ずつ、2013年からそれぞれ1台ずつ設置して測定した。気温と湿度の観測は毎年6月から11月までの間1時間毎の測定を行い、冬期間は降雪や雪崩等による破損や紛失を回避するため撤収した。地温の観測は1時間毎で通年で行った。				
 <p>※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。</p>								
結果概要（スペースに収まるように入力してください）								
<p>ヤナダキサイトの気温のデータロガーは、熊により破損、紛失したためヤナダキの2022年夏季の気温のデータは欠測した。また、全サイトの地温計のデータは例年春先に回収を行っていたが、2023年のモニタリング調査の全日程が中止となり、2023年10月現在データが入ってきていないため、2022-2023年の積雪期間のデータは来年のカルテに掲載予定である。</p> <p>7月～10月における気温の平均値（以下夏季平均気温）を遺産地域のサイト間で比較すると、24年間の平均値でクマゲラサイトが最も高く16.6度であった。ヤナダキサイトの夏季平均気温の平均地は、16.2度で、尾根サイトは、16.1度であった（欠測年除く）が、尾根サイトがヤナダキサイトを上回る年もあった。2021年と2022年の夏季平均気温は、クマゲラサイト17度、尾根サイト16.6度と平年よりやや高かった。なお、2015年と2016年は、調査地へのアクセス道路が閉鎖されていた事によりデータロガーの設置がそれぞれ、9月と7月末となったため、7月から10月の平均気温は算出しなかった。</p>								
問い合わせ	世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会 事務局長 石橋史朗 bunamoni.2002@gmail.com ※「原本（データ）」の帰属について※							

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。
 注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。
 注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

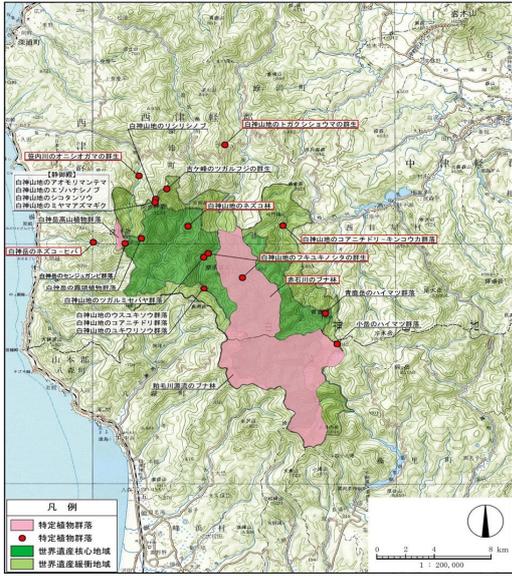
備考



各観測場所の7月から10月の平均気温



3ヶ所のサイトにおける積雪期間の年次比較

ID ^{注1)}	公開レベル ^{注1)}	A	保管形式 ^{注1)}	紙・電子	保管場所 ^{注1)}	前回ID	
報告書名称 /調査名称	令和4年度 白神山地自然環境保全地域植生調査 /自然環境保全基礎調査（特定植物群落調査）					発行年月/報告年月	
						2023年	2月
						資料形式 ^{注2)}	報告書
調査機関	環境省 東北地方環境事務所		委託機関	(一財) 自然環境研究センター			
調査開始年	1978年	調査期間	2022年	8月	～	2022年	10月
調査頻度 ^{注2)}	10年 1 回	調査時期 ^{注2)}	夏	秋	—		
モニタリング計画	2022年7月 策定	区分 ^{注2)}	IB	大区分 ^{注2)}	1	小区分 ^{注2)}	(1)
調査箇所・範囲 ^{注3)}				調査手法			
<input checked="" type="checkbox"/> 核心地域 <input checked="" type="checkbox"/> 緩衝地域 <input checked="" type="checkbox"/> 周辺地域 <input checked="" type="checkbox"/> GPS等の位置データあり				【1978年】第2回自然環境保全基礎調査（環境庁） ・特定植物群落調査を実施。 【1984～1986年】第3回自然環境保全基礎調査（環境庁） ・特定植物群落調査を実施。 【1997～1998年】第5回自然環境保全基礎調査（環境庁） ・特定植物群落調査を実施。 【2000年】「第5回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書」（環境庁）全国5,471箇所のうち、青森県182箇所、秋田県223箇所が特定植物群落に選定。 【2011年】「平成23年度白神山地自然環境保全地域植生調査業務」（環境省）において、白神山地に係る特定植物群落23箇所を抽出し、うち16箇所を追跡調査。 また、特定植物群落に指定されていない場所で、今後植生調査を継続していくべきと判断される場所を「特殊立地植物群落」と定義。4箇所（7群落）を選定。 【2022年】「令和4年度白神山地自然環境保全地域植生調査業務」（環境省）において、平成23年度（2011年）に調査した16箇所のうち、6箇所（6群落）を追跡調査。また、近年確認されるようになったニホンジカの食害に対する特定植物群落の脆弱性も調査した。 ※「白神山地のフキユキノシタの群生」は、優先度が低いことから令和4年度の調査からは除外した。			
 <p>図 1.1</p>							
結果概要（スペースに収まるように入力してください）							
<p>◎白神山地における特定植物群落では、これまで自然環境保全基礎調査の一環として「追跡調査」による現地調査が実施されてきた。今回の調査では、従来の追跡調査の実施に加え、長期的な経年変化をとらえるための定量的な調査方法を新たに実施した。</p> <p><調査手法> 【74 赤石川のブナ林】は「令和3年度白神山地ニホンジカ対策業務」で考案された「ブナ林スポットセンサス調査実施マニュアル 植生調査編」に準じた調査を行い、他の5群落では、追跡調査と定量的調査を行った。</p> <p>追跡調査・・・特定植物群落調査票（追跡調査）と植生調査票による調査。 定量的調査・・・従来の追跡調査の実施に加えて、長期的な経年変化をとらえるため調査対象群落の特性に応じた調査を実施。群落内でシカの可能性のある食痕や糞などの痕跡等も記録。</p> <p><工作物の設置> 長期間に渡る経年変化を捕捉可能とするために、群落の立地条件に応じて杭もしくは測量錐を設置した。</p> <p>【調査箇所（6群落）】 74赤石川のブナ林 76白神岳のネスコーヒバ 157笹内川のオニシオガマの群生 171白神山地のトガクシショウマの群生 177白神山地のネスコ林 178白神山地のコアニチドリキンコウカ群落</p>							
8	環境省東北地方環境事務所 西目屋自然保護官事務所 〒036-1411 青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田6-1-1 TEL:0172-85-2622 FAX:0172-85-2635 ≪原本（データ）の帰属について≫						

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。

注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。

注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

備考

◎調査結果のとりまとめ方法について

- ・過去の調査結果との比較を行い、変化状況について考察を行った。
- ・前回の追跡調査（2011（平成23）年度）で実施された箇所との比較を行った（一部の群落を除く）。ただし、2011（平成23）年度の調査は秋期の実施であり、被度等の計測に不適であることから植生調査が実施されていない。そのため、更に過去の追跡調査まで遡り、植生調査の結果を掲載した。

◎8月の大雨と調査日程の延期等について

- ・2022（令和4）年8月3日の大雨の発生に伴い、白神山地の各地において河川の氾濫、車道の通行止めや登山道の崩壊等が発生した。更に、8月3日以降も断続的に雨天が続いたため、調査に支障が発生した。

表1 特定植物群落の現地調査の概要

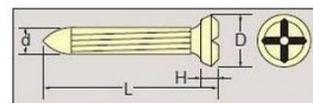
対象番号	名称	調査日程	調査概要
74	赤石川のブナ林	2022年10月6-8日 ※6日は移動のみ	・ブナ林スポットセンサス調査実施マニュアルに基づく調査を実施。 ・群落内で3地点を選定して調査を実施し、方形区固定のために杭を設置。 ⇒草本層の植被率は70-85%、低木層の植被率は20-65%であり、痕跡もなく、シカの被害は生じていないものと考えられた。
76	白神岳のネズコ-ヒバ	2022年8月7日	・植生調査を実施。方形区固定のために杭を設置。 ・方形区内で毎木調査を実施。 ⇒群落構成に著しい変化なし。 ⇒ヒバの更新状況は良好。ネズコは岩場などの陰しい環境に生育し、詳細な生育状況の把握が困難。
157	笹内川のオニシオガマの群生	2022年10月14日	・個体数と個体サイズ計測、個体位置の記録等を実施。 ・6箇所の方形区を設定して植生調査を実施。 ⇒斜面崩壊により群落が縮小。 ⇒シカの可能性がある食痕を確認したが、個体数は減少せず。 ⇒林道整備に伴い一部の個体が土砂によって埋没。
171	白神山地のトガクシショウマの群生	2022年10月9日	・個体数計測を実施。 ・5箇所の方形区を設定して植生調査を実施し、固定のための金属ベグを設置。 ・ウババミソウで食痕サンプルを採取。 ⇒群落構成に著しい変化なし。個体数も減少していない。 ⇒食痕分析の結果、シカ・カモシカの識別はできなかった。
177	白神山地のネズコ林	2022年10月12-13日 ※12日は移動のみ	・過去の調査と異なる場所（標高が30-50m程度低い地点）で調査を実施。 ・植生調査と稚樹数の調査を実施。 ⇒植生調査の結果、過去の調査と場所が異なるものの、群落構成にある程度の共通点がみられた。 ⇒稚樹数は多く、更新状況は良好と思われる。
178	白神山地のコアニチドリ-キンコウカ群落	2022年8月6日	・植生調査を実施。方形区固定のために測量鉾を設置。 ・個体数の計測と個体位置の記録を実施。 ⇒面積、群落構成とも著しい変化なし。水害による影響は軽微。

【使用した工作物】



杭 タイプ1

(6.8cm × 6.8cm × 62cm)



$$D \times d \times L \times H(\text{mm}) \\ = 9 \times 5 \times 43 \times 3$$

測量鉾



杭 タイプ2

(4.5cm × 4.5cm × 45cm)

備考

◎調査のまとめと今後の対策について

6箇所の特定植物群落での調査の結果、「157笹内川のオニシオガマの群生」において面積の縮小が確認された。その要因は斜面の崩壊であり、2022（令和4）年8月3日以降の大雨が原因であると考えられる。今年度の調査では食痕の確認に加えて、林道整備に伴い土砂が堆積し、一部の個体の埋没が確認された。現時点では斜面崩壊以外の要因により個体数が大きく減少する状況は確認されていないが、今後の群落の衰退が懸念される状況である。それ以外の群落の状況は概ね良好であり、現時点ではシカによる影響が懸念される状況にはないと考えられる。

追跡調査は概ね10年間隔の実施となっているが、上記のような食痕の確認状況や、シカの分布域の拡大に合わせて、モニタリングの頻度を再検討することが望ましい。特定植物群落の存続を脅かす要因はシカだけではなく、林道の整備、水害や斜面崩壊、植生遷移といった要因も考えられる。群落の状況に合わせて、必要な調査と対策を行うことが望ましい。

表2 特定植物群落の調査結果と脆弱性の評価

対照番号	名称	脆弱性	モニタリング頻度	調査・対策項目				
				生育状況調査	痕跡調査	シカ生息確認調査	シカ確認後の対策	
青森県	74	赤石川のブナ林	2	やや低	○		○	
	75	白神岳高山植物群落	4	やや高	○		○	
	76	白神岳のネズコヒバ	2	やや低	○	○		
	108	白神岳の露頭植物群落	2	やや低	○	現存確認の上で検討		
	183	白神岳のセンジュガンビ群落	4	やや高	○		○	
	110	青鹿岳のハイマツ群落	3	中	○		○	
	157	笹内川のオニシオガマの群生	5	高	○		○	○
	158	吉ヶ峰のツガルフジの群生	4	やや高	○	○		
	159	白神山地のフキユキノシタの群生	2	やや低	○	滝川流域：痕跡の確認 赤石川流域：現存確認の上で検討		
	171	白神山地のトガクシショウマの群生	2	やや低	○	○		
	172	白神山地のリシリシノブ	4	高	○		○ ※静御殿 周辺につき まとめて 実施	○ ※静御殿 周辺につき まとめて 実施
	173	白神山地のアオモリマンテマ	4		○			
	174	白神山地のエゾハナシノブ	4		○			
	175	白神山地のシコタンソウ	4		○			
	176	白神山地のミヤマアズマギク	5		○			
	177	白神山地のネズコ林	2	やや低	○	○		
	178	白神山地のコアニチドリキンコウカ群落	1	低	○			
	179	白神山地のツガルミセバヤ群落	2	やや低	○	○		
	180	白神山地のウスユキソウ群落	1	低	○			
181	白神山地のコアニチドリ群落	2	やや低	○	○			
182	白神山地のユキワリソウ群落	1	低	○				
秋田県	51	小岳のハイマツ群落	3	中	○	現存確認の上で検討		
	52	粕毛川源流のブナ林	2	やや低	○		○	

表3 特定植物群落の選定基準

特定植物群落選定基準	
A	原生林もしくはそれに近い自然林(特に照葉樹林についてはもれのないように注意すること)
B	国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群
C	比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群
D	砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの(特に湿原についてはもれのないように注意すること。)
E	郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの(武蔵野の雑木林、阿蘇の山地草原、各地の社寺林。特に郷土景観を代表する二次林や二次草原についてはもれの無いよう注意すること)
F	過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの
G	乱獲その他の人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群
H	その他、学術上重要な植物群落または個体群(種の多様性の高い群落、貴重種の生息地となっている群落等)

ID ^{注1)}	公開レベル ^{注1)}	C	保管形式 ^{注1)}	—	保管場所 ^{注1)}	前回ID	221105	
報告書名称 /調査名称	令和4年度 白神山地における中・大型哺乳類調査等業務 報告書					発行年月/報告年月		
						2023年	1月	
調査機関	環境省 東北地方環境事務所			委託機関		株式会社 地域環境計画		
調査開始年	2013年	9月	調査期間	2022年	4月	～	2022年	11月
調査頻度 ^{注2)}	毎年		調査時期 ^{注2)}	春 夏 秋				
モニタリング計画	2022年7月 策定		区分 ^{注2)}	II B	大区分 ^{注2)}	2	小区分 ^{注2)}	(1) (3)
調査箇所・範囲 ^{注3)}				調査手法				
<input checked="" type="checkbox"/> 核心地域 <input checked="" type="checkbox"/> 緩衝地域 <input checked="" type="checkbox"/> 周辺地域 <input checked="" type="checkbox"/> GPS等の位置データあり				◆目的 本業務では、遺産地域及びその周辺地域における中・大型哺乳類種のモニタリング調査を実施することを目的としている。また、近年生息域が拡大し、森林生態系への影響が懸念されるニホンジカやイノシシ、及び外来種（アライグマ等）の侵入状況把握にも努めた。 ◆センサーカメラ設置箇所 ・核心地域内：9箇所、緩衝地域内：2箇所、周辺地域：7箇所 合計18台（小岳は粕毛林道の閉鎖により、今年度は設置していない。） ◆調査期間 ・令和4年4月19日～令和4年11月25日 （※調査地点によってカメラ設置期間は異なる） ◆使用機器 ・TREL10J-D（株GI Supply） ・TREL18J-D（株GI Supply） ◆集計方法 撮影された全ての画像について、写真解析（動物種名の同定及び撮影頭数）を行った。 また、設置日数と撮影回数や撮影頭数から一定日数あたりの撮影個体数を算出して比較を行った。設置期間100日（CN：カメラナイト：カメラ1台を1晩かけた場合を1CNと定義したもの）あたりの延べ撮影個体数を主な哺乳類種を対象に算出した。核心地域内の9台と緩衝地域・周辺地域の9台の計18台のカメラを各1地点とし、撮影回数と撮影個体数のそれぞれについて計算した。				
結果概要（スペースに収まるように入力してください）								
<p>核心地域内では、哺乳類（ヤマネ以外のネズミ類を除く）が276枚、ネズミ類が87枚、鳥類が33枚撮影された。これら動物の合計は396枚で、全撮影枚数のうち20.3%を占めた。また、哺乳類の撮影割合は14.2%であった。緩衝地域・周辺地域では、哺乳類（ヤマネ以外のネズミ類を除く）が777枚、ネズミ類が177枚、鳥類が132枚撮影された。これら動物種の合計は1,086枚で、全撮影枚数のうち20.9%を占めた。また、哺乳類の撮影割合は14.9%であった。ネズミ類を除き、判別ができた種は13種であった。ニホンジカ及びイノシシの撮影、痕跡等の確認はなかった。外来種では、ハクビシンが核心地域及び緩衝地域・周辺地域において確認された。キツネ、ニホンリス、ホンドモンガ、ヤマネは緩衝・周辺地域でのみ確認された。月別及び地点別撮影個体数を表1及び表2に示す。</p> <p>核心地域及び緩衝地域・周辺地域それぞれについて、撮影個体数の月別比較を図1に示す。ニホンザルは緩衝地域・周辺地域での撮影がほとんどを占め、4月に最も多く、次いで9月と11月に多かった。タヌキは、核心地域において11月で多くなったが、11月のCNは1日であることから、値が極端に増大した結果である。キツネは、緩衝地域・周辺地域のみで6月～11月に少数が断続的に確認された。テンは、緩衝地域・周辺地域で5月～6月に他の月より多かった。ツキノワグマは緩衝地域・周辺地域では6月の最も多かったのに対し、核心地域では10月が最も多かった。ニホンリスは核心地域のみで8月～11月に確認された。ネズミ類は緩衝地域・周辺地域において6月に多かった。ノウサギは緩衝地域・周辺地域において4月に最も多かった。</p> <p>地点別の100CNあたり延べ撮影個体数を図2に示す。ニホンザルは緩衝地域・周辺地域で主に撮影され、特に大川と崩山での撮影が多かった。タヌキは核心地域、緩衝地域・周辺地域ともに撮影されているが、クマグラ2や大川、高倉森入口、津軽峠、岳岱などに偏りが見られた。キツネ、ニホンリス、ホンドモンガ、ヤマネは緩衝地域・周辺地域のみで撮影され、ホンドモンガはニッ森登山道、ヤマネは岳岱のみでの確認であった。イタチは、核心地域のクマグラサイト1と3のみでの確認であった。テン、アナグマ、ツキノワグマ、ニホンカモシカ、ネズミ類は広域的に確認されたが、地点による偏りも見られた。ツキノワグマは一ッ森、ニホンカモシカは白神岳、ネズミ類は奥赤石川林道で特に多く撮影された。ハクビシンは核心地域内ではヤナダキサイト3でのみ撮影された。</p>								
問い合わせ	環境省東北地方環境事務所 西目屋自然保護官事務所 〒036-1411 青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田6-1-1 TEL:0172-85-2622 FAX:0172-85-2635 ※「原本（データ）の帰属について」							

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。

注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。

注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

備考

表1 月別延べ撮影個体数（哺乳類）

種名	核心地域					小計	緩衝・周辺地域					小計	合計			
	7月	8月	9月	10月	11月		4月	5月	6月	7月	8月			9月	10月	11月
ニホンザル		1		2		3	7	8	3	1	5	35	13	16	88	91
タヌキ	2		1	1	1	5	1	4	5	3	5	8	6	2	34	39
キツネ						0			1		1		1	1	4	4
テン	1	3	3	5		12		6	7	2	2	2	2	3	24	36
イタチ				2		2			1				1	1	3	5
アナグマ	1	7	1	4		13		4	1	6	2	7	4	1	25	38
ツキノワグマ	3	3	10	22		38		1	18	5	5	2	2	1	34	72
ハクビシン				1		1			2	2	5	1		1	11	12
ニホンカモシカ	3	4	3	2		12		4	4	7	10	9	3	4	41	53
ニホンリス						0					1	1	1	1	4	4
ホンドモンガ						0			4						4	4
ネズミ類		11	10	9		30		8	41	6		1	2	1	59	89
ヤマネ						0							3	1	4	4
ノウサギ			1			1	1	1	2					1	5	6
哺乳類 計	10	29	29	48	1	117	9	36	89	32	36	66	38	34	340	457
オオルリ		1				1									0	1
キビタキ		1	1			2									0	2
ヤマドリ						0		1	1	9	1	1	2		15	15
キジバト						0		3	3	4					10	10
カケス						0			8	3					11	11
鳥類 計	0	2	1	0	0	3	0	4	12	16	1	1	2	0	36	39
合計	10	31	30	48	1	120	9	40	101	48	37	67	40	34	376	496

表2 地点別延べ撮影個体数（哺乳類）

種名	核心地域									緩衝地域・周辺地域										小計	合計			
	尾根サイト			クマガラサイト			ヤナダキサイト			小計	大川	入口	高倉森	津軽峠	一ツ森	崩山	白神岳	岳岱	ニツ森			川林道	奥赤石	小計
	①	②	③	①	②	③	①	②	③															
ニホンザル		1						2		3	24	3	3		36	15	6	1				88	91	
タヌキ		1			3		1			5	8	7	9		2	1	6	1				34	39	
キツネ											1	1				1				1		4	4	
テン		1	2	3	3	2		1		12	3	3	9		5	1	3					24	36	
イタチ				1	1					2					3							3	5	
アナグマ	1	2		1	3	6				13	7	14	3	1								25	38	
ツキノワグマ	7	6	4	1	5	3	2	7	3	38	7		8	11	1	1	2	2	2	2		34	72	
ハクビシン									1	1	3	3			2	1	2					11	12	
ニホンカモシカ	4	1	1	1	2	2			1	12	2		2		8	26		1	2			41	53	
ニホンリス											2				1	1						4	4	
ホンドモンガ																			4			4	4	
ネズミ類	6	2	3	3	2	2	10	2		30		6	2		1		4			46		59	89	
ヤマネ																	4					4	4	
ノウサギ		1								1				1	1	2	1					5	6	
合計	18	15	10	10	18	16	13	12	5	117	57	37	36	13	60	49	28	9	51		340	457		

備考



図1 主な哺乳類の月別延べ撮影個体数(100CN)

備考

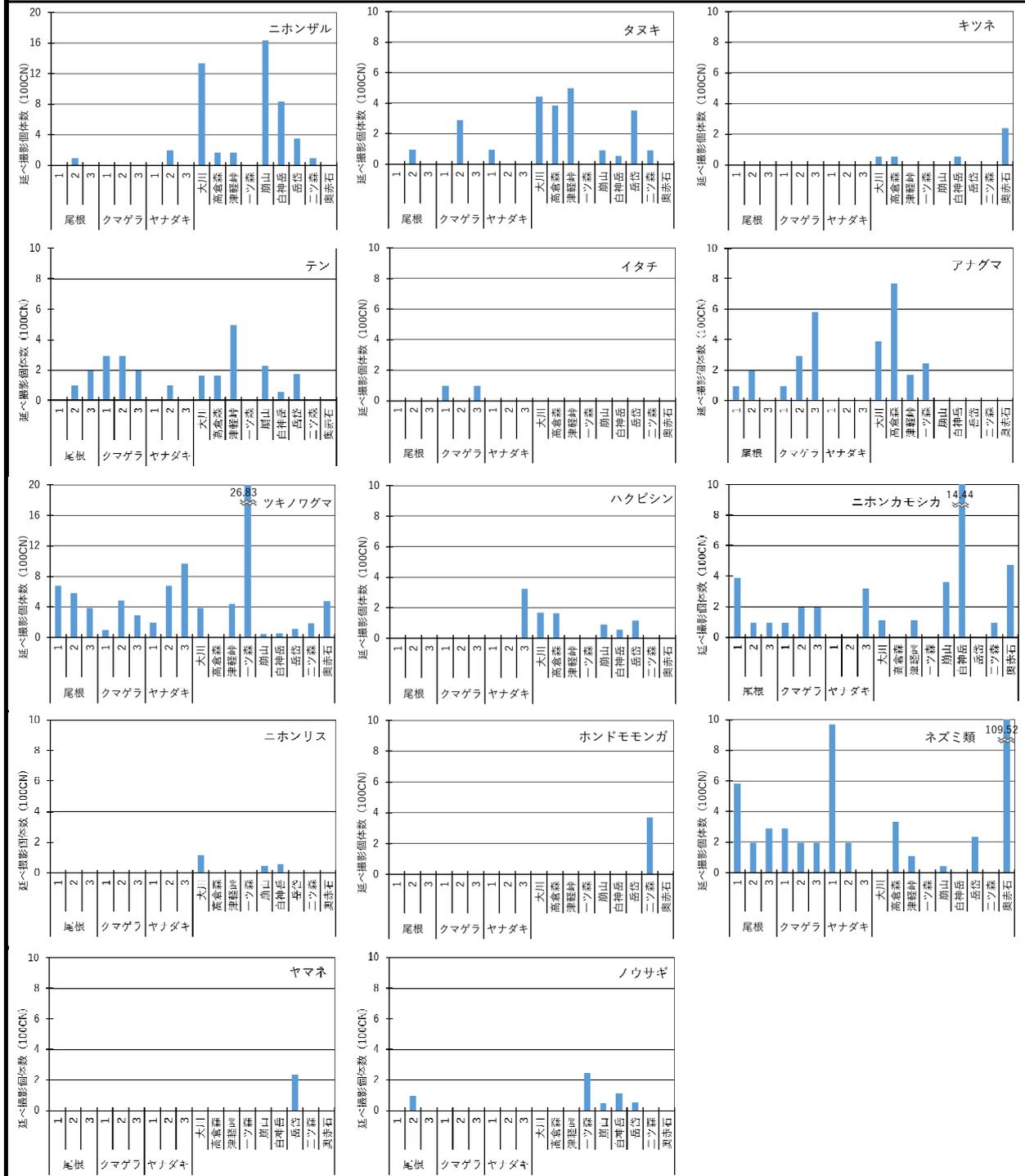
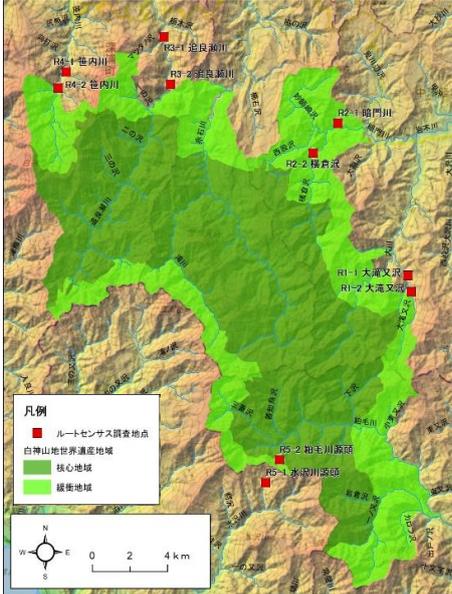


図2 主な哺乳類の地点別延べ撮影個体数 (100CN)

ID ^{注1)}	公開レベル ^{注1)}	C	保管形式 ^{注1)}	電子	保管場所 ^{注1)}	前回ID	221107	
報告書名称 / 調査名称	令和4年度 白神山地ニホンジカ対策 植生ルートセンサ調査					発行年月/報告年月		
						2023年	3月	
						資料形式 ^{注2)}	その他	
調査機関	東北地方環境事務所		委託機関					
調査開始年	2015年	4月	調査期間	2022年	9月	~	2022年	10月
調査頻度 ^{注2)}	毎年	—	調査時期 ^{注2)}	通年	—	—		
ヒアリング計画	2022年7月	改訂	区分 ^{注2)}	IB	大区 ^{注2)}	2	小区 ^{注2)}	(3)
調査箇所・範囲 ^{注3)}				調査手法				
<input checked="" type="checkbox"/> 核心地域 <input checked="" type="checkbox"/> 緩衝地域 <input checked="" type="checkbox"/> 周辺地域 <input type="checkbox"/> GPS等の位置データあり				<これまでに実施した調査項目及び調査方法> ・ライトセンサ (2016~2018年) ・ポイストラップ調査 (2018~2022年) ・越冬適地解析 (2019年) ・ルートセンサ調査 (2020~2022年) ・スポットセンサ調査 (2020~2021年) ・広域食痕調査 (2022年) <2022年の実施内容> 【ルートセンサ調査】 ●令和3年度実施区間のうち、食痕がほとんど見られなかった尾根部の区間及び林道閉鎖によりアプローチできなくなった区間を除外した10区間について、ルートセンサを実施した。 ●各地の林道閉鎖の影響で調査時期は9月~10月と例年より遅い時期の実施となった。 ※この他にニホンジカ対策として以下の調査を実施した。 【ポイストラップ調査】(業務委託) ※メンテナンスは環境省職員実行 【広域食痕調査】(業務委託)				
 <p>※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。</p>								
結果概要 (スペースに収まるように入力してください)								
【食害の程度】 多くの区間では食害頻度が1%未満で食害強度も1であったが、一部区間では食害頻度が1~10%、食害強度が2となっていた(図1)。		【食害頻度】 ・1%未満 ・1~10% ・10~25% ・25~50% ・50%以上		【食害強度】 1: ごく僅かな食害 2: 大半の株は、成長や繁殖に支障をきたさない程度の軽度の食害 3: 一部の株に強度の食害や矮性化がみられるが、群落レベルの衰退はない。 4: 一部では群落レベルで、強度の食害や矮性化が生じている。 5: 多くの群落が強度の食害を受けており、群落の消失が危惧される。				
 <p>シカ類の食痕 (ムカゴイラクサ)</p>		 <p>シカ類の食痕 (ウワバミソウ)</p>		 <p>シカ類の食痕 (キツリフネ)</p>				
東北地方環境事務所 西目屋自然保護官事務所 〒036-1411 青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田61-1 TEL:0172-85-2622 FAX:0172-85-2635 <-----> <原本(データ)の帰属について>								

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。

注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。

注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

【食害程度の経年比較】

食害株数、頻度及び強度について、今年度実施した10区間を対象に令和2年度及び令和3年度の調査結果との比較を行った(表1,図1)。

《食害株数》

区間全体では、令和2年度から令和3年度で大きく増加したものの、令和4年度に減少した(図2)。なお、令和4年度の株数減少については、豪雨被害による記録の減少も考えられるため、シカ等の利用が減少したとは断定できない。

《食害頻度》

いずれの年も10%未満と評価されており、現状ではシカ等による利用の程度は低いといえる。なお、令和4年度の河川区間については、豪雨影響により植生が著しく少なくなっている箇所があり、【R3-2追良瀬川】のように頻度の評価に影響した可能性があることに留意する必要がある。【R4-2笹内川】では3年とも食害頻度が1~10%となっており、調査区間の中では比較的使用頻度が高い地域である。

《食害強度》

いずれの年も食害強度「3」以下となっており、群落レベルでの衰退は観察されていない。令和4年度は株元まで食害されるような事例は確認されなかったものの、過年度に高い食害強度が記録されている地点については、今後も注意する。

表1 食痕株数・頻度・強度の経年比較

河川・登山道名	青森県側						秋田県側			
	大滝股沢	暗門川	横倉沢	追良瀬川	笹内川	水沢川源頭	粕毛川源頭			
区間No	R1-1	R1-2	R2-1	R2-2	R3-1	R3-2	R4-1	R4-2	R5-1	R5-2
食害株数(株)	R2: 2	40	—	15	12	8	1	55	—	29
	R3: 478	656	8	0	27	55	39	711	99	5
	R4: 27	27	15	58	7	32	87	116	43	1
食害頻度(%)	R2: ~1	1~10	—	~1	~1	~1	~1	1~10	—	1~10
	R3: 1~10	1~10	~1	~1	~1	~1	1~10	1~10	1~10	~1
	R4: ~1	~1	~1	~1	~1	1~10	~1	1~10	~1	~1
食害強度	R2: 1	3	—	1	1	1	1	3	—	2
	R3: 2	2	1	1	1	1	1	3	2	1
	R4: 1	1	1	1	2	1	1	1	2	1

着色部は、食痕株数が多かった区間、食害頻度が1%以上の区間、食害強度が2以上の区間をそれぞれ示す。
令和2年度は【R2-1暗門川】及び【R5-1水沢川源頭】にて調査が行われていない。

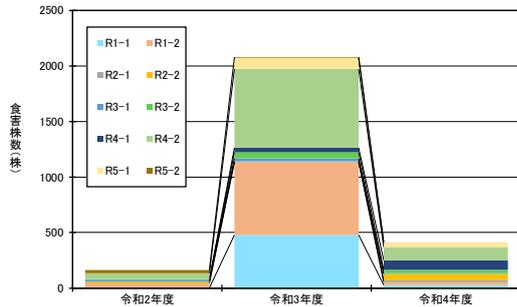


図2 食害株数の経年変化

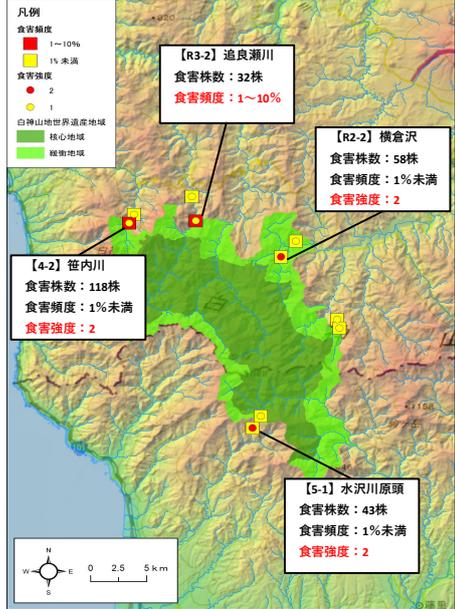


図1 ルートセンサスの位置及び食害の程度

【嗜好性指標種について】

令和3年度報告書にて白神山地指標植物が選定されたが、調査データが十分でないことから、調査データを蓄積し、より妥当な指標種を選定することが望まれている。今年度の調査結果を踏まえて指標植物について再検討したが、令和3年度と比べて食害株数の記録が大きく下回ったことから、指標種は令和3年度に選定したのから変更しないこととした(図2)。

【不嗜好性指標種について】

令和3年度報告書では、白神岳山頂でのスポットセンサス結果及び文献情報から不嗜好性指標種を選定している。これら指標種はその後の調査の中で生育状況の変化を継続観察し、実際の不嗜好性の正否を確認するとされている。

今年度のルートセンサスでは、シラネワラビ、ジュウモンジシダ、ススキ、コチヂミザサの4種を確認した(表2)。これらのうち、食害が確認されたものはジュウモンジシダのみであり、確認株数に対してごく少数であったことから、今年度の結果からも嗜好性が低いことが示された。

今後シカによる食害が拡大した場合に他の植物種に比べて減少しづらい、または、増加するといった異なる動態を示す可能性がある。指標種としての妥当性の検討も含めて、今後も記録を続けていく。

No.	科名	種名	不嗜好性指標種		R4ルートセンサス結果	
			白神岳山頂草地	区分なし(文献情報)	確認株数	食害株数
1	コバノイシカゲマ	ワラビ	○	○		
2	ヒメシダ	シシダ	○	○		
3	オンダ	シラネワラビ	○	○	3000	
4	オンダ	ジュウモンジシダ	○	○	617	7
5	センリョウ	ヒトリシズカ	○	○		
6	センリョウ	フタリシズカ	○	○		
7	シュロソウ	コバイケイソウ	○	○		
8	ユリ	カタクリ	○	○		
9	イネ	ススキ	○	○	51	
10	イネ	コチヂミザサ	○	○	8※	
11	キンボウゲ	ニリンソウ	○	○		
12	ユズリハ	エゾユズリハ	○	○		
13	ミカン	ツルシキミ	○	○		
14	ミカン	サンショウ	○	○		
15	キョウチクトウ	イケマ	○	○		
16	シソ	クサギ	○	○		
17	シソ	ナギナタクウジュ	○	○		
18	キク	トウゲブキ	○	○		
19	ガマズミ	ニトコ	○	○		
計		14科19種	2種	17種	4種	1種

※:ケチヂミザサを確認。

着色部は、令和4年度ルートセンサスでの確認種を示す。

表2 白神山地不嗜好性指標種及び令和4年度ルートセンサスでの確認状況

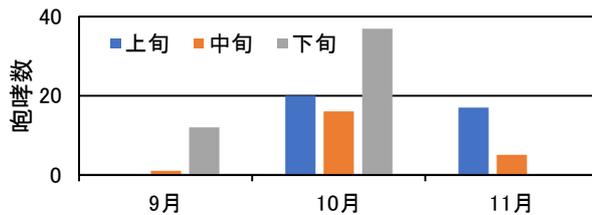
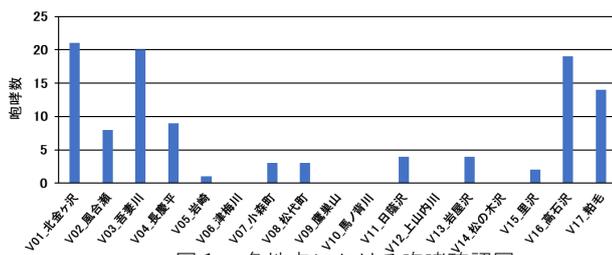
ID ^{注1)}	公開レベル ^{注1)}	保管形式 ^{注1)}	保管場所 ^{注1)}	前回ID	221108
-------------------	----------------------	---------------------	---------------------	------	--------

報告書名称 / 調査名称	令和4年度 白神山地ニホンジカ対策 ボイストラップ調査				発行年月/報告年月	
					2023年	3月
					資料形式 ^{注2)}	その他
調査機関	東北地方環境事務所		委託機関	株式会社 グリーンシグマ		
調査開始年	2015年	4月	調査期間	2022年	8月	～ 2023年 3月
調査頻度 ^{注2)}	毎年	—	調査時期 ^{注2)}	通年	—	—
モニタリング計画	2022年7月	改訂	区分 ^{注2)}	IB	大区分 ^{注2)}	2 小区分 ^{注2)} (3)

調査箇所・範囲 ^{注3)}			調査手法			
<input checked="" type="checkbox"/> 核心地域 <input checked="" type="checkbox"/> 緩衝地域 <input checked="" type="checkbox"/> 周辺地域 <input type="checkbox"/> GPS等の位置データあり			<<これまで実施した調査項目及び調査方法>> ・ライトセンサス (2016～2018年) ・ボイストラップ調査 (2018～2022年) ・越冬適地解析 (2019年) ・ルートセンサス調査 (2020～2022年) ・スポットセンサス調査 (2020～2021年) ・広域食痕調査 (2022年) <<2022年の実施内容>> 【ボイストラップ調査】(業務委託) ※メンテナンスは環境省職員実行 ※解析は業者実行 ●世界遺産地域周辺の17地点に録音機を設置し、音声データを取得し、ニホンジカの咆哮について解析を行った。 ●録音機設置地点周辺にセンサーカメラが設置されていない箇所(7地点)についてはセンサーカメラを併設した。 ●令和4年度は各地で林道が閉鎖されたため、世界遺産地域近隣では録音機を設置できなかった。令和3年度に咆哮の記録がある地点については可能な限り同じ地点に録音機を設置することとした。それ以外の地点についてはセンサーカメラの撮影状況などを考慮し、再検討の上設置位置を決定した。 ■使用機器 SongMeter SM4(Wildlife Acoustic社) ■設置期間 設置：9月中旬、回収：11月中旬 ■録音時間 15:00～7:00 ※この他にニホンジカ対策として以下の調査を実施した。 【ルートセンサス調査】(業務委託) 【広域食痕調査】(業務委託)			

結果概要 (スペースに収まるように入力してください)

- 録音機を設置した17地点のうち、12地点において合計108回のシカの咆哮が確認された(図1)。
- 確認された鳴声はすべてhowl(優位オス同士が互いの位置を主張するための咆哮・侵入初期段階にみとめられる)であった。なお、縄張りを形成する優位オスが発する咆哮(moan)は記録されなかった。
- 咆哮確認月を上旬(1-10日)、中旬(11-20日)、下旬(21-31日)に分けて集計すると、調査期間中で10月下旬が最も咆哮数が多かった(図2)。



東北地方環境事務所 西目屋自然保護官事務所
 〒036-1411 青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田61-1
 TEL:0172-85-2622 FAX:0172-85-2635

<<原本(データ)の帰属について>>

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。
 注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。
 注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

【ボイストラップ結果】

本調査の結果から、白神山地世界遺産に隣接する6市町村のうち、西目屋村を除く5市町にニホンジカが分布している現状が明らかになった。咆哮回数については、令和3年度は47回確認されていたが、本年度は約2.3倍の108回に増加した（表1）。また、咆哮確認地点数も令和3年度の4地点から、12地点に増加した（図3）。

表1 音声データ数及び咆哮回数の経年比較

年度	音声データ数の合計						分析された咆哮回数の合計
	総数	分類器による自動分類			分析者による再分類		
		howl	howl_w	moan	howl	moan	
令和3年度	7,571,681	5,573	857	86,935	164	0	47
令和4年度	7,666,433	6,293	860	91,536	294	0	108

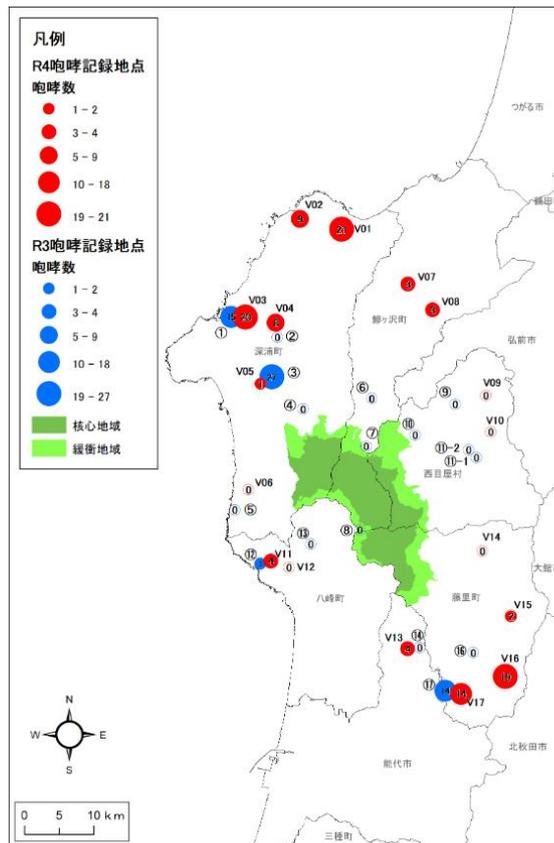


図3 録音機の設置位置とニホンジカの咆哮回数

【センサーカメラ結果】

併設した7地点のセンサーカメラのうち、4地点（⑦小森町、⑮里沢、⑯高石沢、⑰粕毛）においてニホンジカ（オス）が計13回撮影された（図4）。



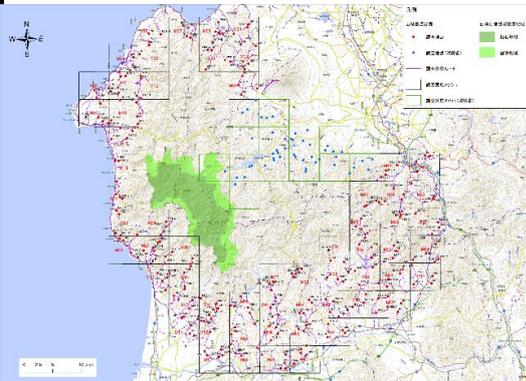
22/9/30 No15 里沢



22/9/28 No16 高石沢



図4 令和4年度 録音機及びセンサーカメラの設置位置

ID ^{注1)}	公開レベル ^{注1)}	保管形式 ^{注1)}	保管場所 ^{注1)}	前回ID																																																																				
報告書名称 /調査名称	令和4年度 白神山地二ホンジカ対策広域食痕調査業務			発行年月/報告年月																																																																				
				2023年	3月																																																																			
				資料形式 ^{注2)}	その他																																																																			
調査機関	東北地方環境事務所	委託機関	株式会社 グリーンシグマ																																																																					
調査開始年	2022年	7月	調査期間	2022年	7月	～	2023年	2月																																																																
調査頻度 ^{注2)}			調査時期 ^{注2)}																																																																					
モニタリング計画	2022年7月	策定	区分 ^{注2)}	大区分 ^{注2)}		小区分 ^{注2)}																																																																		
調査箇所・範囲 ^{注3)}				調査手法																																																																				
<input type="checkbox"/> 核心地域 <input type="checkbox"/> 緩衝地域 <input checked="" type="checkbox"/> 周辺地域 <input checked="" type="checkbox"/> GPS等の位置データあり				《これまで実施した調査項目及び調査方法》 ・ライトセンサス (2016～2018年) ・ボイストラップ調査 (2018～2022年) ・越冬適地解析 (2019年) ・ルートセンサス調査 (2020～2022年) ・スポットセンサス調査 (2020～2021年) ・広域食痕調査 (2022年)																																																																				
				『業務の目的』 本業務では、白神山地周辺樹林地における二ホンジカの食痕の分布状況を把握することにより、高所個体群の分布域を推定し、捕獲対策の検討材料としたことを目的とした。 《2022年の業務内容》 ◇調査対象種の選定◇ 広域食痕調査の調査対象となる二ホンジカの高嗜好性の植物を選定するため、現地に嗜好性種調査を実施し、調査対象種を決定した。 ◇広域食痕調査◇ 遺産地域周辺に設定した60メッシュにおいて、1メッシュあたり4地点を目安に計240地点で広域食痕調査を実施した。また嗜好性種調査の結果から調査種の選定を行った(表1)。調査対象種を発見した場合は種ごとに二ホンジカの食痕の有無と食害レベルを記録した(表2)。 ◇空間推定分析◇ 食痕調査で得られた結果を用いて、食害レベルの空間推定分析を実施した。分析手法はIDW法(Inverse distance weighting)による空間補間処理を行った。補間に当たっては各調査地における調査対象種の食害レベルを0～5の整数値を割り当てたうえで、解析を行った。																																																																				
				※この他に二ホンジカ対策として以下の調査を実施した。 【ルートセンサス調査】(業務委託) 【ボイストラップ調査】(業務委託)※メンテナンスは環境省職員実行																																																																				
結果概要(スペースに収まるように入力してください)																																																																								
●本調査のほか、東北地方環境事務所から13メッシュ、49地点分の調査データの提供を受けた(調査期間:9月22日～10月7日実施)。																																																																								
【各調査地点における食害レベル】 本調査では253地点のうち、食害による葉群の消失割合が10%未満(以下d0)は158地点、次いで被害なし(以下nd)は67地点となり、この2区分で全体の約9割を占めた(表3)。環境省で行った調査においても49地点のうち、d0が26地点(53.1%)と最も多かった(表3)。				表1 選定された調査対象種と選定理由																																																																				
表2 食害レベル評価基準				<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>嗜好性ランク</th> <th>種名</th> <th>選定理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>AAA</td><td>キツツリネ</td><td>白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が特に高いと考えられる</td></tr> <tr><td>2</td><td>AAA</td><td>ツリフネソウ</td><td>白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が特に高いと考えられる</td></tr> <tr><td>3</td><td>AAA</td><td>ノブキ</td><td>奥入瀬渓流周辺で食痕が顕著にみられ、シカによる食害の可能性が高い</td></tr> <tr><td>4</td><td>AA</td><td>ヤマグワ</td><td>白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が高いと考えられる</td></tr> <tr><td>5</td><td>AA</td><td>アカツ</td><td>白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が高いと考えられる</td></tr> <tr><td>6</td><td>AA</td><td>ウワハミソウ</td><td>白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が高いと考えられる</td></tr> <tr><td>7</td><td>AA</td><td>オニシモツ</td><td>白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が高いと考えられる</td></tr> <tr><td>8</td><td>AA</td><td>ホウチャクソウ</td><td>白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が高いと考えられる</td></tr> <tr><td>9</td><td>AA</td><td>エゾアジサイ</td><td>白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が高いと考えられる</td></tr> <tr><td>10</td><td>A</td><td>オオカメノキ</td><td>白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が比較的高いと考えられる</td></tr> <tr><td>11</td><td>A</td><td>ジュウモンジ</td><td>白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が比較的高いと考えられる</td></tr> <tr><td>12</td><td>A</td><td>ヒメアオキ</td><td>冬季の食痕を確認でき、越冬地の特定にも有用である</td></tr> <tr><td>13</td><td>A</td><td>ヤグルマソウ</td><td>白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が比較的高いと考えられる</td></tr> <tr><td>14</td><td>A</td><td>ミヤマイラク</td><td>白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が比較的高いと考えられる</td></tr> <tr><td>15</td><td>A</td><td>ヤマブキソウ</td><td>白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が比較的高いと考えられる</td></tr> </tbody> </table>					No	嗜好性ランク	種名	選定理由	1	AAA	キツツリネ	白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が特に高いと考えられる	2	AAA	ツリフネソウ	白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が特に高いと考えられる	3	AAA	ノブキ	奥入瀬渓流周辺で食痕が顕著にみられ、シカによる食害の可能性が高い	4	AA	ヤマグワ	白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が高いと考えられる	5	AA	アカツ	白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が高いと考えられる	6	AA	ウワハミソウ	白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が高いと考えられる	7	AA	オニシモツ	白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が高いと考えられる	8	AA	ホウチャクソウ	白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が高いと考えられる	9	AA	エゾアジサイ	白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が高いと考えられる	10	A	オオカメノキ	白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が比較的高いと考えられる	11	A	ジュウモンジ	白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が比較的高いと考えられる	12	A	ヒメアオキ	冬季の食痕を確認でき、越冬地の特定にも有用である	13	A	ヤグルマソウ	白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が比較的高いと考えられる	14	A	ミヤマイラク	白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が比較的高いと考えられる	15	A	ヤマブキソウ	白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が比較的高いと考えられる
No	嗜好性ランク	種名	選定理由																																																																					
1	AAA	キツツリネ	白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が特に高いと考えられる																																																																					
2	AAA	ツリフネソウ	白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が特に高いと考えられる																																																																					
3	AAA	ノブキ	奥入瀬渓流周辺で食痕が顕著にみられ、シカによる食害の可能性が高い																																																																					
4	AA	ヤマグワ	白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が高いと考えられる																																																																					
5	AA	アカツ	白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が高いと考えられる																																																																					
6	AA	ウワハミソウ	白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が高いと考えられる																																																																					
7	AA	オニシモツ	白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が高いと考えられる																																																																					
8	AA	ホウチャクソウ	白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が高いと考えられる																																																																					
9	AA	エゾアジサイ	白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が高いと考えられる																																																																					
10	A	オオカメノキ	白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が比較的高いと考えられる																																																																					
11	A	ジュウモンジ	白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が比較的高いと考えられる																																																																					
12	A	ヒメアオキ	冬季の食痕を確認でき、越冬地の特定にも有用である																																																																					
13	A	ヤグルマソウ	白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が比較的高いと考えられる																																																																					
14	A	ミヤマイラク	白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が比較的高いと考えられる																																																																					
15	A	ヤマブキソウ	白神山地周辺に広く分布し、嗜好性が比較的高いと考えられる																																																																					
<table border="1"> <tbody> <tr> <td>被害無し(nd)</td> <td>食害による被害無し</td> </tr> <tr> <td>食害レベル1(d0)</td> <td>葉群の10%未満が食害により消失</td> </tr> <tr> <td>食害レベル2(d1)</td> <td>葉群の10-25%未満が食害により消失</td> </tr> <tr> <td>食害レベル3(d2)</td> <td>葉群の25-50%未満が食害により消失</td> </tr> <tr> <td>食害レベル4(d3)</td> <td>葉群の50%以上が食害により消失</td> </tr> </tbody> </table>				被害無し(nd)	食害による被害無し	食害レベル1(d0)	葉群の10%未満が食害により消失	食害レベル2(d1)	葉群の10-25%未満が食害により消失	食害レベル3(d2)	葉群の25-50%未満が食害により消失	食害レベル4(d3)	葉群の50%以上が食害により消失																																																											
被害無し(nd)	食害による被害無し																																																																							
食害レベル1(d0)	葉群の10%未満が食害により消失																																																																							
食害レベル2(d1)	葉群の10-25%未満が食害により消失																																																																							
食害レベル3(d2)	葉群の25-50%未満が食害により消失																																																																							
食害レベル4(d3)	葉群の50%以上が食害により消失																																																																							
問い合わせ	《原本(データ)の帰属について》																																																																							

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。

注2) ドロップダウンリストから該当した項目を選択したこと。

注3) 該当した項目の口をクリックし、チェックを入れる。

【調査対象種における食害レベル】

両調査を統合した結果では、確認地点数が最も多かったのは266地点のアカソ、次いで254地点のウワバミソウであった。食害率ではウワバミソウが最も多い63%、次いでキツリフネの57%（地点数110）であった（図1）。今回の結果から、キツリフネ、ツリフネソウ、アカソ、ウワバミソウの4種が調査対象種として適当であると考えられた。

【ヒメアオキ食痕】

越冬期の食痕を確認できるヒメアオキの食痕が見られた地点は15地点で、内11地点で冬季食痕、3地点で今季食痕、1地点で冬季及び今季食痕が確認された（図2）。ヒメアオキの冬季食痕が越冬場所の把握の指標となるか併せて検討することで、時期を問わず越冬場所の調査が可能になる可能性があった。

【空間推定分析結果】 調査地域内で局所的にd2、d3がみられ、特に海に近い地域に食害レベルが高い箇所が確認された（図3）。また、調査地域北東部弘前市付近でもd2、d3が確認されたが、総じて食害レベルは低い傾向にあった。特に調査地北部の秋田県側ではndの箇所も多く見られた。

表3 食害レベル別の地点数

調査区分	食害レベル					合計
	被害なし(nd)	レベル1 (d0)	レベル2 (d1)	レベル3 (d2)	レベル4 (d3)	
本調査	67	158	20	3	5	253
環境省調査	4	26	10	8	1	49
合計	71	184	30	11	6	302

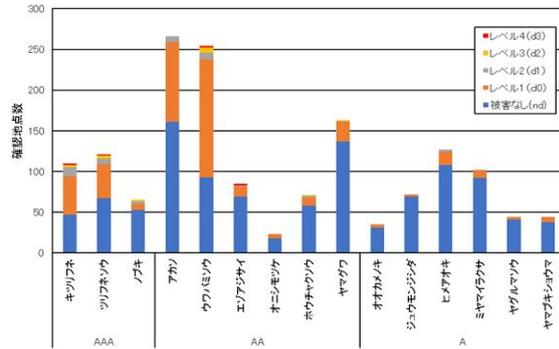


図1 調査対象種の確認地点数と食害レベルの割合

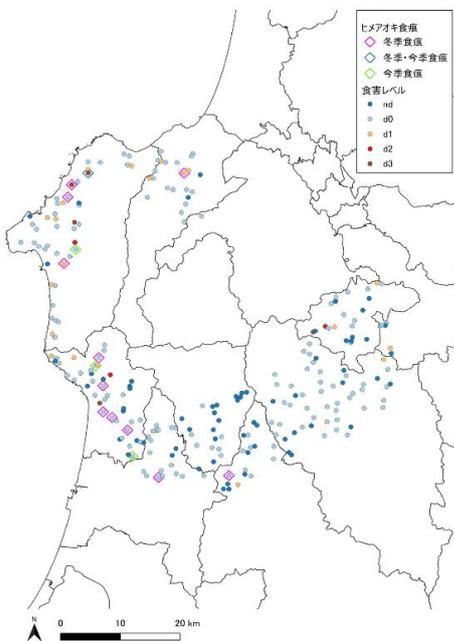


図2 ヒメアオキ食痕の確認地点と時期（本調査）

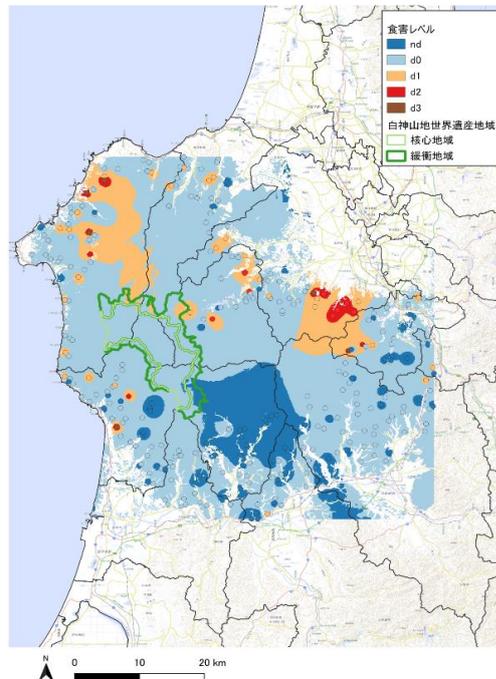


図3 IDW法による食害レベルの空間推定図

ID ^{注1)}	公開レベル ^{注1)}	C	保管形式 ^{注1)}	紙・電子	保管場所 ^{注1)}	前回ID	221109
-------------------	----------------------	---	---------------------	------	---------------------	------	--------

報告書名称 /調査名称	令和4年度 白神山地世界遺産地域及び周辺地域入山者数調査						発行年月/報告年月	
							2023年	3月
							資料形式 ^{注2)}	報道発表資料
調査機関	環境省 東北地方環境事務所			委託機関				
調査開始年	2004年	6月	調査期間	2022年	4月	～	2022年	11月
調査頻度 ^{注2)}	毎年	—	調査時期 ^{注2)}	春	夏	秋		
ヒカリツグ計画	2022年7月	改定	区分 ^{注2)}	Ⅲ	大区 ^{注2)}	1	小区 ^{注2)}	(1)

調査箇所・範囲 ^{注3)}				調査手法			
<input checked="" type="checkbox"/> 核心地域 <input checked="" type="checkbox"/> 緩衝地域 <input checked="" type="checkbox"/> 周辺地域 <input type="checkbox"/> GPS等の位置データあり				平成12年度より白神山地世界遺産地域の環境保全対策の基礎データである入山者数を把握することを目的とし、白神山地世界遺産地域周辺の登山道入口等において赤外線式センサーによる自動計測を実施。 ■使用機器 (株)映測サイエンス社製 LRカウンターⅡb エコカウンター社 eco counter ■自動計測機器設置箇所 白神山地世界遺産地域及び周辺地域の13箇所の登山道入口に自動計測機器(以下、機器)を設置している。このうち、⑩-1・⑩-2の小岳は粕毛林道が通行止めのため、今年度は設置していない。⑫大川については平成19年度、⑬ブナ林散策道については平成28年度に追加設置したものである。 青森県内設置箇所：①暗門の滝 ②高倉森入口 ③津軽峠 ④天狗峠 ⑤一ツ森峠 ⑥崩山 ⑦白神岳 ⑧櫛石山 ⑨大川 ⑩ブナ林散策道 秋田県内設置箇所：⑨二ツ森 ⑩小岳 ⑪岳岱 (小岳では令和元年度より2つの登山口に各1台ずつ、合計2台のセンサーを設置して計測を行っている。令和4年度は設置なし。) ■計測期間 計測期間は令和4年4月19日から令和4年11月14日である。ただし、アクセス道路・登山道の冬期通行止めの状況等によって機器毎の計測期間は異なる。			
 <p>※⑩-1、⑩-2は粕毛林道通行止めにつき、本年度</p> <p>※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。</p>							

結果概要 (スペースに収まるように入力してください)

1.全体の入山者数

計測を実施した12地点における入山者数の合計は16,210人となり、令和3年度の調査結果と比較して10,446人減少した(図1)。県外からの来訪者が多い⑬ブナ林散策道及び①暗門の滝は、令和3年12月に発生した白神ライン砂子瀬ゲート付近の地滑りによる開通の遅れと、8月の大雨によりアクセス道路の通行止めの影響で、入山者数が大幅に減少した。また、機器の電力不足による欠測もあり、令和4年度は、計測した全ての地点で減少傾向となった。

2.各登山道の入山者数

(1) 青森県側の入山者数

【暗門地区・大川】

⑬ブナ林散策道は、10,867人となり、令和3年度から561人減少した。

①暗門の滝は、305人となり、昨年度から6,496人減少した。これは、8月の大雨で自然歩道が損壊したため、今年度は開通することなく閉鎖されたことが影響した。

②高倉森入口は173人、⑫大川は0人となり、令和3年度より減少した。大川の0人については、白神ラインの開通の遅れに加え、設置後、間もなく大川林道が崩落し、メンテナンスを行うことなく閉鎖されたため電力不足により計測されなかった。

【県道28号(通称:白神ライン)沿い】

③津軽峠は237人、④天狗峠は24人、⑤一ツ森峠は29人、⑧櫛石山は72人となり、昨年度より減少した。

【日本海側】

⑥崩山は535人となり、令和3年度より766人減少した。これは、8月の大雨で機器が流失し、7/27までの集計値となっているため低い値となっている。⑦白神岳では1,024人となり、令和3年度の2,144人の半数にも満たない結果となった。これは、登山口へ向かうアクセス道が土砂崩れにより閉鎖になったことと、それに伴い9/20に機器を撤去したため、紅葉シーズンの入山者数は含まれていないことも影響したと思われる。

(2) 秋田県側の入山者数

⑨二ツ森は536人、⑪岳岱は2,408人となり、令和3年度より減少した。

環境省東北地方環境事務所 西目屋自然保護官事務所
 〒036-1411 青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田6-1-1
 TEL:0172-85-2622 FAX:0172-85-2635

《原本(データ)の帰属について》

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。
 注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。
 注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

備考

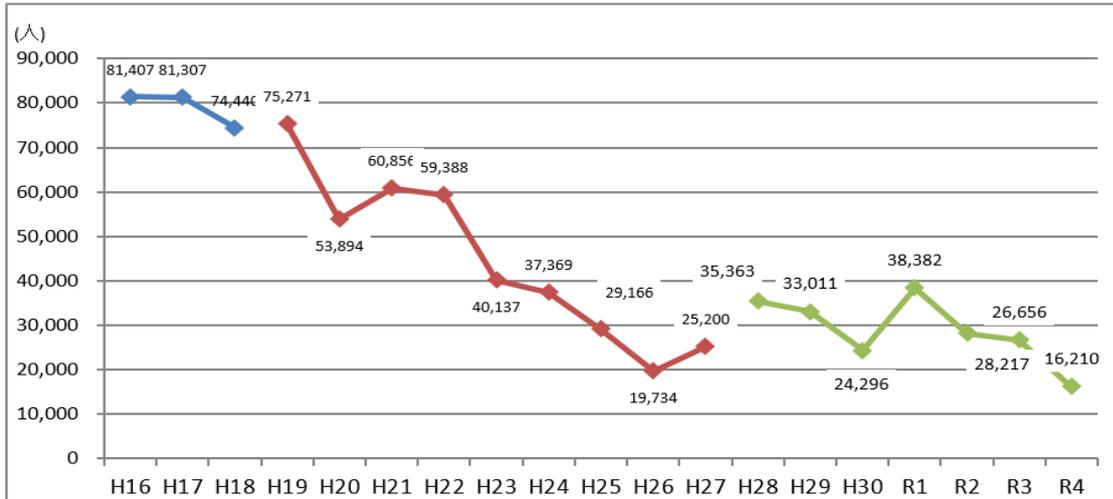


図1 白神山地世界遺産地域及び周辺地域における入山者数の推移

表1 令和4年度 白神山地世界遺産地域及び周辺地域入山者数集計表

(※) ①	②	(※) ③	(※) ④	⑤	(※) ⑥	(※) ⑦	(※) ⑧	(※) ⑨	⑩	⑪	(※) ⑫	⑬	合計(人)
暗門の滝	高倉森入口	津軽峠	天狗峠	一ツ森峠	崩山	白神岳	柳石山	ニツ森	小岳	岳岱	大川	ブナ林散策道	
4月	0 (-12)	0 (-58)	0 (-9)	0 (-12)	62 (+22)	46 (-1)		1 (+1)	0 (-3)	212 (+82)	0 (-27)	0 (-1197)	108 (-206)
5月	0 (-733)	0 (-33)	0 (-76)	24 (-3)	8 (-23)	119 (+8)	308 (+26)	25 (-8)	208 (+208)	407 (+89)	0 (-34)	0 (-873)	1,099 (-1452)
6月	220 (-1,211)	21 (+18)	73 (-15)	0 (-48)	17 (+10)	131 (-76)	371 (-63)	29 (+17)	274 (+147)	414 (+43)	0 (-64)	1,165 (-424)	2,715 (-1666)
7月	31 (-1,547)	8 (-12)	6 (-121)	0 (-21)	4 (-6)	0 (-218)	66 (-244)	3 (-29)	53 (-97)	202 (-191)	0 (-70)	2,073 (-393)	2,446 (-2949)
8月	31 (-1472)	73 (+22)	0 (-141)	0 (-39)	0 (-12)	0 (-237)	51 (-393)	0 (-25)	0 (-132)	293 (-50)	0 (-90)	2,757 (+1,355)	3,205 (-1214)
9月	17 (-1,355)	55 (+1)	136 (-31)	0 (-43)	0 (-29)	0 (-238)	0 (-432)	0 (-50)	0 (-314)	797 (-150)	0 (-90)	4,380 (+1,427)	5,385 (-1304)
10月	6 (-178)	16 (-1)	22 (-13)	0 (-12)	0 (-3)	0 (-51)	0 (-71)	15 (-18)		83 (+83)	0 (-15)	492 (-241)	634 (-520)
11月	305 (-6,496)	173 (-75)	237 (-400)	24 (-178)	29 (-63)	535 (-766)	1,024 (-1,120)	72 (-113)	536 (-187)	0 (-3)	2,408 (-94)	0 (-390)	10,867 (-561)
合計(人)	305	173	237	24	29	535	1,024	72	536	0	2,408	0	16,210 (-10,446)
集計期間	7/27~11/13	7/14~11/13	7/16~11/13	5/27~10/17	5/27~10/17	4/20~7/27	5/27~10/17	6/9~10/19	5/31~9/14	設置なし	5/21~11/6	7/14~8/24	7/14~11/13
集計日数	110	123	121	144	144	99	144	133	107	0	170	42	123

①内は令和3年度の値からの増減
②内は令和3年度の値からの増減
③内は令和3年度の値からの増減
④内は令和3年度の値からの増減
⑤内は令和3年度の値からの増減
⑥内は令和3年度の値からの増減
⑦内は令和3年度の値からの増減
⑧内は令和3年度の値からの増減
⑨内は令和3年度の値からの増減
⑩内は令和3年度の値からの増減
⑪内は令和3年度の値からの増減
⑫内は令和3年度の値からの増減
⑬内は令和3年度の値からの増減

注1) 表記の数字は機器によって自動測定された数字であり、必ずしも実際の入山者数を表したのではない。
注2) 機器の不具合などにより、実際の入山者数より少ないことが明らかな数字には「※」を記した。

表2 白神山地世界遺産地域及び周辺地域入山者数集計表(平成16年度~令和4年度)

年度	①暗門の滝		②高倉森入口		③津軽峠		④天狗峠		⑤一ツ森峠		⑥崩山		⑦白神岳	
	入山者数	集計日数	入山者数	集計日数	入山者数	集計日数	入山者数	集計日数	入山者数	集計日数	入山者数	集計日数	入山者数	集計日数
平成16年度	57,355	159	309	163	2,125	163	919	163	135	163	1,208	164	3,750	164
平成17年度	※ 57,369	136	439	158	2,322	154	665	154	90	154	1,092	154	4,056	158
平成18年度	※ 53,360	131	396	154	1,839	154	616	140	142	140	※ 1,253	160	4,766	160
平成19年度	※ 52,323	154	469	164	2,383	164	※ 619	164	198	162	1,105	162	4,476	168
平成20年度	33,769	160	347	179	2,128	160	※ 588	152	119	152	969	182	※ 3,798	182
平成21年度	42,914	163	363	163	2,147	163	646	160	157	149	945	187	4,273	187
平成22年度	43,028	158	325	178	1,425	166	469	160	122	160	743	185	3,280	185
平成23年度	25,471	130	264	184	1,148	169	369	163	116	163	897	188	※ 3,132	188
平成24年度	23,336	105	252	178	1,331	160	325	145	85	145	905	178	※ 2,119	178
平成25年度	18,201	91	256	177	1,118	167	361	127	57	127	876	180	2,946	180
平成26年度	9,625	124	165	117	※ 337	111	※ 40	48	24	48	1,065	185	2,610	185
平成27年度	15,463	74	431	164	141	141	40	10	0	10	※ 995	156	2,742	181
平成28年度	※ 1,193	127	※ 141	104	1,209	157	204	101	32	105	1,018	175	2,465	175
平成29年度	1,175	116	310	183	1,032	161	95	161	15	40	1,602	194	2,535	194
平成30年度	5,491	137	※ 297	186	※ 662	154	160	154	51	48	※ 1,220	196	※ 1,402	196
令和元年度	8,342	137	368	206	919	169	216	169	72	169	1,587	217	2,693	217
令和2年度	7,265	166	288	211	571	159	140	158	67	158	※ 740	208	2,279	208
令和3年度	6,801	160	※ 248	212	637	171	202	171	92	170	1,301	215	2,144	215
令和4年度	305	110	173	123	※ 237	121	※ 24	144	※ 29	144	※ 535	99	※ 1,024	154

年度	⑧柳石山		⑨ニツ森		⑩小岳		⑪岳岱		⑫大川		⑬ブナ林散策道		合計
	入山者数	集計日数	入山者数	集計日数	入山者数	集計日数	入山者数	集計日数	入山者数	集計日数	入山者数	集計日数	
平成16年度	1,384	163	5,133	165	544	162	8,545	164					81,407
平成17年度	423	150	4,831	158	406	152	9,614	156					※ 81,307
平成18年度	※ 557	141	4,053	151	320	137	7,138	150					※ 74,440
平成19年度	540	154	※ 3,532	158	※ 339	138	8,566	170					※ 75,271
平成20年度	414	154	3,800	161	619	161	6,496	173					※ 53,894
平成21年度	441	162	※ 2,710	159	※ 462	161	※ 5,133	164					※ 60,856
平成22年度	503	149	2,269	160	434	152	6,598	174					※ 59,388
平成23年度	429	155	2,312	161	471	161	5,097	172					※ 40,137
平成24年度	266	140	※ 2,854	158	390	163	4,556	162					※ 37,369
平成25年度	260	120	3,488	154	80	65	948	44					29,166
平成26年度	109	46	4,386	159			746	34					19,734
平成27年度	37	7	2,860	147			1,976	108					25,200
平成28年度	201	97	2,393	163			1,342	81					35,363
平成29年度	226	143	※ 1,296	160	268	137	※ 2,254	182					33,011
平成30年度	283	147	※ 709	66	※ 258	137	※ 1,231	170					24,296
令和元年度	222	145	1,395	166	294	155	2,780	180					38,382
令和2年度	250	154	888	168	217	144	1,948	158					28,217
令和3年度	185	140	723	114	3	4	2,502	164					26,656
令和4年度	72	133	※ 536	107	0	0	2,408	170					16,210

注3) 機器の不具合などにより、実際の入山者数より少ないことが明らかな数字には「※」を記した。

ID ^{注1)}	公開レベル ^{注1)}	C	保管形式 ^{注1)}	紙・電子	保管場所 ^{注1)}	前回ID	
報告書名称 /調査名称	白神山地世界遺産地域における原生的ブナ林の長期変動調査					発行年月/報告年月	
						2023年	3月
調査機関	東北森林管理局	委託機関	株式会社グリーンシグマ				
調査開始年	1999年	調査期間	2022年	6月	～	2023年	3月
調査頻度 ^{注2)}	毎年	調査時期 ^{注2)}	通年	—	—	資料形式 ^{注2)}	報告書
モリガ計画	策定	区分 ^{注2)}	IIA	大区分 ^{注2)}	1	小区分 ^{注2)}	(1)
調査箇所・範囲 ^{注3)}			目的・調査手法				
<input checked="" type="checkbox"/> 核心地域 <input checked="" type="checkbox"/> 緩衝地域 <input checked="" type="checkbox"/> 周辺地域 <input checked="" type="checkbox"/> GPS等の位置データあり			1. 倒壊林冠発生木調査 ・青森県側、秋田県側それぞれに設置された固定調査区（100×200mの方形で、20×20mの50区画）のうち、秋田県側において樹木の生育・更新状況を調査した。青森県側は豪雨の影響で作業中止となった。 ・現地では、過年度調査で設置された立木番号を確認しながら、倒壊林冠木（枯損木、折損木、欠頂木、倒木等）の発生状況を確認した。現地調査は、秋田県側で令和4年9月13日～15日に実施した。 2. 積雪深調査 ・遺産地域内及び周辺の14地点（青森県側10箇所、秋田県側4箇所）に設置されている最深積雪深計の測定を行うとともに、点検を行った。 ・そのうち12地点について、自動撮影カメラ（インターバル撮影）のデータを回収し、画像から積雪深を計測した。秋季に自動撮影カメラを設置した。ただし7箇所については豪雨の影響で作業中止となり、設置しなかった。 ・降雪や消雪の時期及び変化を把握するため、秋田県側の秋B-3の1箇所の積雪深計に設置した温度計測ロガーのデータを解析した。秋季に温度計測ロガーを設置した。 ・入り込み利用調査の越冬調査用カメラ（インターバル撮影）の3箇所の画像から、積雪深を計測した。 3. 林内気温調査 ・遺産地域内及び周辺の7地点（青森県側4箇所、秋田県側3箇所）に設置されている林内気温観測機器からのデータ回収と再設置を行った。ただし、青森県側の4箇所については豪雨の影響で作業中止となり、秋季のデータ回収は実施しなかった。 4. 入り込み利用調査 ・遺産地域内及び周辺の渓流沿いの16地点に自動撮影カメラを設置した。撮影期間は7月上旬から10月下旬までの約4ヶ月で、各地点の撮影日数は97～113日であった。撮影された画像から目的別の人の入り込み状況を把握したほか、ニホンジカ等の哺乳類の撮影状況も把握した。ただし青森県側の5地点では作業中止のため回収せず、2地点は河川の増水によりカメラが流失した。 ・冬季を中心に、ブナ林や積雪の状況把握のために固定調査区2箇所と奥赤石の櫛石山登山口付近の計3箇所に設置された越冬調査用カメラ（インターバル撮影）及び、人や動物の利用状況を把握するために青森県側3箇所、秋田県側1箇所に設置された越冬調査用カメラ（センサー撮影）を回収し、秋季に再設置した。ただし作業中止のためインターバル撮影2箇所、センサー撮影3箇所については再設置しなかった。				
調査対象地位置図							
調査結果概要							
1. 倒壊林冠発生木調査（図1、表1） ・秋田県側の固定調査区内の樹木の生育状況は以下のとおりである。 高木性樹種1,151本（生立木：775本 枯損木：53本 倒木：121本 消滅：59本 その他（不明・欠番）：143本） ・本年度新たに枯損木となった直径10cm以上の樹木は、3本（昨年4本）だった。また、2本の樹木を新たに追加してリストに加えた。 2. 積雪深調査（図2～図6、表2） ・青森県側の3地点（B-4、B-7、B-9）で最深積雪深計の倒壊が確認された。令和2年度に倒壊したB-5と合わせて4地点で倒壊した。 ・インターバル撮影による積雪深は、概ね問題なく積雪深を計測でき、多くの地点で2月23日～24日、3月7日に積雪深が最大値を取った。 ・最深積雪深計とインターバル撮影の計測結果は概ね近似し、インターバル撮影画像による積雪深の計測値は信頼に足るものと判断できることから、令和3年度冬季より、インターバル撮影による計測値を最深積雪深の計測結果として採用することとした。 ・秋田県側の最深積雪深は2.8～3.2mで、令和2年度より0.6～1.2m程度多く、過年度平均との比較では秋B-1は同等、その他の地点は0.2～0.6m多かった。青森県側は3.0～4.4mで、令和2年度より0.9～1.6m程度多く、過年度平均との比較では0.3～0.9m多かった。 ・データロガーによる秋B-3の積雪深の変化については、2月23日にピークとなる2750mmを記録した。 ・入り込み利用調査の越冬調査用固定カメラによる計測では、いずれの地点においても11月23日の初雪がそのまま根雪となった。最深積雪を記録したのは2月下旬で、最深積雪深はD-12とD-11で3.3m、D-13で4.7mであった。 3. 林内気温調査（図7～図10） ・本年度調査で解析したR3年11月からR4年10月までの林内気温の月平均値について、全体的な傾向は青森県側と秋田県側で大きな相違はなかった。令和3年度積雪期の気温は、12月が高温だったものの、1月と2月の冷え込みが強く、3月は平年に近い気温だった。 ・H18年からR4年の年間統計値の解析では、真冬日の減少傾向や寒さの指数の上昇傾向（寒さが和らぐ）が見られることから、冬季の冷え込みが弱くなりつつある可能性が示唆された。 4. 入り込み利用調査（図11～図12、表3、写真1～写真4） ・全地点の利用者総数は281人（通過車両除く）で、登山が最も多く115人で40.9%を占めた。次いで山菜採り53人、調査38人、巡視33人、釣り6人及び工事36人であった。地点別では、大川のD-1の利用者が最も多く、次いでその上流のD-2が多かった。 ・過年度と比較すると、全地点で昨年度より減少し、D-8とD-9以外の7地点で過去最小となった。D-8とD-9についても、工事を除いた利用者数は過去最小である。利用者数の顕著な減少の主要因は、豪雨等の自然災害によりアクセス道路が通行不能となったことが挙げられる。 ・昨年度は確認のなかったニホンジカが、D-2とD-16で撮影された。いずれもオスの個体で、10月の撮影だった。 ・越冬カメラの画像から、積雪期は11月23日に始まり、5月23日～26日までであった。積雪のピークは2月23日、3月7日であった。積雪期の終了は昨年度より16～21日遅かった。・ブナの開葉は、4月25日～5月2日であり、昨年度より3～4日早かった。							
問い合わせ	林野庁 東北森林管理局 計画保全部計画課 〒010-8550 秋田県秋田市中通五丁目9番16号 TEL：018-836-2489 ≪原本（データ）の帰属について≫						
注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。 注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。 注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。							

備考

1. 倒壊林冠発生木調査

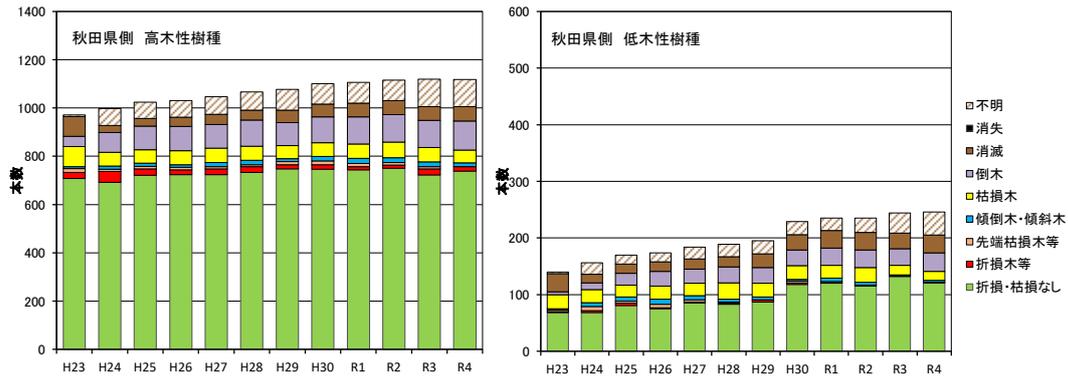


図1 H23～R4までの樹木の生育状況（秋田県側）

表1 主な倒壊林冠木等の発生状況（秋田県側）

No.	格子名称	立木番号	種名	直径 (cm)	樹高 (m)	R3年度 調査状況	R4年度 調査状況
1	B-1	E-315	イタヤカエデ	32.1	24.6		枯損木
2	E-4	C-278a	ブナ	28.1	19.6	折損木	折損枯損木
3	H-1	E-080b	ホオノキ	21.2	12.0	傾倒木・傾斜木	枯損木

※青森県側は豪雨の影響で作業中止。

備考

2. 積雪深調査

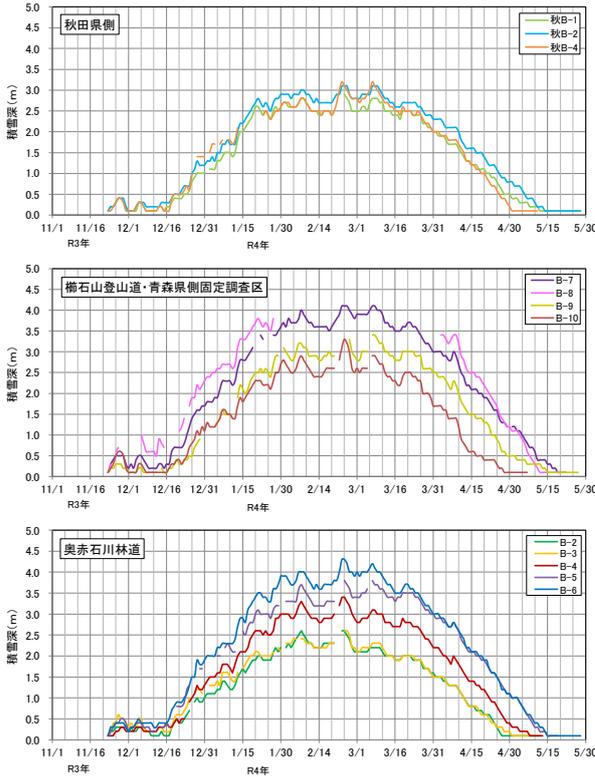


図2 最深積雪深計のインターバル撮影による積雪深の推移

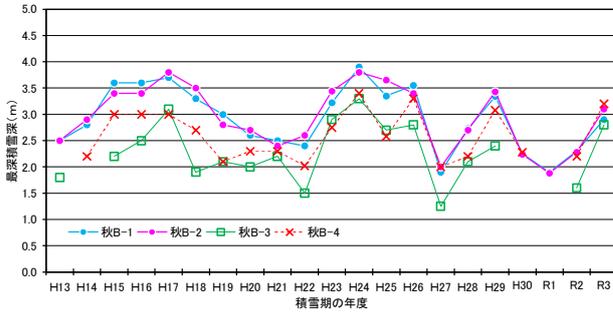


図3 最深積雪深の経年比較(秋田県側)

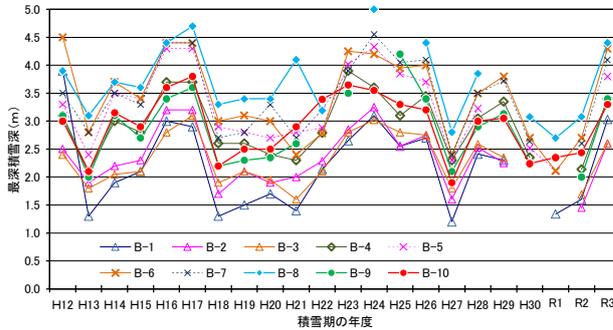


図4 最深積雪深の経年比較(青森県側)

表2 最深積雪深計とインターバル撮影画像から計測した最深積雪深の比較

箇所番号	最深積雪(m)		差分	
	最深積雪深計	インターバル撮影	(m)	(%)
秋 B-1	3.46	2.9	-0.56	-19.3
秋 B-2	3.55	3.1	-0.45	-14.5
秋 B-4	3.06	3.2	0.14	4.4
B-2	2.74	2.6	-0.14	-5.4
B-3	2.87	2.6	-0.27	-10.4
B-4	倒壊・欠測	3.4	-	-
B-5	倒壊・欠測	3.8	-	-
B-6	4.22	4.3	0.08	1.9
B-7	倒壊・欠測	4.1	-	-
B-8	4.40	3.8(埋没)	-0.6	-15.8
B-9	倒壊・欠測	3.4	-	-
B-10	3.48	3.3	-0.18	-5.5

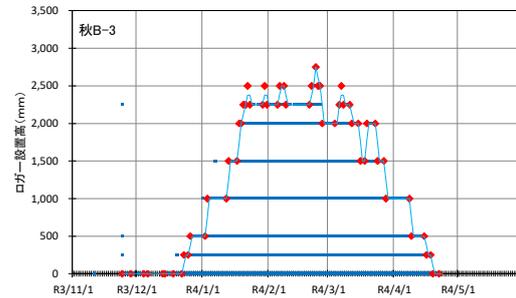


図5 温度ロガーによる積雪深の季節変化(秋B-3)

◆: 温度変化より読み取った堆雪日・消雪日
青線: 日較差2.0°C以下が連続する日

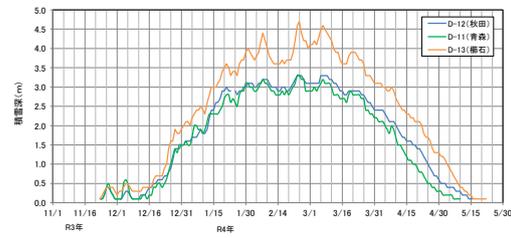


図6 入り込み調査越年調査用カメラによる積雪深の推移

備考

3. 林内気温調査

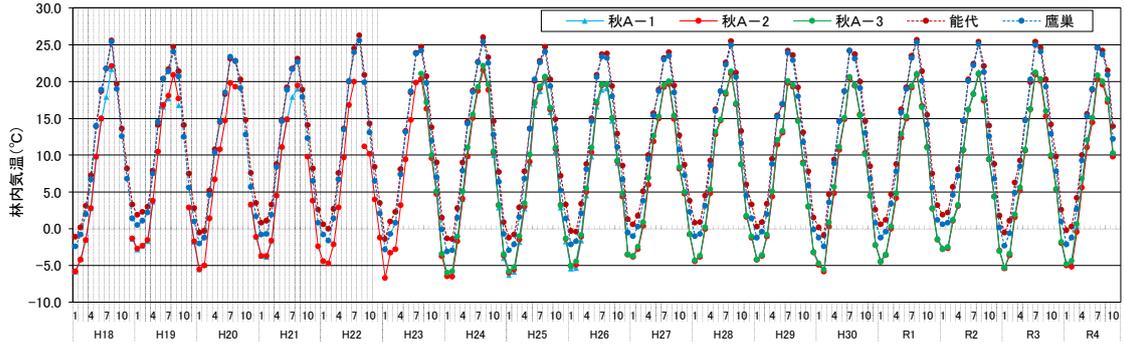


図7 林内気温 月平均気温の変化(秋田県側)
能代と鷹巣はアメダス観測値

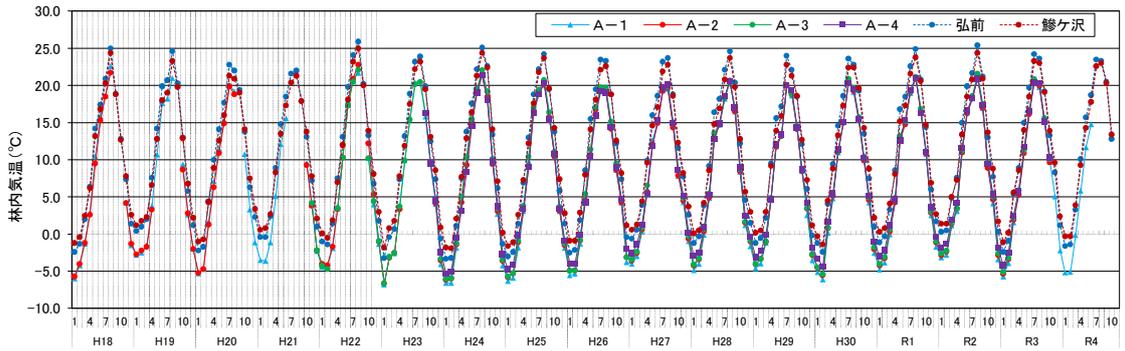


図8 林内気温 月平均気温の変化(青森県側)
弘前と鱒ヶ沢はアメダス観測値

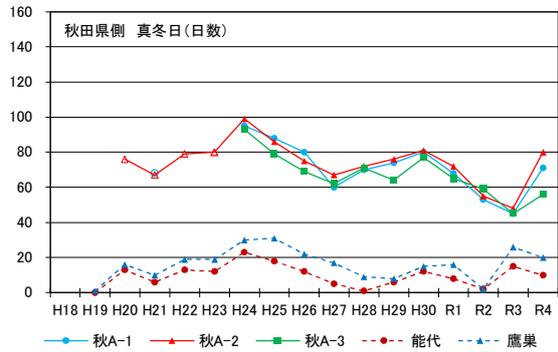
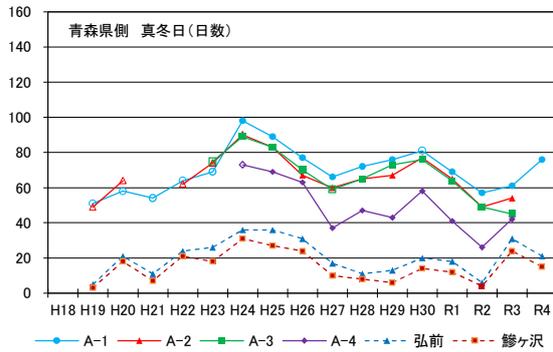


図9 林内気温 真冬日の日数の経年比較

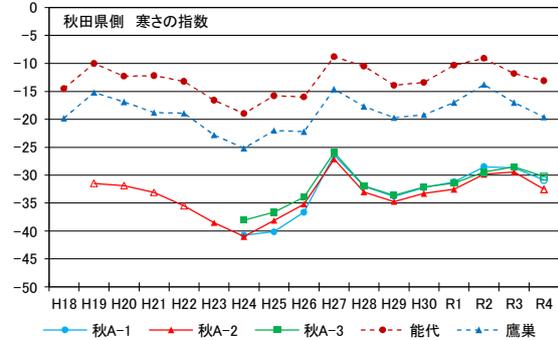
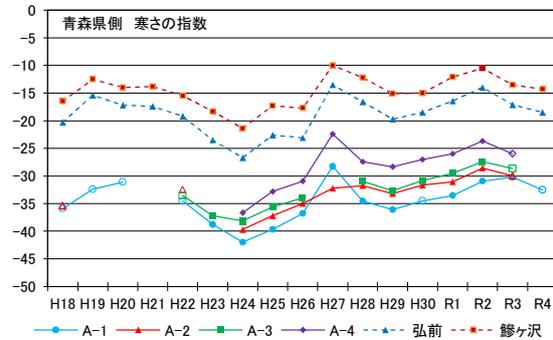


図10 林内気温 寒さの指数の経年比較

備考

4. 入り込み利用調査

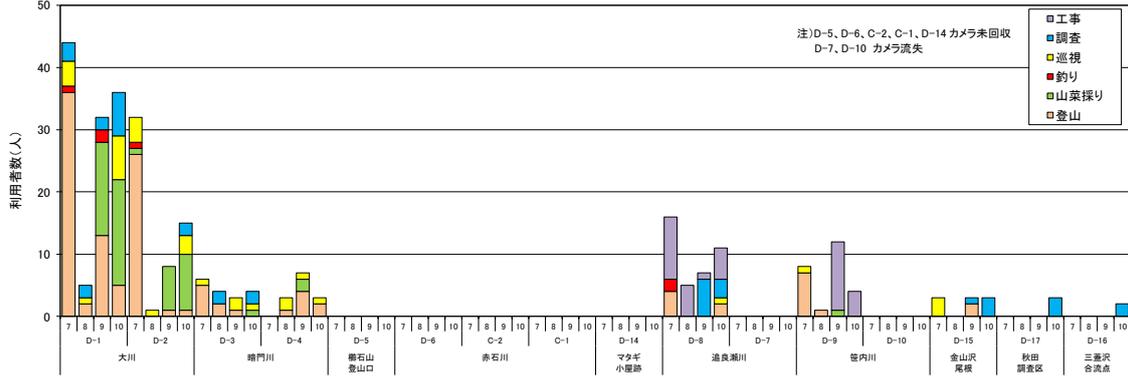


図11 R4年度の地点別の利用者の内訳

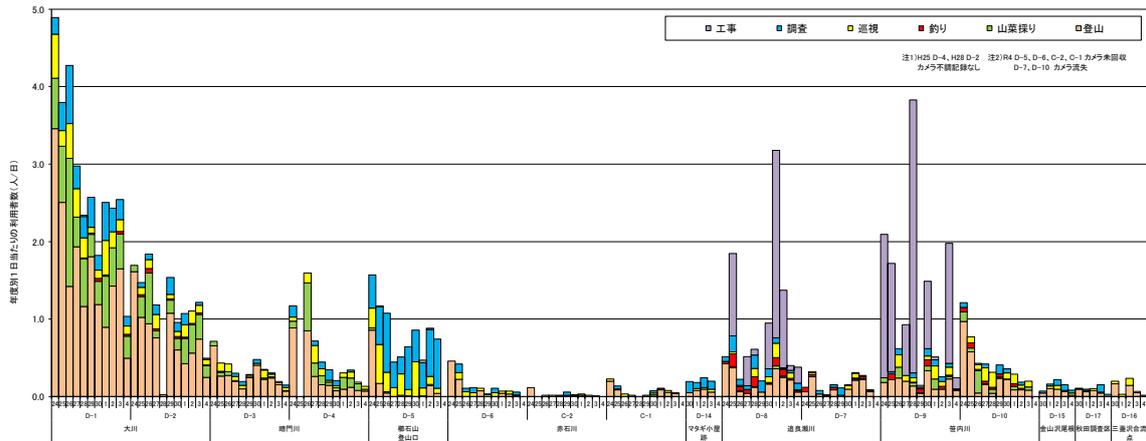


図12 H24～R4年度の利用者数の比較



備考

表3 令和4年度の哺乳類確認状況(撮影頭数)

地域	種別	ニホンザル				キツネ				タヌキ				ツキノワグマ				テン					
		月	7	8	9	10	7	8	9	10	7	8	9	10	7	8	9	10	7	8	9	10	
大川	D-1		5	4	7	5					2	2	2		3								
	D-2		9	1	7	3							1	1					1	2	3	2	
暗門川	D-3				1	13							1										
	D-4			1			2	1					1	3	1	2			3	17	20		
榎石山登山口 赤石川	D-5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	D-6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	C-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	C-1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マタギ小屋跡	D-14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
追良瀬川	D-8			1					1				1							1	1		
	D-7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
笹内川	D-9				4											1						2	
	D-10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
金山沢尾根	D-15		1	4					3	5	1	1	1	1	1	2					2		
秋田固定調査区	D-17			1					1					5	1							2	
三蓋沢合流点	D-16								1	2			3	1		2	6	7	1				
種別頭数合計			67				4				20				27				75				

地域	種別	イタチ				アナグマ				ハクビシン				カモシカ				ニホンジカ				
		月	7	8	9	10	7	8	9	10	7	8	9	10	7	8	9	10	7	8	9	10
大川	D-1												1	1								
	D-2												2									1
暗門川	D-3												3									
	D-4									1	1				2							
榎石山登山口 赤石川	D-5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	D-6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	C-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	C-1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マタギ小屋跡	D-14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
追良瀬川	D-8																					
	D-7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
笹内川	D-9																					
	D-10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
金山沢尾根	D-15				1			1	1				2	2	1							
秋田固定調査区	D-17				1			1	1	2												
三蓋沢合流点	D-16		1												1							1
種別頭数合計			1				3				8				14				2			

地域	種別	ヤマネ				ネズミ類				ノウサギ				コウモリ類								
		月	7	8	9	10	7	8	9	10	7	8	9	10	7	8	9	10				
大川	D-1		1																			
	D-2																					
暗門川	D-3																					
	D-4																					
榎石山登山口 赤石川	D-5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	D-6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	C-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	C-1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マタギ小屋跡	D-14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
追良瀬川	D-8																					
	D-7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
笹内川	D-9																					
	D-10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
金山沢尾根	D-15									2	2	1										
秋田固定調査区	D-17				1	1																
三蓋沢合流点	D-16																					
種別頭数合計			1				2				4				1							

※D-5、D-6、C-2、C-1、D-14: カメラ未回収 D-7、D-10: カメラ流失



写真4 撮影されたニホンジカ(左:D-2、右:D-16)

ID ^{注1)}	公開レベル ^{注1)}	保管形式 ^{注1)}	保管場所 ^{注1)}	前回ID					
報告書名称 /調査名称	令和4年度 白神山地周辺地域（青森県側）における中・大型哺乳類調査			発行年月/報告年月					
				2023年	1月				
				資料形式 ^{注2)}	報告書				
調査機関	東北森林管理局 津軽白神森林生態系保全センター		委託機関	株式会社 地域環境計画					
調査開始年	2013年	9月	調査期間	2021年	11月	～	2022年	11月	
調査頻度 ^{注2)}	毎年	—	調査時期 ^{注2)}	春	夏	秋	冬		
モニタリング計画	2017年3月	改訂	区分 ^{注2)}	IB	大区分 ^{注2)}	2	小区分 ^{注2)}	(1) (3)	
調査箇所・範囲 ^{注3)}				調査手法					
<input type="checkbox"/> 核心地域 <input type="checkbox"/> 緩衝地域 <input checked="" type="checkbox"/> 周辺地域 <input checked="" type="checkbox"/> GPS等の位置データあり				■目的 白神山地世界遺産地域モニタリング計画の重点調査項目として挙げられている中・大型哺乳類の生息状況を把握するため、白神山地周辺地域において赤外線センサーカメラによる調査を実施した。また、環境省や青森県、秋田県と連携し、近年白神山地周辺で目撃例が相次いでいるニホンジカ、イノシシやハクビシン等の分布拡大の状況把握にも努めた。					
 <p>※調査地点は備考欄参照</p>				■センサーカメラ設置箇所 冬期間（令和3年11月より継続） ・深浦町17箇所、鱒ヶ沢町1箇所 業務期間（昨年度報告と同時期） ・深浦町19箇所、鱒ヶ沢町5箇所、弘前市1箇所、西目屋村10箇所以上、白神山地周辺地域の青森県側に、各箇所1台ずつ合計35台設置した（図1）。撮影インターバルは冬期間は30分、業務期間は4月～6月は30分、6月～11月はインターバルなし（=0秒）とした。					
				■調査期間 冬期間：令和3年11月24日～令和4年4月14日 業務期間：令和4年4月14日～11月18日					
				■使用機器 ・TREL10J、10J-D、18J-D（株）GI Supply）：合計35台					
				■集計方法 種名や個体数等の判別を行い、調査地点別・月別・時間別に集計した。インターバルなしで撮影された画像については、過年度と比較できるように、模擬的に30分インターバルを再現してデータを選別し、解析した。					
				■冬期間 動物の撮影個体数は、全地点で合計534個体、そのうち哺乳類は516個体であった（表1）。正確な種まで同定できた確認種数は哺乳類14種、鳥類2種であった。最も撮影個体数が多かった種はタヌキの112頭で、次いでニホンザル107頭、キツネ101頭、テン59頭、カモシカ45頭であった。ニホンジカは、冬期間中の12月と1月に合計4頭が地点32と地点33で撮影され、そのうち地点32の1頭はメスであった（写真）。イノシシは、12月、3月、4月に6箇所合計7頭が撮影された。					
				■業務期間 動物の撮影個体数は、全地点で合計1,041個体、そのうち哺乳類は993個体であった（表2）。最も撮影個体数が多かった種はニホンザルの144頭で、次いでタヌキとカモシカ116頭、アナグマ97頭、キツネ81頭であった。正確な種まで同定できた確認種数は哺乳類14種、鳥類11種であった。ニホンジカは、撮影インターバル0秒のデータでは16箇所から合計143頭が撮影された。性別は全てオスであった。イノシシは、8箇所から合計12頭が撮影された。外来種はハクビシンが22箇所から合計167頭撮影された。					
				ニホンジカ、イノシシ、ハクビシンの撮影位置を図1に示す。 平成26年度から令和4年度調査までの哺乳類の撮影個体数の推移を図2に示す。					
 ニホンジカ♂（34：9月17日）				 ニホンジカ♀（32：1月6日）		 イノシシ（4：8月11日）		 ハクビシン（32：10月21日）	
問い合わせ	東北森林管理局 津軽白神森林生態系保全センター 〒038-2761 青森県西津軽郡鱒ヶ沢町大字舞戸町字東阿倍野70-82 TEL：0173-72-2931 FAX：0173-72-2932								
≪原本（データ）の帰属について≫									

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。

注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。

注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

備考

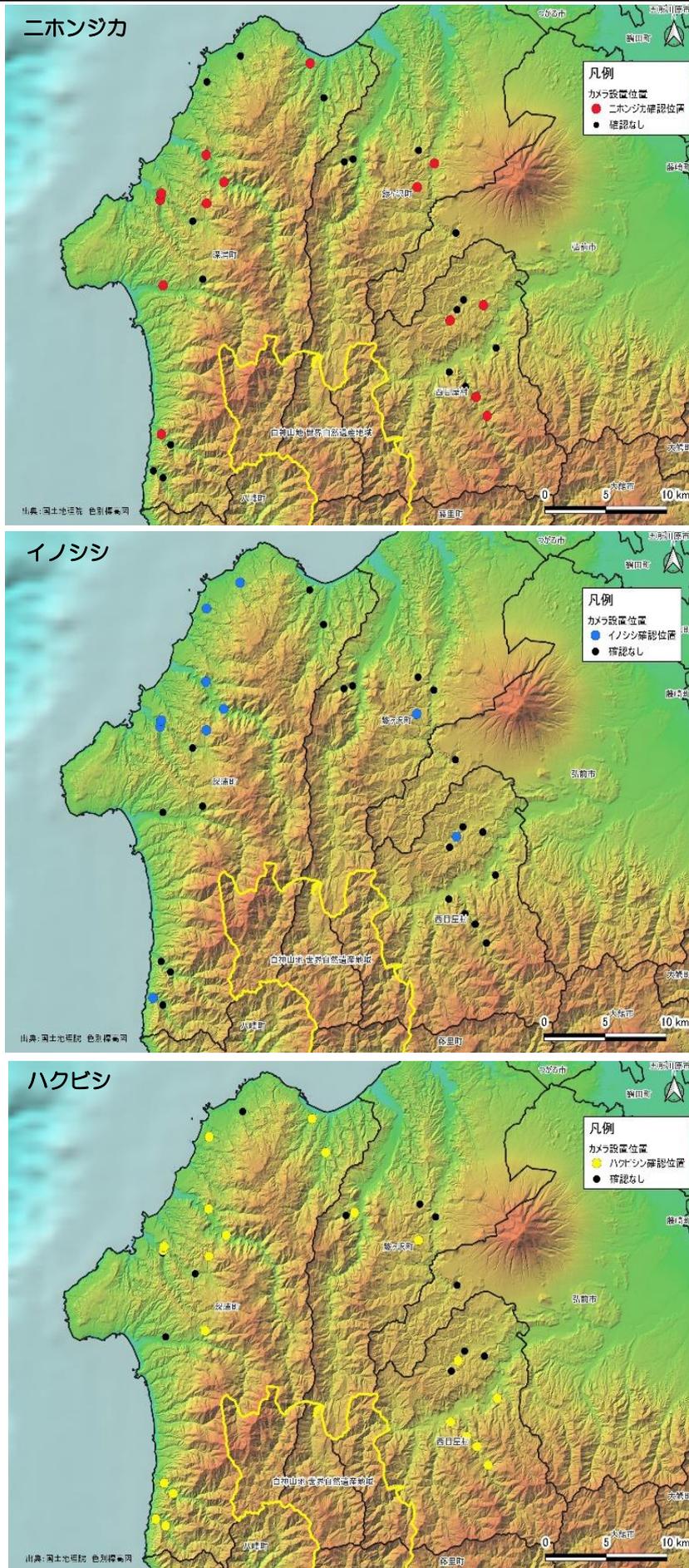


図1 令和4年度 センサーカメラ設置箇所とニホンシカ・イノシシ・ハクビシの撮影位置

備考

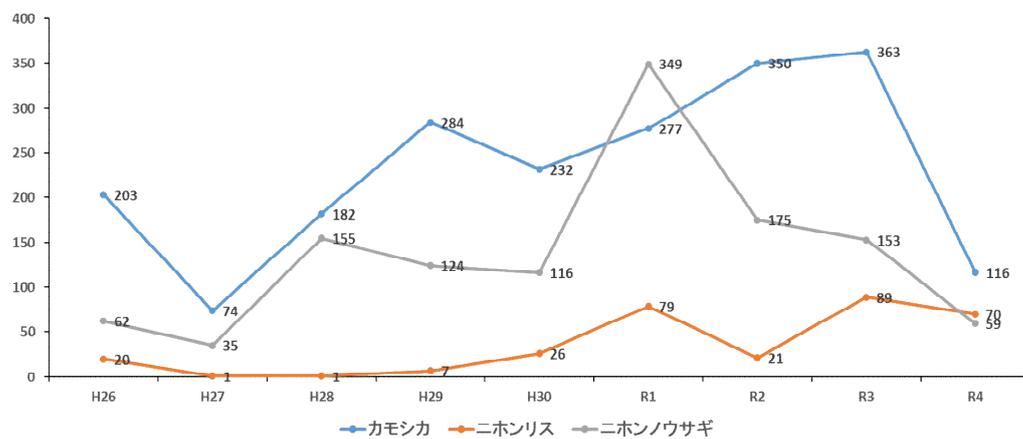
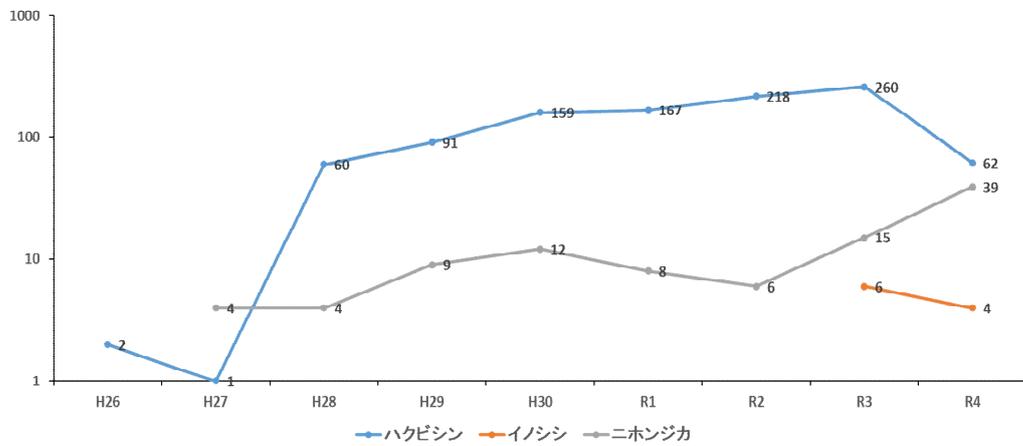
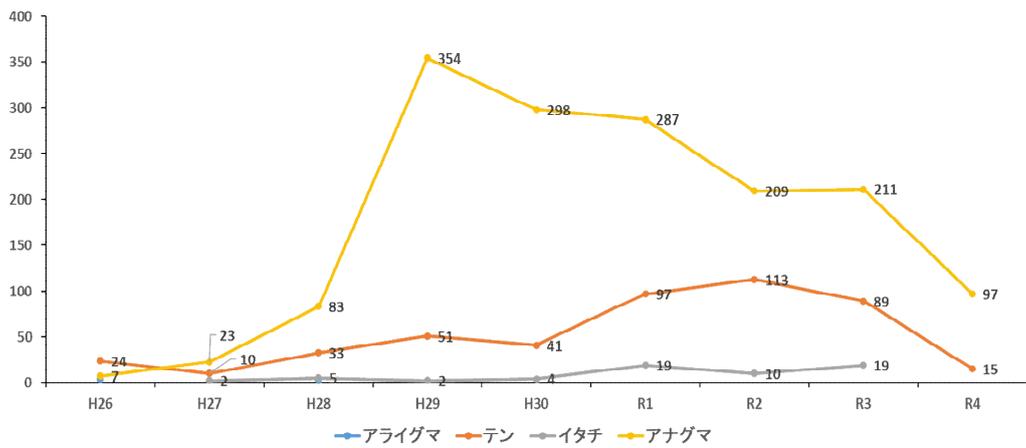
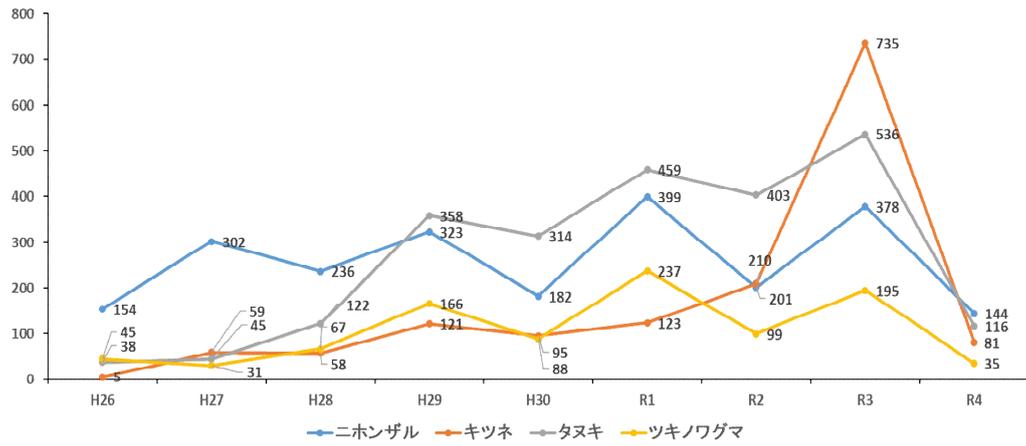


図2 センサーカメラによる哺乳類の撮影個体数の推移 (H26-R4)

ID ^{注1)}	公開レベル ^{注1)}	保管形式 ^{注1)}	保管場所 ^{注1)}	前回ID
-------------------	----------------------	---------------------	---------------------	------

報告書名称 /調査名称	令和4年度 白神山地周辺地域（秋田県側）における中・大型哺乳類調査業務 報告書	発行年月/報告年月	
		2023年 3月	3月
		資料形式 ^{注2)}	報告書

調査機関	東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター	委託機関	
------	-----------------------	------	--

調査開始年	2014年 5月	調査期間	2022年 4月 ~ 2022年 12月
-------	----------	------	----------------------

調査頻度 ^{注2)}	毎年	調査時期 ^{注2)}	春 夏 秋
---------------------	----	---------------------	-------

モニタリング計画	2017年3月 改訂	区分 ^{注2)}	ⅡB 大区分 ^{注2)} 2 小区分 ^{注2)} (1) (3)
----------	------------	-------------------	--

調査箇所・範囲 ^{注3)}	調査手法
------------------------	------

核心地域 緩衝地域 周辺地域
 GPS等の位置データあり

※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。

■目的
 白神山地世界遺産地域モニタリング計画の重点調査項目に挙げられている中・大型哺乳類の生息状況を把握するため、白神山地周辺地域で赤外線センサーカメラによる哺乳類調査を実施した。また、環境省や秋田県等世界遺産地域連絡会議構成機関と連携し、近年白神山地周辺で目撃例が相次いでいるニホンジカやイノシシ、ハクビシン等の分布拡大の状況把握にも努めた。

■センサーカメラ設置箇所
 ・八峰町：10箇所 ・能代市：1箇所
 ・藤里町：15箇所
 以上、白神山地周辺地域（秋田県側）の国有林内に、各箇所1台ずつ合計26台を設置した（図1）。

■調査期間
 令和4年4月27日～令和4年12月12日

■使用機器
 ・TREL10J-D（株）GI Supply）：11台
 ・TREL18J-D（株）GI Supply）：15台

■集計方法
 撮影された画像について種名や個体数等の判別を行い、調査地点別・月別・時間別に個体数を集計した。

結果概要（スペースに収まるように入力してください）

以下に示す個体数は撮影された延べ個体数である。全調査地点で合計2,534個体、そのうち哺乳類は2,264個体であった（表1）。最も個体数が多かった哺乳類はタヌキの657頭で、次いでキツネ601頭、ツキノワグマ200頭、外来種のハクビシンが151頭、カモシカ121頭と続いた。正確な種まで同定できた確認種数は哺乳類14種、鳥類10種であった。撮影個体数が特に多かった調査地点としては、1：397個体、5：365個体、6：355個体などが挙げられる。種数について見ると、調査地点5で16種という結果となった。ニホンジカについては15箇所から合計40頭が撮影され、2つの調査地点から計2頭のメスが撮影された。また、ニホンジカ同様近年分布の北上傾向が見られるイノシシが、調査地5で3頭、調査地点25で1頭それぞれ撮影された。



ニホンジカみ♀（調査地22：9月2日） イノシシ（調査地5：10月26日） ハクビシン（調査地4：7月4日）

問い合わせ	東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター 〒018-3201 秋田県山本郡藤里町藤琴字大関添24-3 TEL：0185-79-1003 IP：050-3160-5865 ≪原本（データ）の帰属について≫
-------	---

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。
 注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。
 注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

備考

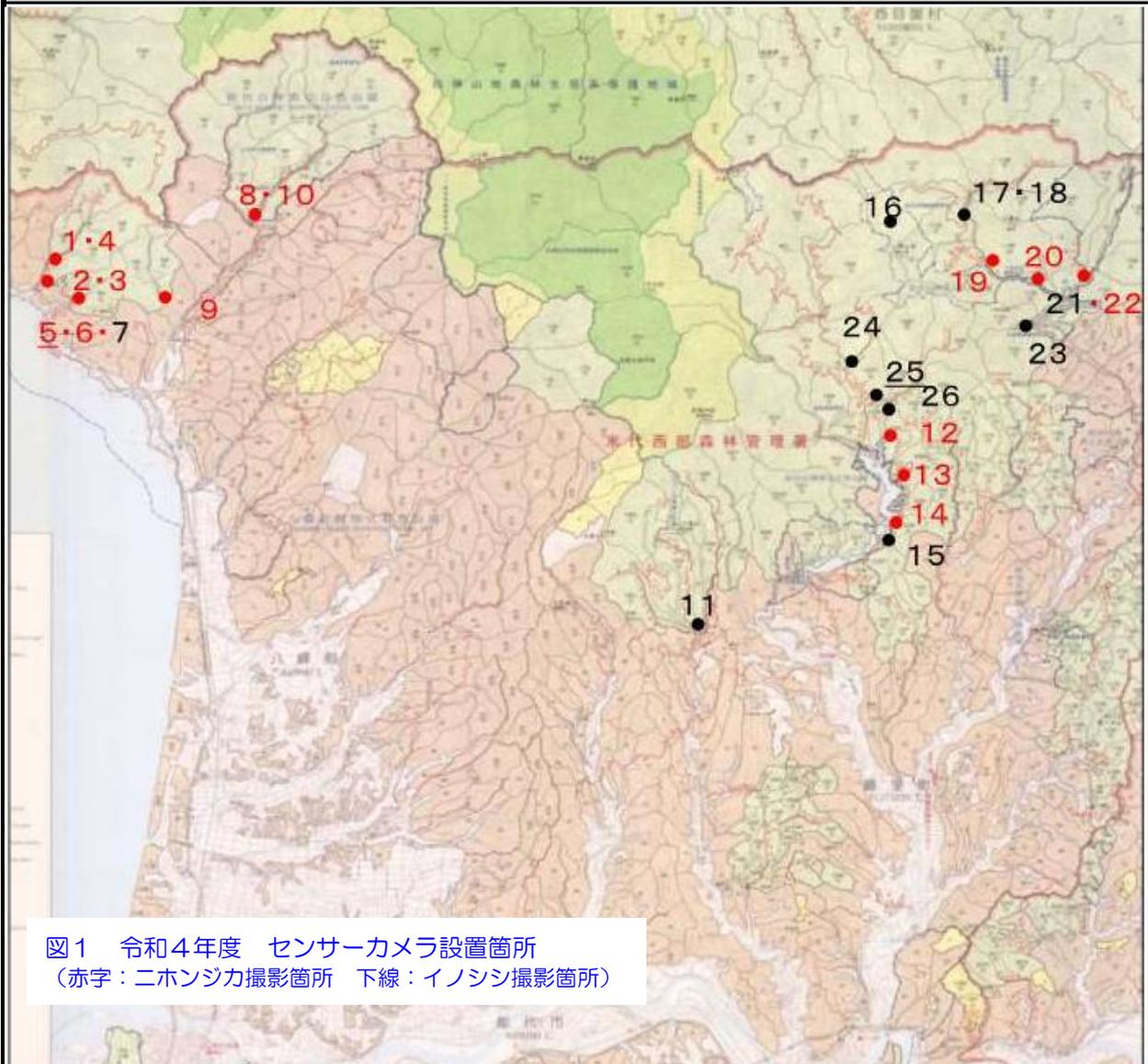


図1 令和4年度 センサーカメラ設置箇所
(赤字：ニホンジカ撮影箇所 下線：イノシシ撮影箇所)

表1 センサーカメラによる各調査地点の確認種・個体数

種名 ²⁾	調査地点																										合計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	
ニホンザル <i>Macaca fuscata</i>	5			3	7	2	5	1	3	2	1	4		1	2		8	4		1			1				50
キツネ <i>Vulpes vulpes</i>	152	5	1	105	78	78	6	26	21	100	8	2	2			11	2		2	1			1				601
タヌキ <i>Nyctereutes procyonoides</i>	85	20		56	187	97	25	6	36	17	12	15	6	5	5	49	12	1	14	4		1	3	1			657
ウキノグマ <i>Ursus thibetanus</i>	45	2	2	21	34	6	1	5		1	1	1	11	2	2	22	8	4	11	3	4	3	5	1	4	1	200
テン <i>Martes melampus</i>	21			7	5	5			1	1	3	1				7	12	7					1				71
イタチ <i>Mustela itatsi</i>							2	4	1		1	1								1							9
アナグマ <i>Meles meles</i>	5	1	1	7	9	14	16			11	2	3	1	2	1	4	1		3	4			3				88
ハビドン <i>Paguma larvata</i>	39	1	17	4	41	10	4	5		5	1				1	10	2	5	5			1					151
イネコ <i>Felis catus</i>	2			3						1																	6
イノシシ <i>Sus scrofa</i>					3																				1		4
ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>	7	2	6	1	4	3		1	4	2		3	1	1					1	1		3					40
カモシカ <i>Capricornis crispus</i>	5		13	4	17	4	11	3	6			2	9	5	4		1	4	13	1	2	13	1		3		121
ニホンリス <i>Sciurus lis</i>			1		2	2	2		34			27	4	2		1			2								75
ニホンノウサギ <i>Lepus brachyurus</i>	1			2	2	2	1	1		1	1	2				4	3		6	3	5		3				36
不明哺乳類	21	1	5	2	7	16	21		39	2	1	5	3	1	12		2		7	1	1	4	3		1		155
哺乳類 個体延べ数合計	388	31	30	228	359	268	100	47	155	136	34	64	40	19	14	111	57	25	57	30	12	21	23	5	8	2	2264
哺乳類 種数合計 ⁴⁾	11	5	7	11	12	10	10	8	11	7	8	10	9	7	5	8	9	7	9	9	3	4	9	2	3	1	15
ヤマドリ <i>Syrnaticus soemmerringii</i>					1				1		1	11	4	2	1	4			20	15	15		2	1			78
キジハト <i>Streptopelia orientalis</i>	4			7	3	46			2	16		2	1			9	17		11								118
アオサキ <i>Ardea cinerea</i>	1																										1
ハシロコ <i>Corvus macrorhynchos</i>																			1								1
シロハラ <i>Turdus pallidus</i>																					1						1
アオケウ <i>Picus awokera</i>					1																						1
カケス <i>Garrulus glandarius</i>	1			2	1		2		2			3				1	3	1			1						17
マシロ <i>Zoothera sibirica</i>																	1										1
クロクミ <i>Turdus cardis</i>									2																		3
アトリ <i>Fringilla montifringilla</i>						41																					41
不明鳥類	3	1	1												1					1	1						8
鳥類 個体延べ数合計	9	1	1	9	6	87	2	0	7	16	1	16	5	3	2	18	18	0	32	17	17	0	2	1	0	0	270
鳥類 種数合計 ⁴⁾	3	0	0	2	4	2	1	0	4	1	1	3	2	1	2	5	2	0	3	2	0	1	1	0	0	1	11
全個体延べ数合計	397	32	31	237	365	355	102	47	162	152	35	80	45	22	16	129	75	25	89	47	29	21	25	6	8	2	2534
全種数合計 ⁴⁾	14	5	7	13	16	12	11	8	15	8	9	13	11	8	7	13	11	7	12	11	5	4	10	3	3	1	26

1) 連写の場合は、一連の撮影で写った最大個体数
2) 哺乳類と鳥類の種名・配列は、日本の哺乳類[改訂2版](2008)及び日本鳥類目録 改訂第7版(2012)に従った
3) 延べ撮影頭数/CN×10. 詳細は本文参照
4) 不明種は種数に含めていない

ID ^{注1)}	公開レベル ^{注1)}	保管形式 ^{注1)}	保管場所 ^{注1)}	前回ID	
報告書名称 / 調査名称	令和4年度 白神山地周辺地域（青森県側）における冬期ニホンジカ分布調査			発行年月/報告年月	
				2023年	4月
				資料形式 ^{注2)} 報告書	
調査機関	東北森林管理局 津軽白神森林生態系保全センター	委託機関			
調査開始年	2022年 11月	調査期間	2022年 11月	～	2023年 3月
調査頻度 ^{注2)}	毎年 一 一	調査時期 ^{注2)}	秋 冬		
モニタリング計画	2017年3月 改訂	区分 ^{注2)}	IB	大区分 ^{注2)} 2	小区分 ^{注2)} (3)
調査箇所・範囲 ^{注3)}			調査手法		
<input type="checkbox"/> 核心地域 <input type="checkbox"/> 緩衝地域 <input checked="" type="checkbox"/> 周辺地域 <input checked="" type="checkbox"/> GPS等の位置データあり			■目的 白神山地世界遺産地域モニタリング計画の重点調査項目に挙げられているニホンジカの生息域を把握するため、白神山地周辺の越冬場所と考えられる低標高地域において、晩秋から早春にかけて赤外線センサーカメラによる調査を実施した。		
 <p>※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。</p>			■センサーカメラ設置箇所 白神山地周辺地域の西側に位置する深浦町の国有林内に、各箇所1台ずつ合計13台を設置した（図1）。令和4年11月18日に調査を終了した「令和4年度 白神山地周辺地域（青森県側）における中・大型哺乳類調査」の調査地点1、5～7、9、11～12、14及び31～35のカメラを、ニホンジカ調査用に冬期間も継続して設置し、更に過去にニホンジカのものだと思われる痕跡が発見された地点に、追加で2台設置した。		
			■調査期間 令和4年11月18日～令和5年3月29日		
			■使用機器 ・TREL10J（株）GI Supply：3台（図1：地点1、6、9） ・TREL10J-D（株）GI Supply：3台（図1：地点12、31、32） ・TREL18J-D（株）GI Supply：7台（図1：地点5、7、11、14、33～35）		
			■集計方法 撮影されたニホンジカの性別及び個体数を記録したほか、その他に撮影された哺乳類・鳥類についても調査地点ごとにカウントして集計した。		
結果概要（スペースに収まるように入力してください）					
調査期間中、ニホンジカは6箇所から計25個体撮影され、性別はオスが全個体であった。ニホンジカ同様に分布拡大が懸念される種として、ハクビシンが3箇所から23個体撮影され、また、同じく分布の北上傾向が見られるイノシシが、4箇所から7個体撮影された。 ニホンジカも含め撮影された全ての動物の個体数を集計したところ、全調査地点で合計461個体、そのうち哺乳類は454個体であった（表1）。最も個体数が多かった種はタヌキの135個体で、次いでキツネ63個体、ニホンノウサギ44個体、カモシカ34個体、ニホンザル33個体、テン32個体、ニホンジカ25個体と続いた。正確な種まで同定できた確認種数は哺乳類14種、鳥類は2種であった。 撮影個体数が特に多かった調査地点としては、NO.5：70個体、NO.33：69個体、NO.12：62個体などが挙げられる。種数について見ると、NO.31～NO.33の10種が最大で、次いでNO.5、NO.12、NO.34の9種、NO.7、NO.14の8種という結果となった。					
 <p>ニホンジカ♀ (NO.32：11月23日)</p>		 <p>ニホンジカ♀ (NO.33：2月2日)</p>		 <p>ニホンジカ♀ (NO.34：11月23日)</p>	
東北森林管理局 津軽白神森林生態系保全センター 〒038-2761 青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字舞戸町字東阿部野70-82 TEL：0173-72-2931 FAX：0173-72-2932					
問い合わせ ≪原本（データ）の帰属について≫					

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。

注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。

注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

備考



令和4年度 センサーカメラによる各調査地点の確認種・個体数(11月18日～3月29日)

哺乳類	種名(和名)	調査地点														計
		1	5	6	7	9	11	12	14	31	32	33	34	35		
	ニホンザル	1		2	1	1	1		3	1		18	2	3	33	
	キツネ	1	9	19	2			10	6	4	1	8	1	2	63	
	タヌキ	1	29	1	2	3		32	35	8	6	13	3	2	135	
	ツキノワグマ					1									1	
	テン	2	5		9			3		3	3	3	3	1	32	
	イタチ							1							1	
	アナグマ		1								1	1			3	
	ハクビシン		13					6	4						23	
	イエネコ														0	
	イノシシ				2			1	1			3			7	
	ニホンジカ			1	2				1		7	13	1		25	
	カモシカ		5	2		5		4	1	5		7	3	2	34	
	ニホンリス	1									6		3		10	
	ニホンノウサギ		2	3	8	3		2		6	9	2	3	6	44	
	不明ネズミ類		3							5	1				9	
	不明哺乳類		3	2	1			3	7	7	3		3	5	34	
	計	6	70	30	27	13	1	62	58	39	37	68	22	21	454	
鳥類	ヤマドリ														0	
	キジバト									1					1	
	アオサギ														0	
	不明鳥類									2	3	1			6	
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	1	0	0	7	
	総計	6	70	30	27	13	1	62	58	42	40	69	22	21	461	



ハクビシン (NO.5: 12月17日)



イノシシ (NO.7: 2月14日)

ID ^{注1)}	公開レベル ^{注1)}	保管形式 ^{注1)}	保管場所 ^{注1)}	前回ID
-------------------	----------------------	---------------------	---------------------	------

報告書名称 /調査名称	令和4年度 白神山地周辺地域（秋田県側）における冬期ニホンジカ分布調査 報告書	発行年月/報告年月	
		2023年 3月	3月
		資料形式 ^{注2)}	報告書

調査機関	東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター	委託機関	
------	-----------------------	------	--

調査開始年	2019年 11月	調査期間	2022年 12月 ~ 2023年 3月
-------	-----------	------	----------------------

調査頻度 ^{注2)}	毎年	調査時期 ^{注2)}	秋 冬
---------------------	----	---------------------	-----

モニタリング計画	2017年3月 改訂	区分 ^{注2)}	ⅡB 大区分 ^{注2)} 2 小区分 ^{注2)} (1) (3)
----------	------------	-------------------	--

調査箇所・範囲 ^{注3)}	調査手法
------------------------	------

核心地域
 緩衝地域
 周辺地域

GPS等の位置データあり

※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。

■目的
白神山地世界遺産地域モニタリング計画の重点調査項目に挙げられているニホンジカの生息域を把握するため、白神山地周辺地域の越冬場所と考えられる低標高地域（国有林及び民有林）において、晩秋から早春にかけて赤外線センサーカメラによる調査を実施した。

■センサーカメラ設置箇所
白神山地世界遺産地域周辺（秋田県側）に位置する国有林に2台（図-3）、民有林に6台（図-1及び2）、計8台設置した。

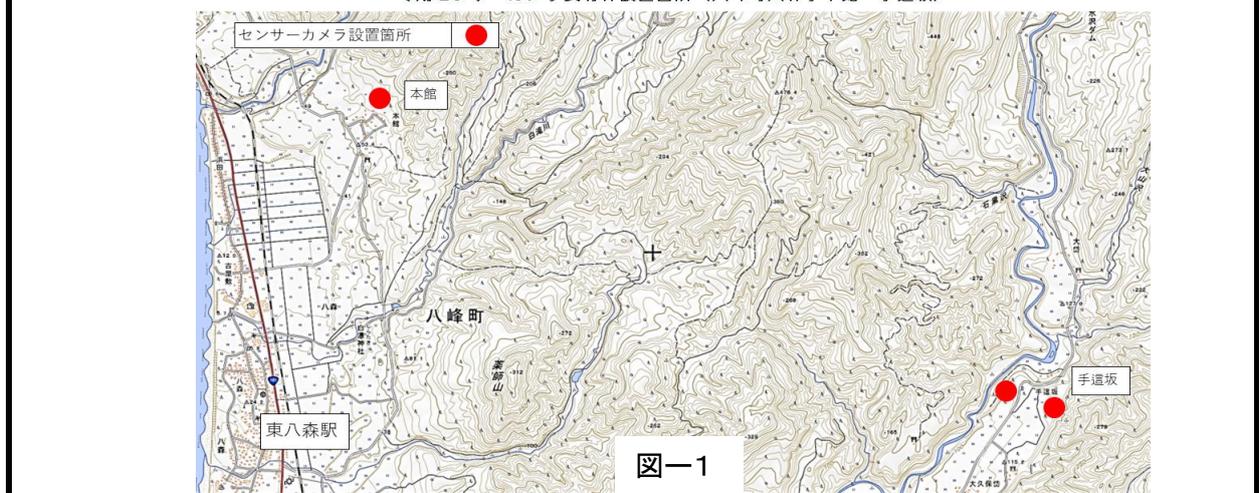
■調査期間
令和4年12月12日～令和5年3月29日

■使用機器
TREL10J-D（株）GI Supply）：8台

■集計方法
撮影されたニホンジカの個体数の記録及び、その他に撮影された哺乳類についても調査地点毎に集計した。

結果概要（スペースに収まるように入力してください）

ニホンジカは、小入川国有林にて雄雌不明の1頭（写真-1）が撮影されたのみであった。
冬期センサーカメラ民有林設置箇所（八峰町八森字本館・手這坂）



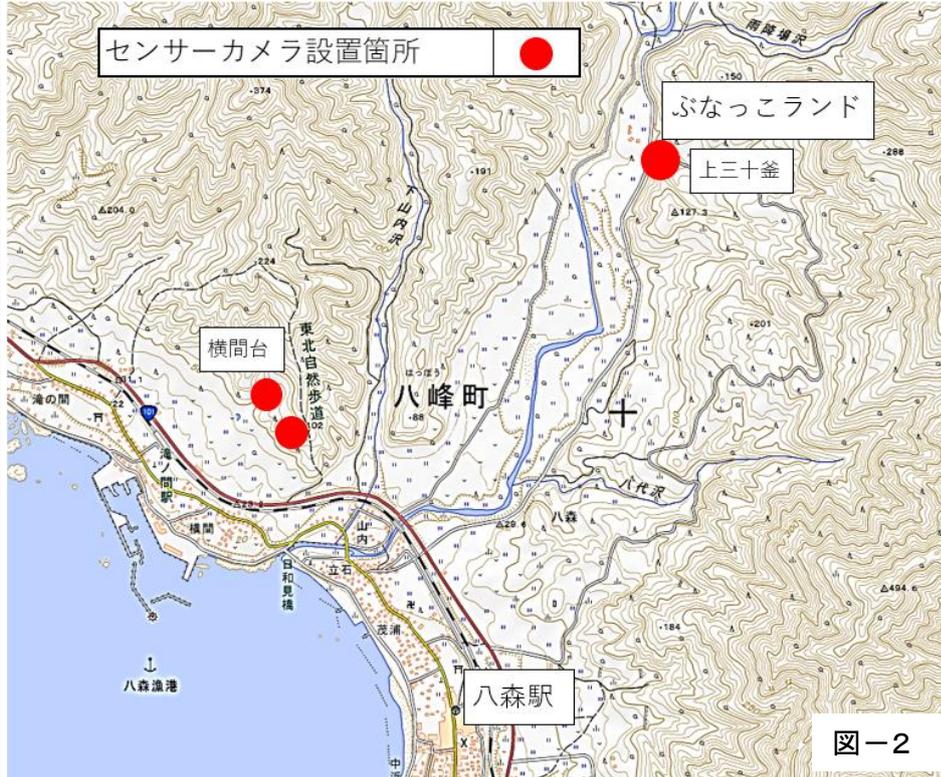
東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター
〒018-3201 秋田県山本郡藤里町藤琴字大関添24-3
TEL：0185-79-1003 IP：050-3160-5865

問い合わせ
《原本（データ）の帰属について》

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。
注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。
注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

備考

冬期センサーカメラ民有林設置箇所（八峰町八森字横間台・上三十釜）



冬期センサーカメラ国有林設置箇所（八峰町八森字小入川）

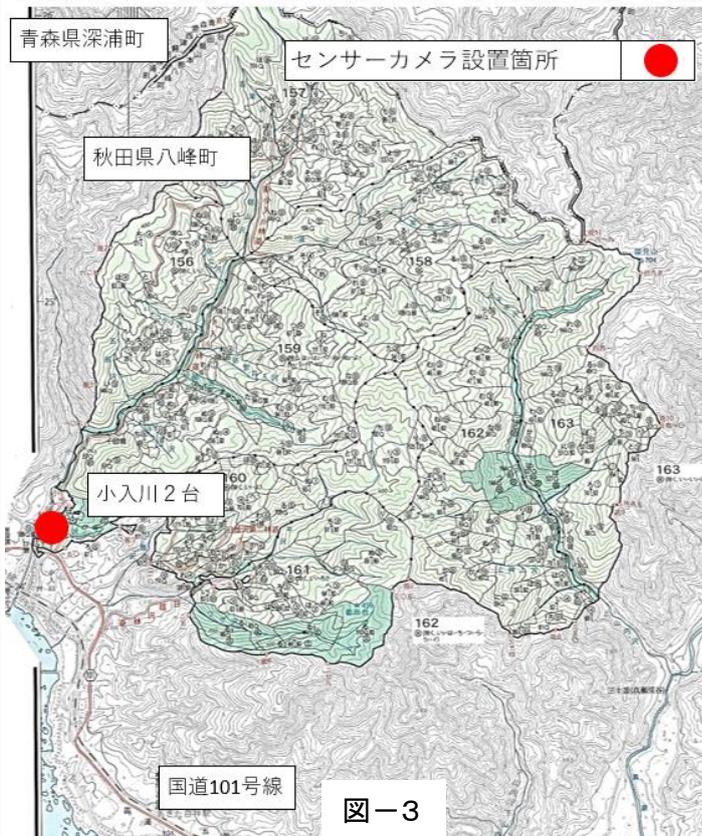


写真-1

ID ^{注1)}	公開レベル ^{注1)}	保管形式 ^{注1)}	保管場所 ^{注1)}	前回ID
報告書名称 /調査名称	令和4年度 白神山地周辺地域等（青森県側）におけるニホンジカ痕跡調査			発行年月/報告年月
				2023年 4月
調査機関	東北森林管理局 津軽白神森林生態系保全センター	委託機関		
調査開始年	2023年 2月	調査期間	2023年 2月 ~ 2023年 3月	
調査頻度 ^{注2)}	毎年	調査時期 ^{注2)}	冬	
モニタリング計画	2017年3月 改訂	区分 ^{注2)}	ⅡB 大区分 ^{注2)} 2 小区分 ^{注2)} (3)	
調査箇所・範囲 ^{注3)}			調査手法	
<input type="checkbox"/> 核心地域 <input type="checkbox"/> 緩衝地域 <input checked="" type="checkbox"/> 周辺地域 <input checked="" type="checkbox"/> GPS等の位置データあり			■目的 白神山地世界遺産地域モニタリング計画の重点調査項目に挙げられている、ニホンジカの生息域を把握するため、白神山地周辺の越冬場所と考えられる低標高地域において、任意踏査による痕跡調査を実施した。	
 <p>※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。</p>			■調査方法 冬期に、スギ林や傾斜が緩いなどのニホンジカが好む環境や、既にセンサーカメラにニホンジカが写った箇所を越冬候補地として絞り込み、現地ではスギ林の林縁部を中心に踏査し痕跡を採取した。また、3月25日には森林総合研究所東北支所と合同調査を実施した。 採取したサンプルは森林総合研究所東北支所にDNA分析を依頼し、(株)ニッポンジーン「ニホンジカ・カモシカ識別キット」を用いてニホンジカ・カモシカ・それ以外の動物かを識別した。	
			■調査地点 ・深浦町：24地点（表1）	
			■調査期間 令和5年2月22日～令和5年3月14日	
結果概要（スペースに収まるように入力してください）				
24地点で採取した痕跡のうち、20地点の食痕等（ササ、ヒメアオキ、糞、毛）からニホンジカの陽性反応が得られ、3地点でカモシカと判定された（表1・図1）。				
【痕跡調査をしたサンプル】				
 <p style="text-align: center;">（2月22日：ササ）</p>		 <p style="text-align: center;">（3月14日：糞）</p>		
問い合わせ	東北森林管理局 津軽白神森林生態系保全センター 〒038-2761 青森県西津軽郡鯉ヶ沢町大字舞戸町字東阿部野70-82 TEL：0173-72-2931 FAX：0173-72-2932			
≪原本（データ）の帰属について≫				

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。
 注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。
 注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

備考

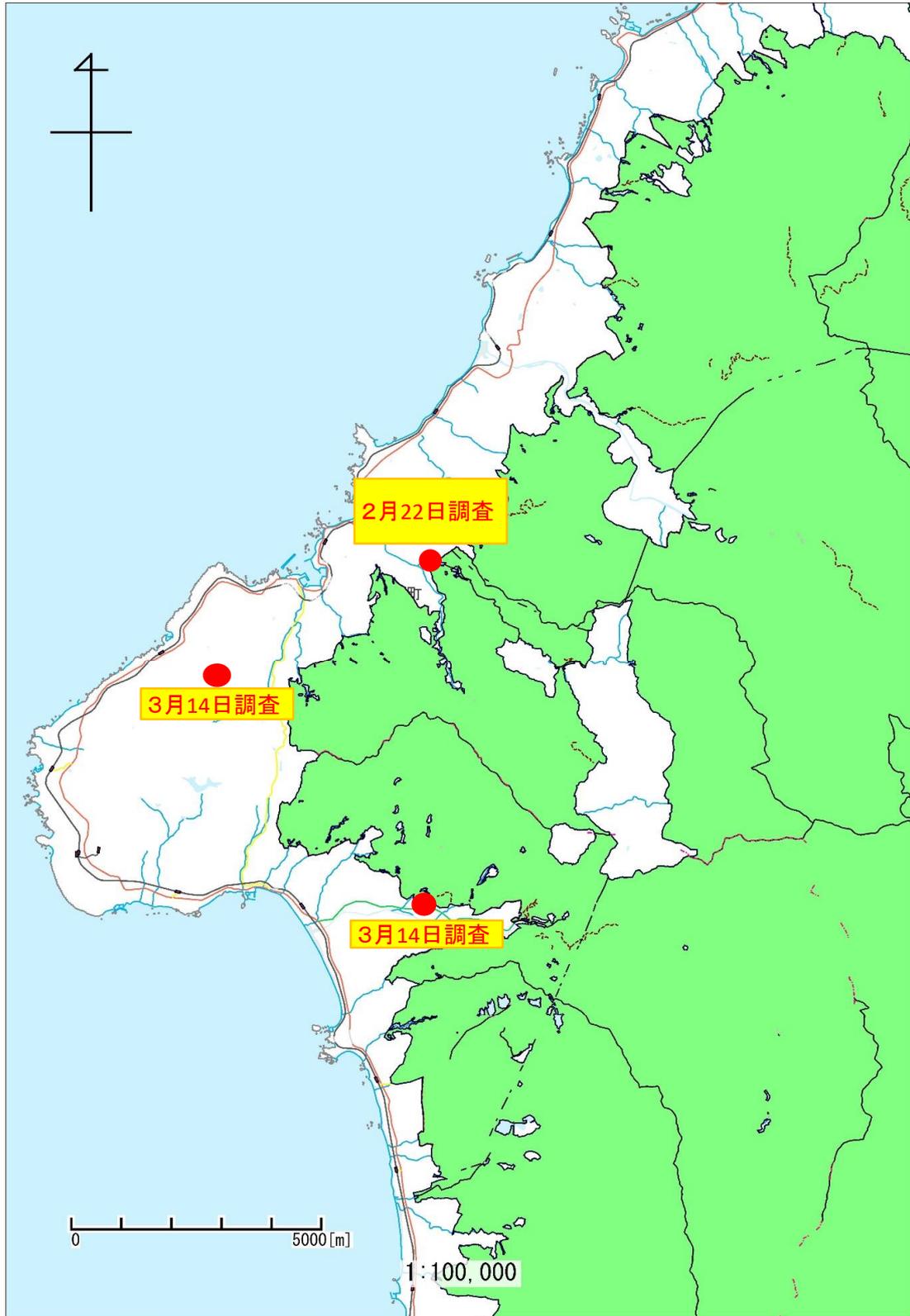
表1 令和4年度 冬期ニホンジカ痕跡調査 食痕等採取箇所

採集日	採取地	緯度	経度	サンプルNo.	サンプル種	抽出方法	検査数	ニホンジカ	カモシカ	備考
2023/2/22	青森県西津軽郡深浦町 マックスバリューストア	40.648289	139.955506	1	糞	つまようじ	1	1		1つの大きな塊 ※写真1
		40.648331	139.955497	2	糞	つまようじ	1	1		粒状 ※写真2
		40.648525	139.955331	3	ヒメアオキ	綿棒	2	2		
		40.648322	139.955636	4	ツル性植物の樹皮	綿棒	1	1		
		40.648272	139.955406	5	ササ	綿棒	1	1		
		40.648289	139.955411	6	ササ	綿棒	2	2		

採集日	採取地	ポイント	緯度	経度	サンプルNo.	サンプル種	抽出方法	検査数	ニホンジカ	カモシカ	備考
2023/3/6					1	フキノトウ	綿棒	1	-	-	津軽白神センター持参。何も出ず
2023/3/14	青森県深浦町(マックスバリューストア)		40.64693	139.956	2	毛	直接	1	1		国有林と民有林との境界。新しいメタ塩
		#183	40.64715	139.95857	3	ヒメアオキ	綿棒	9	-	-	何も出ず
		#184	40.64842	139.95597	4	ヒメアオキ	綿棒	8	3	2	重複なし
					5	ササ	綿棒	7	7		
		#185.2	40.64837	139.9553	6	糞	つまようじ	1	1		
		#186	40.64652	139.95566	7	ササ	綿棒	5	4		
	青森県深浦町横磯(ニンジン畑)	#187	40.60288	139.88331	8	糞	つまようじ	1	1		
		#188	40.60299	139.88333	9	糞	つまようじ	1	1		
					10	ササ	綿棒	20	14		
		高橋235	40.6021748	139.8823066	11	糞	つまようじ	1	1		
	青森県深浦町岩崎(白神ラインに向かう道沿い)	#189	40.58462	139.9452	12	糞	つまようじ	1	1		
		#190	40.58469	139.94467	13	糞	つまようじ	1	1		
		#191	40.58486	139.945	14	糞	つまようじ	1	1		
					15	樹種不明(樹皮はぎ)	綿棒	5	4		
		#192	40.58499	139.9456	16	ヒメアオキ	綿棒	20	4		
	青森県深浦町岩崎(白神ラインゲート付近)	40.581735	139.988432	17	ヒメアオキ2	綿棒	18		5		
		高橋237	40.5818564	139.9878675	18	糞	つまようじ	1		1	

備考

図1 令和4年度 冬期痕跡調査においてニホンジカの陽性反応が出た箇所



ID ^{注1)}	公開レベル ^{注1)}	保管形式 ^{注1)}	保管場所 ^{注1)}	前回ID
-------------------	----------------------	---------------------	---------------------	------

報告書名称 /調査名称	令和4年度 白神山地周辺地域（秋田県側）における冬期ニホンジカ痕跡調査	発行年月/報告年月	
		2023年 4月	2023年 4月
		資料形式 ^{注2)}	報告書

調査機関	東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター	委託機関	
------	-----------------------	------	--

調査開始年	2019年 12月	調査期間	2023年 3月 ~ 2023年 3月
-------	-----------	------	---------------------

調査頻度 ^{注2)}	毎年	調査時期 ^{注2)}	冬
---------------------	----	---------------------	---

モニタリング計画	2017年3月 改訂	区分 ^{注2)}	ⅡB 大区分 ^{注2)} 2 小区分 ^{注2)} (3)
----------	------------	-------------------	--

調査箇所・範囲 ^{注3)}	調査手法
------------------------	------

核心地域
 緩衝地域
 周辺地域

GPS等の位置データあり

※周辺地域における調査箇所は結果概要欄に示す。

■目的
白神山地世界遺産地域モニタリング計画の重点調査項目に挙げられているニホンジカの生息域を把握するため、白神山地周辺の越冬場所と考えられる低標高地域において、任意踏査による痕跡調査を実施した。

■調査方法
令和元年度 白神山地ニホンジカ対策検討業務報告書（東北地方環境事務所 2020）p93の白神山地越冬適地メッシュ図とGoogle Earthを活用して越冬候補地を絞り込み、併せてニホンジカ目撃情報のあった八峰町の民有林（スギ林）内を中心とし、3月15日に森林総合研究所東北支所と合同調査を実施した。
採取したサンプルは森林総合研究所東北支所にDNA分析を依頼し、ニホンジカ・カモシカ・それ以外の動物かを識別した。

■痕跡採取箇所数
・八峰町内民有林：2箇所

■調査期間
令和5年3月15日

結果概要（スペースに収まるように入力してください）

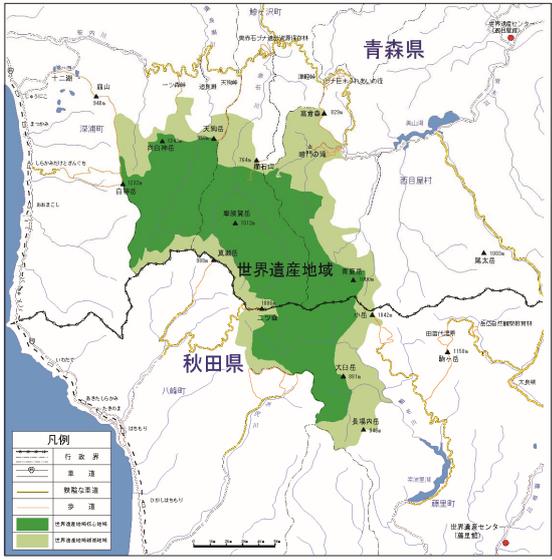
図-1 及び図-2 に示す2箇所にて採取した食痕や糞などの痕跡を森林総合研究所でDNA分析した結果、1箇所（図-2 八峰町役場向かいの森林）のサンプルから28例のニホンジカ陽性反応が示された。



問い合わせ
東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター
〒018-3201 秋田県山本郡藤里町藤琴字大関添24-3
TEL：0185-79-1003 IP：050-3160-5865

《原本（データ）の帰属について》

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。
注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。
注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

ID ^{注1)}	公開レベル ^{注1)}	保管形式 ^{注1)}	保管場所 ^{注1)}	前回ID	
報告書名称 /調査名称	令和5年度 小岳のハイマツ群落におけるマツノクロホシハバチの生息状況調査			発行年月/報告年月	
				2023年	11月
調査機関	東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター		委託機関		
調査開始年	2007年	9月	調査期間	2023年	9月
調査頻度 ^{注2)}	毎年	1回	調査時期 ^{注2)}	秋	
ヒカリツ計画	2017年3月	改訂	区分 ^{注2)}	IIA	大区分 ^{注2)}
				2	小区分 ^{注2)}
				(1)	
調査箇所・範囲 ^{注3)}			調査手法		
<input type="checkbox"/> 核心地域 <input checked="" type="checkbox"/> 緩衝地域 <input type="checkbox"/> 周辺地域 <input checked="" type="checkbox"/> GPS等の位置データあり			■目的 ハイマツの葉を食害するマツノクロホシハバチの防除手段を検討する上での基礎資料として、小岳山頂一帯に生育するハイマツ群落でハバチ類の発生状況を記録する。		
 <p>※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。</p>			■調査地・調査方法 小岳山頂に至る登山道沿いで最初にハイマツ立木が見られる箇所(N40° 25' 51.23" /E140° 11' 56.81" 標高976m:写真1)から小岳山頂(N40° 25' 57.99" /E140° 11' 52.08" 標高1042.5m:写真2)まで約250mの登山道を調査ルートとして設定し(図1)、ルートの左右約2mの範囲に生息するハバチ類の幼虫の集団数をカウントする。発生数が少なく、可能であれば個体数まで記録する。 幼虫を確認した箇所は緯度経度を記録し、図面上にプロットする。調査ルート外のハイマツについては、登山道上から8倍の双眼鏡を使用して加害状況を確認する。ルート外の被害箇所については、植生保護の観点から緯度経度の計測は行わず、ルート上から確認した位置を図面上に記録するのみとする。		
			■調査時期 マツノクロホシハバチの食害ピーク時に合わせ、9～10月の秋期に1回実施する。		
結果概要 (スペースに収まるように入力してください)					
令和5年9月16日に現地調査を行ったところ、ハバチ類の幼虫は見つからず、ハイマツの葉が食害により枯死している様子も見受けられなかった。今年はハイマツに被害を及ぼす程度のハバチ類の大発生は起こらなかったものと推測される。					
 <p>写真-1 調査ルート付近のハイマツ1</p>			 <p>写真-2 調査ルート付近のハイマツ2</p>		
問い合わせ	東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター 〒018-3201 秋田県山本郡藤里町藤琴字大関添24-3 TEL: 0185-79-1003 ≪原本(データ)の帰属について≫				

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。
 注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。
 注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

備考



図1 調査ルート位置図 (電子国土Web 地理院地図使用)

※参考写真データ

調査ルート外のハイマツについて、8倍の双眼鏡による目視調査に加え、令和5年度は試験的に高倍率デジタルカメラを用いた撮影調査も行った。

登山道から離れた場所にあるハイマツ個体群をランダムに5箇所撮影し、パソコンモニターで確認した調査結果でも、ハバチ類は確認されなかった。



写真-3 登山道から広角で撮影



写真-4 写真-3のハイマツ個体群を高倍率で撮影



写真-5 写真-3のハイマツ個体群を最大倍率で撮影

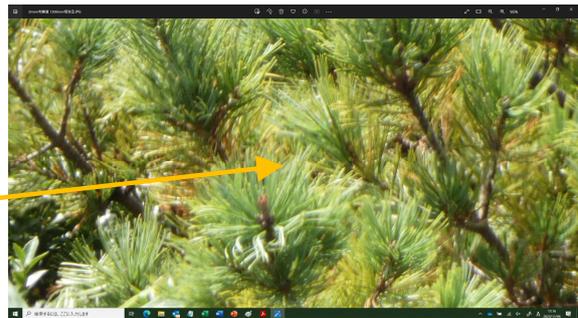


写真-6 写真-5の写真をパソコンモニター上で拡大表示

ID ^{注1)}	公開レベル ^{注1)}	保管形式 ^{注1)}	保管場所 ^{注1)}	前回ID	
報告書名称 /調査名称	令和5年度 合同パトロール（青森県側）			発行年月/報告年月	
				2023年	11月
調査機関	東北森林管理局 津軽白神森林生態系保全センター	委託機関			
調査開始年	2012年	調査期間	2023年	7月	～ 2023年
調査頻度 ^{注2)}	毎年	調査時期 ^{注2)}	夏		
ヒアリング計画	2017年3月 改訂	区分 ^{注2)}	Ⅲ	大区分 ^{注2)}	1
			小区分 ^{注2)}	(3)	
調査箇所・範囲 ^{注3)}			調査手法		
<input checked="" type="checkbox"/> 核心地域 <input checked="" type="checkbox"/> 緩衝地域 <input checked="" type="checkbox"/> 周辺地域 <input type="checkbox"/> GPS等の位置データあり			■目的 入山者に対する啓発指導の強化を図るため、7～9月の登山シーズン中に年数回、関係機関合同によるパトロールを毎年実施。 合同パトロールの際には、 ①禁止されている立木の伐採・損傷・植物の採取、たき火、標識類の状況等の確認 ②入山者に対するマナーや入山手続き等の指導を実施。 なお、禁漁区の取り締まり権限を有する警察署や関係漁業協同組合にも参加を要請。		
 <p>※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。</p>			■実施計画 ○第1回：令和5年7月26日（水） 実施コースは、大川、ブナ林散策道及び白神岳登山口の3コース ○第2回：令和5年9月2日（土） 実施コースは、暗門溪谷、笹内川及び白神岳の3コース		
結果概要（スペースに収まるように入力してください）					
■実施結果 ○第1回：令和5年7月26日（水） 大川、ブナ林散策道及び白神岳登山口の3コースで実施し、24名が参加。 無断伐採等の違法行為やたき火等のマナー違反の確認は無し。 また、ブナ林散策道入口及び白神岳登山口駐車場において、マナー向上を促進するための啓発活動を実施し、約20名の入山者にマナー遵守への協力を呼びかけ。 なお、今回のパトロールには、要請に応じた鱈ヶ沢警察署が参加。					
○第2回：令和5年8月29日（土） 暗門溪谷、笹内川及び白神岳登山口の3コースで実施し、25名が参加。 無断伐採等の違法行為やたき火等のマナー違反の確認は無し。 また、暗門溪谷入口及び白神岳登山口駐車場において、マナー向上を促進するための啓発活動を実施し、約35名の入山者にマナー遵守への協力を呼びかけ。 なお、今回のパトロールには、要請に応じた弘前警察署、鱈ヶ沢警察署及び弘前消防署が参加。					
問い合わせ	東北森林管理局 津軽白神森林生態系保全センター 〒038-2761 青森県西津軽郡鱈ヶ沢町大字舞戸町字東阿部野70-82 TEL：0173-72-2931 FAX：0173-72-2932 ≪原本（データ）の帰属について≫				

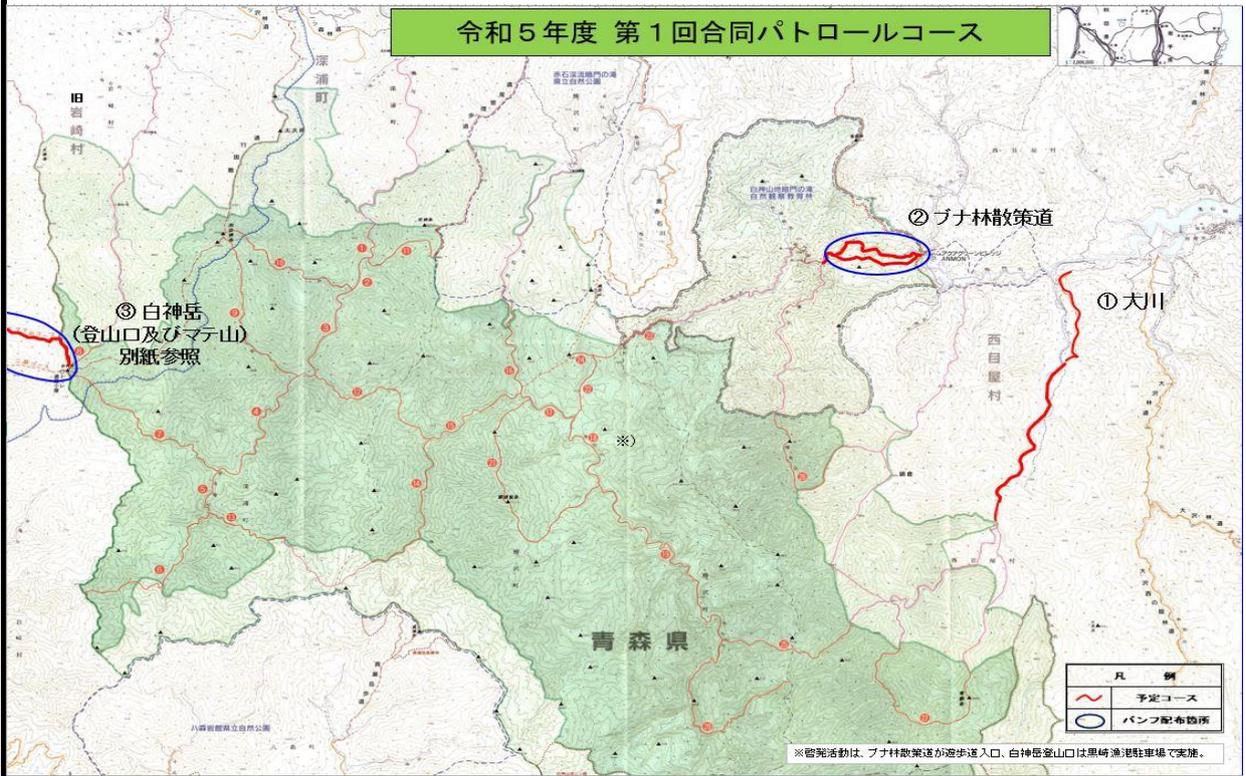
注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。

注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。

注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

備考

○第1回



大川コースの道中

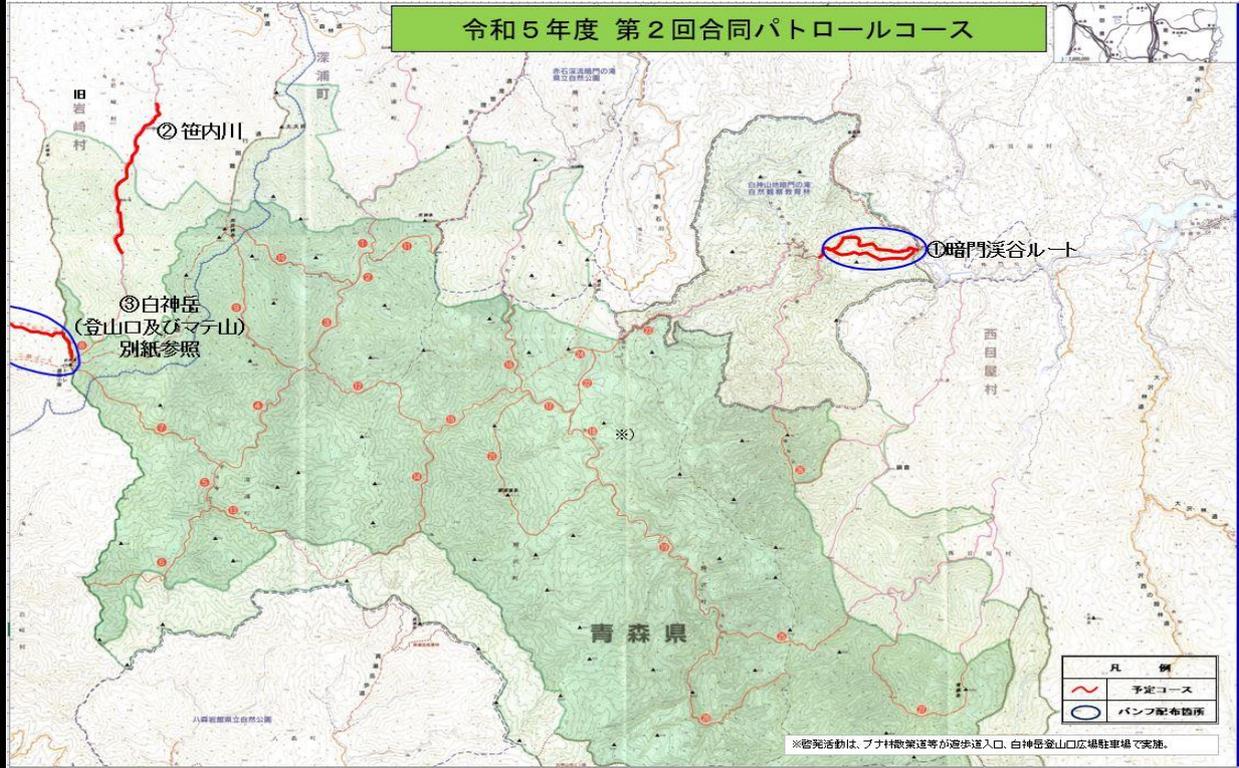


ブナ林散策道でマナーパンフの配布



白神岳登山道

○第2回



白神ラインの冠水（通行不可）



暗門溪谷入口でマナーパンフの配布



白神岳登山口入口

ID ^{注1)}	公開レベル ^{注1)}	保管形式 ^{注1)}	保管場所 ^{注1)}	前回ID
-------------------	----------------------	---------------------	---------------------	------

報告書名称 /調査名称	令和5年度 合同パトロール (秋田県側)	発行年月/報告年月	
		2023年	11月
		資料形式 ^{注2)}	

調査機関	東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター	委託機関	
------	-----------------------	------	--

調査開始年	2012年	調査期間	2023年	7月	~	2023年	9月
-------	-------	------	-------	----	---	-------	----

調査頻度 ^{注2)}	毎年	調査時期 ^{注2)}	
---------------------	----	---------------------	--

ヒアリング計画	2017年3月 策定	区分 ^{注2)}	Ⅲ	大区分 ^{注2)}	1	小区分 ^{注2)}	(3)
---------	------------	-------------------	---	--------------------	---	--------------------	-----

調査箇所・範囲 ^{注3)}	調査手法
------------------------	------

- 核心地域
 緩衝地域
 周辺地域
 GPS等の位置データあり



■目的
 入山者に対する啓発指導の強化を図るため、7~9月の登山シーズン中に年数回、関係機関合同によるパトロールを毎年実施。
 合同パトロールの際には、
 ①禁止されている立木の伐採・損傷・植物の採取、たき火、標識類の状況等の確認
 ②入山者に対するマナーや入山手続き等の指導を実施。

■実施計画
 ○第1回：令和5年7月8日(土)
 実施コースは、小岳、大滝(粕毛川)の2コース。なお、ニッ森コースはアクセス道が豪雨災害による通行止めのため未計画。
 ○第2回：令和5年9月9日(土)
 実施コースは、小岳、大滝(粕毛川)の2コース。なお、ニッ森コースはアクセス道が豪雨災害による通行止めのため未計画。

結果概要 (スペースに収まるように入力してください)

■実施結果
 ○第1回：令和5年7月8日(土)
 小岳、大滝(粕毛川)の2コースで実施し、41名が参加。
 無断伐採等の違法行為やたき火等のマナー違反の確認は無し。
 ○第2回：令和5年9月16日(土)
 雨天のため9月16日へ延期の上実施。前日の降雨等により低体温症のおそれがあったため大滝(粕毛川)コースを中止し、小岳コースで19名が参加。
 無断伐採等の違法行為やたき火等のマナー違反の確認は無し。

問い合わせ	東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター 〒018-3201 秋田県山本郡藤里町藤琴字大関添24-3 TEL: 0185-79-1003 ≪原本(データ)の帰属について≫
-------	---

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。
 注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。
 注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

備考

○第1回合同パトロール

令和5年度 第1回合同パトロールコース(秋田県側)位置図



小岳コース



大滝(粕毛川)コース

○第2回合同パトロール

令和5年度 第2回合同パトロールコース(秋田県側)位置図



小岳コース



小岳コースにおける
登山者へのマナーパンフレットの配布

ID ^{注1)}	公開レベル ^{注1)}	保管形式 ^{注1)}	保管場所 ^{注1)}	前回ID
-------------------	----------------------	---------------------	---------------------	------

報告書名称 /調査名称	森林病虫害被害航空探査	発行年月/報告年月	
		2023年	11月
		資料形式 ^{注2)}	

調査機関	青森県林政課	委託機関	
------	--------	------	--

調査開始年		調査期間	2023年	4月	～	2023年	9月
-------	--	------	-------	----	---	-------	----

調査頻度 ^{注2)}	毎年	3	回	調査時期 ^{注2)}	—	—	—
---------------------	----	---	---	---------------------	---	---	---

ヒアリング計画	2014年3月	策定	区分 ^{注2)}	II A	大区分 ^{注2)}	2	小区分 ^{注2)}	(1)
---------	---------	----	-------------------	------	--------------------	---	--------------------	-----

調査箇所・範囲 ^{注3)}	調査手法
------------------------	------

- 核心地域
 緩衝地域
 周辺地域
 GPS等の位置データあり



※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。

【目的】
松くい虫被害及びナラ枯れ被害の早期発見

【実施時期】
松くい虫被害を確認しやすい5月、9月を目処に実施する。
また、ナラ枯れ被害を確認しやすい8月にも実施する。

【調査範囲】
県防災ヘリコプター「しらかみ」を活用した上空探査を行う。
松くい虫被害は平成27年7月以降、深浦町広戸・追良瀬・深浦地区で確認されており、松林が多く分布している海岸地域を重点的に探査する。
ナラ枯れ被害は平成28年10月以降、被害が年々拡大しており、松くい虫被害対策と同様、海岸地域を重点的に探査する。

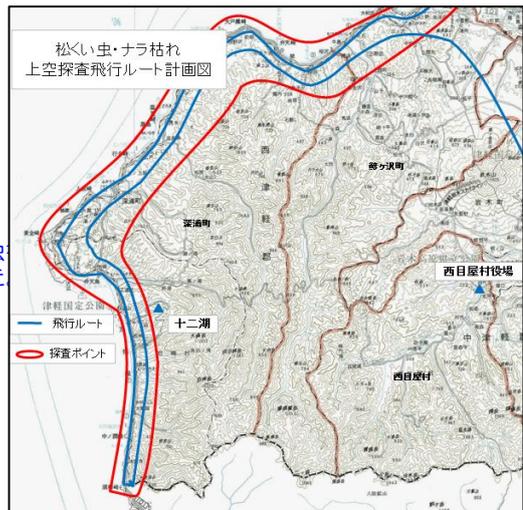
- 【実施方法】**
- ・県防災ヘリコプターには3名の県担当者等が搭乗し、探査を実施
 - ・被害木を発見次第、デジカメ等で撮影し位置情報を記録
 - ・被害木の位置を図面に転記し、後日詳細に現地調査

結果概要（スペースに収まるように入力してください）

【飛行ルート】
青森空港（青森市）を出発し、鱒ヶ沢町～深浦町を中心に探査。
また、ヘリコプターの残燃料に応じて、弘前市方面も探査。

【実施状況】
令和5年8月24日に実施
※5月、9月のフライトは天候不良等により未実施。

【調査結果】
複数本の枯れたマツ類および多数の枯れたナラ類を確認した。
その後の現地調査等により、深浦町広戸・追良瀬地区において松くい虫弘前市、鱒ヶ沢町、深浦町、つがる市の各所でナラ枯れ被害を確認した



問い合わせ
青森県林政課
〒030-8570 青森県青森市長島一丁目1-1
TEL017-734-9507

《原本（データ）の帰属について》

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。
注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。
注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

令和5年度白神山地世界遺産地域モニタリング実施計画・実績（暫定）

機関名：東北地方環境事務所

番号	新規/継続	モニタリング計画（区分）	調査名	調査概要（目的・開始年・方法・実施内容等）	調査主体（窓口）
1	継続	I-1-(1)-①	白神山地気象観測調査	<p>〔目的〕 世界遺産地域の自然環境の基礎情報として気象データを継続的に把握。</p> <p>〔開始年〕 平成10年度（毎年）</p> <p>〔方法〕 西目屋館、ニツ森、櫛石山に自動気象観測ステーションを設置し、通年の気象観測（温度、雨量、日射、積雪、風向風速、湿度、地温、気圧）を実施。</p> <p>〔実施状況〕 4月～11月に施設のメンテナンス・データ回収を実施。令和4年8月に櫛石山観測塔の太陽光パネルが損壊し、データが欠損していたが、令和5年8月に修繕を行い観測を再開した。</p>	東北地方環境事務所
2	継続	I-1-(2)-①	白神山地世界遺産地域ブナ林微気象調査	<p>〔目的〕 ブナ林モニタリング調査の基礎情報として継続的に把握。</p> <p>〔開始年〕 平成11年度（毎年）</p> <p>〔方法〕 研究者及びボランティアとの協働。ブナ林モニタリング調査3サイトの各1カ所にデータロガーを設置し、気温、湿度及び地温を観測。</p> <p>〔実施状況〕 令和5年度は、白神ラインおよび奥赤石林道の通行止めにより、実施できなかった。</p>	世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会・東北地方環境事務所

番号	新規/継続	モニタリング計画(区分)	調査名	調査概要(目的・開始年・方法・実施内容等)	調査主体(窓口)
3	継続	IIA-1-(1)-①	白神山地世界遺産地域ブナ林モニタリング調査	<p>〔目的〕 白神山地のブナ林の森林動態の経年変化を観察し、ブナ林の更新過程に関する白神山地の地域特性を把握し、将来の気候変動や環境汚染が更新動態に与える影響を早期に検出する。</p> <p>〔開始年〕 平成11年度(毎年)</p> <p>〔方法〕 研究者及びボランティアとの協働。核心地域の櫛石山周辺に100m×100mを3サイト設置し、毎木・低木・ササ・実生及びリター・種子供給量をモニタリング。</p> <p>〔実施状況〕 令和5年度は、白神ラインおよび奥赤石林道の通行止めにより、実施できなかった。</p>	世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会・東北地方環境事務所
4	継続	IIB-1-(3)-①	白神山地世界遺産地域ブナ林フェノロジー調査	<p>〔目的〕 白神山地のブナ林のフェノロジーの把握。</p> <p>〔開始年〕 平成21年度(毎年)</p> <p>〔方法〕 櫛石山の自動気象観測ステーションに定点カメラを設置し、ブナの定点観測写真の撮影を行い、ブナの開葉・開花・結実・黄葉・落葉等のフェノロジー調査を実施。</p> <p>〔実施状況〕 太陽光パネル損壊のため、令和4年8月中旬以降はデータが欠損していたが、9月末に代替カメラを設置し、観測を再開した。</p>	東北地方環境事務所
5	継続	IIB-2-(1)-① IIB-2-(1)-②	中・大型哺乳類定点カメラ調査	<p>〔目的〕 白神山地における中・大型哺乳類の生息状況の把握。分布域拡大が懸念されるニホンジカ・イノシシ・アライグマ等の侵入状況の把握も視野に入れて行う。</p> <p>〔開始年〕 平成26年度(毎年)</p> <p>〔方法〕 自動撮影カメラ15台を用いて定点調査を行う。道路通行止のため、令和4年度は白神ライン沿いとニツ森へは設置していない。</p> <p>〔実績(暫定)〕 10月回収分までで、白神岳でニホンジカのオス1頭が確認された。</p>	東北地方環境事務所

番号	新規/継続	モニタリング 計画（区分）	調査名	調査概要（目的・開始年・方法・実施内容等）	調査主体（窓口）
6	継続	III-1-(1)-①	白神山地世界遺産地域及び周辺地域入山者数調査	<p>〔目的〕 白神山地世界遺産地域及び周辺地域の利用者数の把握。</p> <p>〔開始年〕 平成12年度（毎年）</p> <p>〔方法〕 赤外線センサーによる自動入山者数カウンターを世界遺産地域及び周辺利用地点の主要登山道の入口8カ所に設置し、5月～11月まで計測する。</p> <p>〔実施状況〕 道路通行止のため、白神ライン沿線及びニツ森への設置は行わなかった。</p>	東北地方環境事務所

令和5年度白神山地世界遺産地域モニタリング実施計画・実績（暫定）

機関名：東北森林管理局

番号	新規/継続	モニタリング計画（区分）	調査名	調査概要（目的・開始年・方法・実施内容等）	調査主体（窓口）
1	継続	I-1-(2) IIA-1-(1) IIB-1-(3) III-1-(1)	白神山地世界遺産地域における原生的ブナ林の長期変動調査	<p><目的> 寒冷・多雪な気候下にある世界遺産地域の原生的なブナ林の変動を明らかにする。</p> <p><開始年> ヤナダキノサワ固定調査区（青森県側）：平成10年度（毎年） 粕毛川源流部固定調査区（秋田県側）：平成11年度（毎年）</p> <p><方法> 倒壊林冠発生木調査、積雪深調査、林内気温調査、入り込み利用調査及び哺乳類調査（自動撮影カメラ16台（青森県側13台、秋田県側3台））</p> <p><実施内容> 青森県側は白神ライン通行止めにより未実施。秋田県側は林内気温観測と積雪深調査を1か所ずつのみの実施で、後の調査箇所は7月の大雨により八峰町道が崩落したため調査地へ行けなくなり未実施。</p>	東北森林管理局
2	継続	IIA-2-(1)	小岳のハイマツ群落におけるマツノクロホシハバチの生息状況調査	<p><目的> ハイマツの葉を食害するマツノクロホシハバチの防除手段を検討する上での基礎資料として、小岳山頂一帯に生育するハイマツ群落でハバチ類の発生状況を記録。</p> <p><開始年> 平成19年度（毎年）</p> <p><方法> 小岳山頂に至る登山道沿いで最初にハイマツ立木が見られる箇所から小岳山頂まで約250mの登山道を調査ルートとして設定し、ルートの左右約2mの範囲に生息するハバチ類の幼虫の集団数をカウントする。</p> <p><実施内容> マツノクロホシハバチの食害ピーク時に合わせ、9～10月の秋期に1回実施。 ※令和3年度及び令和4年度は、粕毛・大滝・小岳林道の災害復旧工事で通行止めのため不実行。令和5年度は9月16日に実施し、ハバチ類の発生は確認されなかった。</p>	藤里森林生態系保全センター

番号	新規/継続	モニタリング計画(区分)	調査名	調査概要(目的・開始年・方法・実施内容等)	調査主体(窓口)
3	継続	ⅡB-1-(1) ⅡB-2-(1) Ⅲ1-(3)	白神山地世界遺産地域実態把握調査	<p><目的> 指定ルートの利用に伴うヒューマンインパクトによる自然環境への影響の把握。</p> <p><開始(実施)年> 平成13年度、平成21年度及び22年度</p> <p><方法> 指定ルート等において、①横断形状測定、②歩道等硬度測定、③歩道の荒廃状況、④踏圧による周辺の植生変化、⑤里山植生の侵入状況、⑥希少植物の出現状況、⑦野営跡地周辺の地形と植生変化、⑧鳥獣類の生息状況等の調査を実施するとともに、過去の調査結果との比較を行う。</p> <p><実施内容> 令和3年度及び令和4年度は入札不調、令和5年度は白神ライン通行止めにより未実施。</p>	東北森林管理局
4	継続	ⅡB-2-(1) (3)	白神山地周辺地域における中・大型哺乳類調査	<p><目的> 中・大型哺乳類の生息状況を把握するための定点カメラ調査。分布域拡大が懸念されるニホンジカの侵入状況も把握。</p> <p><開始年> 平成26年度(毎年)</p> <p><方法> 周辺区域の国有林において、自動撮影カメラ63台(青森県側35台、秋田県側28台)を設置し、定点調査を行う。</p> <p><実施内容> 4月～11月まで実施。</p>	津軽白神森林生態系保全センター 藤里森林生態系保全センター
5	継続	ⅡB-2-(3)	ニホンジカの越冬場所の把握(冬期ニホンジカ分布調査、冬期ニホンジカ痕跡調査)	<p><目的> 低密度状態にあるニホンジカを越冬地で効率的に捕獲することにつなげるため、越冬場所を把握。</p> <p><開始年> 令和元年度</p> <p><方法> 周辺地域の越冬場所と考えられる海岸方面の低標高地に自動撮影カメラを設置するとともに、森林総合研究所東北支所と連携し痕跡調査を実施。(予定)</p> <p><実施内容> 12月～3月まで実施。(予定)</p>	津軽白神森林生態系保全センター 藤里森林生態系保全センター

番号	新規/継続	モニタリング計画(区分)	調査名	調査概要(目的・開始年・方法・実施内容等)	調査主体(窓口)
6	継続	Ⅲ1-(3)	合同パトロール	<p><目的> 入山者に対する啓発指導の強化を図る。</p> <p><開始年> 平成24年度(毎年)</p> <p><方法> 青森県側、秋田県側それぞれで、遺産地域を中心に、複数のコースを選定し、違法行為等を確認するとともに、登山口等において、マナー向上を促進するための啓発活動を実施。</p> <p><実施内容> 7～9月の登山シーズン中に青森県と秋田県各2回、関係機関合同によるパトロールを実施。</p>	津軽白神森林生態系保全センター 藤里森林生態系保全センター
7	継続	Ⅲ1-(3)	巡視員、職員等による巡視	<p><目的> 入山者に対する啓発指導、違法行為等の確認、遺産地域及び周辺部の森林や登山道等の状況把握。</p> <p><開始年> 平成22年度(毎年)</p> <p><方法> 「白神山地世界遺産地域巡視マニュアル」を活用し、職員やグリーンサポートスタッフ、各機関の巡視員、白神山地世界遺産地域巡視員等による巡視を実施。</p> <p><実施内容> 通年で実施。</p>	津軽森林管理署、米代西部森林管理署、津軽白神森林生態系保全センター、藤里森林生態系保全センター、連絡会議関係機関等

令和5年度白神山地世界遺産地域モニタリング実施計画・実績（暫定）

機関名：青森県林政課

番号	新規/継続	モニタリング 計画（区分）	調査名	調査概要（目的・開始年・方法・実施内容等）	調査主体（窓口）
1	継続	II A-2-(1)	森林病虫害被害調査	<p>【目的】 松くい虫被害及びナラ枯れ被害木の早期発見</p> <p>【方法及び実施時期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 県職員等の巡視活動（地上目視調査） 県職員：通年、巡視活動委託：4月～11月 2 デジタル航空写真撮影による枯死木の探査 R5撮影実績：深浦町～鱒ヶ沢町の日本海側沿岸202km² 3 県防災ヘリコプター等による上空探査 探査日：8月24日 ※飛行ルートは「希少猛禽類の分布地域」に入らないよう留意 	林政課

令和4年度におけるニホンジカの生息状況

1. ニホンジカ目撃情報の整理

ニホンジカ対策の基礎データとして、ニホンジカ目撃情報(自動撮影カメラ等による撮影情報、有害捕獲、死体の確認、一般からの通報等)を整理しました。

令和4年度は、白神山地周辺市町村において合計200件229頭(うち世界遺産核心地域内1件1頭)が確認されました。

※白神山地周辺…青森県鱒ヶ沢町、西目屋村、深浦町、秋田県能代市、八峰町、藤里町の範囲

関係機関において、4～11月(一部のカメラは3月まで設置)に、合計101台のカメラを設置しました。実施機関の内訳を以下に整理しました。

表1 自動撮影カメラ設置台数

実施機関			台数
環境省	東北地方環境事務所	西目屋自然保護官事務所	24
林野庁	東北森林管理局	津軽白神森林生態系保全センター	35
		藤里森林生態系保全センター	26
青森県			16
合計			101

ニホンジカ目撃情報のうち、自動撮影カメラ等により写真が撮影され、ニホンジカであることが明確な情報を以下に整理しました。

表2 世界遺産核心地域におけるニホンジカ目撃情報

日時	場所	頭数	個体情報	撮影機関
10月20日 9:37	秋田県藤里町 三蓋沢合流点周辺	1	オス成獣 (満4歳以上)	森林管理局 自動撮影カメラ撮影

表3 写真・死体を伴う情報の件数

区分	機関	件数	頭数
自動撮影カメラ	環境省	13	13
	林野庁	182	210
捕獲	秋田県	2	2
死亡個体		0	0
目撃撮影(写真撮影あり)	林野庁・一般	3	4
合計		200	229

※同一個体が撮影された場合でも、撮影時間・場所が異なる場合は別個体として計上しています。

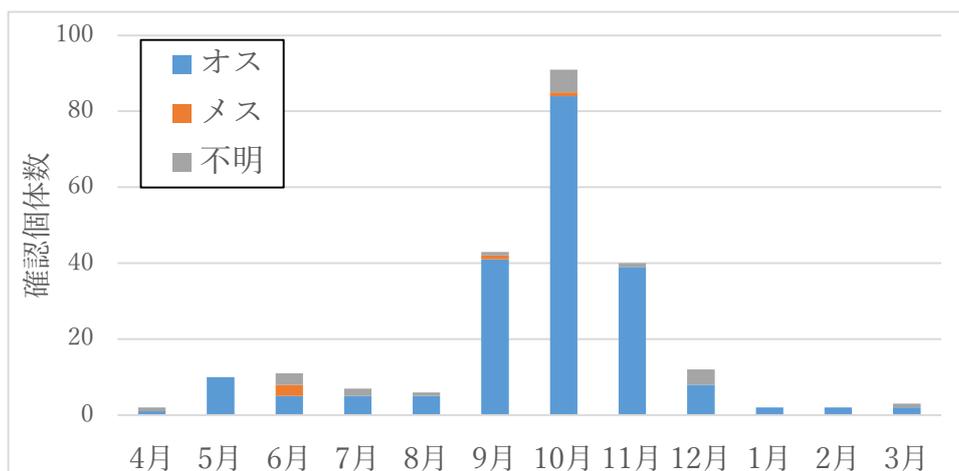


図1 令和4年度 月別確認個体数

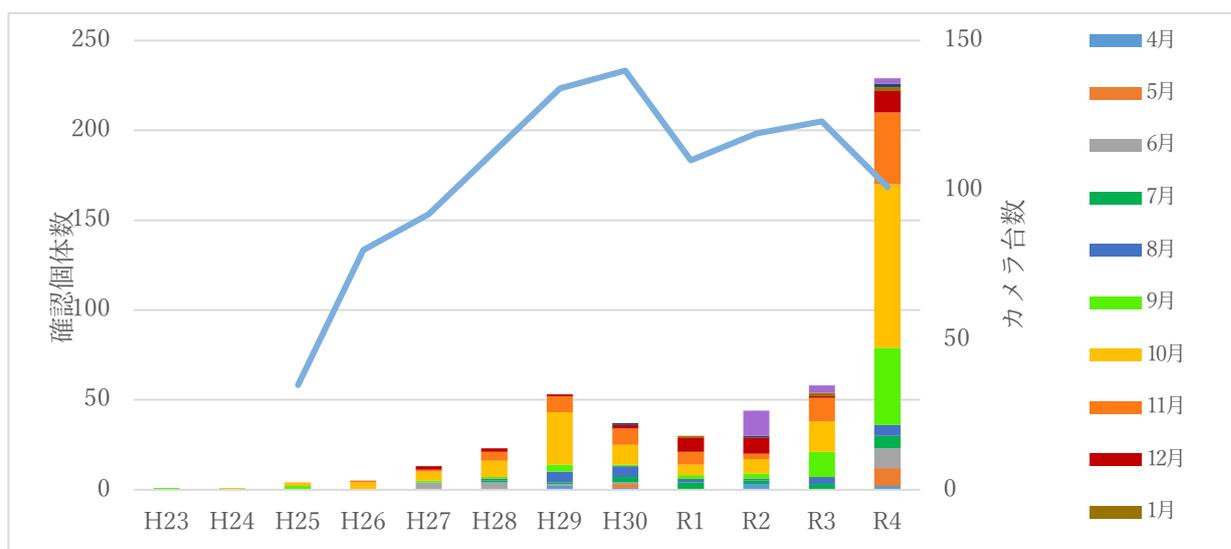


図2 H23～R4年度 自動撮影カメラ設置台数と月別確認個体数の推移

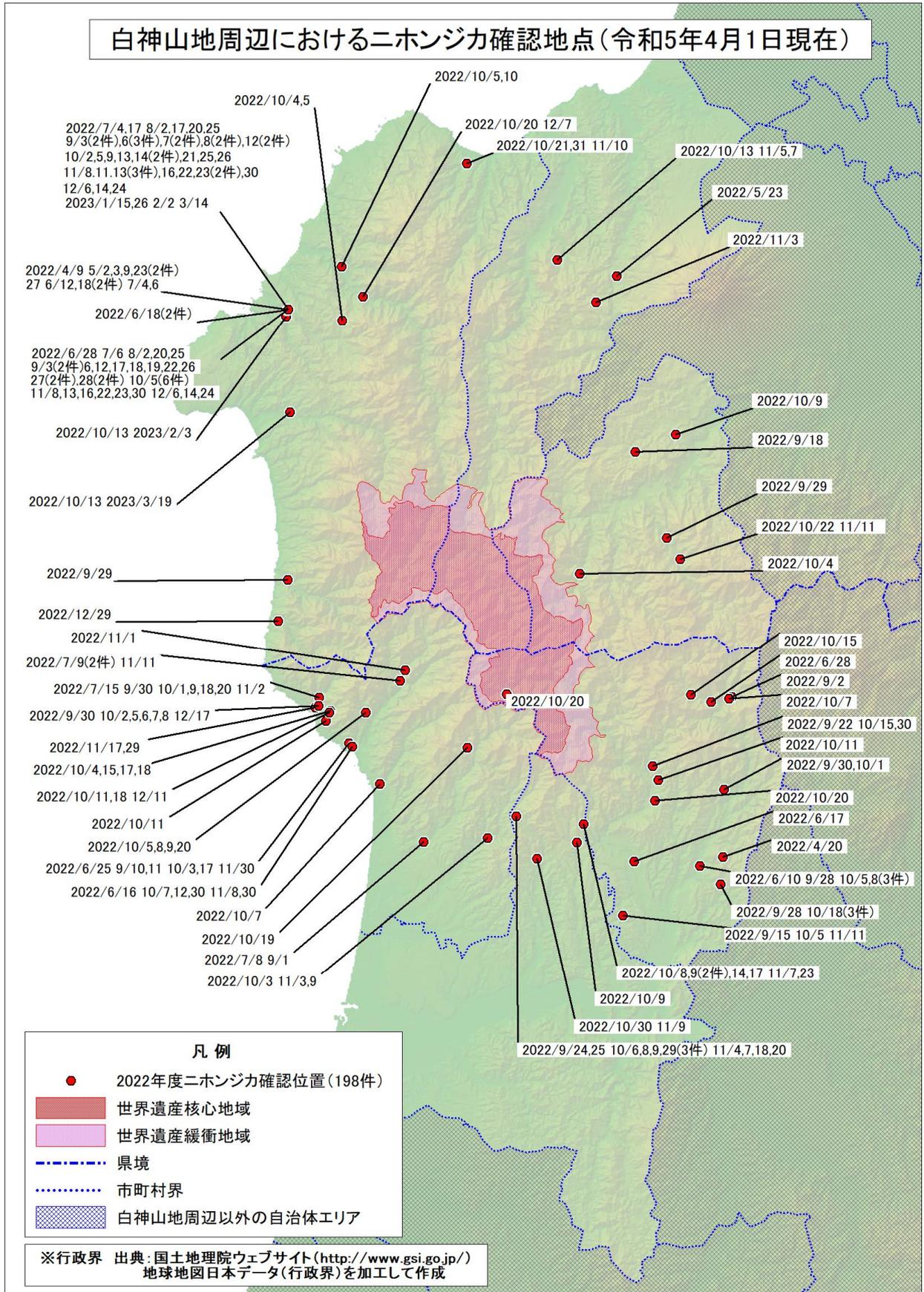


図3 令和4年度 白神山地周辺におけるニホンジカ確認地点(令和5年4月1日現在)

2. 糞・食痕識別調査

ニホンジカの可能性がある糞、食痕及び毛等について、15 サンプルを採取し分析を行いました。分析した 15 サンプルのうち、ニホンジカと反応が出たのは、8 サンプルでした。そのほかのサンプルは、ニホンカモシカの反応が2件、反応がなかったのが 5 件でした。

表 4 痕跡調査の結果 分析を行ったサンプル一覧

NO	採取日	採取物	採取場所	採取者	ニホンジカ・カモシカ識別判定結果
1	2022年2月9日	糞	青森県青森県深浦町・吾妻川下流	西目屋自然保護官事務所	カモシカ陽性
2	2022年3月28日	糞	青森県西目屋村・川辺	西目屋自然保護官事務所	シカ 陽性
3	2022年4月28日	糞	秋田県藤里町・粕毛林道	西目屋自然保護官事務所	反応なし
4	2022年4月29日	糞	秋田県藤里町・小岳	西目屋自然保護官事務所	反応なし
5		糞	秋田県藤里町・粕毛林道	西目屋自然保護官事務所	反応なし
6	2023年2月22日	糞	青森県深浦町・東股沢流域	西目屋自然保護官事務所	シカ 陽性 検査機関：森林総研（津軽白神生保全セ依頼）
7		糞（塊）	青森県深浦町・東股沢流域	西目屋自然保護官事務所	シカ 陽性
8		食痕（ササ）	青森県深浦町・東股沢周辺	西目屋自然保護官事務所	シカ 陽性
9		食痕（ヒメアオキ）	青森県深浦町・東股沢周辺	西目屋自然保護官事務所	カモシカ陽性
10		食痕（ヒメアオキ）	青森県深浦町・東股沢周辺	西目屋自然保護官事務所	シカ 陽性
11		糞（塊）	青森県深浦町・東股沢流域	弘前大学	シカ 陽性
12	2023年3月8日	糞	青森県深浦町・東股沢流域	林野庁	シカ 陽性
13		糞	青森県深浦町・東股沢流域	林野庁	反応なし
14		糞	青森県深浦町・白神ライン	林野庁	シカ 陽性
15	2023年3月28日	糞	青森県西目屋村・川辺	林野庁	反応なし

3. 咆哮調査

ニホンジカのオスは、繁殖期に縄張りを主張したり、メスへの呼びかけとして、咆哮することが知られています。ニホンジカの生息状況把握を目的として、録音機を用いた咆哮調査を実施しました。

白神山地の周辺地域 17 地点で調査を実施し、そのうち 12 地点で咆哮が録音されました。

表 5 咆哮調査の概要

No	市町村	地点名	設置期間		咆哮の有無	咆哮回数
			設置日	回収日		
1	深浦町	北金ヶ沢	9/16	11/17	○	21
2		風合瀬	9/16	11/17	○	8
3		吾妻川	9/16	11/17	○	20
4		長慶平	9/16	11/17	○	9
5		岩崎	9/15	11/17	○	1
6		津梅川	9/15	11/17	-	0
7	鱒ヶ沢町	小森町	9/16	11/17	○	3
8		松代町	9/16	11/17	○	3
9	西目屋村	鷹巣山	9/16	11/17	-	0
10		馬ノ背川	9/16	11/17	-	0
11	八峰町	日蔭沢	9/15	11/17	○	4
12		上山内川	9/15	11/17	-	0
13	能代市	岩屋沢	9/13	11/18	○	4
14	藤里町	松の木沢	9/13	11/7	-	0
15		里沢	9/13	11/18	○	2
16		高石沢	9/13	11/18	○	19
17		粕毛	9/13	11/18	○	14
合計					12地点	108回

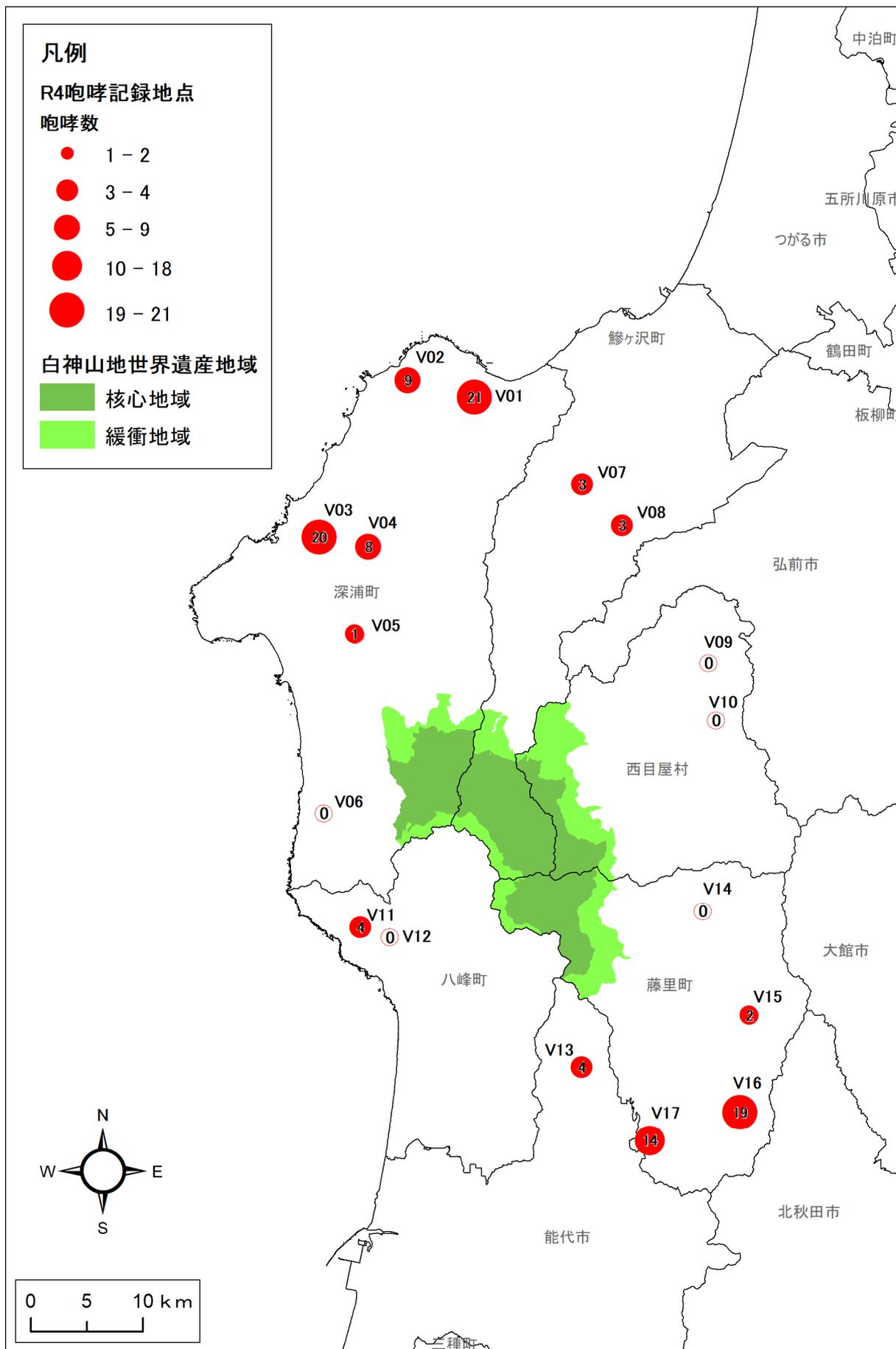


図 4 録音機設置地点及び咆哮確認位置

令和4年度ニホンジカ対策事業結果

機関名：東北地方環境事務所

※ 朱書きは第22回科学委員会時での暫定実績からの変更点。

番号	新規/継続	実施地域	事業名	事業内容（目的・方法・実施状況・成果など）	実施者
1	継続	遺産地域 監視地域	ニホンジカ咆哮調査	<p>〔目的〕 世界遺産地域周辺におけるシカの定着状況の調査として試験的に実施。</p> <p>〔方法〕 繁殖期に当たる9～11月に録音機を17ヶ所に設置し、シカの咆哮を記録した。シカの咆哮パターンにより、定着の段階（オスの縄張り形成、メスの存在等）を確認する。</p> <p>〔成果〕 周辺地域17地点で調査を実施し、そのうち周辺地域の12地点で計108回の咆哮が録音された。</p>	東北地方環境事務所
2	継続	遺産地域 監視地域	中・大型哺乳類調査（自動撮影カメラ調査）	<p>〔目的〕 世界遺産地域及び周辺地域における中・大型哺乳類の継続的モニタリング。ニホンジカ、イノシシ等の侵入状況の把握。</p> <p>〔方法〕 自動撮影カメラを世界遺産地域及び周辺地域に18台設置した。（楡石山周辺調査区に9台、登山道や林道沿いに9台）</p> <p>〔成果〕 本調査では今年度のニホンジカの撮影はなかった。</p>	東北地方環境事務所
3	継続	遺産地域	遺産地域における植生モニタリングの試行	<p>〔目的〕 世界遺産地域における、シカの植生への影響を把握するためのモニタリング体制の構築。</p> <p>〔方法〕 植生の希少性やシカの嗜好性等の観点から、シカの植生への影響を把握するためのモニタリングの試行を行った。</p> <p>〔成果〕 特定植物群落内6カ所で調査を実施した。オニシオガマ群落、トガクシショウマ群落でシカもしくはカモシカの食痕が確認された。</p>	東北地方環境事務所

番号	新規/継続	実施地域	事業名	事業内容（目的・方法・実施状況・成果など）	実施者
4	継続	遺産地域 監視区域 周辺地域	目撃情報の集約	<p>[目的] シカ対策検討の基礎データとして、青森県、秋田県、岩手県におけるシカ生息情報を集約する。</p> <p>[方法] 連絡会議において収集したシカ情報（日時、場所、成幼・雌雄の別、情報の根拠等）を統一フォーマットに整理、共有する。</p> <p>[成果] 核心地域で1件1頭、周辺地域で199件228頭の目撃情報があった。これらの多くは9～11月の秋期に目撃され、大半がオスの成獣個体であったが、メスの成獣も5頭確認された。</p>	東北地方環境事務所

令和5年度ニホンジカ対策事業計画・実績（暫定）

機関名：東北地方環境事務所

※ 令和5年10月15日現在での暫定実績

番号	新規/継続	実施地域	事業名	事業内容（目的・方法・予算・実施内容など）	実施者
1	継続	世界遺産地域・周辺地域	中・大型哺乳類調査	<p><目的> 世界遺産地域及び周辺地域における中・大型哺乳類の生息状況の把握及びニホンジカやイノシシ、アライグマ等の侵入状況の把握。</p> <p><実施内容> 自動撮影カメラを世界遺産地域及び周辺地域に15台設置し、4月から11月まで実施する予定。</p> <p><実績(暫定)> 6月に白神岳でニホンジカ(オス)1頭が撮影された。</p>	東北地方環境事務所
2	継続	世界遺産地域・周辺地域	ニホンジカ対策	<p><目的> 世界遺産地域及び周辺地域におけるニホンジカの生息・定着状況の把握、植生への影響の把握。</p> <p><実施内容> ①9月から11月にオスジカの鳴き声を録音する録音機を設置し、生息・定着状況を調査する。 ②ニホンジカの影響を受けやすい植生や希少植生等について、モニタリングを行う。 ③一般からの目撃情報を収集する他、関係機関の確認情報等を集約・共有する。 ④青森県側の侵入経路と推測される黒石～矢立峠にかけて痕跡調査等を実施する。 ⑤捕獲体制構築に向け、関係者のヒアリング・捕獲方法の検討を実施する。</p> <p><実績(暫定)> ①9月～11月に録音機を17地点に設置し、データの回収を行った。回収したデータは解析中。 ②8区間においてルートセンサスを実施した。 ③白神山地周辺において計73件86頭の目撃があった。 ④黒石から矢立峠周辺ので痕跡調査を実施した。</p>	東北地方環境事務所

令和4年度ニホンジカ対策事業実績

機関名：東北森林管理局

※ 朱書きは第22回科学委員会時での暫定実績からの変更点。

番号	新規/継続	実施地域	事業名	事業内容（目的・方法・実施状況・成果など）	実施者
1	継続	遺産地域 監視区域	白神山地世界遺産地域 及び周辺地域における 中・大型哺乳類調査（自 動撮影カメラによる定点 調査）	<p><目的> 白神山地における中・大型哺乳類の継続的モニタリング。ニホンジカ等の侵入状況の把握。</p> <p><方法> 自動撮影カメラ78台（青森県側45台、秋田県側33台）を設置し、関係機関と連携・協力の上、定点調査による情報収集を行う。</p> <p><実施状況・成果> 令和3年度の12月～3月については、越冬場所を把握するため、海岸方面の低標高地域に自動撮影カメラ21台（青森県側18台、秋田県側3台）を設置。ニホンジカの撮影状況は、青森県側では2箇所から4回（2年度21回）、秋田県側では撮影されていない（2年度4回）、性別はオス3回、メスは青森県の国有林で初の1頭（深浦町）が撮影された。また、イノシシについては撮影されていない。</p> <p>令和4年度は、4月中旬～11月下旬まで実施する計画で、10月31日までにデータ回収されたもので青森県側で4箇所から43回（3年度6回）、秋田県側で4箇所から5回（3年度10回）の計8回撮影。性別はオス7回（3年度15回）、メス1回（藤里町）（3年度1回（藤里町））であった。また、イノシシについては青森県側で8箇所から11回撮影され、秋田県側は1箇所から2回撮影された。</p>	東北森林管理局 津軽白神森林生態系保 全センター 藤里森林生態系保全セ ンター

番号	新規/継続	実施地域	事業名	事業内容（目的・方法・実施状況・成果など）	実施者
2	継続	遺産地域 監視区域	痕跡調査	<p><目的> 森林総合研究所東北支所と連携し、ニホンジカのものと思われる食痕等を採取・分析して生息状況を確認。</p> <p><方法> 環境省の調査「越冬適地の解析」で抽出された越冬適地を中心に痕跡調査を実施し、食痕等を採取してニホンジカ・カモシカ識別キットを用いてDNAにより判定。</p> <p><実施状況・成果> ・海岸方面の低標高地(周辺部)において直営による痕跡調査を実施した。3月24～25日には森林総研東北支所との合同調査を実施し、その調査地点数は青森側5地点、秋田側6地点。採取した食痕や糞は森林総研東北支所にDNA識別検査を依頼。 ・痕跡調査の結果は別紙「秋田県八峰町・青森県深浦町シカ痕跡調査」のとおり。</p>	東北森林管理局 津軽白神森林生態系保全センター 藤里森林生態系保全センター
3	継続	遺産地域 監視区域 周辺地域 (3県域)	「ニホンジカ影響調査・簡易チェックシート」による調査	<p><目的> 東北局管内(東北5県)の国有林において、ニホンジカについての情報収集を強化するため、ニホンジカの生息域の現状、季節間移動や分布拡大等の変化、林業被害と自然植生への影響を把握し、地域関係者等と連携した効果的な被害防止対策を講じるための基礎資料とする。</p> <p><方法> 森林管理署及び森林生態系保全センターの職員が、林野巡視の際にニホンジカの日撃や痕跡を発見した場合はチェックシートに記入し、調査結果を整理。 また、国有林に入林する巡視員、請負事業者、猟友会等から目撃情報等を聞いた場合もチェックシートに記入する。 調査結果は、年度毎に集計のうえ、局ホームページで公表している。</p> <p><実施状況・成果> 調査時期は、消雪後から降雪時までとするが、冬期間の生息地等についても把握が必要なことから、降雪期についても調査に努める。</p>	東北森林管理局 津軽森林管理署 米代西部森林管理署 津軽白神森林生態系保全センター 藤里森林生態系保全センター 岩手県内各森林管理(支)署

番号	新規/継続	実施地域	事業名	事業内容（目的・方法・実施状況・成果など）	実施者
4	新規	遺産地域 監視区域 (青森県)	牛糞によるニホンジカ誘 引試験	<p><目的> ニホンジカの低密度地域におけるニホンジカの誘因方法の検証。</p> <p><方法> 牛糞と自動撮影カメラを設置し、牛糞に含まれるミネラル等の成分にニホンジカが誘引されるか否かを検証する。比較対象として別の場所にヘイキューブ等も設置して検証する。</p> <p><実施内容> 過去にニホンジカの痕跡や目撃情報があった深浦町の箇所に各1地点の計2地点に設置。</p>	東北森林管理局 津軽森林管理署 津軽白神森林生態系保 全センター
5	継続	周辺地域 (青森県)	シカ監視用自動撮影カメ ラ設置の協力(事業主 体:青森県)	<p><目的> 青森県に生息するシカの分布及び生息状況を把握すること(青森県実施要領)。</p> <p><方法> シカが出現されると想定される地点への自動撮影カメラの設置及び月1回の撮影データ回収を行い、シカが撮影された場合は県に情報する。</p> <p><実施状況・成果> 県から依頼あった2署・計5地点の国有林に、カメラを設置して監視に協力。 津軽署では撮影無し。三八上北署では、2地点(十和田市、野辺地町)で24頭(オス15、メス1、不明8)撮影。</p>	東北森林管理局 津軽森林管理署 三八上北森林管理署
6	継続	周辺地域 (青森県及び 秋田県)	侵入経路の把握(自動撮 影カメラの新規設置)	<p><目的> 白神山地へのニホンジカの侵入経路の把握。</p> <p><方法> 上記の青森県への自動撮影カメラ設置の協力に加えて、国有林においても、青森県及び秋田県の県境付近等に、新たに自動撮影カメラを設置。</p> <p><実施状況・成果> 青森県内2署の計3地点、秋田県内1署の6地点に設置。 津軽署では撮影無し。三八上北署でも撮影無し。米代東部署では、2地点(鹿角市、大館市)で15頭(オス8、メス3、不明4)撮影。</p>	東北森林管理局 津軽森林管理署 三八上北森林管理署 米代東部署

令和5年度ニホンジカ対策事業計画・実績（暫定）

機関名：東北森林管理局

※ 令和5年10月15日現在での暫定実績

番号	新規/継続	実施地域	事業名	事業内容（目的・方法・予算・実施内容など）	実施者
1	継続	遺産地域 監視区域	痕跡調査	<p><目的> 森林総合研究所東北支所、西目屋自然保護官事務所及び弘前大学と連携し、ニホンジカのものと思われる食痕等を採取・分析して生息状況を確認。</p> <p><方法> 海岸方面の低標高地で実施し、採取した食痕等については森林総合研究所東北支所等にDNA識別検査を依頼。</p> <p><実施内容> 冬期間を中心に実施。</p>	東北森林管理局 津軽白神森林生態系保全センター 藤里森林生態系保全センター 森林総合研究所東北支所 西目屋自然保護官事務所 弘前大学
2	継続	遺産地域 監視区域	白神山地世界遺産地域及び周辺地域における中・大型哺乳類調査（自動撮影カメラによる定点調査）	<p><目的> 目的は白神山地における中・大型哺乳類の継続的モニタリングであるが、ニホンジカ等が確認された場合は情報提供フォーマットを作成のうえで環境省に情報共有。</p> <p><実施内容> 4月中旬～11月下旬まで。 12月～3月については、ニホンジカの越冬場所を把握するため、海岸方面の低標高地に自動撮影カメラを設置する。</p>	東北森林管理局 津軽白神森林生態系保全センター 藤里森林生態系保全センター 森林総合研究所東北支所

番号	新規/継続	実施地域	事業名	事業内容（目的・方法・予算・実施内容など）	実施者
3	継続	遺産地域 監視区域 周辺地域 (3県域)	「ニホンジカ影響調査・簡易チェックシート」による調査	<p><目的> 東北局管内(東北5県)の国有林において、ニホンジカについての情報収集を強化するため、ニホンジカの生息域の現状、季節間移動や分布拡大等の変化、林業被害と自然植生への影響を把握し、地域関係者等と連携した効果的な被害防止対策を講じるための基礎資料とする。</p> <p><方法> 森林管理署及び森林生態系保全センターの職員が、林野巡視の際にニホンジカの日撃や痕跡を発見した場合はチェックシートに記入し、調査結果を整理。 また、国有林に入林する巡視員、請負事業者、猟友会等から目撃情報等を聞いた場合もチェックシートに記入する。 調査結果は、年度毎に集計のうえ、局ホームページで公表している。</p> <p><実施内容> 調査時期は、消雪後から降雪時までとするが、冬期間の生息地等についても把握が必要なことから、降雪期についても調査に努める。</p>	東北森林管理局 津軽森林管理署 米代西部森林管理署 津軽白神森林生態系保全センター 藤里森林生態系保全センター 岩手県内各森林管理(支)署
5	継続	周辺地域 (青森県)	シカ監視用自動撮影カメラ設置の協力(事業主体:青森県)	<p><目的> 青森県に生息するシカの分布及び生息状況を把握すること(青森県実施要領)。</p> <p><方法> シカが出現されると想定される地点への自動撮影カメラの設置及び月1回の撮影データ回収を行い、シカが撮影された場合は県に情報する。</p> <p><実施状況・成果> 県から依頼あった・5地点の国有林に、カメラを設置して監視に協力。 1地点(十和田市)で2回撮影があった。</p>	三八上北森林管理署

令和4年度ニホンジカ対策事業実績

機関名：青森県自然保護課・林政課

※ 朱書きは第22回科学委員会時での暫定実績からの変更点。

番号	新規/継続	実施地域	事業名	事業内容（目的・方法・予算・実施内容など）	実施者
1	継続	県内	ニホンジカ生息状況の把握	<p>① モニタリング調査 [目的] 県内の生息域及び個体数の把握に必要な科学的なデータ収集のため、モニタリング調査を行う。 [方法] 継続して実施している三八地域を含め、目撃情報が増加傾向にある地域において糞塊調査等を実施する。 [実施状況] ・受託者 合同会社東北野生動物保護管理センター ・事業実施期間 令和4年8月～令和5年3月 ・業務内容 糞塊密度調査、ポイストラップ調査、出猟カレンダー集計、越冬地調査、生息数の推定</p> <p>② 自動撮影カメラの設置 [目的] 県内各所に自動撮影カメラ(夜間撮影可)を設置し、ニホンジカの生息域及び生態を把握する。 [方法] 県内市町村等に貸与し、カメラの設置及びデータ回収を行う。 [実施状況] 県内31市町村に123台設置。撮影された個体数11頭(令和5年3月31日現在)。</p> <p>③ 目撃情報の収集 [目的] ニホンジカの生息域を把握する。 [方法] ニホンジカの日撃情報を収集する体制を強化するため、情報提供を依頼するチラシを作成し関係機関等に配布するほか、県ホームページやラジオを活用して県民等へ目撃情報の提供を呼びかける。 [実施状況] 情報提供を依頼するチラシを作成し関係機関等に配布したほか、県ホームページやラジオを活用して県民等へ目撃情報の提供を呼びかけた。</p>	自然保護課

番号	新規/継続	実施地域	事業名	事業内容（目的・方法・予算・実施内容など）	実施者
2	継続	県内	ニホンジカ捕獲等事業	<p>〔目的〕 「第二種特定鳥獣管理計画(第2次ニホンジカ)」に基づき、国の指定管理鳥獣捕獲等事業交付金を活用して、ニホンジカの集中的かつ効率的な捕獲を実施する。</p> <p>〔方法〕 モニタリング調査結果及び目撃情報結果から効果的に捕獲が可能と判断される地域において、県が実施主体となって行う捕獲等事業を認定鳥獣捕獲等事業者に委託して実施する。</p> <p>〔実施状況〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受託者 一般社団法人青森県猟友会 ・事業実施期間 令和4年8月～令和5年3月 ・実施区域及び捕獲数(令和5年3月31日現在) 三八地域 7頭 上北地域(十和田市、七戸町) 2頭 	自然保護課
3	継続	県内	狩猟者の育成・確保	<p>〔目的〕 ニホンジカが目撃情報が増加している東青地域等において大型獣の捕獲及び解体処理技術を有する担い手の育成を図る。</p> <p>〔方法〕 大型獣捕獲講習会の開催</p> <p>〔実施状況〕 参加者12名</p> <ol style="list-style-type: none"> ①令和4年11月5日 知識講習 ②令和4年11月6日 狩猟技能講習 ③令和4年12月3日～4日 狩猟及び解体実習 	自然保護課
4	継続	県内	森林被害の把握	<p>〔目的〕 ニホンジカによる森林被害を把握する。</p> <p>〔方法〕 被害状況等を把握するため、森林組合等に情報提供を促すチラシやポスターを作成・配布し、森林被害に関する情報収集を行う。</p> <p>〔実績〕 森林被害に関する報告はなかった。</p>	林政課

番号	新規/継続	実施地域	事業名	事業内容（目的・方法・予算・実施内容など）	実施者
5	継続	県内	農作物被害防止対策	<p>[目的] 鳥獣被害対策実施隊員等の育成及び資質向上を図るとともに、ニホンジカなどの野生鳥獣による農作物被害を防止するための市町村の活動を支援する。また、近隣市町村の広域連携を推進し、効果的・効率的な被害防止対策を推進する。</p> <p>[方法] 鳥獣被害対策実施隊員や市町村職員などを対象とし、わなによる捕獲技術等の向上やICT機器を活用した対策の効率化を図るための研修会を開催するほか、市町村の広域連携を推進するための地域連携会議を開催する。</p> <p>[実施状況] ○農業者向け鳥獣被害防止対策技術研修会（令和5年2月28日） ○地域連携会議 ①中南地域（令和4年8月31日） ②三八地域（令和5年1月26日） ③西北地域（令和4年9月1日）</p>	食の安全・安心推進課

令和5年度ニホンジカ対策事業計画・実績（暫定）

※ 令和5年10月15日現在での暫定実績

機関名：青森県自然保護課・林政課

番号	新規/継続	実施地域	事業名	事業内容（目的・方法・予算・実施内容など）	実施者
1	継続	県内	ニホンジカ生息状況の把握	<p>① モニタリング調査 [目的] 県内の生息域及び個体数の把握に必要な科学的なデータ収集のため、モニタリング調査を行う。 [方法] 三八上北地域を中心に、目撃情報が増加傾向にある地域において糞塊調査等を実施する。 [実施状況] ・受託者 合同会社東北野生動物保護管理センター ・実施期間 令和5年9月～令和6年3月 ・業務内容 糞塊密度調査、ボイストラップ調査、出猟カレンダー集計、越冬地調査、アンケート調査</p> <p>② 目撃情報の収集 [目的] ニホンジカの生息域を把握する。 [方法] ニホンジカの目撃情報を収集する体制を強化するため、情報提供を依頼するチラシを作成し関係機関等に配布するほか、県ホームページやラジオを活用して県民等へ目撃情報の提供を呼びかける。 [実施状況] 情報提供を依頼するチラシを作成し、関係機関等に配布したほか、県HPやラジオを活用して県民等へ目撃情報の提供を呼び掛けた。</p>	自然保護課

番号	新規/継続	実施地域	事業名	事業内容（目的・方法・予算・実施内容など）	実施者
2	継続	県内	ニホンジカ捕獲等事業	<p>〔目的〕 「第二種特定鳥獣管理計画(第2次ニホンジカ)」に基づき、国の指定管理鳥獣捕獲等事業交付金を活用して、ニホンジカの集中的な捕獲を実施する。</p> <p>〔方法〕 モニタリング調査結果及び目撃情報結果から捕獲が効果的だと判断される地域において、県が実施主体となって行う捕獲等事業を認定鳥獣捕獲等事業者に委託して実施する。</p> <p>〔実施状況〕 ・受託者 一般社団法人青森県猟友会 ・実施期間 令和5年9月～令和6年3月</p>	自然保護課
3	継続	県内	狩猟者の育成・確保	<p>〔目的〕 ニホンジカが目撃情報が多い三八地域等において大型獣の捕獲及び解体処理技術を有する担い手の育成を図る。</p> <p>〔方法〕 大型獣捕獲講習会の開催(知識講習、射撃演習、巻狩猟演習)</p> <p>〔実施状況〕 ・受託者 合同会社東北野生動物保護管理センター ・実施期間 令和5年11月～12月</p>	自然保護課
4	継続	県内	森林被害の把握	<p>〔目的〕 ニホンジカによる森林被害を把握する。</p> <p>〔方法〕 被害状況等を把握するため、森林組合等に情報提供を促すチラシやポスターを作成・配布し、森林被害に関する情報収集を行う。</p> <p>〔実績(暫定)〕 森林被害に関する報告はない。</p>	林政課

番号	新規/継続	実施地域	事業名	事業内容（目的・方法・予算・実施内容など）	実施者
5	継続	県内	農作物被害防止対策	<p>[目的] 鳥獣被害対策実施隊員等の育成及び資質向上を図るとともに、ニホンジカなどの野生鳥獣による農作物被害を防止するための市町村の活動を支援する。また、近隣市町村の広域連携を推進し、効果的・効率的な被害防止対策を推進する。</p> <p>[方法] 鳥獣被害対策実施隊員や市町村職員などを対象に、農地周辺でのわなによる捕獲技術等の向上やICT機器を活用した対策の効率化を図るための研修会を開催するほか、市町村の広域連携を推進するための地域連携会議を開催する。</p> <p>[実施状況] ○地域連携会議 ①中南地域(令和5年8月30日)</p>	食の安全・安心推進課

令和4年度白神山地世界遺産地域及び周辺地域 入山者数調査について(結果報告)

令和5年3月 13 日(月)

東北地方環境事務所

国立公園課長 羽井佐 幸宏

担当:西目屋自然保護官事務所

総括自然保護官 齋藤 純一

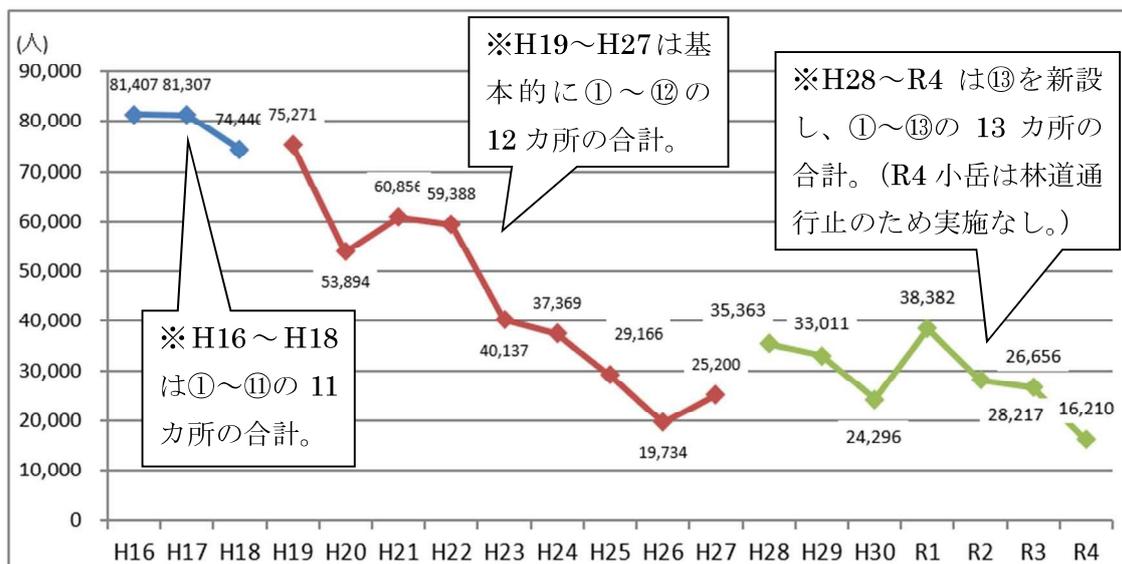
環境省では、平成 16 年度より白神山地世界遺産地域の環境保全対策の基礎データである入山者数を把握するため、白神山地世界遺産地域及び周辺地域の登山道入口等において赤外線式センサーによる自動計測を実施しています。

令和4年度分の調査結果を取りまとめましたのでお知らせします。

1.全体の入山者数

計測を実施した 12 地点(⑩小岳は粕毛林道通行止のため、今年度は実施せず。別添資料 1)における入山者数の合計は 16,210 人となり、昨年度の 26,656 人から 10,446 人減少しました(図1)。県外からの来訪者が多いブナ林、暗門の滝は、令和3年 12 月に発生した白神ライン砂子瀬ゲート付近の地滑りによる開通の遅れと、8月の大雨によるアクセス道損壊などの影響で、入山者が大幅に減少しました。一方、岳岱では、一時通行止期間があったものの 2,408 人と、昨年より 94 人の減少にとどまりました。今年度は、ほぼ全ての地点で減少傾向となりました。

図1 白神山地世界遺産地域及び周辺地域への入山者数の推移



2.計測箇所毎の詳細

(1) 青森県側の入山者数

【暗門地区・大川】

いずれの地点でも減少し、⑬ブナ林散策道は 10,867 人、①暗門の滝は 305 人、②高倉森入口は 173 人となりました。⑫大川は、設置後まもなく大雨の影響で大川林道が崩落したため、バッテリーの交換が出来ず、電力不足のため計測されませんでした。①暗門の滝は、8月に歩道が損壊し、以降は開通することなくシーズン終了したため、平成 16 年度の計測開始以来、最少となりました。

【県道 28 号(通称:白神ライン)沿い】

白神ラインも大雨の影響で通行止めが続き、いずれの地点でも減少しました。③津軽峠は 237 人、④天狗峠は 24 人、⑤一ツ森峠は 29 人となりました。

【日本海側】

⑥崩山は 535 人でした。8月の大雨で出水し、カウンタが流失したため4月～7月までの計測となりました。⑦白神岳は 1,024 人でした。登山道へのアクセス道が崩落し、通行止めとなったため4月～9月までの計測となりました。

(2)秋田県側の入山者数

アクセス道路が通行止になった箇所では減少しました。⑨二ツ森は 536 人、⑩岳岱も昨年より 94 人減少し、2,408 人となりました。⑩小岳は、令和3年5月に発生した土砂崩れにより、粕毛林道が通行止となったため設置しておりません。

3.白神山地の観光入込数について(参考)

本調査は白神山地世界遺産地域の環境保全対策の基礎データ収集を目的に、世界遺産地域を中心としたエリアの入山者数を調査しているものであり、遺産地域周辺の観光施設等を含めた白神山地の観光入込数を示したものではありません。本調査結果については、白神山地世界遺産地域科学委員会に報告する等して、白神山地世界遺産地域の環境保全対策に活用いたします。

なお、白神山地の観光入込数については、青森県および秋田県がそれぞれ、青森県観光入込客統計および秋田県観光統計として取りまとめているので、そちらをご参照ください。

・青森県観光入込客統計(青森県HP内)

<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kkokusai/kanko/kankoutoukei.html>

・秋田県観光統計(秋田県HP内)

<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/9790>

【問い合わせ先】

環境省 東北地方環境事務所

西目屋自然保護官事務所 担当：齋藤 純一

TEL：0172-85-2622 FAX：0172-85-2635

令和4年度 自動計測機器設置箇所

青森県内

- ①暗門の滝 (暗門の滝歩道)
- ②高倉森入口 (高倉森自然観察歩道)
- ③津軽峠 (高倉森自然観察歩道)
- ④天狗峠 (天狗岳登山道)
- ⑤一ツ森峠 (太夫峰・向白神岳登山道)
- ⑥崩山 (崩山・大峰岳・白神岳登山道)
- ⑦白神岳 (マテ山・白神岳登山道)
- ⑧櫛石山 (櫛石山歩道)
- ⑫大川 (大川)
- ⑬ブナ林散策道 (ブナ林散策道)

秋田県内

- ⑨二ツ森 (二ツ森登山道)
- ~~⑩-1小岳旧道~~ (小岳登山道旧道)
- ~~⑩-2小岳新道~~ (小岳登山道新道)
- ⑪岳岱 (岳岱自然観察路)

注:括弧内は計測対象の登山道・歩道



令和4年度 白神山地世界遺産地域及び周辺地域入山者数集計表

	① 暗門の滝	② 高倉森入口	③ 津軽峠	④ 天狗峠	⑤ 一ツ森峠	⑥ 崩山	⑦ 白神岳	⑧ 櫛石山	⑨ 二ツ森	(※8) ⑩ 小岳	⑪ 岳岱	⑫ 大川	(※10) ⑬ ブナ林 散策道	合計(人)
4月		0	0	0	0	62	46	0	0		0	0	0	108
5月	0	0	0	0	0	223	182	0	1		212	0	0	618
6月	0	0	0	(※3) 24	8	119	308	25	208		407	0	0	1,099
7月	220	21	73	0	17	(※5) 131	(※6) 371	29	(※7) 274		414	(※9) 0	1165	2,715
8月	(※1) 31	8	(※2) 6	0	(※4) 4	0	(※6) 66	3	(※7) 53		202	0	2073	2,446
9月	(※1) 31	73	(※2) 0	0	0	0	(※6) 51	0	0		293	0	2757	3,205
10月	(※1) 17	55	(※2) 136	0	0	0	0	0	0		797	0	4380	5,385
11月	(※1) 6	16	(※2) 22	0	0	0	0	15	0		83	0	492	634
合計(人)	305	173	237	24	29	535	1,024	72	536	0	2,408	0	10,867	16,210
集計期間	7/27～11/13	7/14～11/13	7/16～11/13	5/27～10/17	5/27～10/17	4/20～7/27	4/20～9/20	6/9～10/19	5/31～9/14	今期設置なし	5/21～11/6	7/14～8/24	7/14～11/13	
集計日数	110	123	121	144	144	99	154	133	107		170	42	123	

注 1) 表記されている数字は機器によって自動計測された数字であり、必ずしも実際の入山者数を表したものではない。

2) 「※」は注釈あり。

3) 自動計測機器は入山者数と下山者数を別々にカウントしており、表記の値は入山者のものである。

また、白神山地へのアクセス道が通行止めの場合、入山者として計測していない。但し、暗門歩道と白神岳は閉鎖期間であっても、登山者等の通行が可能のため入山者として計上している。

(※1) 【①暗 門】 8/3の大雨による暗門川出水により自然歩道が損壊し、今シーズンはそのまま閉鎖となった。そのため8月以降の数値には、工事関係者等も含まれている。

(※2) 【③津軽峠】 白神ラインが大雨による道路崩落等のため、通行止めとなった。(8/3～10/7まで)そのため電力不足となり欠測が生じた。そのため併設している別機器(エコカウンタ)による計測値を使用した。

(※3) 【④天狗峠】 白神ラインが、6/17に開通するも6/28～7/6と、8/3から大雨の影響により、そのまま冬期閉鎖となった。そのため電力不足による欠測が生じた。また、合わせて機器の不具合もあり、併設している別機器(エコカウンタ)による計測値を使用した。

(※4) 【⑤一ツ森】 天狗峠同様、白神ラインの閉鎖に伴い8/2までの集計となった。

(※5) 【⑥崩 山】 8月の大雨によりカウンタが流失したため7/28以降のデータは欠測。9/4以降、町道が開通するも登山道は、樹林帯から岩稜帯に変わっており設置が困難なため今期の計測は終了。

(※6) 【⑦白神岳】 8/9から登山口へのアクセス道路が土砂崩れにより通行止めとなった。そのため電圧不足により7/29以降のデータが欠測したため併設している別機器(エコカウンタ)による計測値を使用した。

(※7) 【⑨二ツ森】 8/9から通行止めとなり、そのまま冬期閉鎖となった。7/25以降のデータが欠測していたため併設している別機器(エコカウンタ)による計測値を使用した。

(※8) 【⑩小 岳】 R3.5/18より粕毛林道が通行止めのため、今年度は設置していない。

(※9) 【⑫大 川】 8/3から白神ラインが通行止になったのと、その後の大雨で大川林道も崩落した。メンテナンス出来ない期間が長かったため、電圧不足と計器の不調により欠測した。

(※10) 【⑬ブナ林散策道】平成30年度までは、計測条件の都合から下山者の値を掲載している(令和元年度からは設置場所の変更に伴い、入山者の値を掲載している)。

(参考) 令和3年度 白神山地世界遺産地域及び周辺地域入山者数集計表

	① 暗門の滝	② 高倉森入口	③ 津軽峠	④ 天狗峠	⑤ 一ツ森峠	⑥ 崩山	⑦ 白神岳	⑧ 楡石山	⑨ 二ツ森	⑩ 小岳	⑪ 岳岱	⑫ 大川	(※5) ⑬ ブナ林 散策道	合計(人)
4月		12				40	47						215	314
5月	0	58	3	12	0	199	124		(※3)	(※4) 3	130	27	1,197	1,753
6月	733	33	76	27	31	111	282	33	(※3)		318	34	873	2,551
7月	1,431	(※1) 3	88	(※2) 48	7	207	434	12	127		371	64	1,589	4,381
8月	1,578	(※1) 20	127	(※2) 21	10	218	310	32	150		393	70	2,466	5,395
9月	1,503	51	141	39	12	237	444	25	132		343	90	1,402	4,419
10月	1,372	54	167	43	29	238	432	50	314		947	90	2,953	6,689
11月	184	17	35	12	3	51	71	33	0			15	733	1,154
合計(人)	6,801	248	637	202	92	1,301	2,144	185	723	3	2,502	390	11,428	26,656

集計期間	6/1～11/7	4/17～11/14	5/28～11/14	5/28～11/14	5/29～11/14	4/15～11/15	4/15～11/15	6/19～11/5	7/10～10/31	5/14～5/17	5/21～10/31	5/8～11/14	4/23～11/14
集計日数	160	212	171	171	170	215	215	140	114	4	164	191	206

注 1) 表記されている数字は機器によって自動計測された数字であり、必ずしも実際の入山者数を表したものではない。

2) 自動計測機器は入山者数と下山者数を別々にカウントしており、表記の値は入山者のものである。

(※1) 【②高倉森】7月5日～8月11日: 機器の不具合のため欠測した。そのため、本来の入山者数より数字が低くなっている。

(※2) 【④天狗峠】7月26日～8月28日: 機器の不具合のため欠測した。そのため、併設の別機器による計測値を充当した。

(※3) 【⑨二ツ森】大雨に伴う道路修理のため、7/9まで通行止めとなった。

(※4) 【⑩小岳】5/13に設置、5/18より全期間通行止め。

(※5) 【⑬ブナ林散策道】平成30年度までは、計測条件の都合から下山者の値を掲載している(令和元年度からは設置場所の変更に伴い、入山者の値を掲載している)。

白神山地世界遺産地域及び周辺地域入山者数集計表（平成16年度～令和4年度）

年度	①暗門の滝		②高倉森入口		③津軽峠		④天狗峠		⑤一ツ森峠		⑥崩山		⑦白神岳	
	入山者数	集計日数	入山者数	集計日数	入山者数	集計日数	入山者数	集計日数	入山者数	集計日数	入山者数	集計日数	入山者数	集計日数
平成16年度	57,355	159	309	163	2,125	163	919	163	135	163	1,208	164	3,750	164
平成17年度	※ 57,369	136	439	158	2,322	154	665	154	90	154	1,092	154	4,056	158
平成18年度	※ 53,360	131	396	154	1,839	154	616	140	142	140	※ 1,253	160	4,766	160
平成19年度	※ 52,323	154	469	164	2,383	164	※ 619	164	198	162	1,105	162	4,476	168
平成20年度	33,769	160	347	179	2,128	160	※ 588	152	119	152	969	182	※ 3,798	182
平成21年度	42,914	163	363	163	2,147	163	646	160	157	149	945	187	4,273	187
平成22年度	43,028	158	325	178	1,425	166	469	160	122	160	743	185	3,280	185
平成23年度	25,471	130	264	184	1,148	169	369	163	116	163	897	188	※ 3,132	188
平成24年度	23,336	105	252	178	1,331	160	325	145	85	145	905	178	※ 2,119	178
平成25年度	18,201	91	256	177	1,118	167	361	127	57	127	876	180	2,946	180
平成26年度	9,625	124	165	117	※ 337	111	※ 40	48	24	48	1,065	185	2,610	185
平成27年度	15,463	74	431	164	141	33	40	10	0	10	※ 995	156	2,742	181
平成28年度	※ 1,193	127	※ 141	104	1,209	157	204	101	32	105	1,018	175	2,465	175
平成29年度	1,175	116	310	183	1,032	161	95	161	15	40	1,602	194	2,535	194
平成30年度	5,491	137	※ 297	186	※ 662	154	160	154	51	48	※ 1,220	196	※ 1,402	196
令和元年度	8,342	137	368	206	919	169	216	169	72	169	1,587	217	2,693	217
令和2年度	7,265	166	288	211	571	159	140	158	67	158	※ 740	208	2,279	208
令和3年度	6,801	160	※ 248	212	637	171	202	171	92	170	1,301	215	2,144	215
令和4年度	305	110	173	123	※ 237	121	※ 24	144	※ 29	144	※ 535	99	※ 1,024	154

年度	⑧櫛石山		⑨二ツ森		⑩小岳		⑪岳岱		⑫大川		⑬ブナ林散策道		合計
	入山者数	集計日数	入山者数	集計日数	入山者数	集計日数	入山者数	集計日数	入山者数	集計日数	入山者数※	集計日数	
平成16年度	1,384	163	5,133	165	544	162	8,545	164					81,407
平成17年度	423	150	4,831	158	406	152	9,614	156					※ 81,307
平成18年度	557	141	4,053	151	320	137	7,138	150					※ 74,440
平成19年度	540	154	※ 3,532	158	※ 339	138	8,566	170	721	157			※ 75,271
平成20年度	414	154	3,800	161	619	161	6,496	173	847	179			※ 53,894
平成21年度	441	162	※ 2,710	159	※ 462	161	※ 5,133	164	665	153			※ 60,856
平成22年度	503	149	2,269	160	434	152	6,598	174	※ 192	89			※ 59,388
平成23年度	429	155	2,312	161	471	161	5,097	172	431	119			※ 40,137
平成24年度	266	140	※ 2,854	158	390	163	4,556	162	950	162			※ 37,369
平成25年度	260	120	3,488	154	80	65	948	44	575	158			29,166
平成26年度	109	46	4,386	159			746	34	627	166			※ 19,734
平成27年度	37	7	2,860	147			1,978	108	513	164			※ 25,200
平成28年度	201	97	2,393	163			1,342	81	423	173	24,742	155	※ 35,363
平成29年度	226	143	※ 1,296	160	268	137	※ 2,254	182	344	173	21,859	183	※ 33,011
平成30年度	283	147	※ 709	66	※ 258	137	※ 1,231	170	465	179	※ 12,067	186	※ 24,296
令和元年度	222	145	1,395	166	294	155	2,780	180	538	189	※ 18,956	201	※ 38,382
令和2年度	250	154	888	168	217	144	1,948	158	467	190	13,097	211	※ 28,217
令和3年度	185	140	723	114	3	4	2,502	164	390	191	11,428	206	※ 26,656
令和4年度	72	133	※ 536	107	0	0	2,408	170	※ 0	42	10,867	123	※ 16,210

- 注 1) 表記の値は機器により自動計測された値であり、必ずしも入山者の実数を表したものではありません。
2) 機器の不具合などにより、実際の入山者数より少ないことが明らかな数字には「※」を記した。
3) ⑩小岳では平成16年度から平成30年度までは二つの登山道が合流する地点より山頂側の1カ所で計測を行った。令和元年度からは二つの登山道の入口に各々機器を設置し、2台の計測結果を集計して入山者数とした。また令和4年度は、R3年5月から粕毛林道閉鎖（土砂崩れのため）のため機器を設置していない。
4) ⑫大川は平成19年度から、⑬ブナ林散策道は平成28年度から新たに設置した。
5) 計測場所の追加などがあるため、合計値の単純比較はできない。
6) ⑬ブナ林散策道では、平成28年度～平成30年度の期間、設置状況の都合により下山者数を表記した。

白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る令和4年度実施結果

機関名：東北地方環境事務所

※ 朱書きは第22回科学委員会時での暫定実績からの変更点。

番号	新規/継続	項目	概要（実施内容等）	実施主体（窓口）	備考
1	継続	遺産地域の現況把握	①職員、鳥獣保護区管理員、請負契約による巡視。 ②世界遺産地域及び周辺地域の入山者数の把握。赤外線センサーによる自動入山者数カウンターを世界遺産地域及び周辺利用地点の主要登山道12箇所の上に設置。	東北地方環境事務所	
2		遺産地域に精通した人材の育成			
3		緩衝地域（周辺部を含む）の利用促進			
4		核心地域における入山の取扱いの検討			

白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る令和5年度実施計画・実績（暫定）

※ 令和5年10月15日現在での暫定実績

機関名：東北地方環境事務所

番号	新規/継続	項目	概要（実施内容等）	実施主体（窓口）	備考
1	継続	遺産地域の現況把握	<p>自然環境や鳥獣の生息状況の把握、マナー指導、違法行為等の確認、施設の現状確認や簡易な補修のため、自然環境保全地域及び国指定鳥獣保護区内の巡視を実施します。</p> <p>また、世界遺産地域及びその周辺地域の利用者数の把握のため、入山者数カウンターを主要登山道8箇所を設置し、5月～11月まで計測します。</p> <p><実績（暫定）> ニツ森及び白神ライン沿いの4箇所を除く8箇所に入山者数カウンターを設置し、5月から計測している。大川のカウンターは林道通行止のため9月までのカウントとした。</p>	東北地方環境事務所	
2		遺産地域に精通した人材の育成			
3		緩衝地域(周辺部を含む)の利用促進			
4		核心地域における入山の取扱いの検討			

白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る令和4年度実施結果

※ 朱書きは第22回科学委員会時での暫定実績からの変更点。

機関名：東北森林管理局

番号	新規/継続	項目	概要（実施内容等）	実施主体(窓口)	備考
1	継続	遺産地域の現況把握	<p>①合同パトロールの実施（秋田県側 2回、青森県側は豪雨災害等による通行止めにより中止となった）</p> <p>②職員、グリーンサポートスタッフ（津軽署2名、米代西部署3名を雇用予定）、白神山地世界遺産地域巡視員（青森県側19名、秋田県側26名）による巡視。</p> <p>③樹木損傷及びマナー違反等の把握（樹木損傷等は平成20年度から、マナー違反は平成26年度から把握・集計）</p> <p>④核心地域への入山状況（許可・届出）の把握</p> <p>⑤「白神山地世界遺産地域における原生的ブナ林の長期変動調査」において、遺産地域等の16箇所（青森県側13箇所、秋田県側3箇所）に自動撮影カメラを設置し、入り込み状況や動物等を画像で記録（平成17年度から記録）。</p>	東北森林管理局 津軽森林管理署 米代西部森林管理署 津軽白神森林生態系保全センター 藤里森林生態系保全センター	⑤の調査の青森県側においては、県道等アクセス道の通行止により5箇所データ回収等を中止。
2		遺産地域に精通した人材の育成	「核心地域に到達する所までのルート」と「核心地域内の巡視が可能なルート」を巡視した。	東北森林管理局 米代西部森林管理署 藤里森林生態系保全センター	
3	継続	緩衝地域(周辺部を含む)の利用促進	・ニツ森登山道の刈払い整備 現状維持のための刈払いについて、秋田県側の第1回合同パトロール時に実施した。	連絡会議	
4	継続	核心地域における入山の取扱いの検討			

白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る令和5年度実施計画・実績（暫定）

※ 令和5年10月15日現在での暫定実績

機関名：東北森林管理局

番号	新規/継続	項目	概要（実施内容等）	実施主体(窓口)	備考
1	継続	遺産地域の現況把握	①合同パトロールの実施（青森県側と秋田県側で各2回実施） ②職員、グリーンサポートスタッフ（津軽署2名、米代西部署3名を雇用予定）、白神山地世界遺産地域巡視員（青森県側18名、秋田県側27名）による巡視。 ③樹木損傷及びマナー違反等の把握（樹木損傷等は平成20年度から、マナー違反は平成26年度から把握・集計） ④核心地域への入山状況（許可・届出）の把握 ⑤「白神山地世界遺産地域における原生的ブナ林の長期変動調査」において、入り込み状況や動物等を画像で記録していたが、7月の大雨の関係で1台のみのデータ回収となる。	東北森林管理局 津軽森林管理署 米代西部森林管理署 津軽白神森林生態系保全センター 藤里森林生態系保全センター	
2	継続	遺産地域に精通した人材の育成	白神山地世界遺産地域巡視員等による遺産地域内の巡視。	東北森林管理局 米代西部森林管理署 藤里森林生態系保全センター	
3		緩衝地域(周辺部を含む)の利用促進			

番号	新規/継続	項目	概要（実施内容等）	実施主体(窓口)	備考
4	新規	核心地域における入山の取扱いの検討	<p>○遺産地域内でのドローンの取扱いについてルールを明確にした。 以下の項目を全て遵守する場合、白神山地世界自然遺産地域内での無人航空機の飛行を認めるものとする。 ただし、下記1と2については、当該地区を管轄する森林管理署長が適当と認める者が無人航空機を飛行させる場合は、この限りではない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国土交通省の無人航空機操縦者技能証明の資格、或いはドローンスクール等で学科と実技の両方の講習を受けその証明があること。 2. 希少種保全のため、9月及び10月を除いては、飛行禁止区域での飛行はしないこと。 3. 核心地域内においては、無人航空機の落下や紛失した場合の回収はしないこと。 4. 緩衝地域及びその周辺地域においては、無人航空機の回収は入山者の責任で行うこと。 5. 国土交通省に無人航空機登録をしていること。（登録番号の確認） 6. 必ず補助者を付け、目視内飛行を行うこと。 7. 無人航空機には、必ずプロペラガードを装着すること。 8. 猛禽類（ワシ・タカ類）は無人航空機を攻撃し、蹴落とす場合等があることから、飛行中はその飛翔の有無をよく確認し、飛翔を確認したら直ちに無人航空機を退避させること。 9. 林道や登山道等においては通行の妨げとならないこと。 10. 入林届（無人航空機を飛行させる場合の入林届）等を提出すること。 	東北森林管理局	

白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る令和4年度実施結果

機関名：青森県自然保護課

※ 朱書きは第22回科学委員会時での暫定実績からの変更点。

番号	新規/継続	項目	概要（実施内容等）	実施主体（窓口）	備考
1	継続	遺産地域の現況把握	<p>【実施計画】 入山マナー向上や自然保護意識の普及啓発を図るため、白神山地世界遺産地域巡視員を配置し、入山者への指導や歩道の巡視等を行う。 (巡視員6名、巡視日数:延べ228日)</p> <p>【実施状況】 入山マナー向上や自然保護意識の普及啓発を図るため、白神山地世界遺産地域巡視員を配置し、入山者への指導や歩道の巡視等を行った。 (巡視員6名、巡視日数:延べ219日)</p>	青森県自然保護課	
2		遺産地域に精通した人材の育成			

番号	新規/継続	項目	概要（実施内容等）	実施主体（窓口）	備考
3	継続	緩衝地域（周辺部を含む）の利用促進	<p>【実施計画】 青森県（自然保護課）が管理する白神山地周辺の自然観察歩道の安全性及び利便性を確保するため、緊急性の高い箇所において対策工（笹の刈払いなど）を行う。 また、白神山地を校外学習の場として利用してもらうため、小学校教員を対象に、地元ガイドを講師として白神山地の自然や文化を体験する校外学習体験研修を実施するほか、白神山地を環境保全研修の場として利用してもらうため、企業向けの環境保全研修プログラムを開発し、企業を対象に体験研修を実施する。 さらに、令和5年度に白神山地の世界自然遺産登録30周年を迎えることから、県民を「白神山地の価値や魅力の学びなおし」に誘導するイベント「白神山地VR体験×写真展（縄文遺跡群施設等）」及び「白神山地で体験スタンプラリー」を実施する。</p> <p>【実施状況】 緊急性の高い箇所において対策工（高倉森の危険木処理）を行った。 また、白神山地を校外学習の場として利用してもらうため、小学校向けの校外学習プログラムを開発し、小学校教員を対象に、白神山地ビジターセンター職員を講師として白神山地の自然や文化を体験する校外学習モニターツアーを西目屋村において実施したほか、白神山地を環境保全研修の場として利用してもらうため、企業向けの環境保全研修プログラムを開発し、企業を対象に環境保全研修モニターツアーを深浦町で実施した。 さらに、白神山地と縄文遺跡群の連携によるイベント「白神山地VR体験×写真展」を三内丸山遺跡、大平山元遺跡、ニツ森貝塚、是川遺跡、小牧野遺跡において開催したほか、「白神山地で体験スタンプラリー」を実施した。</p>	青森県自然保護課	
4		核心地域における入山の取扱いの検討			

白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る令和5年度実施計画・実績（暫定）

※ 令和5年10月15日現在での暫定実績

機関名：青森県自然保護課

番号	新規/継続	項目	概要（実施内容等）	実施主体(窓口)	備考
1	継続	遺産地域の現況把握	<p>【実施計画】 入山マナー向上や自然保護意識の普及啓発を図るため、白神山地世界遺産地域巡視員を配置し、入山者への指導や歩道の巡視等を行う。 (巡視員6名、巡視日数:延べ228日)</p> <p>【実施状況】 入山マナー向上や自然保護意識の普及啓発を図るため、白神山地世界遺産地域巡視員を配置し、入山者への指導や歩道の巡視等を行った。 (巡視員6名、巡視日数:延べ179日(9月30日現在))</p>		
2		遺産地域に精通した人材の育成			

番号	新規/継続	項目	概要（実施内容等）	実施主体(窓口)	備考
3	継続	緩衝地域(周辺部を含む)の利用促進	<p>【実施計画】 青森県(自然保護課)が管理する白神山地周辺の自然観察歩道の安全性及び利便性を確保するため、緊急性の高い箇所において対策工(笹の刈払いなど)を行う。 また、白神山地周辺地域の持続的発展を目指し、30周年という節目に県内外の多くの方に白神山地の価値や魅力を再発信する記念事業を実施するとともに、白神山地を「学びの森」として活用するための環境を整備する。</p> <p>【実施状況】 ・緊急性の高い箇所において対策工(白神岳十二湖コースの刈払い)を行った。 ・白神山地世界自然遺産登録30周年のキックオフイベントとして、7月17日(月)に弘前市においてオープニングセレモニーを開催し、県や地元市町村、記念事業を行う関係者が一堂に会して、記念の年を祝った。 ・白神山地世界自然遺産登録30周年事業として、「白神山地」と「北海道・北東北の縄文遺跡群」という2つの世界遺産の普遍的価値を一体的にPRするため、家族で縄文生活を体験する「縄文キャンプ in 白神山地」を、令和5年7月29日(土)～30日(日)にアオーネ白神十二湖(深浦町)で、令和5年9月16日(土)～17日(日)にアクアグリーンビレッジANMON(西目屋村)で開催した。 ・白神山地世界自然遺産登録30周年連絡会議(周辺市町村・関係機関で構成)を設置し、それぞれが実施する30周年記念イベント等を特設ホームページにおいて一体的にPRしている。 ・白神山地世界自然遺産登録30周年を盛り上げるため、代金割引などのサービスやイベント等を実施する周辺市町村を中心とした県内の飲食店や宿泊施設、観光・商工団体、ガイド団体等を募集し、応募があった59の店舗等により「白神山地応援隊」を結成。この応援隊の各店舗等を利用することで発行されるスマートフォンアプリ用のデジタルスタンプを収集すると、その数に応じて、白神山地の特産品などが当たるスタンプラリーを実施中。 ・「学びの森白神山地」受入環境の整備として、白神山地を校外学習の場として利用してもらうため、小学校向けの校外学習プログラムを開発し、小学校教員を対象に、白神山地の自然や文化を体験する校外学習モニターツアーを鱒ヶ沢町において実施予定。また、白神山地を環境保全研修の場として利用してもらうため、企業向けの環境保全研修プログラムを開発し、企業を対象に環境保全研修モニターツアーを西目屋村において実施予定。</p>		
4		核心地域における入山の取扱いの検討			

白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る令和4年度実施結果

機関名：秋田県自然保護課

※ 朱書きは第22回科学委員会時での暫定実績からの変更点。

番号	新規/継続	項目	概要（実施内容等）	実施主体（窓口）	備考
1		遺産地域の現況把握			
2	継続	遺産地域に精通した人材の育成	<p>あきた白神認定ガイドに対する更新講習等及び面接指導の実施</p> <p>目的：白神山地の保全推進を担う人材の育成・確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白神山地の歴史文化、ガイド技術、安全管理等を含む野外での更新講習の実施（3回）（※核心地域における講習はありません） ・ガイド活動に対する意欲や安全管理能力の向上を目的とした面接指導の実施 <p><実績></p> <p>5月29日：二ツ森 8名受講</p> <p>9月25日：水沢川 4名受講</p> <p>10月30日：岳岱自然観察教育林 7名受講</p>	秋田県自然保護課	業者に業務委託

番号	新規/継続	項目	概要（実施内容等）	実施主体（窓口）	備考
3	継続	緩衝地域（周辺部を含む）の利用促進	<p>白神体験塾 目的：白神山地の価値や素晴らしさを伝えるとともに、自然環境を保全して将来に受け継ぐ活動への契機とする ・夏季プログラム 日帰り3回（秋田市発2回、横手市発1回） ・秋季プログラム 1泊2日1回（現地集合） <実績> ○夏季プログラム ・7/24：能代市、藤里町にてネイチャークラフト、藤琴川で自然観察など参加者20名 ・7/31：八峰町にて真瀬溪谷沢歩き、ブラックサントピーチ見学 参加者20名 ・8/7：八峰町にてネイチャークラフト、シーヤック 参加者21名 ○秋季プログラム ・10/1～2：藤里町にて岳岱散策、フナの実クッキー作り、ワークショップ体験等 参加者子ども16名、親19名</p> <p>白神山地エコツアーリズム推進事業 目的：白神山地の価値や魅力を周知することにより、来訪者を増加させるとともに、自然環境保全の意識を啓発 ・登山情報誌及びウェブサイトと連携した情報発信、著名人と白神ガイドのトークショーの実施 <実績> ・エコツアーコース体験：7/16～18、登山関係の著名人複数名と白神ガイドで実施 ・トークイベント：7/18、エコツアーコース体験を踏まえて、コース体験参加者と自然アドバイザーによるトークセッション ・トークイベントの告知、エコツアーコース体験の内容等を雑誌（夏山JOY2022）・ウェブサイト（ヤマケイオンライン）と連動した形で情報発信</p>	秋田県自然保護課	業者に業務委託（プロポーザル実施）
4		核心地域における入山の取扱いの検討			

白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る令和5年度実施計画・実績（暫定）

※ 令和5年10月15日現在での暫定実績

機関名：秋田県自然保護課

番号	新規/継続	項目	概要（実施内容等）	実施主体(窓口)	備考
1		遺産地域の現況把握			
2	継続	遺産地域に精通した人材の育成	<p>○あきた白神認定ガイドに対する更新講習等及び面接指導の実施</p> <p><実施内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・白神山地の歴史文化、ガイド技術、安全管理等を含む野外での更新講習の実施（3回） ・ガイド活動に対する意欲や安全管理能力の向上を目的とした面接指導の実施 <p><実施状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・7/29：藤里駒ヶ岳黒石沢コース 5名受講 ・9/30：粕毛川 7名受講 ・11/26：八峰白神ジオパーク（予定） 	秋田県自然保護課	業者に業務委託

番号	新規/継続	項目	概要（実施内容等）	実施主体(窓口)	備考
3	継続	緩衝地域(周辺部を含む)の利用促進	<p>○白神体験塾2023 <内容> 日帰り4回（秋田市発3回、横手市発1回） <実施状況> ・7/23：御所の台散策、ブラックサンドビーチ見学 参加者20名 ・7/30：岳岱散策、藤琴川で自然観察 参加者20名 ・8/6：白瀑川沢歩き、ブラックサンドビーチ見学 参加者21名 ・8/11：岳岱散策 参加者19名</p> <p>○白神山地エコツアーリズム推進事業 <内容> ・登山情報誌及びウェブサイトと連携した情報発信、登山系YouTuberと白神ガイドらによるトークイベントの実施 <実施状況> ・エコツアーコース体験： 6/6～8、登山系YouTuberと白神ガイドで実施 ・トークイベント： 6/8、エコツアーコース体験を踏まえて、コース体験参加者と自然アドバイザー、行政関係者によるトークセッション ・トークイベントの告知、エコツアーコース体験、30周年記念イベントの内容等を雑誌（夏山JOY2023）・ウェブサイト（ヤマケイオンライン）と連動した形で情報発信</p> <p>○あきた白神まつり ～30th anniversary～ <実施状況> ・9/23 シンポジウム（基調講演、パネルディスカッション、ゲスト講演） 参加者200名 ・9/24 現地散策ツアー（岳岱自然観察教育林） 参加者37名</p>	秋田県自然保護課	業者に業務委託（プロポーザル実施）
4		核心地域における入山の取扱いの検討			

白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る令和4年度実施結果

機関名：西目屋村

※ 朱書きは第22回科学委員会時での暫定実績からの変更点。

番号	新規/継続	項目	概要（実施内容等）	実施主体（窓口）	備考
1		遺産地域の現況把握			
2	継続	遺産地域に精通した人材の育成	白神山地周辺で活動するガイド団体間での情報共有、遺産地域入山時の若手ガイド等の同行を促す声掛けを実施し、ガイドの育成に努めた。 暗門エリアガイド意見交換会：2回（4/19・7/12）	西目屋村 西目屋村観光ガイド会 民間ガイド会	
3	継続	緩衝地域（周辺部を含む）の利用促進	緩衝地域内の「世界遺産の径ブナ林散策道」及び「暗門溪谷ルート」の整備、環境保全に向けた啓発活動を実施した	西目屋村 「白神山地・暗門の滝」森林環境整備推進協議会	
4		核心地域における入山の取扱いの検討			

白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る令和5年度実施計画・実績（暫定）

機関名：西目屋村

※ 令和5年10月15日現在での暫定実績

番号	新規/継続	項目	概要（実施内容等）	実施主体(窓口)	備考
1		遺産地域の現況把握			
2	継続	遺産地域に精通した人材の育成	白神山地周辺で活動するガイド団体間での情報共有、遺産地域入山時の若手ガイド等の同行を促す声掛けを実施し、ガイドの育成に努めた。 暗門エリアガイド意見交換会：3回（4/18・4/20・7/20）	西目屋村 西目屋村観光ガイド会 民間ガイド会	
3	継続	緩衝地域(周辺部を含む)の利用促進	緩衝地域内の「世界遺産の径ブナ林散策道」及び「暗門溪谷ルート」の整備、環境保全に向けた啓発活動を実施した	西目屋村 「白神山地・暗門の滝」森林環境整備推進協議会	
4		核心地域における入山の取扱いの検討			

白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る令和4年度実施結果

機関名：鱒ヶ沢町

※ 朱書きは第22回科学委員会時での暫定実績からの変更点。

番号	新規/継続	項目	概要（実施内容等）	実施主体（窓口）	備考
1	継続	遺産地域の現況把握	<p>【くろくまの滝遊歩道（町道黒熊ノ滝線）】 白神ライン開通に合わせ、例年5月下旬から11月中旬までの間、遊歩道の整備及び黒熊ノ滝3号橋に歩道を設置。期間中は、定期的に点検や草刈等を実施。 台風及び倒木等の場合は、県と連携し通行止めを実施。</p>	鱒ヶ沢町 （建設管財課）	
2		遺産地域に精通した人材の育成			
3	継続	緩衝地域（周辺部を含む）の利用促進	<p>①白神の森遊山道の運営 ②自然観察館「ハロー白神」の運営 ③白神キャンプ場の運営 ※令和3年度より休止中 ④ガイド付き白神トレッキングの実施</p> <p>【白神の森遊山道について】 令和元年9月に熊の目撃情報があったため利用者の安全面を考慮し、施設を休止としていたが、有識者からの意見やアドバイスを取り入れ、施設内整備等の安全対策を講じたうえで、制限付きによる一部供用で再開。令和4年度はコース内の自由散策を禁止とし、ガイド付きの場合のみ入山可能としたため「ガイドツアー」という名目で実施。 ガイド料は町負担で、入山料のみで本格的なガイドツアーを体験できるものとなっている。</p>	鱒ヶ沢町 （政策推進課）	
4		核心地域における入山の取扱いの検討			

白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る令和5年度実施計画・実績（暫定）

※ 令和5年10月15日現在での暫定実績

機関名：鱒ヶ沢町

番号	新規/継続	項目	概要（実施内容等）	実施主体(窓口)	備考
1		遺産地域の現況把握			
2		遺産地域に精通した人材の育成			
3	継続	緩衝地域(周辺部を含む)の利用促進	<p>①くろくまの滝遊歩道（町道黒熊ノ滝線）の管理 白神ライン開通に合わせ、例年5月下旬から11月中旬までの間、遊歩道の整備及び黒熊ノ滝3号橋に歩道を設置。期間中は、定期的に点検や草刈等を実施。 台風及び倒木等の場合は、県と連携し通行止めを実施。 ※町道赤石溪流線は令和8年度以降開通予定</p> <p>②白神山地関連施設の管理運営 ・白神の森遊山道の運営 ・自然観察館「ハロー白神」の運営 ・白神キャンプ場の管理 ※施設老朽化のため休止中 ・各スポットでのガイド付きトレッキングの実施</p>	<p>①鱒ヶ沢町(建設管財課)</p> <p>②鱒ヶ沢町(政策推進課)</p>	
4		核心地域における入山の取扱いの検討			

白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る令和4年度実施結果

機関名：深浦町

※ 朱書きは第22回科学委員会時での暫定実績からの変更点。

番号	新規/継続	項目	概要（実施内容等）	実施主体（窓口）	備考
1		遺産地域の現況把握			
2		遺産地域に精通した人材の育成			
3	継続	緩衝地域（周辺部を含む）の利用促進	<p>（1）白神岳登山道（マテ山コース）約5kmについて、景観保持と事故防止のため、刈り払いを実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施日 令和4年7月2日（土）～7月3日（日） ・委託先 白神倶楽部 <p>（2）白神山地や十二湖を学び、ふれあい、体験する施設「白神十二湖エコ・ミュージアム」を管理。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施日 通年 ・指定管理者 十二湖森の会（自然ガイド&セラピーガイド団体） 	深浦町	
4		核心地域における入山の取扱いの検討			

白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る令和5年度実施計画・実績（暫定）

※ 令和5年10月15日現在での暫定実績

機関名：深浦町

番号	新規/継続	項目	概要（実施内容等）	実施主体(窓口)	備考
1		遺産地域の現況把握			
2		遺産地域に精通した人材の育成			
3		緩衝地域(周辺部を含む)の利用促進	<p>(1) 白神岳登山道(マテ山コース)約5kmについて、景観保持と事故防止のため、刈り払いを実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施日 令和5年7月8日(土)～7月9日(日) ・委託先 白神倶楽部 <p>(2) 白神山地や十二湖を学び、ふれあい、体験する施設「白神十二湖エコ・ミュージアム」及び「十二湖ビジターセンター」を管理。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施日 通年 ・指定管理者 十二湖森の会(自然ガイド&セラピーガイド団体) 	深浦町	
4		核心地域における入山の取扱いの検討			

白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る令和4年度実施結果

機関名：藤里町

※ 朱書きは第22回科学委員会時での暫定実績からの変更点。

番号	新規/継続	項目	概要（実施内容等）	実施主体（窓口）	備考
1	継続	遺産地域の現況把握	遺産地域の現況把握 ・白神山地自然アドバイザーを通じた把握 【実績】	白神山地世界遺産センター活動協議会	
2	継続	遺産地域に精通した人材の育成	遺産地域に精通した人材の育成 ①白神ミーティングを通じた中間支援人材の育成（オンライン） ②エコツアー事業を通じた人材育成 【実績】資料2-1-8-①のとおり	①環白神エコツアー協会 ②秋田白神ガイド協会	
3	継続	緩衝地域（周辺部を含む）の利用促進	緩衝地域（周辺部を含む）の利用促進 ①白神山地遺産センター（藤里館）活動協議会を通じた自然教室の実施。 ②エコツーリズムツアーの実施 ③小岳・藤里駒ヶ岳・くるみ台キャンプ場、釣瓶落とし峠のエコトイレ管理 ④白神山地ブナの森マラソンなど関連イベントの実施 ⑤太良峡トレイルの改修調査実施。 ⑥小岳・藤里駒ヶ岳トレイル管理、看板改修 ⑦フィールドマップの多言語化（3年度目） ⑧ユネスコエコパーク登録検討 【実績】 ①資料2-1-8-①のとおり ②資料2-2のとおり ③週1回の清掃管理等実施 ④イベント3種実施済み（ブナの森マラソン、白神はしえるライダー、ケツジョリ世界選手権） ⑤調整中 ⑥進行中（令和5年度にかけて） ⑦完了 ⑧資料2-1-8-①のとおり	①白神山地世界遺産センター活動協議会 ②秋田白神ガイド協会 ③藤里町 ④藤里町ツーリズム協議会 ⑤藤里町 ⑥藤里町 ⑦藤里町 ⑧環白神エコツアー協	
4		核心地域における入山の取扱いの検討			

白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る令和5年度実施計画・実績（暫定）

※ 令和5年10月15日現在での暫定実績

機関名：藤里町

番号	新規/継続	項目	概要（実施内容等）	実施主体(窓口)	備考
1	継続	遺産地域の現況把握	・白神山地自然アドバイザーを通じた把握 【実績】	白神山地世界遺産センター活動協議会	
2	継続	遺産地域に精通した人材の育成	①白神ミーティングを通じた中間支援人材の育成（オンライン） ②エコツアー事業を通じた人材育成 【実績】 資料2-1-8-②のとおり	①環白神エコツアー協 ②秋田白神ガイド協会	
3	継続	緩衝地域(周辺部を含む)の利用促進	①白神山地遺産センター（藤里館）活動協議会を通じた自然教室の実施。 ②エコツアーリズムツアーの実施 ③小岳・藤里駒ヶ岳・くるみ台キャンプ場、釣瓶落とし峠のエコトイレ管理 ④白神山地ブナの森マラソンなど関連イベントの実施 ⑤太良峡トレイルの改修調査実施。 ⑥小岳・藤里駒ヶ岳トレイル管理、看板改修 ⑦ユネスコエコパーク登録検討 【実績】 ①資料2-1-8-②のとおり ②資料2-2のとおり ③週1回の清掃管理等実施 ④イベント2種実施済み（ブナの森マラソン、白神はしえるライダー） ⑤調整中 ⑥進行中（令和5年度にかけて） ⑦資料2-1-8-②のとおり	①白神山地世界遺産センター活動協議会 ②秋田白神ガイド協会 ③藤里町 ④藤里町ツーリズム協議会 ⑤藤里町 ⑥藤里町 ⑦環白神エコツアー協	
4		核心地域における入山の取扱いの検討			

白神山地世界遺産地域周辺の国有林における
松くい虫被害発生及び防除状況

【青森県側】

1 令和4年シーズンの状況

異常木については確認されなかった。

2 令和5年シーズンの状況

現在のところ異常木については確認されていない。

※シーズン：青森県内においては当年度の7月から翌年度の6月までの期間を指す。

【秋田県側】

3 令和4年度の状況

松くい虫による被害は確認されていない。

4 令和5年度の状況

松くい虫による被害は確認されていない。

5 今後の対応

引き続き、職員による巡視を実施するとともに、県及び関係市町村と情報共有を図りながら、周辺地域における被害木の早期発見に向け、連携して被害対策に取り組んでいく。

白神山地世界遺産地域周辺の国有林における ナラ枯れ被害発生及び防除状況

【青森県側】

1 令和4年シーズンの状況

津軽森林管理署管内の深浦町で 12,533 本、鱒ヶ沢町で 15 本、西目屋村で 1 本確認された。津軽森林管理署管内の被害木のうち、深浦町（1,724 本）、鱒ヶ沢町（1 本）、西目屋村（1 本）については、令和5年4月までに伐倒くん蒸又は立木くん蒸（薬剤注入）による駆除を実施した。

2 令和5年シーズンの状況

津軽森林管理署管内の深浦町で 12,391 本、鱒ヶ沢町で 135 本、弘前市で 60 本確認された。津軽森林管理署管内の被害木のうち、深浦町（985 本）、鱒ヶ沢町（135 本）、弘前市（60 本）については、令和6年5月までに伐倒くん蒸又は立木くん蒸（薬剤注入）による駆除を実施する予定である。

※シーズン：青森県内においては当年度の7月から翌年度の6月までの期間を指す。

令和4年シーズン及び令和5年シーズンともに、急傾斜地を除く作業の安全が確保できる箇所において被害木の駆除を実施。

【秋田県側】

3 令和4年度の状況

米代西部森林管理署管内の八峰町（小入川周辺）で、ドローンにより 23 本を確認した。現地確認したところ、急傾斜地のため作業の安全が確保できないことから、被害木処理は未実施。

4 令和5年度の状況

被害は確認されていない。

5 今後の対応

引き続き、職員による巡視を実施するとともに、県及び関係市町村と情報共有を図りながら、周辺地域における被害木の早期発見に向け、連携して被害対策に取り組んでいく。

令和4年シーズンにおける松くい虫被害及び 令和5年シーズンナラ枯れ被害の状況について

1 松くい虫被害

(1) 被害状況

令和4年シーズン（R4.7.1～R5.6.30）に青森県民有林において確認されている松くい虫被害木は、深浦町広戸・追良瀬・深浦・大間越地区で117本であり、令和2年シーズン以降、南部町小向地区では被害は確認されていない。

令和5年シーズン（R5.7.1～R6.6.30）の被害は調査中。

表1 民有林の松くい虫被害木の推移（本）

市町村	シーズン					
	H29	H30	R1	R2	R3	R4
深浦町	29	52	56	84	149	117
南部町	—	6	5	2	0	0
計	29	58	61	86	149	117

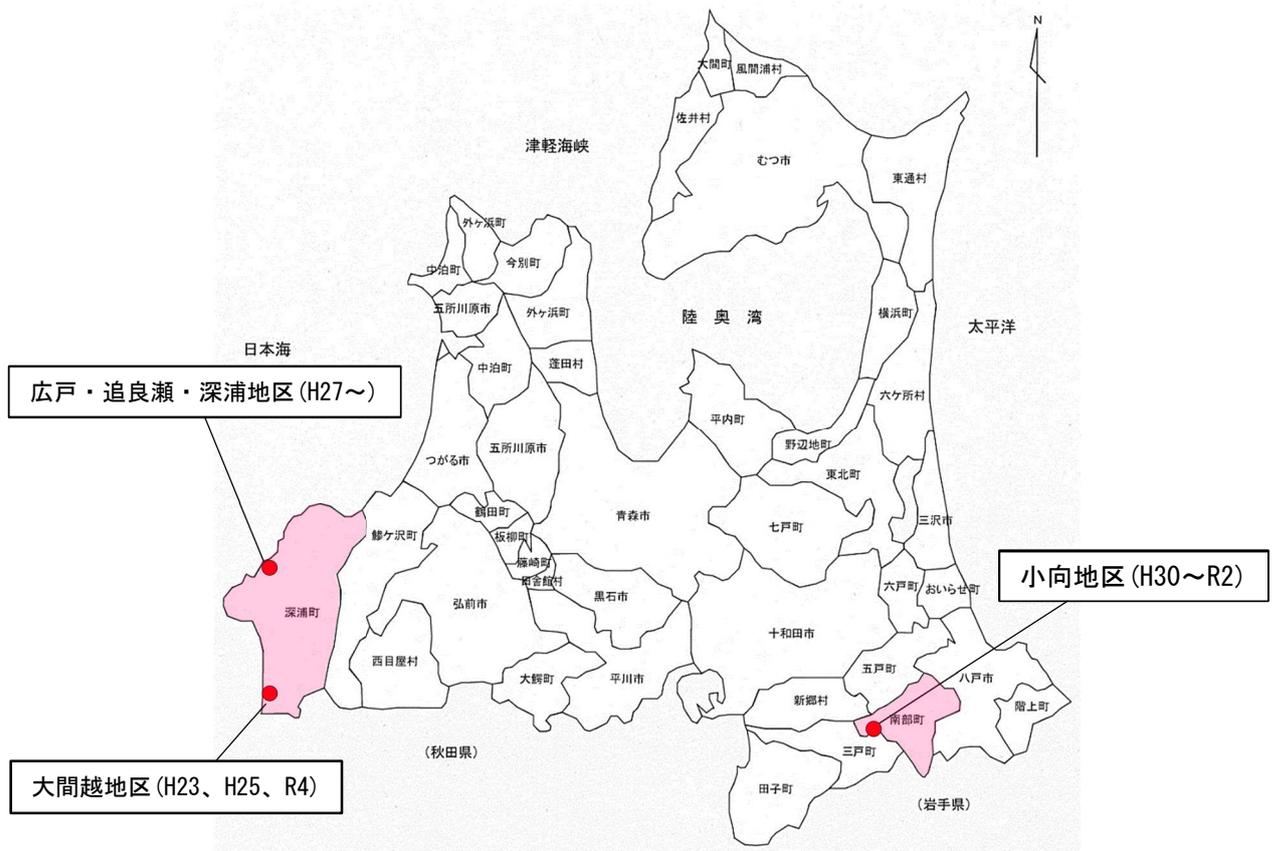


図1 松くい虫被害位置図

(2) 被害対策

監視対策として、県防災ヘリコプターやドローン、セスナ機による上空探査の他、森林巡視活動業務員や職員による地上目視、被害木周辺半径100m範囲内のヤニ打ち調査、マツノマダラカミキリ生息調査を実施している。

駆除対策として、「青森県松くい虫被害対策実施方針」に基づき、に確認された被害木、枯死木、異常木は媒介昆虫が羽化脱出する前までにすべて伐倒・くん蒸処理を実施した。

2 ナラ枯れ被害

(1) 被害状況

令和5年シーズン（R5.7.1～R6.6.30）に青森県民有林において確認されているナラ枯れ被害木※は、10,363本となっており、既存被害地の6市町に加え、新たに青森市、平内町で被害が確認された。

※R5.9.30時点

表2 民有林のナラ枯れ被害木の推移（本）

市町村	シーズン				
	R1	R2	R3	R4	R5
深浦町	8,710	27,648	10,964	9,111	8,820
青森市	-	-	-	-	1
平内町	-	-	-	-	5
弘前市	-	9	47	53	1
西目屋村	-	1	2	7	0
五所川原市	-	13	7	15	27
つがる市	-	33	67	347	494
鱒ヶ沢町	-	147	60	166	970
中泊町	-	10	13	131	45
計	8,710	27,861	11,160	9,830	10,363

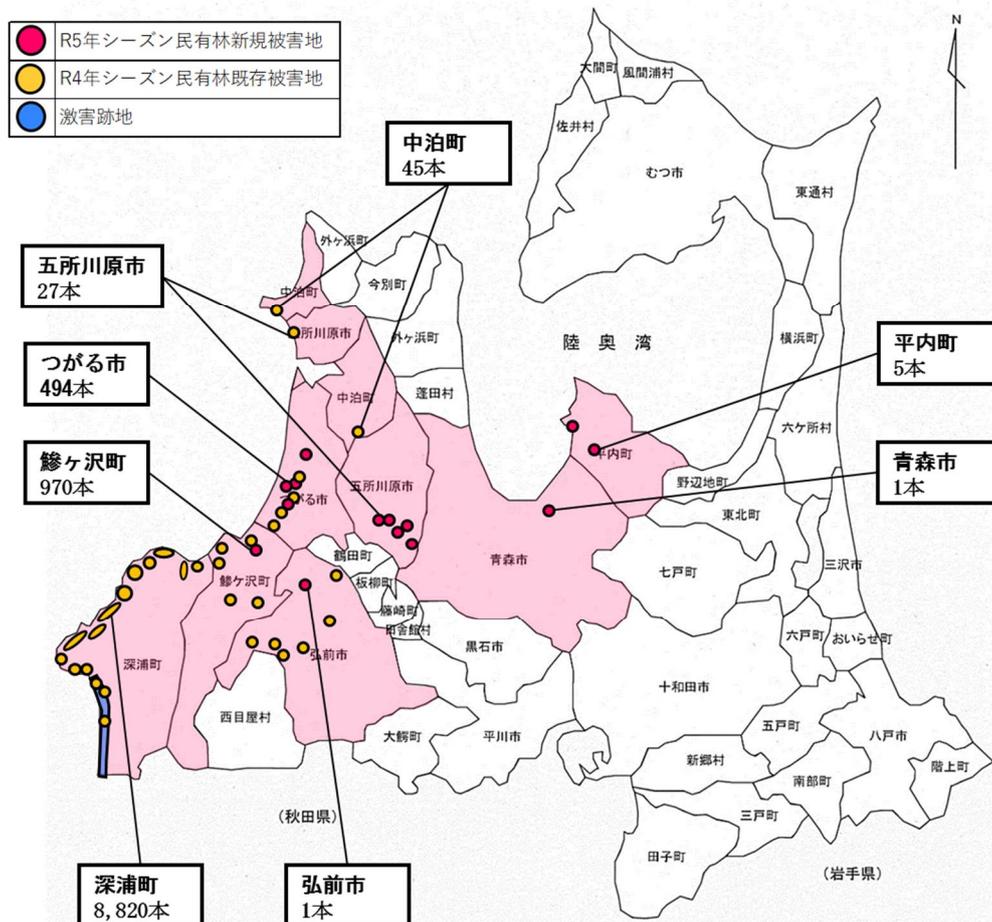


図2 令和5年シーズンにおけるナラ枯れ被害位置図（民有林）

(2) 被害対策

監視対策として、県防災ヘリコプターやドローン、セスナ機による上空探査の他、松くい虫防除監視員や職員による地上目視調査、カシノナガキクイムシ生息調査を実施している。なお、被害を確認しやすい9月を「ナラ枯れ被害調査強化月間」とし、重点的に被害状況を調査している。

駆除対策として、「青森県ナラ枯れ被害対策基本方針」に基づき被害発生初期の地域においてはすべて伐倒くん蒸もしくは立木くん蒸等による駆除処理を実施し被害拡大防止に努めるとともに、被害発生中期以降の地域においては、おとり丸太法によるカシノナガキクイムシの誘引捕殺を実施する。

【駆除対策実施方針】

①被害発生初期（被害木 10 本/ha 未満）

- ・ 深浦町北金ヶ沢地区以北
- ・ 新規被害発生市町村

被害の拡大を防止するため、伐倒くん蒸もしくは立木くん蒸処理を実施

②被害発生中期以降（被害木 10 本/ha 以上）

- ・ 深浦町田野沢地区以南

被害が面的に広がっているため、単木的な処理は実施せず、おとり丸太法による誘引捕殺を実施

③十二湖周辺地域

地域の観光資源として重要なことから、伐倒くん蒸、立木くん蒸処理を実施

(参考)

青森県ナラ枯れ被害対策基本方針（抜粋）

3 被害駆除

(1) 被害発生初期（被害木 10 本/ha 程度未満）

被害木は、伐倒・くん蒸処理を基本として全量駆除する。

なお、駆除にあたっては、カシナガの穿入によって枯死した被害木のほか、穿入生存木（フラスが出ているもの）も対象とする。

(2) 被害発生中期以降（被害木 10 本/ha 程度以上）

(1) と同様に、被害木の全量駆除を基本とする。

ただし、被害量が増加する状況下では、全量駆除が困難になるおそれがあることや、急激な林分の消失による森林生態系への影響なども踏まえ、現場状況に応じた駆除やカシナガの誘引捕殺等の対策を講じるとともに、森林の公益的機能の回復を目標に、植栽や樹種転換等による森林整備等も進める。

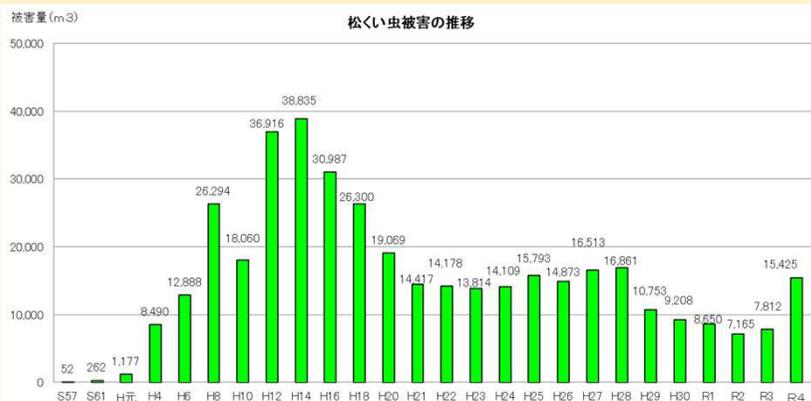
秋田県の松くい虫被害について

秋田県森林環境保全課

秋田県全体

被害状況

- 昭和57年ににかほ市(旧象潟町)で初めて被害が確認される。
- 被害量のピークは平成14年度の約3万9千㎡で、その後は減少傾向。
- 令和4年の被害量は15,425㎡で対前年約179%と増加した。
- 被害量は減少傾向にあるが、被害全体の9割以上が重要な役割を果たしている海岸部のクロマツ林であり、将来にわたり保全していく必要があることから、今後も防除対策を継続していく。



防除対策

予防

- ◆ 薬剤散布 (地上散布、空中散布)
 - ・ 羽化脱出したカミキリ成虫を殺虫する。
- ◆ 樹幹注入
 - ・ 健全なマツの樹幹に薬剤を注入することで、線虫の増殖を防ぐ。

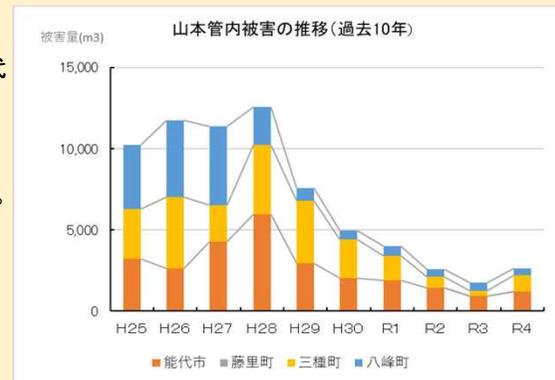
駆除

- ◆ 破砕処理、くん蒸処理
 - ・ 被害木を伐倒し、くん蒸や破砕処理によって被害木に生息しているカミキリ幼虫が成虫になって脱出する前に駆除する。

山本管内

被害状況

- 山本管内では、平成8年に能代市と三種町で初めて被害が確認される。
- 被害量のピークは平成28年度で、その後は減少傾向に推移。
- 県全体被害量の17%を占めている。



市町村	年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
能代市		3,236	2,622	4,261	5,983	2,962	2,011	1,876	1,440	914	1,231
藤里町									2	0	0
三種町		3,067	4,407	2,239	4,253	3,823	2,399	1,517	675	344	1,003
八峰町		3,899	4,723	4,860	2,343	800	562	602	466	489	412
計		10,202	11,752	11,360	12,579	7,585	4,972	3,995	2,583	1,747	2,646

防除対策 (R4実績)

- ◆ 薬剤散布 409ha
- ◆ 駆除 (破砕) 2,156㎡



- ◆ 薬剤散布 16ha

秋田県全体

被害状況

- 平成18年ににかほ市(旧象潟町)で初めて被害が確認される。
- 被害のピークは令和2年の約1万6千m³で、令和4年は前年比約3割減少し約8千m³の被害となった。
- 大幅な減になったのは気象要因が大きいと考えられるが、被害にかかりやすい老齢化したナラ林が減少していることも一因と推測される。



防除対策

予防

- ◆ 樹幹注入
 - ・ 保護したい健全木に殺菌剤を注入し、ナラ菌の増殖を抑える。

駆除

- ◆ くん蒸処理(伐倒、立木)
 - ・ くん蒸処理により被害木に生息しているカシナガ幼虫が成虫になって脱出する前に駆除する。

更新伐

- ・ カシナガの繁殖に適した老齢木(或いは大径木)を減らし若返りを図ることが、被害拡大の防止に最も有効な手段であることから、更新伐を促進させる対策を講ずる。

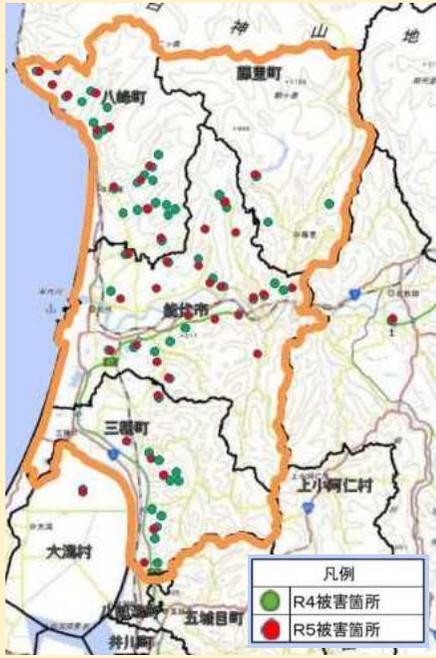
山本管内

被害状況

- 山本管内では、平成27年に八峰町で初めて被害が確認される。
- 被害のピークは令和2年度で、その後減少傾向に推移。
- 令和4年は613m³で前年比約3割減少した。



被害状況写真(八峰町、R5.9.18撮影)



市町村	年度 (m³)							
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
能代市 (H28)	—	13	47	13	47	179	71	100
藤里町 (H29)	—	—	0	0	0	2	0	13
三種町 (H28)	—	5	38	9	29	232	47	50
八峰町 (H27)	9	63	1,274	350	1,084	2,567	765	450
計	9	81	1,359	372	1,160	2,980	883	613

注1 市町村欄の()は、被害確認年度
注2 H29藤里町は1m³未満

防除対策

(R4実績)

- 八峰町
 - ◆ 駆除 24m³
(伐倒くん蒸)

白神山地周辺地域における近年のクマ出没情報について

1. 近年のクマ出没情報等

令和2年度から令和5年度の白神山地周辺地域における中・大型哺乳類調査で、ツキノワグマが撮影された個体数と国有林（各県全体）におけるブナ開花・結実調査結果は以下のとおりです。

(1) 青森県の状況

	白神山地周辺地域における中・大型哺乳類調査				ブナ開花・結実調査	
	自	至	設置台数	撮影個体数	開花	結実
令和2年度	R2. 4. 14	R2. 11. 26	32	99	並作	並作
令和3年度	R3. 4. 2	R3. 11. 26	32	195	並作	凶作
令和4年度	R4. 4. 14	R4. 11. 18	35	116	豊作	並作
令和5年度	未集計 ※1				大凶作	大凶作

※1. 津軽白神森林生態系保全センター職員によると、人里の国道等でクマの姿や糞を例年より多く目撃している。

(2) 秋田県の状況

	白神山地周辺地域における中・大型哺乳類調査				ブナ開花・結実調査	
	自	至	設置台数	撮影個体数	開花	結実
令和2年度	R2. 4. 7	R2. 11. 18	30	262	並作	並作
令和3年度	R3. 4. 26	R3. 12. 8	30	259	凶作	大凶作
令和4年度	R4. 4. 27	R4. 12. 12	26	200	豊作	並作
令和5年度	未集計 ※2				大凶作	大凶作

※2. 藤里森林生態系保全センター職員によると、人里の国道等でクマの姿や糞を例年より多く目撃している。

2. 今年度のクマ出没情報の考察

昨年度はブナが並作で母グマの栄養状態が良く、子グマの出産が旺盛だったところに、今年度は猛暑等の年で影響で堅果類、液果類の実なりが悪いと言われていることに加え、ブナの大凶作の年にも当たったため、クマの餌が不足し、餌を求めてクマの行動範囲が人里まで拡大したと考えられる。

白神山地世界遺産地域科学委員会設置要綱

(目的)

第1条 世界自然遺産に登録された白神山地の自然環境を把握し、白神山地世界遺産地域連絡会議に対して、科学的なデータに基づいた順応的管理に必要な助言を行うため、学識経験者による白神山地世界遺産地域委員会を設置する。

(検討事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について、必要な検討を行う。

- (1) 白神山地世界遺産地域の保全管理に関する事項
- (2) (1)のための調査研究・モニタリングに関する事項
- (3) その他目的達成のために必要な事項

(構成)

第3条 委員会は、次に掲げる委員、事務局及びオブザーバーをもって構成する。

- (1) 委員
学識経験者
- (2) 事務局
第6条に定める行政機関
- (3) オブザーバー
保全管理に関係するその他の者

(委員)

第4条 委員は、学識経験者のうちから、事務局幹事の組織の長が委嘱する。

- 2 委員の任期は3年とする。ただし、再任を妨げない。
- 3 委員の交替又は増員による場合は、他の委員の残任期と同じとする。

(運営)

第5条 委員会は、委員長が招集し、議事進行を行う。

- 2 副委員長は、議事進行にあたって委員長を補佐する。
- 3 委員長及び副委員長は、委員の互選により選出する。
- 4 委員長は、必要に応じて、委員以外の学識経験者等に対し、委員会への出席を求めることができる。
- 5 委員会は、重要な事項について検討を深めるため、委員会のもとに部会またはワーキンググループを設置することができる。
- 6 委員会は、原則として公開とするが、委員長の判断により非公開とすることができる。

(事務局)

第6条 委員会の事務局は、環境省東北地方環境事務所、林野庁東北森林管理局、青森県、秋田県、青森県教育委員会及び秋田県教育委員会によって構成し、事務局幹事は環境省東北地方環境事務所及び林野庁東北森林管理局の持ち回りとする。

(その他)

第7条 委員会は、世界遺産地域の適正な管理に資するため、白神山地世界遺産地域連絡会議への助言を行う。

- 2 上記に定めのない事項で、委員会の運営に必要なものについては、別に定める。

(附則)

【参考資料】

- 1 この要綱は、平成22年6月1日から施行する。
- 2 平成22年12月13日一部改正する。
- 3 平成25年10月7日一部改正する。